

中央区政世論調査

報告書

第47回 平成29年5月実施



中央区

は じ め に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析したうえでの確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、区長への手紙、区政モニター制度など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で47回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「男女共同参画社会」「防犯対策」「スポーツ」「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」「環境問題」「築地魚河岸」「施策の要望・評価」の12項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきませんが、多くの皆さまに参考としていただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

平成29年9月

中央区企画部広報課

I 調査のあらまし	1
1 調査の目的.....	3
2 調査の項目.....	3
3 調査の設計.....	3
4 回収結果.....	4
5 地域区分.....	4
6 この報告書の見方.....	4
7 調査方法略歴.....	6
II 回答者の属性	7
1 性別.....	9
2 年齢.....	9
3 職業.....	9
4 居住地域.....	10
5 同居家族.....	10
6 住居形態.....	10
7 家族構成.....	11
8 家族の状況.....	11
9 ライフステージ（7分類）.....	11
III 地域別にみた回答者の属性	13
1 年齢.....	15
2 職業.....	15
3 同居家族.....	15
4 住居形態.....	16
5 ライフステージ.....	16
IV 調査結果の分析	17
【1 定住性】	19
(1) 居住年数.....	19
(2) 愛着心.....	22
(3) 定住意向.....	25
【2 防災対策】	28
(1) 家庭での災害に対する備え.....	28
(2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え.....	33
(3) 防災拠点の認知度.....	36

目 次

(4) 災害に備えた地域の協力体制	39
(5) 避難の際に心配なこと	41
(6) 災害時に協力できる活動	45
(7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの	48
【3 健康診査】	51
(1) 加入している健康保険	51
(2) 健康診査の受診状況	54
(3) 健康診査を受けなかった理由	57
【4 高齢者施策】	60
(1) 要介護時における暮らし方	60
(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス	64
(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	67
【5 子育て支援】	69
(1) 子育てに関する悩みの相談	69
(2) 重要と考える子育て支援策	73
(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策	77
(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	80
【6 男女共同参画社会】	82
(1) 男女の地位の平等感	82
(2) ワーク・ライフ・バランスについての考え方	94
(3) 望ましい位置づけに対しての現在の状況	98
(4) 女性センター「ブーケ21」の認知度	102
【7 防犯対策】	106
(1) 不安に感じる犯罪	106
(2) 防犯のために行っていること	110
(3) 区に特に力を入れてほしい施策	114
【8 スポーツ】	118
(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	118
(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	123
(3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと	127
【9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会】	131
(1) 大会への思い	131
(2) 大会の開催に伴い期待していること	134
(3) 大会の開催に伴い懸念していること	138

【10 環境問題】	142
（1）環境問題への関心	142
（2）地域での環境活動への参加意向	144
（3）日常生活での取り組み	146
（4）区が実施している地球温暖化対策で重要な取り組み	150
（5）環境に優れたまちのイメージ	153
【11 築地魚河岸】	156
（1）「築地魚河岸」への来場経験	156
（2）「築地魚河岸」にあれば利用したいサービス	158
【12 施策の要望・評価】	159
（1）区の施策の満足度と重要度	159
（2）区の施策への要望	166
V 結果の数表	171
VI 使用した調査票	191

I 調査のあらまし

I 調査のあらまし

1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

2 調査の項目

今回の調査では、次の12項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) 健康診査
- (4) 高齢者施策
- (5) 子育て支援
- (6) 男女共同参画社会
- (7) 防犯対策
- (8) スポーツ
- (9) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
- (10) 環境問題
- (11) 築地魚河岸
- (12) 施策の要望・評価

3 調査の設計

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満18歳以上の男女個人（外国人区民を除く） |
| (2) 対象者 | 2,000人 |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出法
平成29年4月1日現在の住民基本台帳に登録された満18歳以上の男女124,679人より一定の割合で系統的に抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送法（郵送に準じた配布－郵送回収） |
| (5) 調査時期 | 平成29年5月12日（金）～5月29日（月） |
| (6) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4 回収結果

(1) 地域別対象者数・回収数・回収率

地域	対象者	回収数	回収率(%)
京橋地域	491	232	47.3
日本橋地域	622	317	51.0
月島地域 (無回答)	887	483	54.5
計	2,000	1,056	52.8

(2) 無効票(率)・無効内訳(率)

事故内訳	実数(率)	内訳比率
転居	40(2.0)	87.0
その他	6(0.3)	13.0
計	46(2.3)	100.0

* 宛名なしで返送されてきた調査票を転居とした。

* 高齢や病気などの理由による調査辞退者をその他とした。

5 地域区分

集計にあたっては、地域特性を把握するため、区役所、特別出張所管内別に、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。

6 この報告書の見方

(1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性／年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに（上位10項目）や（5項目）などと書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。

（2）ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」（55.1%）が最も高いが、「独身期」（31.3%）や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」（11.2%）もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身（18～39歳、学生など：親と同居含む）
- ②家族形成期 = 子どものいない夫婦（18～39歳）、
子どもあり（一番上が小学校入学前）
- ③家族成長前期 = 子どもあり（一番上が小・中学生）
- ④家族成長後期 = 子どもあり（一番上が高・大学生）
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
- ⑥老齢期 = 65歳以上で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
独身（65歳以上）、子どものいない夫婦（65歳以上）
- ⑦その他 = 独身（40～64歳）、子どものいない夫婦（40～64歳）

(3) 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）および回答比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数（サンプル数）
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,056	±1.85	±2.46	±2.82	±3.02	±3.08
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が 1,056 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±3.02%以内（56.98～63.02%）である」とみることができる。

7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

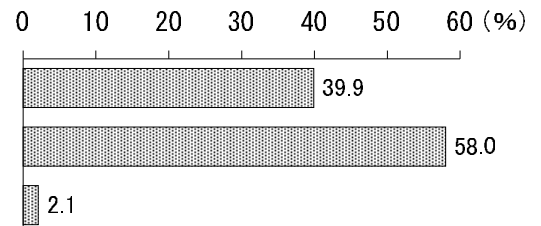
調査年	調査方法	説明	対象とした年齢
昭和 63 年	面接法	調査員による個別面接調査	満 20 歳以上
平成 4 年	面接法	調査員による個別面接調査	満 20 歳以上
平成 8 年	面接法	調査員による個別面接調査	満 20 歳以上
平成 12 年	留置法	郵送配布－訪問回収	満 20 歳以上
平成 16 年	留置法	郵送配布－訪問回収	満 20 歳以上
平成 17 年	留置法	郵送配布－訪問回収	満 20 歳以上
平成 18 年	留置法	郵送配布－訪問回収	満 20 歳以上
平成 19 年	留置法	郵送配布－訪問回収	満 20 歳以上
平成 20 年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 21 年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 22 年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 23 年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 24 年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 25 年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 26 年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 27 年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満 20 歳以上
平成 28 年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満 18 歳以上

Ⅱ 回答者の属性

Ⅱ 回答者の属性

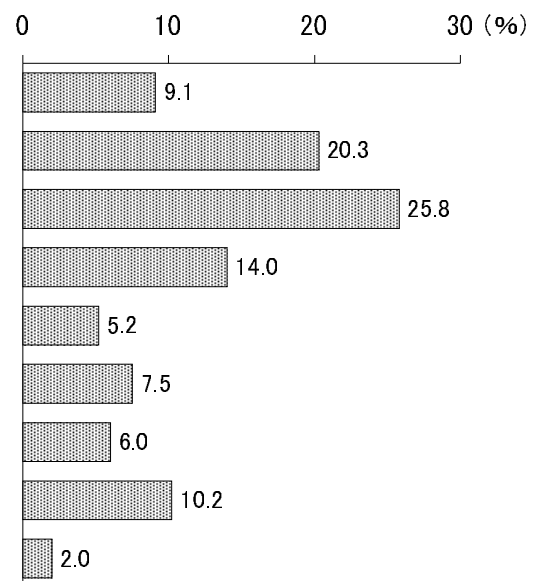
1 性別

	基数	構成比
1 男性	421	39.9%
2 女性	613	58.0
(無回答)	22	2.1
合計	1,056	100.0



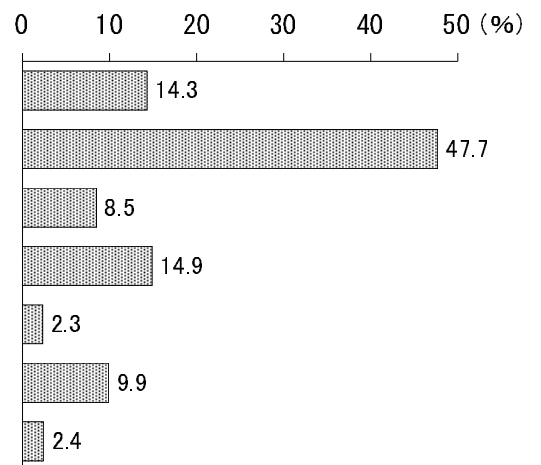
2 年齢

	基数	構成比
1 18～29歳	96	9.1%
2 30歳代	214	20.3
3 40歳代	272	25.8
4 50歳代	148	14.0
5 60～64歳	55	5.2
6 65～69歳	79	7.5
7 70～74歳	63	6.0
8 75歳以上	108	10.2
(無回答)	21	2.0
合計	1,056	100.0



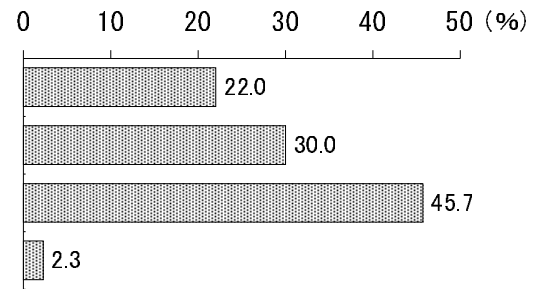
3 職業

	基数	構成比
1 自営業 (家族従業を含む)	151	14.3%
2 勤め人	504	47.7
3 アルバイト・パートタイマー	90	8.5
4 無職 (主婦)	157	14.9
5 無職 (学生)	24	2.3
6 無職 (その他)	105	9.9
(無回答)	25	2.4
合計	1,056	100.0



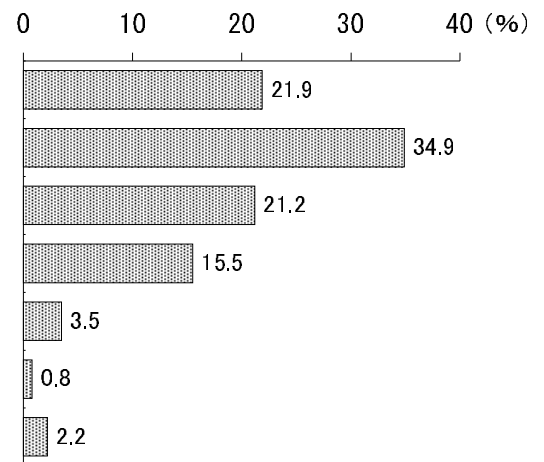
4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	232	22.0%
2 日本橋地域	317	30.0
3 月島地域	483	45.7
(無回答)	24	2.3
合計	1,056	100.0



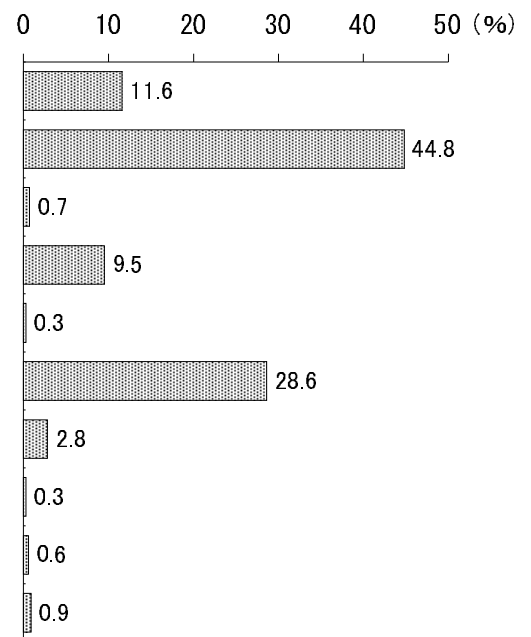
5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	231	21.9%
2 2人	369	34.9
3 3人	224	21.2
4 4人	164	15.5
5 5人	37	3.5
6 6人以上	8	0.8
(無回答)	23	2.2
合計	1,056	100.0



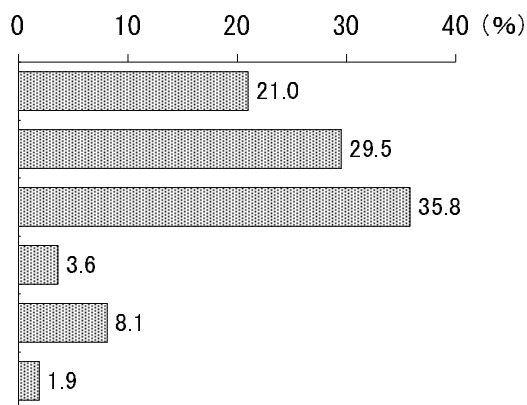
6 住居形態

	基数	構成比
1 持家 一戸建	123	11.6%
2 持家 分譲マンション	473	44.8
3 借家 一戸建	7	0.7
4 借家 公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団))	100	9.5
5 借家 民間木造アパート	3	0.3
6 借家 民間鉄筋アパート、マンション	302	28.6
7 借家 社宅、官舎、寮	30	2.8
8 借家 間借り、住込み	3	0.3
9 その他	6	0.6
(無回答)	9	0.9
合計	1,056	100.0



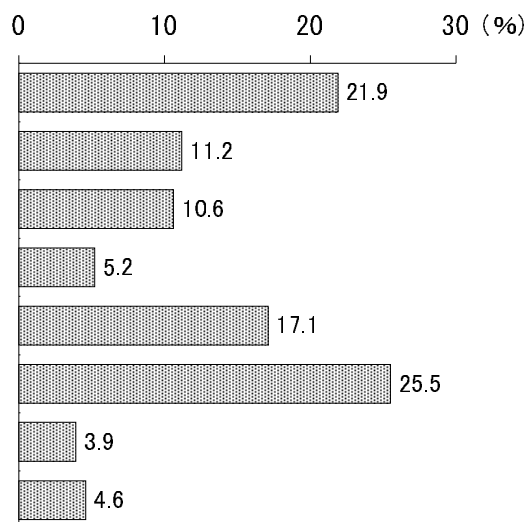
7 家族構成

	基数	構成比
1 ひとり暮らし	222	21.0%
2 夫婦だけ（1世代）	312	29.5
3 夫婦と子どもだけ（2世代）	378	35.8
4 夫婦と子どもと親（3世代）	38	3.6
5 その他	86	8.1
（無回答）	20	1.9
合計	1,056	100.0



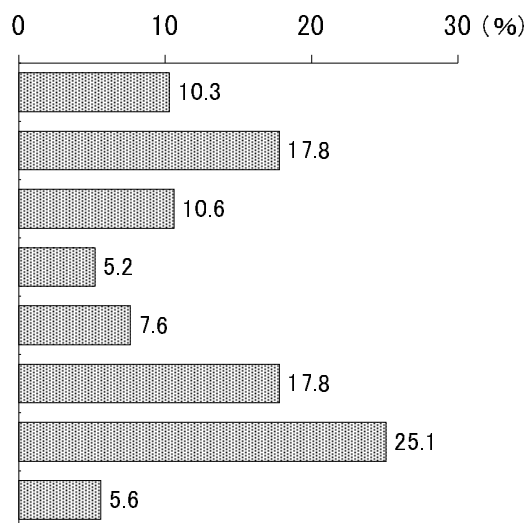
8 家族の状況

	基数	構成比
1 子どものいない夫婦	231	21.9%
2 一番上の子どもが小学校入学前	118	11.2
3 一番上の子どもが小・中学生	112	10.6
4 一番上の子どもが高校・大学生	55	5.2
5 一番上の子どもが学校卒業	181	17.1
6 独身	269	25.5
7 その他	41	3.9
（無回答）	49	4.6
合計	1,056	100.0



9 ライフステージ（7分類）

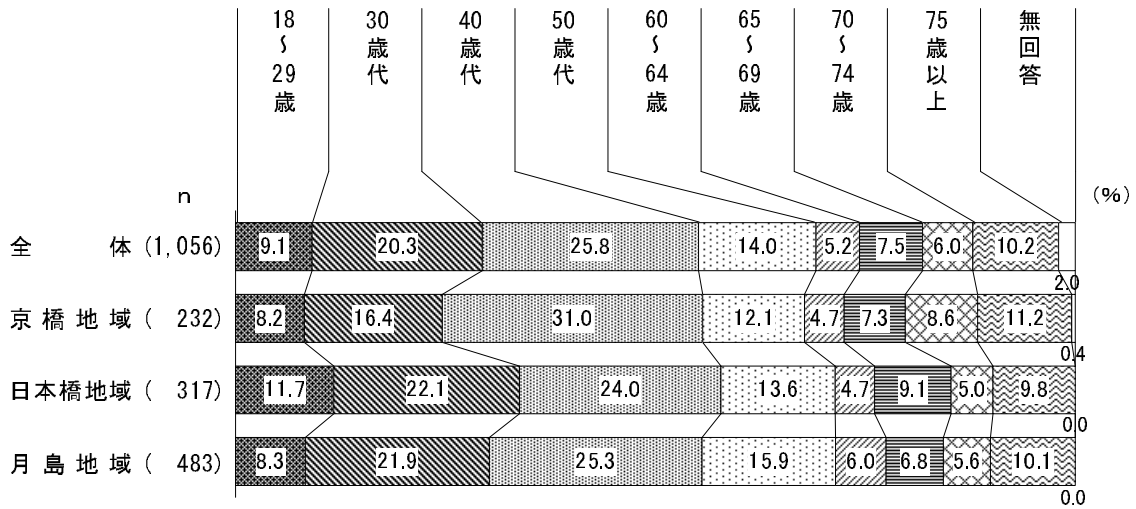
	基数	構成比
1 独身期	109	10.3%
2 家族形成期	188	17.8
3 家族成長前期	112	10.6
4 家族成長後期	55	5.2
5 家族成熟期	80	7.6
6 老齢期	188	17.8
7 その他	265	25.1
（無回答）	59	5.6
合計	1,056	100.0



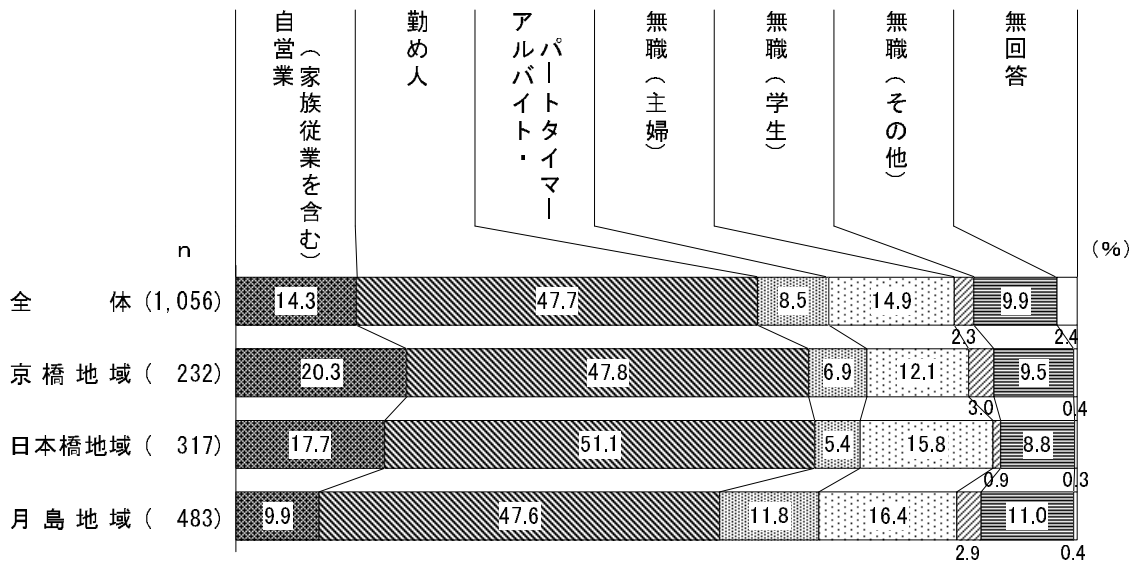
Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

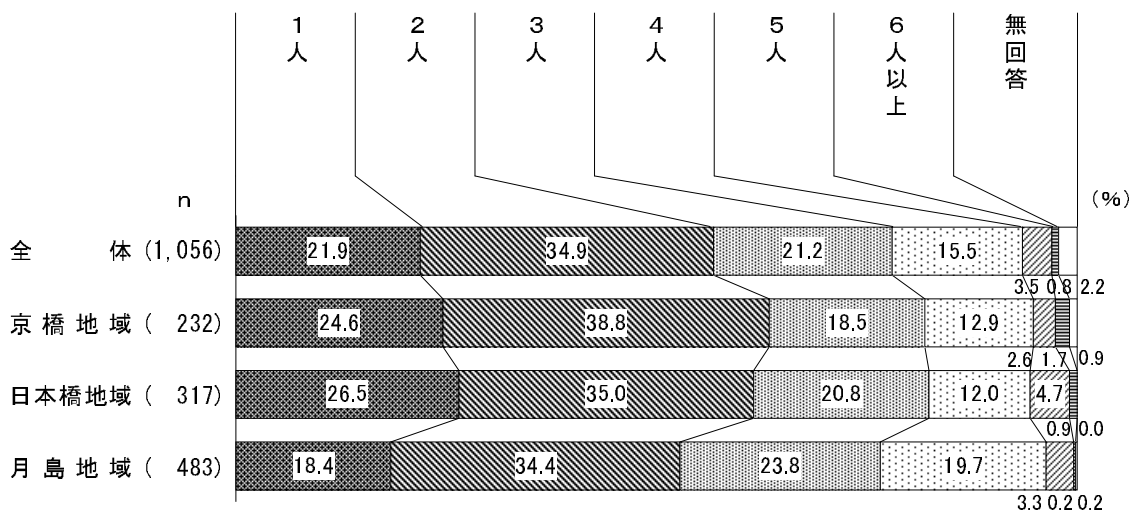
1 年齢



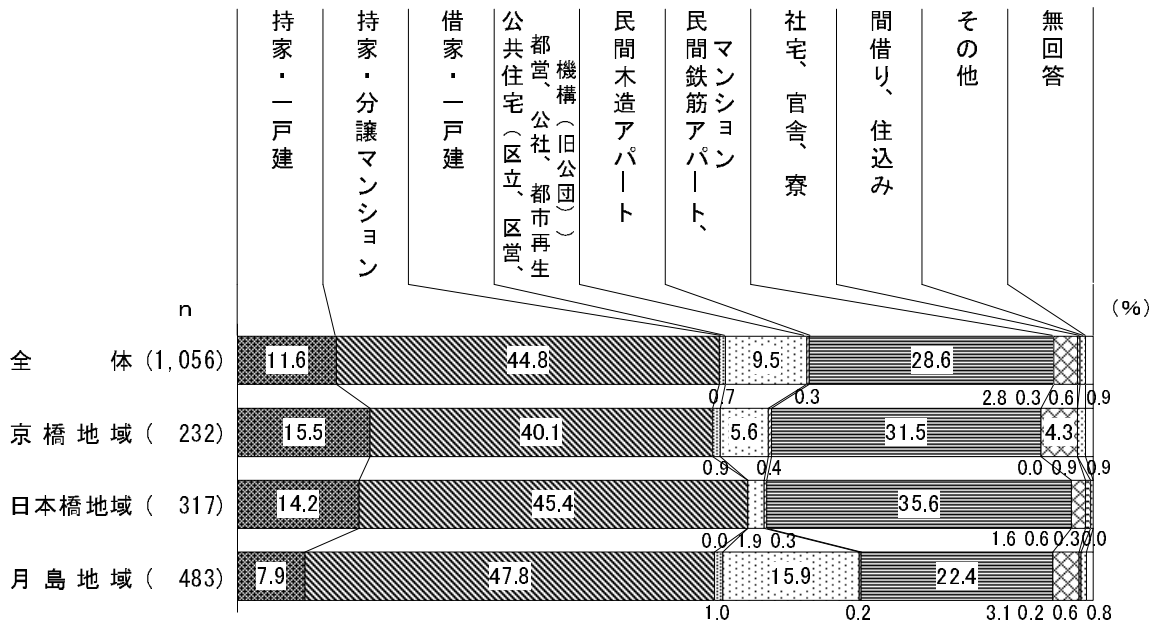
2 職業



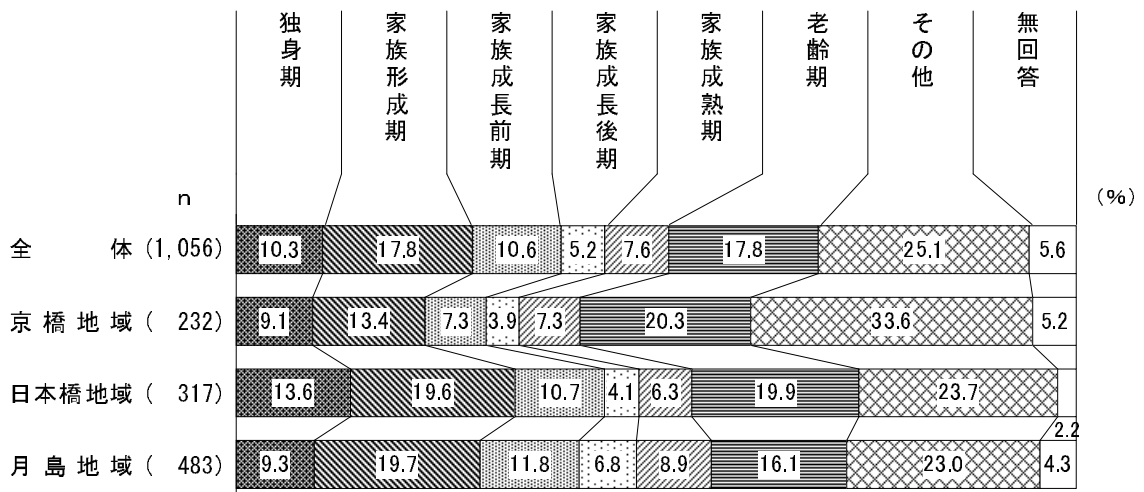
3 同居家族



4 住居形態



5 ライフステージ



IV 調査結果の分析

IV 調査結果の分析

【1 定住性】

(1) 居住年数

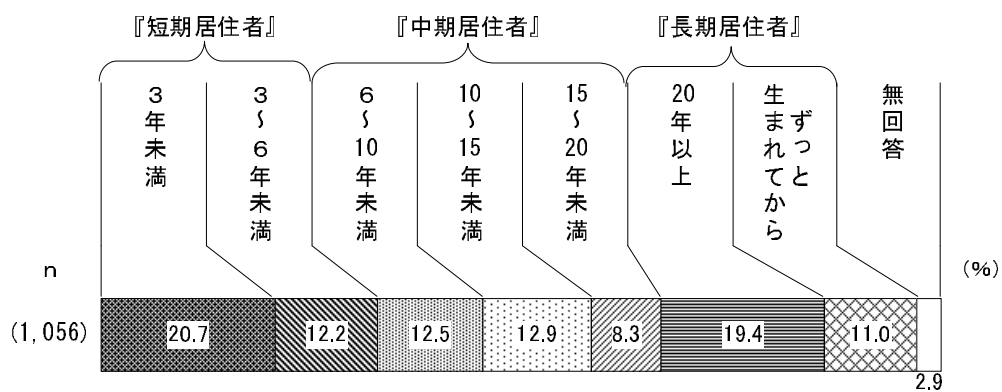
◇『短期居住者』と『中期居住者』がともに3割を超える

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)					
n = 1,056					
1	3年未満	20.7%	5	15～20年未満	8.3
2	3～6年未満	12.2	6	20年以上	19.4
3	6～10年未満	12.5	7	生まれてからずっと	11.0
4	10～15年未満	12.9		(無回答)	2.9

居住年数は、「3年未満」(20.7%)が最も高くなっており、「3～6年未満」(12.2%)と合わせた『短期居住者』(32.9%)が3割を超えている。

また、「6～10年未満」(12.5%)と「10～15年未満」(12.9%)、「15～20年未満」(8.3%)を合わせた『中期居住者』(33.7%)は3割を超えている。「20年以上」(19.4%)と「生まれてからずっと」(11.0%)を合わせた『長期居住者』(30.4%)は3割となっている。(図表1-1-1)

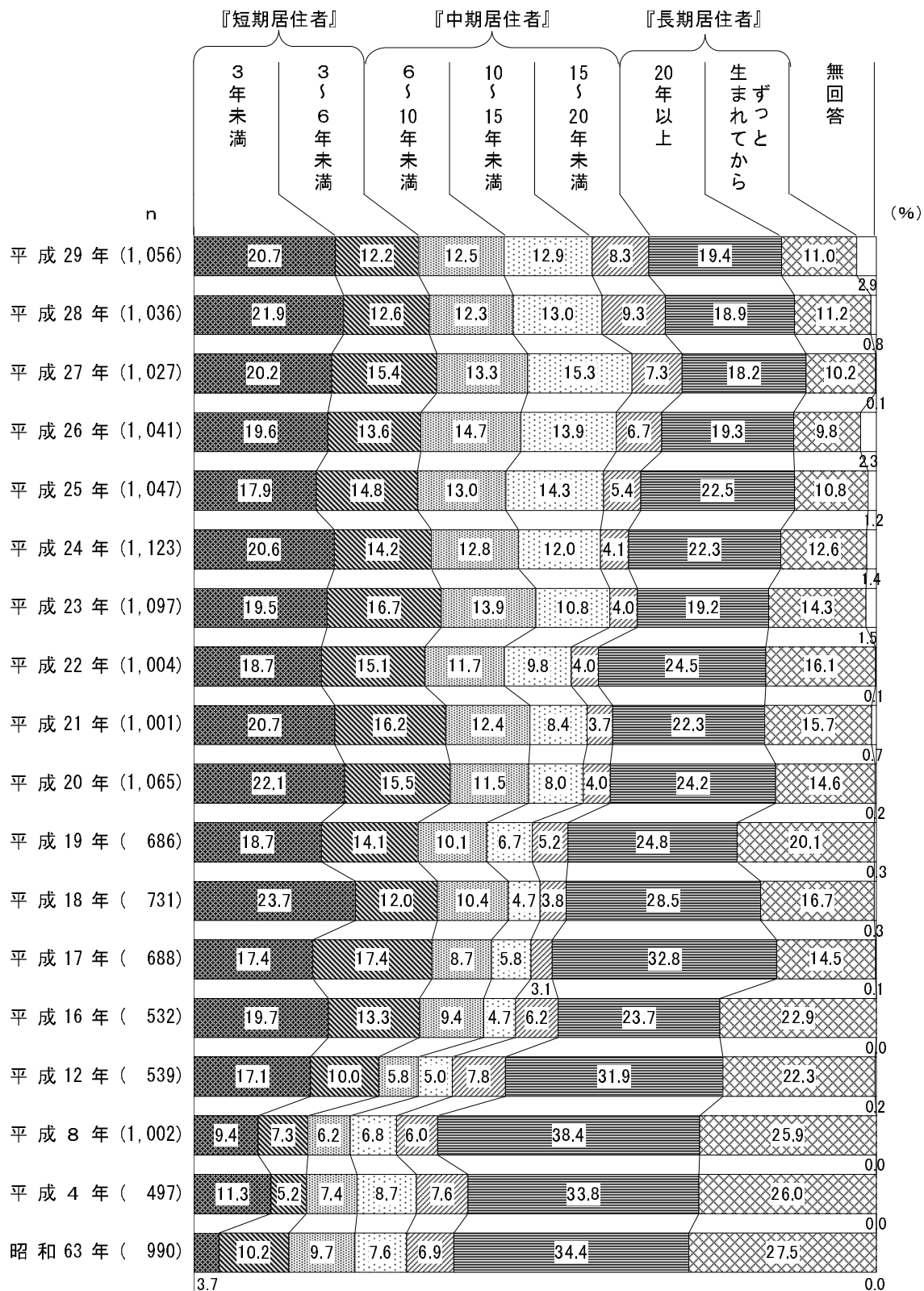
図表1-1-1 居住年数



過去の調査結果と比較すると、『短期居住者』は昨年より1.6ポイント減少している。

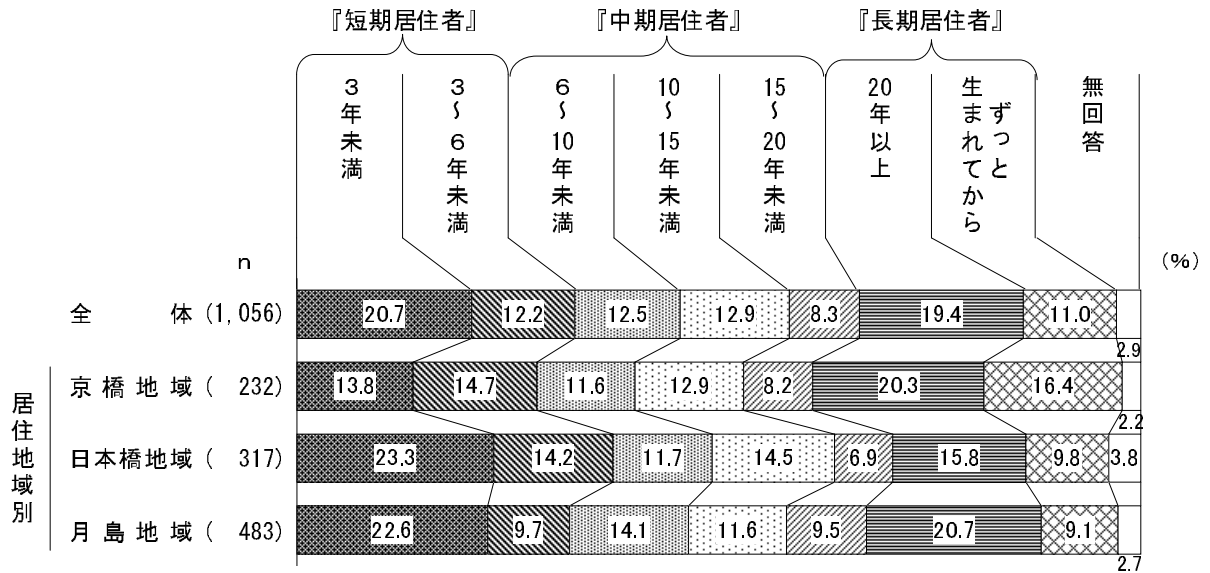
(図表 1 - 1 - 2)

図表 1 - 1 - 2 居住年数一過年度比較



居住地域別でみると、『短期居住者』は日本橋地域で4割近くと高くなっている。『長期居住者』は京橋地域で4割近くと高くなっている。(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数—居住地域別



(2) 愛着心

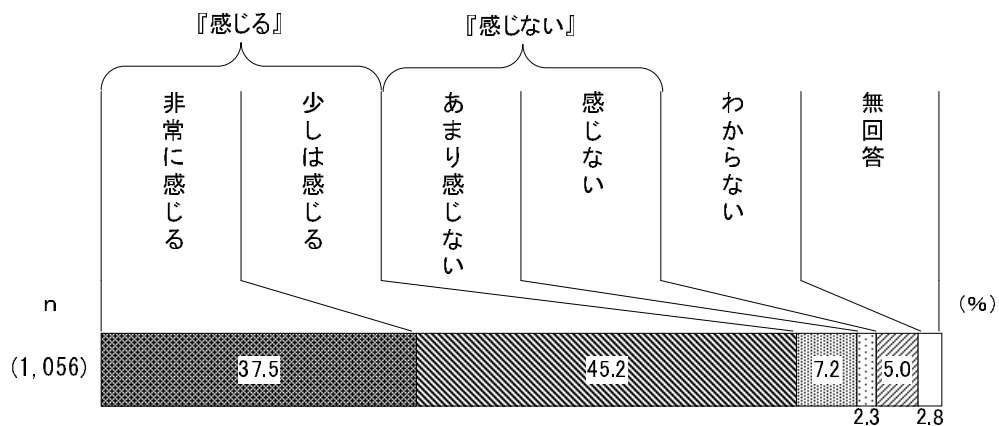
◇愛着を『感じる』人が8割を超える

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。					
(○は1つ)					
n = 1,056					
1	非常に感じる	37.5%	4	感じない	2.3
2	少しは感じる	45.2	5	わからない	5.0
3	あまり感じない	7.2	(無回答)		2.8

愛着心は、「少しは感じる」(45.2%)が最も高くなっており、「非常に感じる」(37.5%)と合わせた『感じる』(82.7%)が8割を超えている。

一方、「あまり感じない」(7.2%)と「感じない」(2.3%)を合わせた『感じない』(9.5%)は1割となっている。(図表1-2-1)

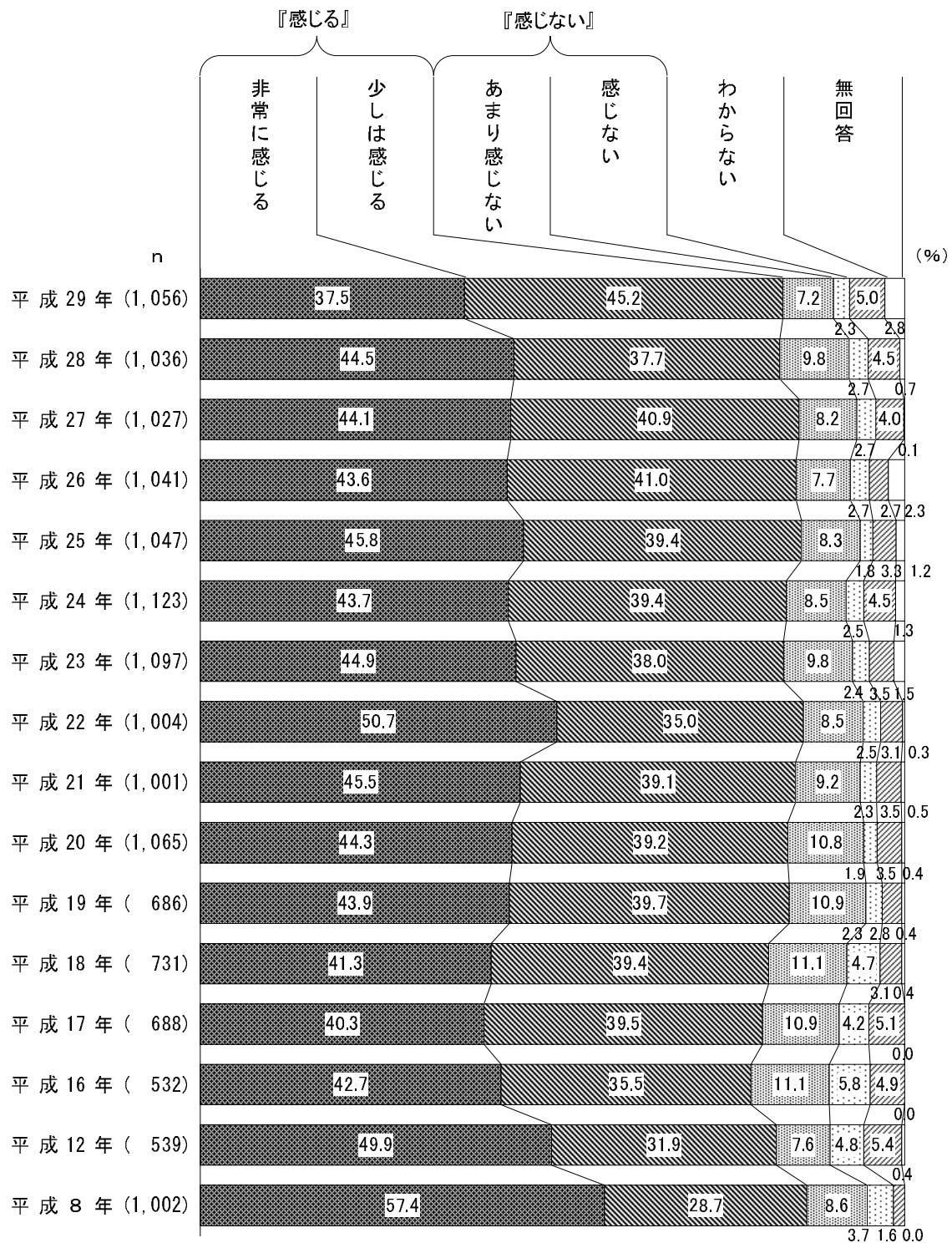
図表1-2-1 愛着心



過去の調査結果と比較すると、「非常に感じる」は昨年より7.0ポイント減少しているが、「非常に感じる」と「少しは感じる」を合わせた『感じる』は平成18年以降8割以上で推移している。

(図表1-2-2)

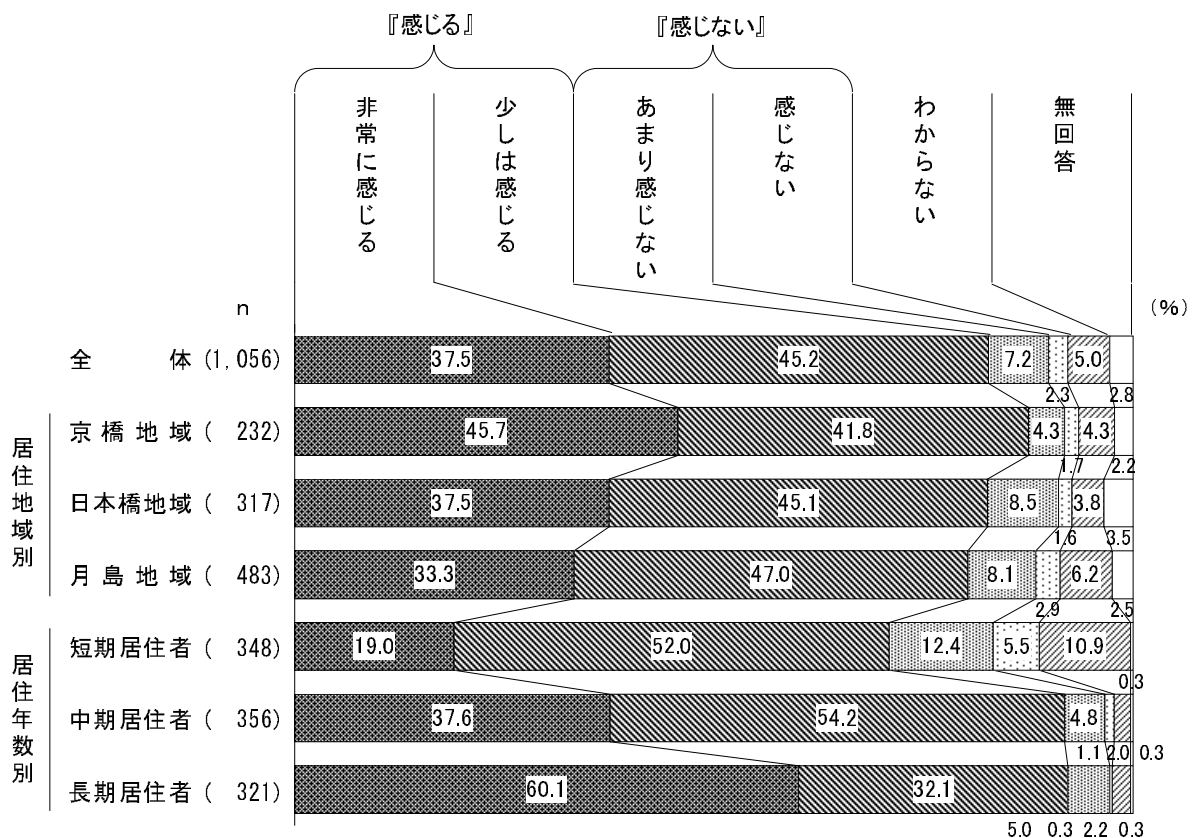
図表1-2-2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、『感じる』は京橋地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『感じる』は中期居住者と長期居住者でともに9割を超えて高くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別



(3) 定住意向

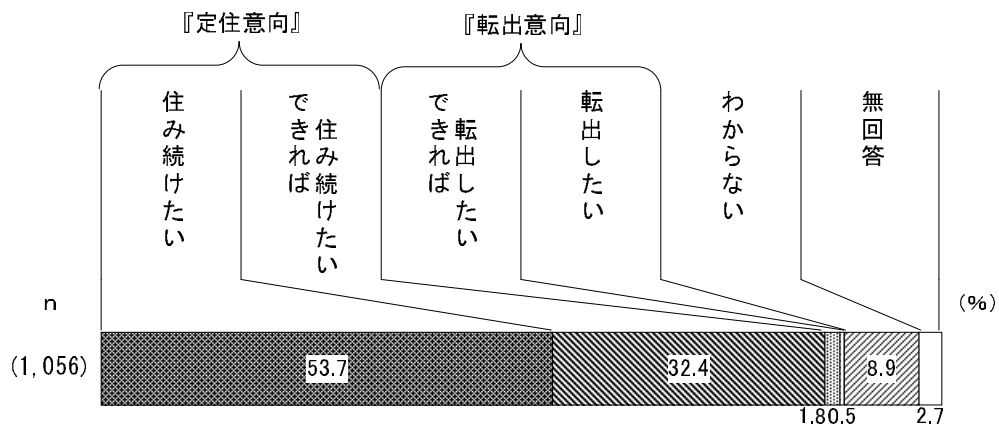
◇『定住意向』が8割台半ば

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)				
n = 1,056				
1	住み続けたい	53.7%	4 転出したい	0.5
2	できれば住み続けたい	32.4	5 わからない	8.9
3	できれば転出したい	1.8	(無回答)	2.7

定住意向は、「住み続けたい」(53.7%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(32.4%)と合わせた『定住意向』(86.1%)が8割台半ばとなっている。

一方、「できれば転出したい」(1.8%)と「転出したい」(0.5%)を合わせた『転出意向』(2.3%)は1割に満たない。(図表1-3-1)

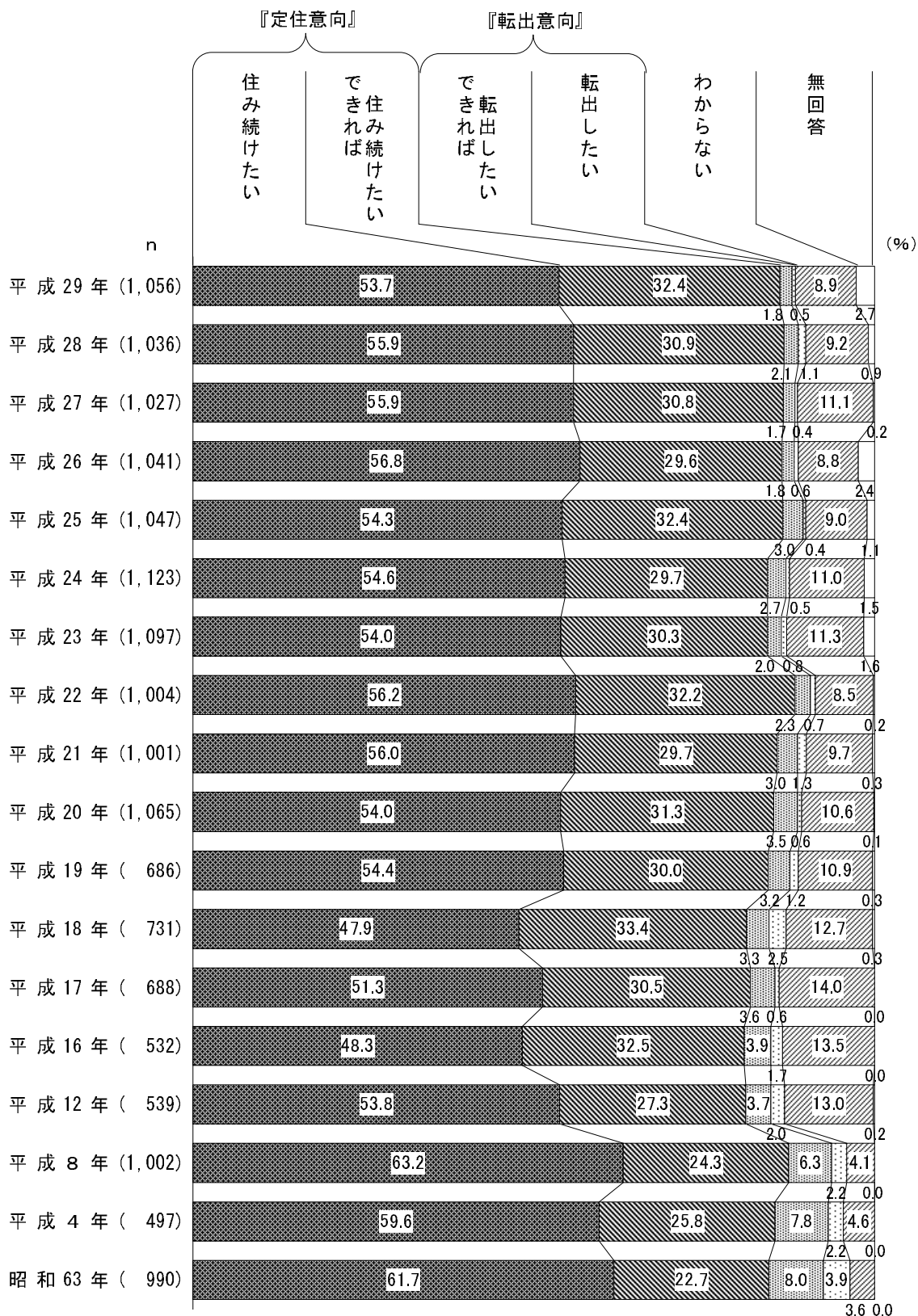
図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は平成25年以降ほぼ同じ割合で推移している。

(図表 1 - 3 - 2)

図表 1 - 3 - 2 定住意向一過年度比較



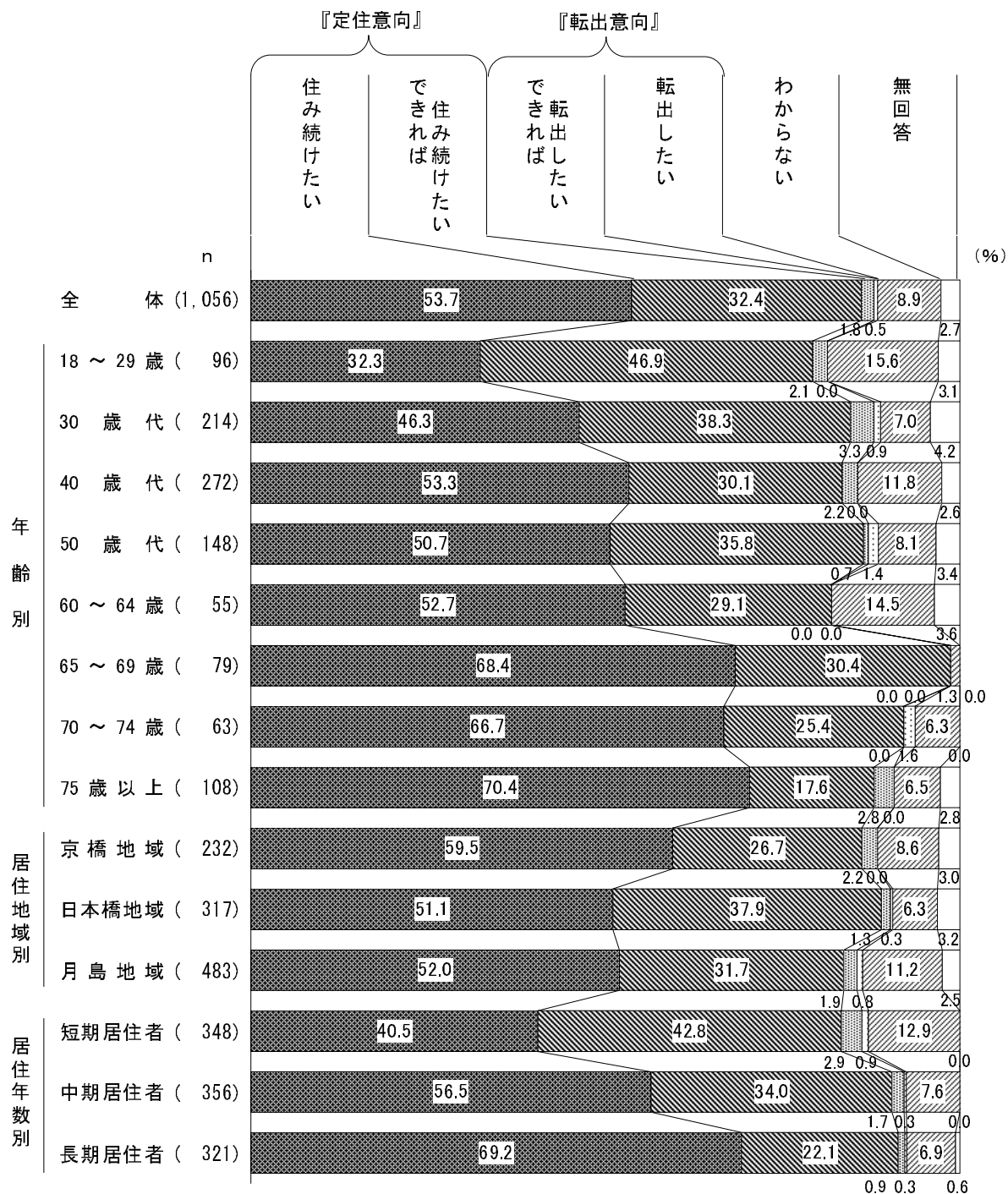
年齢別でみると、『定住意向』は65～69歳で10割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は日本橋地域で約9割と高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は中期居住者と長期居住者でともに9割台と高くなっている。

(図表 1 - 3 - 3)

図表 1 - 3 - 3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



【2 防災対策】

(1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が6割台半ば

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

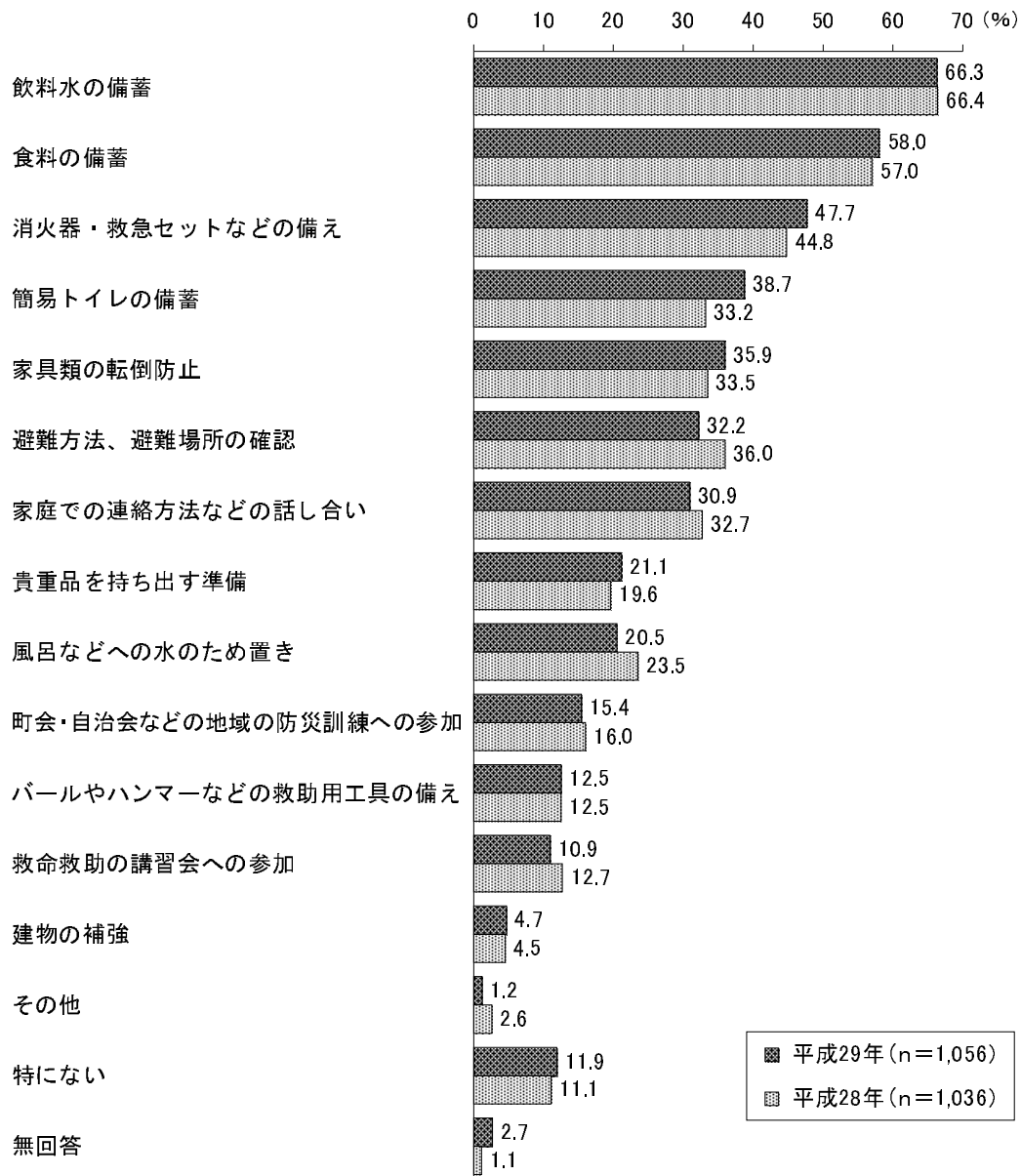
n = 1,056

1 食料の備蓄	58.0%
2 飲料水の備蓄	66.3
3 簡易トイレの備蓄	38.7
4 家具類の転倒防止	35.9
5 消火器・救急セットなどの備え	47.7
6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え	12.5
7 貴重品を持ち出す準備	21.1
8 風呂などへの水のため置き	20.5
9 救命救助の講習会への参加	10.9
10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	15.4
11 避難方法、避難場所の確認	32.2
12 家庭での連絡方法などの話し合い	30.9
13 建物の補強	4.7
14 その他	1.2
15 特にない	11.9
(無回答)	2.7

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(66.3%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(58.0%)、「消火器・救急セットなどの備え」(47.7%)、「簡易トイレの備蓄」(38.7%)、「家具類の転倒防止」(35.9%)、「避難方法、避難場所の確認」(32.2%)、「家庭での連絡方法などの話し合い」(30.9%)などとなっている。一方、「特にない」(11.9%)は1割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「簡易トイレの備蓄」は5.5ポイント増加している。一方、「避難方法、避難場所の確認」は3.8ポイント、「風呂などへの水のため置き」は3.0ポイント、それぞれ減少している。(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え(複数回答)

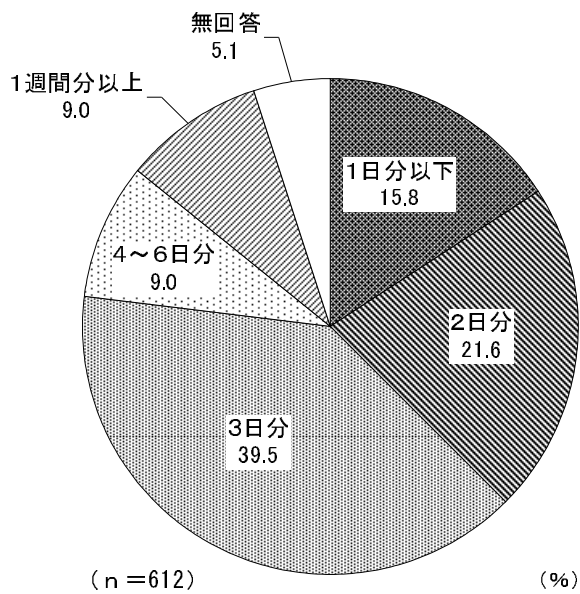


食料の備蓄日数は、「3日分」(39.5%)が4割で最も高く、平均備蓄日数は3.21日分となっている。(図表2-1-2)

飲料水の備蓄日数は、「3日分」(29.7%)が3割で最も高く、平均備蓄日数は3.81日分となっている。(図表2-1-3)

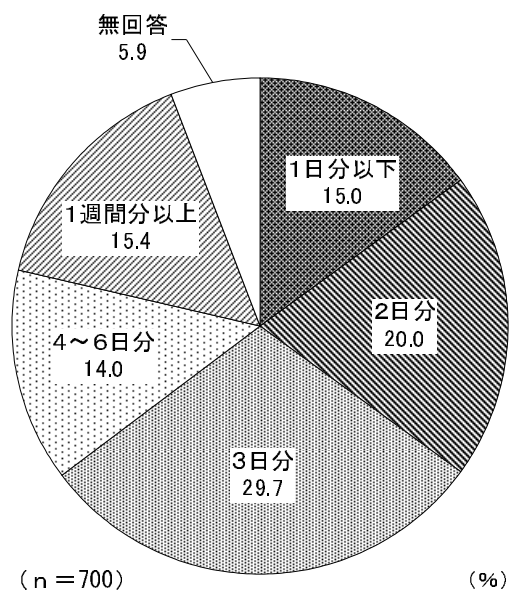
簡易トイレの備蓄日数は、「3日分」(25.7%)が2割台半ばで最も高く、平均備蓄日数は3.63日分となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-2 食料の備蓄日数



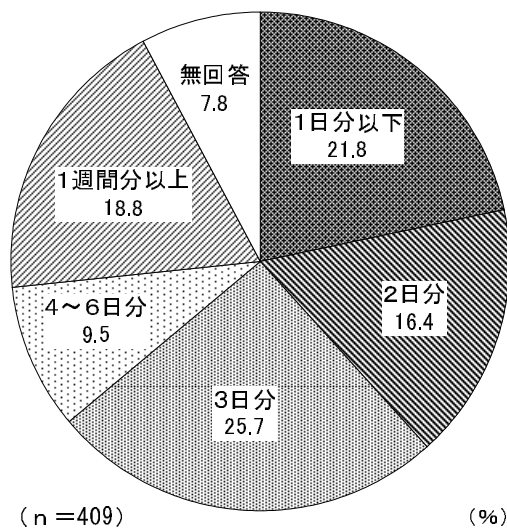
平均備蓄日数 : 3.21日

図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



平均備蓄日数 : 3.81日

図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



平均備蓄日数 : 3.63日

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」、「消火器・救急セットなどの備え」が引き続き上位3項目となっている。また、「簡易トイレの備蓄」は平成23年以降で最も高い割合となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 家庭での災害に対する備え一過年度比較

(%)

調査年	n	飲料水の備蓄	食料の備蓄	消火器・救急セットなどの備え	簡易トイレの備蓄	家具類の転倒防止	避難方法、避難場所の確認	家庭での連絡方法などの話し合い	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	パルやハンマーなどの救助用工具の備え	救命救助の講習会への参加	建物の補強	その他	特にない	無回答
平成29年	1,056	66.3	58.0	47.7	38.7	35.9	32.2	30.9	21.1	20.5	15.4	12.5	10.9	4.7	1.2	11.9	2.7
平成28年	1,036	66.4	57.0	44.8	33.2	33.5	36.0	32.7	19.6	23.5	16.0	12.5	12.7	4.5	2.6	11.1	1.1
平成27年	1,027	63.5	57.7	47.0	33.9	35.2	35.3	29.9	23.8	20.4	16.6	11.3	10.5	5.6	2.5	14.4	0.5
平成26年	1,041	67.0	60.7	50.1	36.4	37.9	37.7	33.5	22.1	25.5	16.8	12.5	14.2	4.0	2.5	10.2	3.4
平成25年	1,047	67.1	60.6	49.5	30.0	37.0	36.9	34.7	24.7	28.5	18.6	13.1	11.2	4.8	3.1	8.8	1.5
平成24年	1,123	67.7	58.9	51.6	23.5	40.1	35.5	36.2	26.2	27.0	16.5	13.1	11.0	4.2	2.2	9.0	1.8
平成23年	1,097	63.1	51.0	39.5	19.3	36.7	30.5	35.1	31.6	28.4	11.5	8.5	6.2	2.3	1.9	7.1	2.0
平成22年	1,004	42.8	37.3	39.5	※	※	26.7	21.2	17.5	21.8	16.6	6.7	7.2	5.8	1.9	19.9	2.0
平成21年	1,001	41.0	36.4	37.2	※	21.0	24.3	23.1	13.4	19.9	14.2	4.7	7.5	3.0	0.9	20.3	1.4
平成20年	1,065	41.1	24.8	31.7	※	23.6	29.6	26.1	11.0	19.5	14.3	4.2	6.5	2.1	1.6	20.5	1.9
平成19年	686	42.6	26.5	36.7	※	21.3	24.3	16.9	12.8	22.6	14.0	4.5	6.0	1.6	0.7	25.8	0.7

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

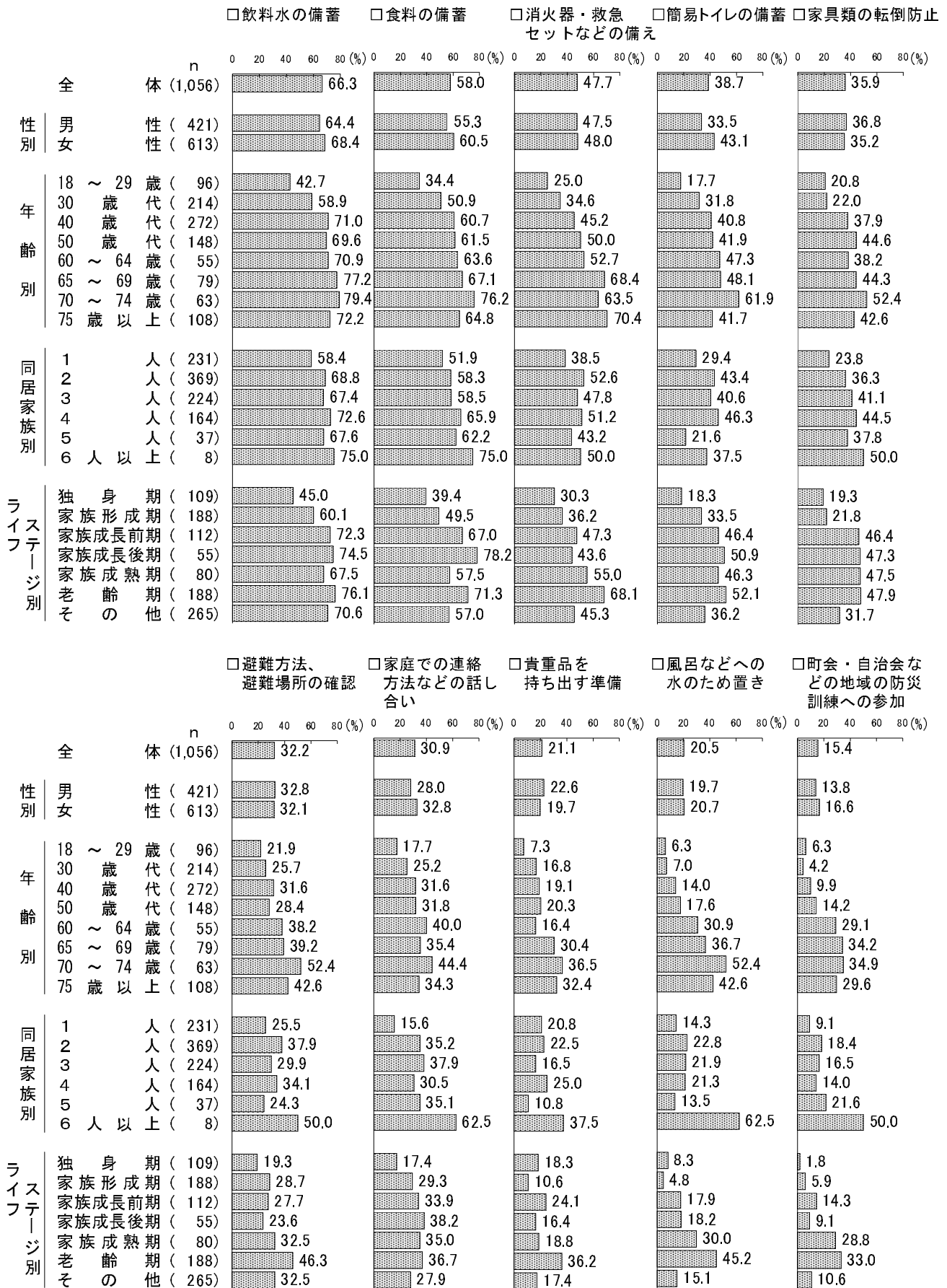
性別でみると、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で9.6ポイント、「食料の備蓄」で5.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「食料の備蓄」は70～74歳で7割台半ばと高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は75歳以上で7割と高くなっている。「簡易トイレの備蓄」は70～74歳で6割を超えて高くなっている。

同居家族別でみると、「飲料水の備蓄」と「食料の備蓄」、「消火器・救急セットなどの備え」はいずれも同居家族2人以上に比べて同居家族1人で割合が低くなっている。

ライフステージ別でみると、「食料の備蓄」は家族成長後期で8割近くと高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は高齢期で7割近くと高くなっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 家庭での災害に対する備え—性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別
(上位10項目)



(2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え

◇「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」と「家具の配置を工夫している」がともに3割を超える

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

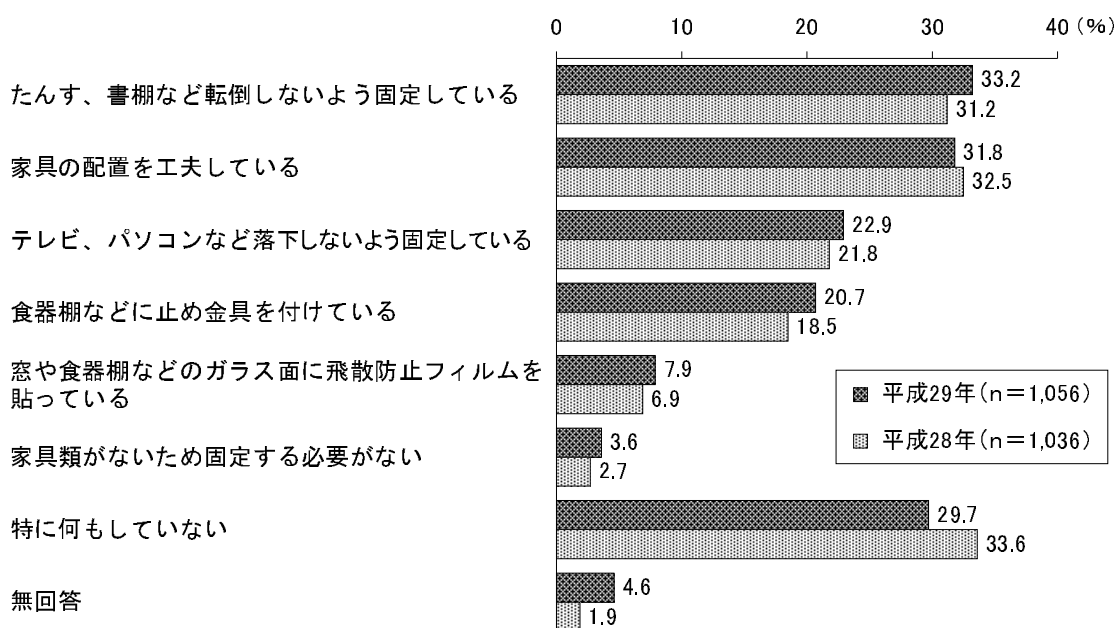
1	たんす、書棚など転倒しないよう固定している	33.2%
2	テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している	22.9
3	窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている	7.9
4	食器棚などに止め金具を付けている	20.7
5	家具の配置を工夫している	31.8
6	家具類がないため固定する必要がない	3.6
7	特に何もしていない	29.7
	(無回答)	4.6

家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備えは、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」(33.2%)と「家具の配置を工夫している」(31.8%)がともに3割を超えている。次いで、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」(22.9%)、「食器棚などに止め金具を付けている」(20.7%)などとなっている。また、「特に何もしていない」(29.7%)は3割となっている。

昨年との調査結果と比較すると、「特に何もしていない」は3.9ポイント減少している。

(図表2-2-1)

図表2-2-1 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」、「家具の配置を工夫している」、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」が引き続き上位3項目となっている。(図表2-2-2)

図表2-2-2 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え一過年度比較

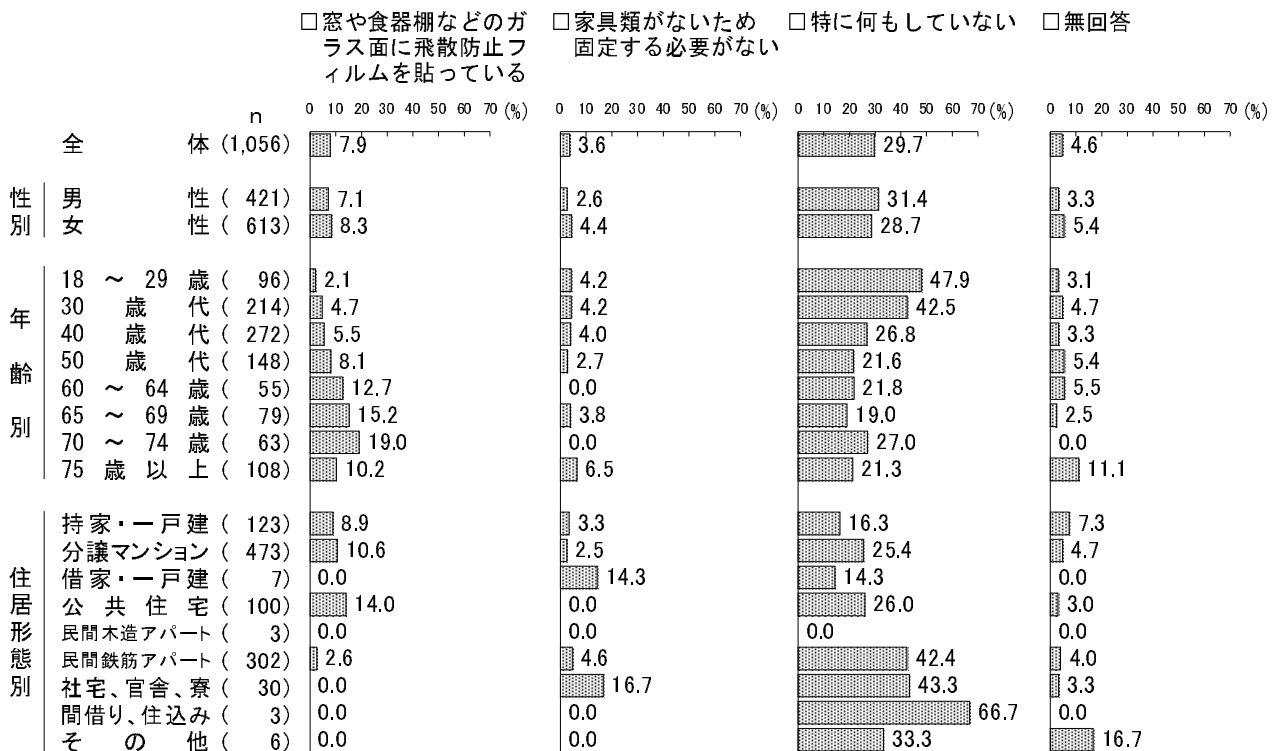
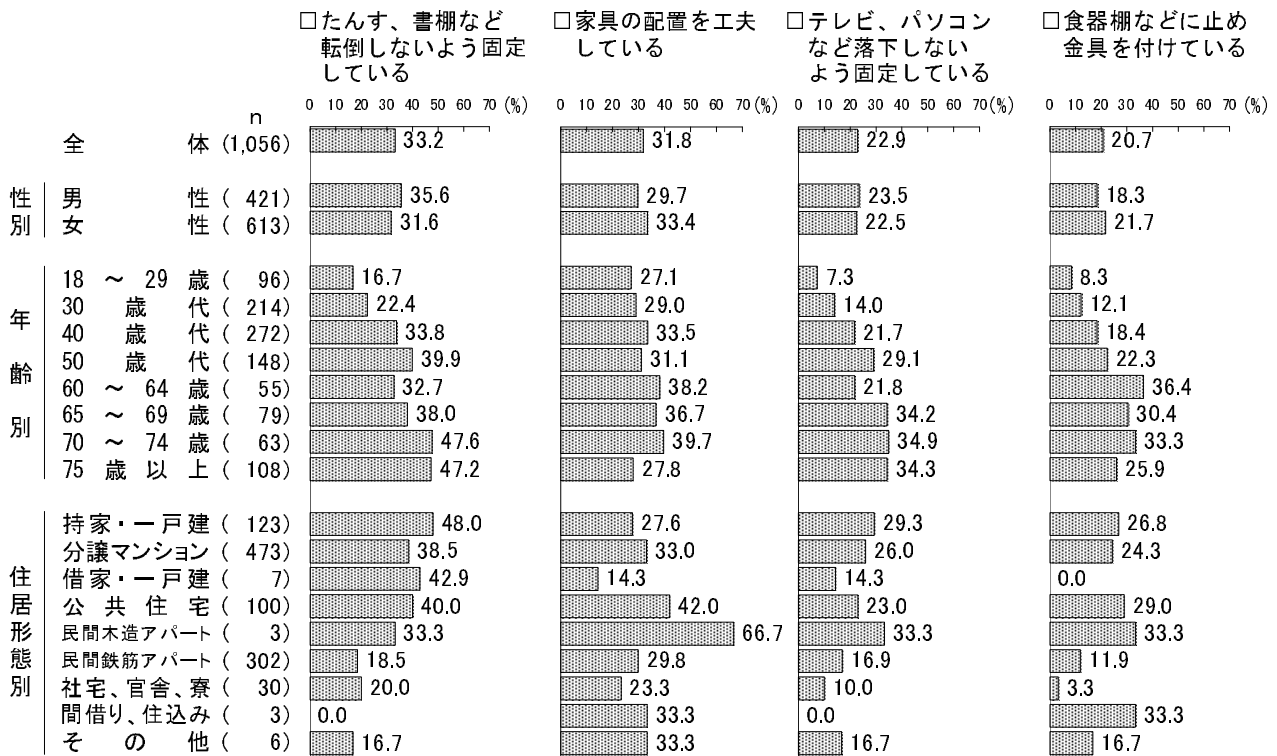
調査年	n	(%)							
		たんす、書棚など転倒しないよう固定している	家具の配置を工夫している	テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している	食器棚などに止め金具を付けている	窓や食器棚などのガラス面に貼っている飛散防止フィルム	家具類がないため固定する必要がない	特に何もしていない	無回答
平成29年	1,056	33.2	31.8	22.9	20.7	7.9	3.6	29.7	4.6
平成28年	1,036	31.2	32.5	21.8	18.5	6.9	2.7	33.6	1.9
平成27年	1,027	31.9	33.3	23.5	21.1	6.7	4.8	32.4	2.0
平成26年	1,041	32.4	31.8	25.0	21.8	9.3	4.9	27.4	3.6

性別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は男性の方が女性よりも4.0ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「家具の配置を工夫している」で3.7ポイント、「食器棚などに止め金具を付けている」で3.4ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は70～74歳と75歳以上でともに5割近くと高くなっている。「家具の配置を工夫している」は70～74歳で4割と高くなっている。「食器棚などに止め金具を付けている」は60～64歳で3割台半ばと高くなっている。「特に何もしていない」は18～29歳で5割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は持家・一戸建てで5割近くと高くなっている。(図表2-2-3)

図表 2-2-3 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え—性別・年齢別・住居形態別



(3) 防災拠点の認知度

◇「知っている」が6割を超える

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(○は1つ)

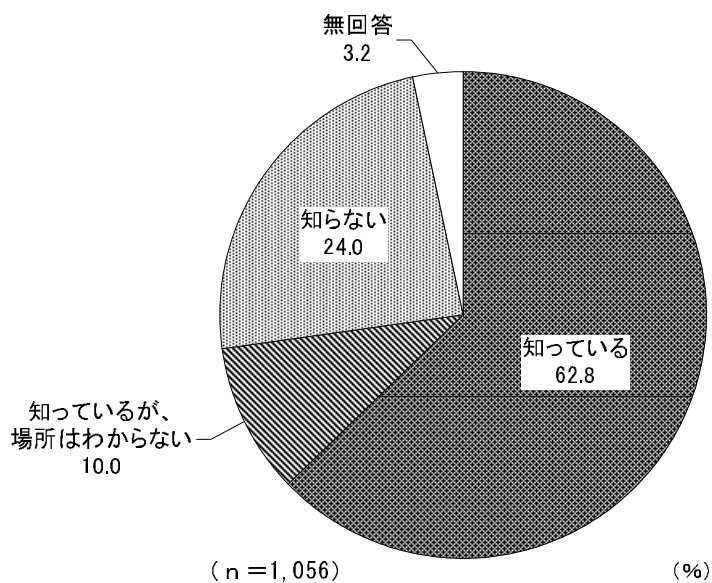
n = 1,056

1	知っている	62.8%	3	知らない	24.0
2	知っているが、場所はわからない	10.0		(無回答)	3.2

防災拠点の認知度は、「知っている」(62.8%)が6割を超えて高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(10.0%)は1割で、「知らない」(24.0%)は2割台半ばとなっている。

(図表2-3-1)

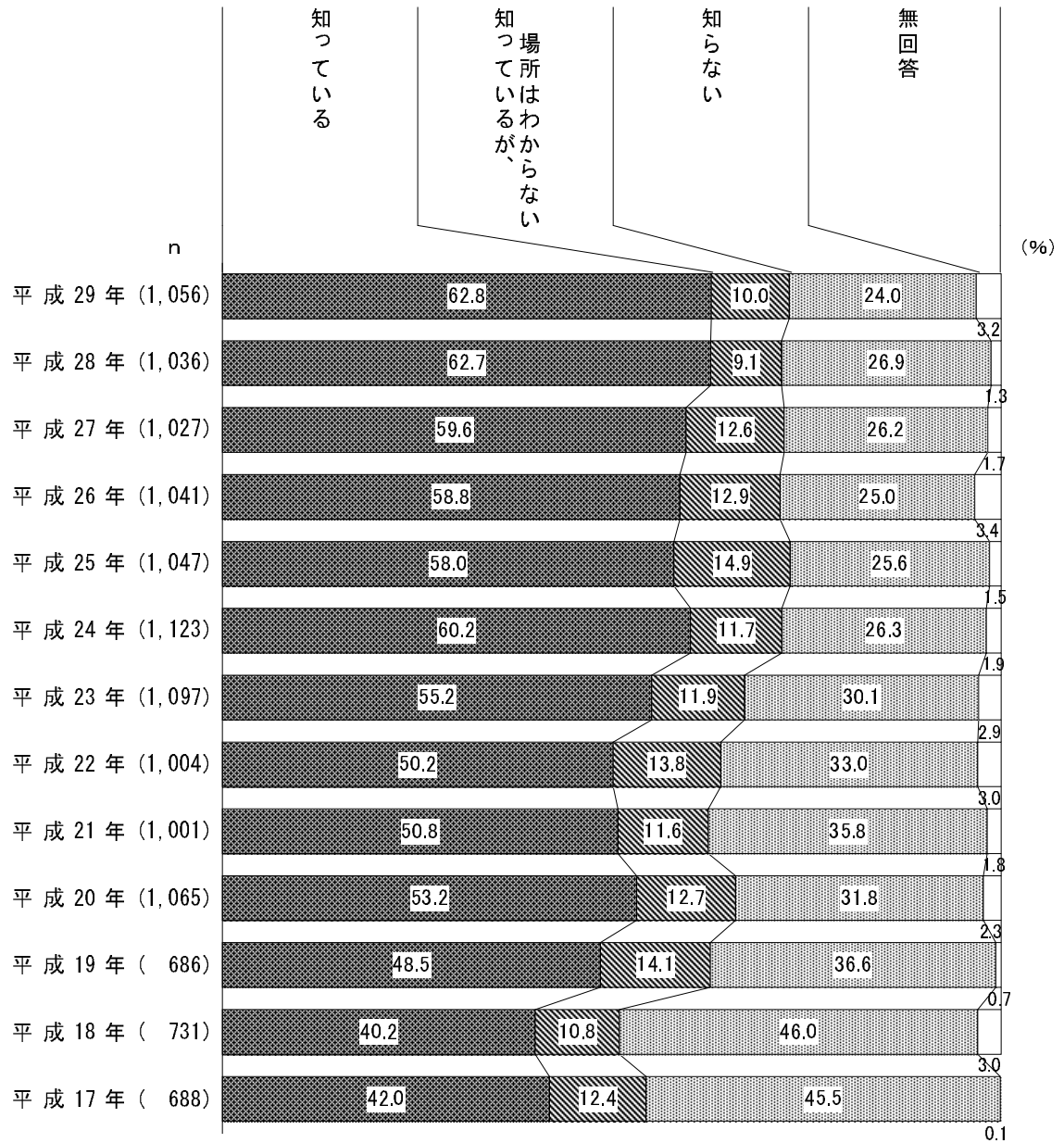
図表2-3-1 防災拠点の認知度



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成17年以降で最も高い割合となっている。

(図表 2-3-2)

図表 2-3-2 防災拠点の認知度一過年度比較

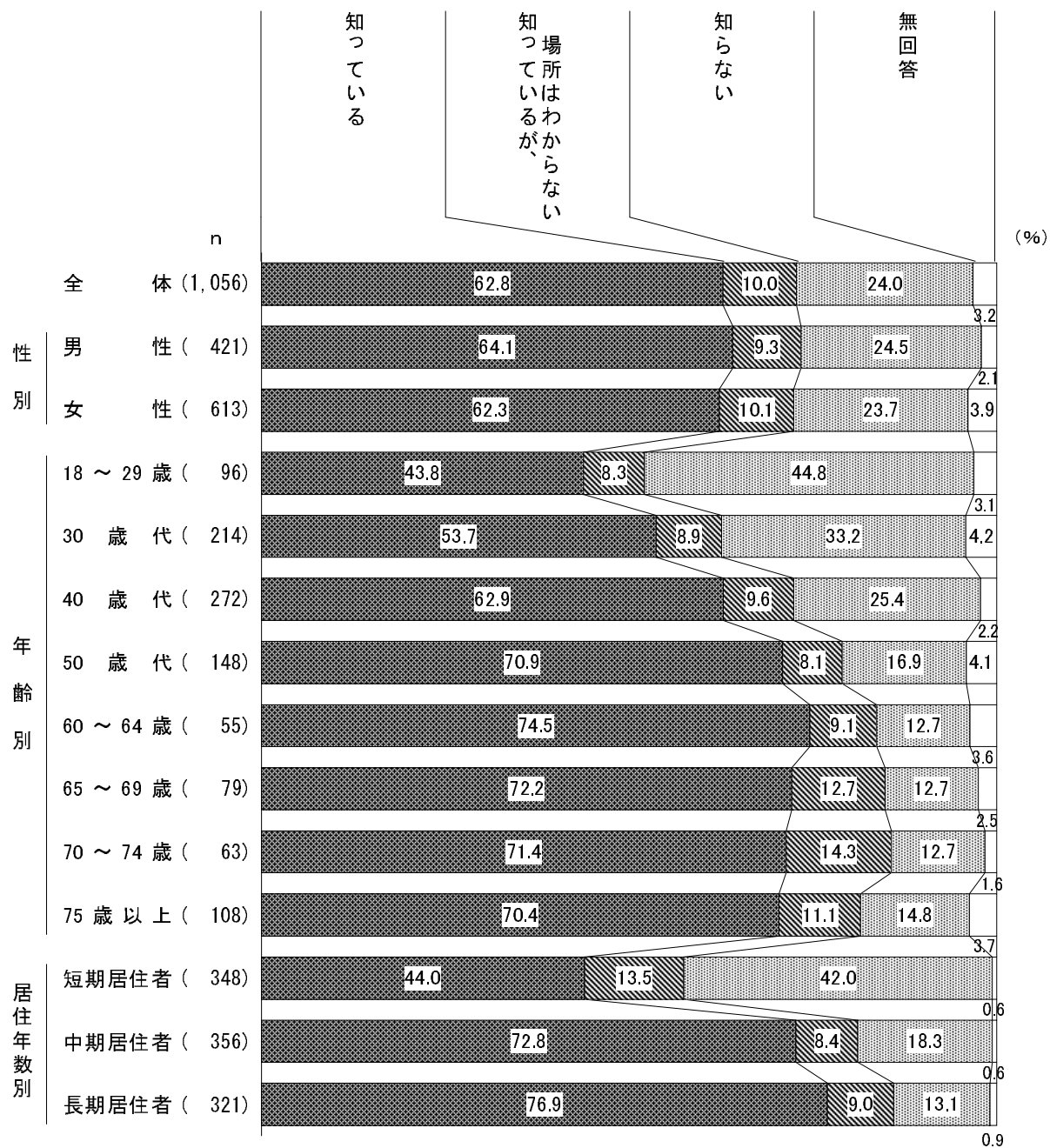


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別でみると、「知っている」は50歳以上の年代でいずれも7割台と高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は短期居住者では4割台半ばとなっているのに対し、中期居住者では7割を超え、長期居住者では8割近くと高くなっている。(図表2-3-3)

図表2-3-3 防災拠点の認知度—性別・年齢別・居住年数別



(4) 災害に備えた地域の協力体制

◇「知っている」が2割台半ば

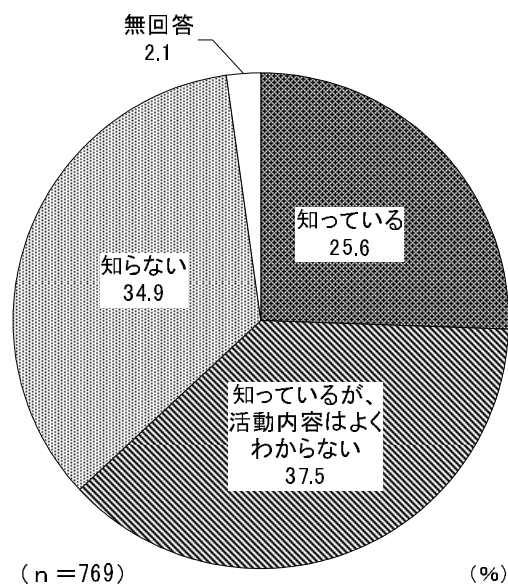
(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

n = 769

1 知っている	25.6%	3 知らない	34.9
2 知っているが、活動内容はよくわからない	37.5	(無回答)	2.1

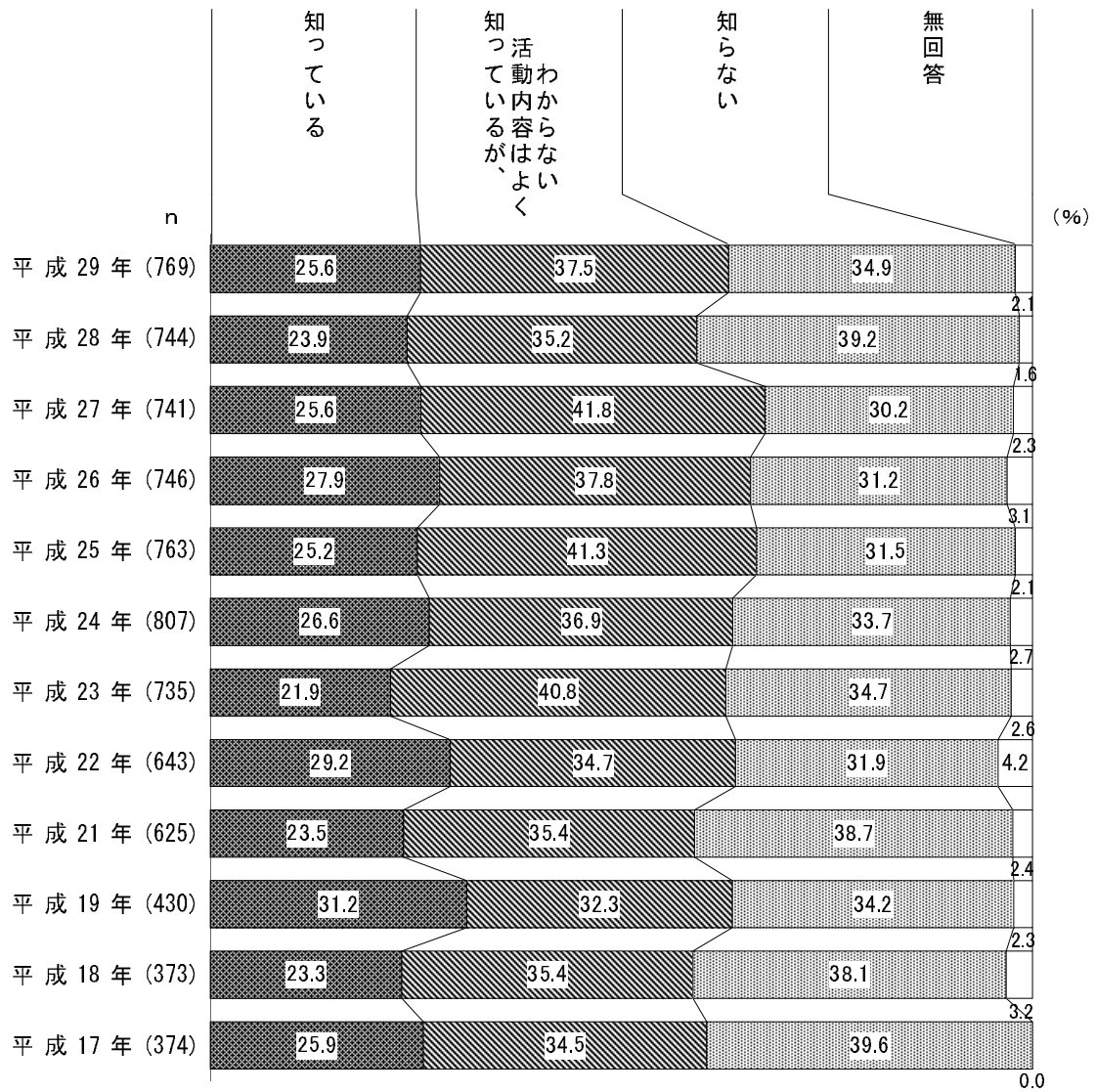
問6で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」と回答した方の、災害に備えた地域の協力体制は、「知っている」(25.6%)が2割台半ばとなっている。「知っているが、活動内容はよくわからない」(37.5%)は4割近くで、「知らない」(34.9%)は3割台半ばとなっている。(図表2-4-1)

図表2-4-1 災害に備えた地域の協力体制



過去の調査結果と比較すると、「知っているが、活動内容はよくわからない」は昨年より2.3ポイント増加している。一方、「知らない」は昨年より4.3ポイント減少している。(図表2-4-2)

図表2-4-2 災害に備えた地域の協力体制一過年度比較



(5) 避難の際に心配なこと

◇「トイレ」が7割台半ば

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

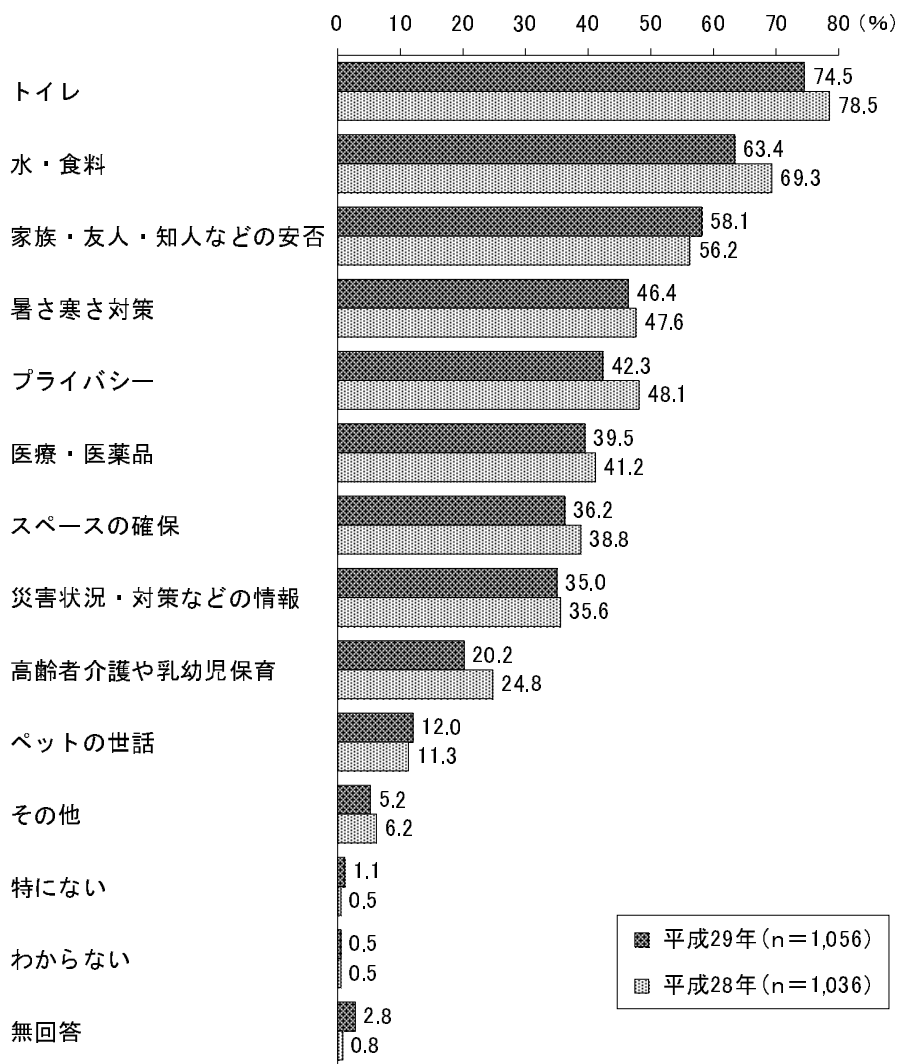
1	水・食料	63.4%	8	スペースの確保	36.2
2	トイレ	74.5	9	暑さ寒さ対策	46.4
3	プライバシー	42.3	10	ペットの世話	12.0
4	家族・友人・知人などの安否	58.1	11	その他	5.2
5	災害状況・対策などの情報	35.0	12	特にない	1.1
6	医療・医薬品	39.5	13	わからない	0.5
7	高齢者介護や乳幼児保育	20.2		(無回答)	2.8

避難の際に心配なことは、「トイレ」(74.5%)が7割台半ばで最も高くなっている。次いで、「水・食料」(63.4%)、「家族・友人・知人などの安否」(58.1%)、「暑さ寒さ対策」(46.4%)、「プライバシー」(42.3%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「水・食料」は5.9ポイント、「プライバシー」は5.8ポイント、「高齢者介護や乳幼児保育」は4.6ポイント、「トイレ」は4.0ポイント、それぞれ減少している。

(図表 2-5-1)

図表 2-5-1 避難の際に心配なこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「トイレ」、「水・食料」、「家族・友人・知人などの安否」が引き続き上位3項目となっている。

(図表2-5-2)

図表2-5-2 避難の際に心配なこと一過年度比較

(%)

調査年	n	トイレ	水・食料	家族・友人・知人などの安否	暑さ寒さ対策	プライバシー	医療・医薬品	スペースの確保	災害状況・対策などの情報	高齢者介護や乳幼児保育	ペットの世話	その他	特になし	わからない	無回答	避難スペースの確保や暑さ
平成29年	1,056	74.5	63.4	58.1	46.4	42.3	39.5	36.2	35.0	20.2	12.0	5.2	1.1	0.5	2.8	※
平成28年	1,036	78.5	69.3	56.2	47.6	48.1	41.2	38.8	35.6	24.8	11.3	6.2	0.5	0.5	0.8	※
平成27年	1,027	75.5	67.7	61.1	46.1	38.3	42.7	31.5	35.9	24.0	10.3	5.4	1.4	1.5	0.4	※
平成26年	1,041	72.8	64.6	62.4	46.2	38.9	45.9	31.8	40.1	23.2	10.1	4.3	1.7	0.7	2.4	※
平成25年	1,047	76.6	66.5	62.6	47.7	40.4	43.9	30.3	37.5	20.7	12.0	4.5	1.3	0.6	0.8	※
平成24年	1,123	74.1	65.4	64.8	44.5	37.1	38.7	29.0	38.3	19.9	13.7	4.1	0.7	0.6	1.4	※
平成23年	1,097	77.8	72.3	55.1	53.2	45.7	43.4	33.2	37.9	21.2	13.3	4.9	0.8	0.3	1.2	※
平成22年	1,004	74.9	67.5	56.8	36.7	27.0	43.1	37.6	33.2	24.3	11.1	3.1	0.6	1.0	0.9	※
平成21年	1,001	79.6	69.5	50.2	39.8	34.6	41.1	40.1	33.0	24.0	11.3	2.5	0.7	1.1	0.6	※
平成20年	1,065	78.4	72.1	60.4	40.3	29.8	46.9	41.4	34.2	26.2	10.6	2.7	0.0	0.0	0.9	※
平成19年	686	74.9	74.2	62.0	※	25.9	48.4	※	40.7	24.1	10.8	1.7	0.9	2.0	0.3	45.5

* 太枠内が今回の調査の選択肢

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

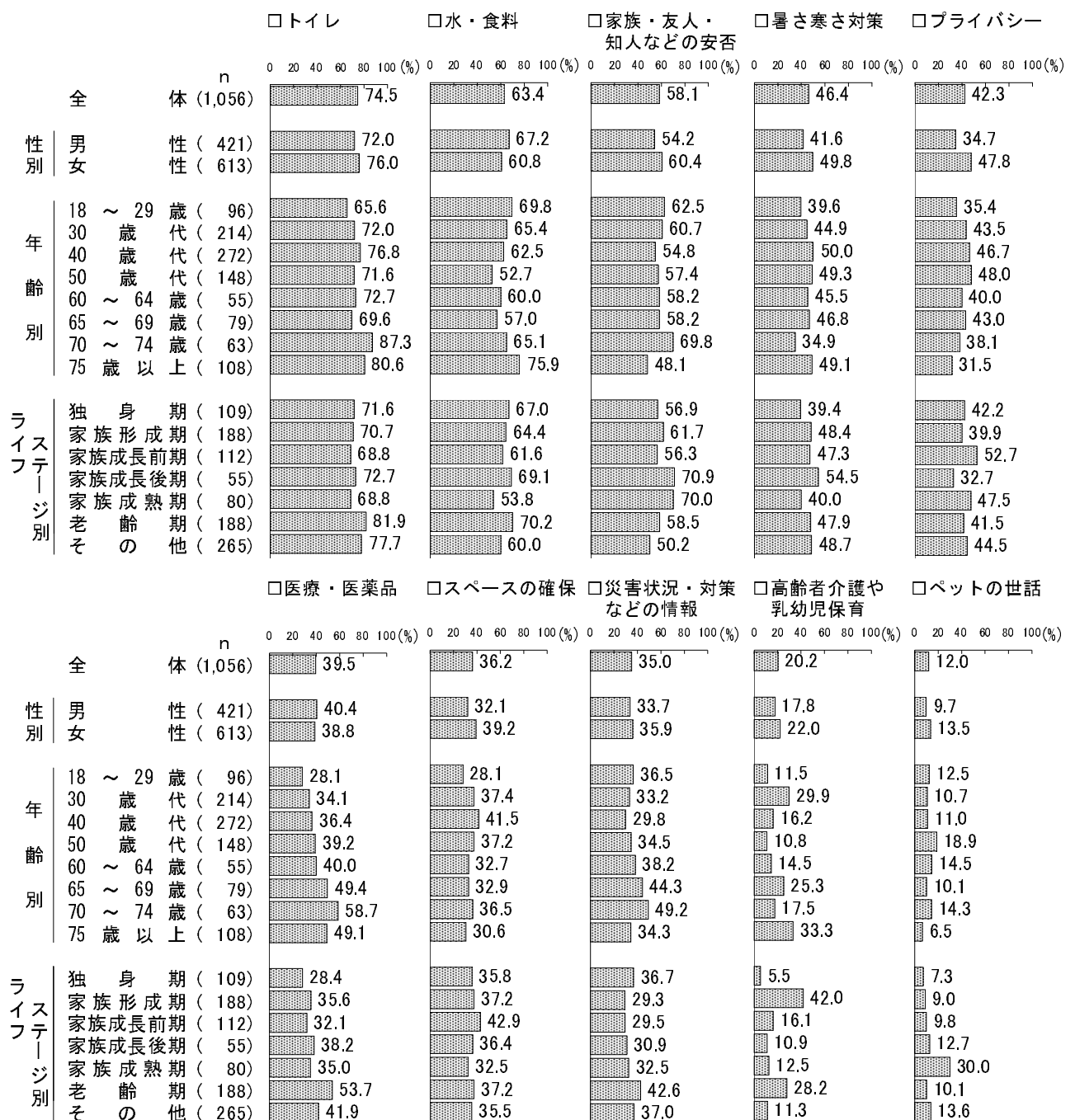
* 「スペースの確保」の選択肢は、平成22年まで「避難スペースの確保」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「プライバシー」で13.1ポイント、「暑さ寒さ対策」で8.2ポイント、「スペースの確保」で7.1ポイント、「家族・友人・知人などの安否」で6.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「水・食料」は男性の方が女性よりも6.4ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「トイレ」は70～74歳で9割近くと高くなっている。「家族・友人・知人などの安否」は70～74歳で7割と高くなっている。「医療・医薬品」は70～74歳で6割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「家族・友人・知人などの安否」は家族成長後期と家族成熟期でもに7割台と高くなっている。「医療・医薬品」は老齢期で5割を超えて高くなっている。「高齢者介護や乳幼児保育」は家族形成期で4割を超えて高くなっている。(図表2-5-3)

図表2-5-3 避難の際に心配なこと－性別・年齢別・ライフステージ別（上位10項目）



(6) 災害時に協力できる活動

◇「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」が6割近く

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

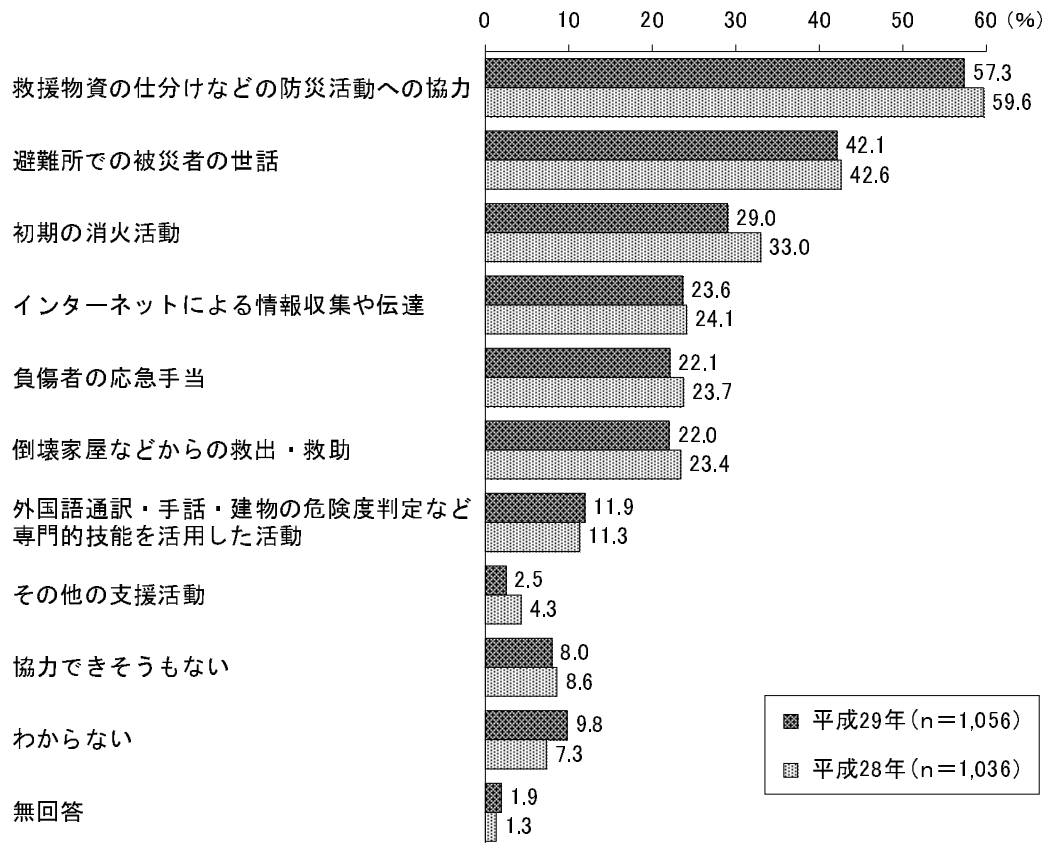
1	負傷者の応急手当	22.1%
2	倒壊家屋などからの救出・救助	22.0
3	初期の消火活動	29.0
4	避難所での被災者の世話	42.1
5	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	57.3
6	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	11.9
7	インターネットによる情報収集や伝達	23.6
8	その他の支援活動	2.5
9	協力できそうもない	8.0
10	わからない	9.8
	(無回答)	1.9

災害時に協力できる活動は、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」(57.3%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「避難所での被災者の世話」(42.1%)、「初期の消火活動」(29.0%)、「インターネットによる情報収集や伝達」(23.6%)、「負傷者の応急手当」(22.1%)、「倒壊家屋などからの救出・救助」(22.0%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「初期の消火活動」は4.0ポイント減少している。

(図表 2-6-1)

図表 2-6-1 災害時に協力できる活動（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」、「避難所での被災者の世話」、「初期の消火活動」が引き続き上位3項目となっている。（図表 2-6-2）

図表 2-6-2 災害時に協力できる活動一過年度比較

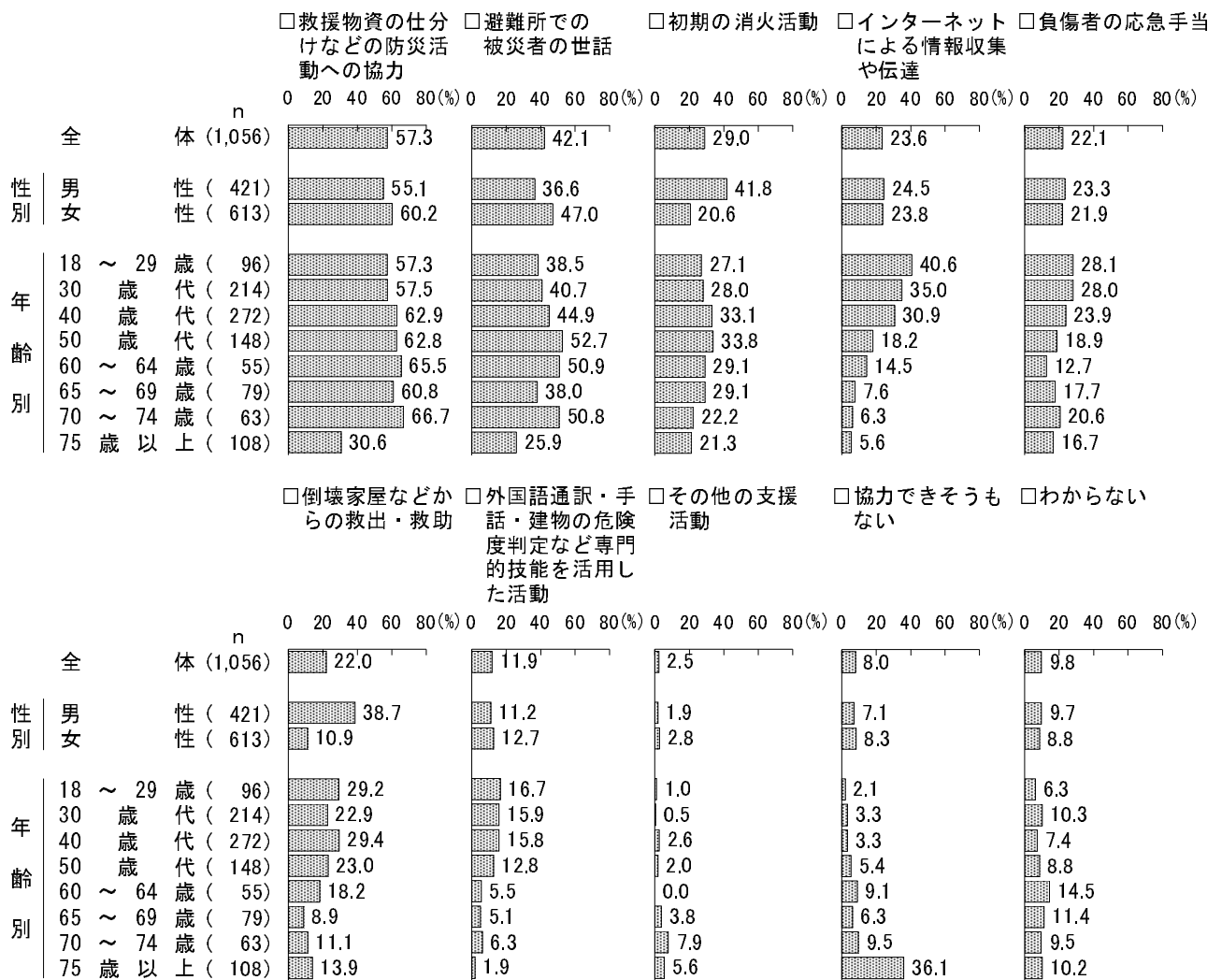
調査年	n	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	避難所での被災者の世話	初期の消火活動	インターネットによる情報収集や伝達	負傷者の応急手当	倒壊家屋などからの救出・救助	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	その他の支援活動	協力できそうもない	わからない	無回答
平成29年	1,056	57.3	42.1	29.0	23.6	22.1	22.0	11.9	2.5	8.0	9.8	1.9
平成28年	1,036	59.6	42.6	33.0	24.1	23.7	23.4	11.3	4.3	8.6	7.3	1.3
平成27年	1,027	55.6	46.5	35.5	23.7	25.0	26.2	11.9	3.4	8.5	10.4	1.9
平成26年	1,041	54.9	46.2	34.7	26.1	23.2	23.7	10.1	4.0	6.8	8.3	2.8
平成25年	1,047	59.9	48.2	34.6	25.0	26.2	26.4	10.5	3.2	7.1	7.2	1.5
平成24年	1,123	55.2	45.2	34.6	23.1	25.4	25.7	9.9	3.8	6.7	7.1	2.0
平成23年	1,097	61.7	50.9	33.2	28.1	23.3	23.8	10.9	3.4	7.5	6.2	2.0
平成22年	1,004	49.0	41.9	35.7	19.1	27.0	23.6	8.6	1.9	11.1	8.3	1.9
平成21年	1,001	52.2	41.2	35.0	17.8	27.4	25.1	9.0	1.3	10.8	10.1	1.6
平成20年	1,065	52.2	39.3	33.4	15.9	22.4	24.5	7.8	1.5	8.5	11.2	2.5
平成19年	686	43.6	41.5	37.5	15.6	31.3	29.5	5.6	1.9	8.5	10.1	1.6

性別でみると、男性の方が女性よりも「倒壊家屋などからの救出・救助」で27.8ポイント、「初期の消火活動」で21.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「避難所での被災者の世話」で10.4ポイント、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」で5.1ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は70～74歳で7割近くと高くなっている。「避難所での被災者の世話」は50歳代で5割を超えて高くなっている。

(図表 2-6-3)

図表 2-6-3 災害時に協力できる活動—性別・年齢別



(7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が5割を超える

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

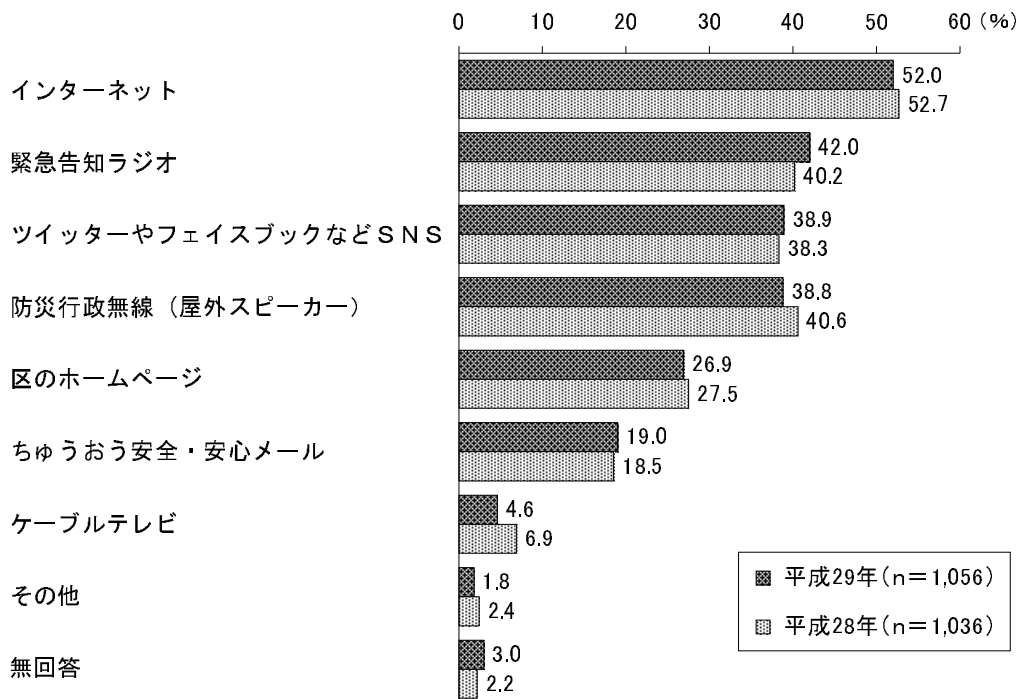
1	区のホームページ	26.9%
2	ちゅうおう安全・安心メール	19.0
3	インターネット	52.0
4	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	38.9
5	防災行政無線(屋外スピーカー)	38.8
6	緊急告知ラジオ	42.0
7	ケーブルテレビ	4.6
8	その他	1.8
	(無回答)	3.0

(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さまへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(52.0%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「緊急告知ラジオ」(42.0%)、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(38.9%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(38.8%)、「区のホームページ」(26.9%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図表2-7-1)

図表2-7-1 災害情報を得る手段として有効だと思うもの(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「インターネット」は平成27年以降5割以上で推移している。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は平成28年以降4割近くで推移している。

(図表2-7-2)

図表2-7-2 災害情報を得る手段として有効だと思うもの一過年度比較

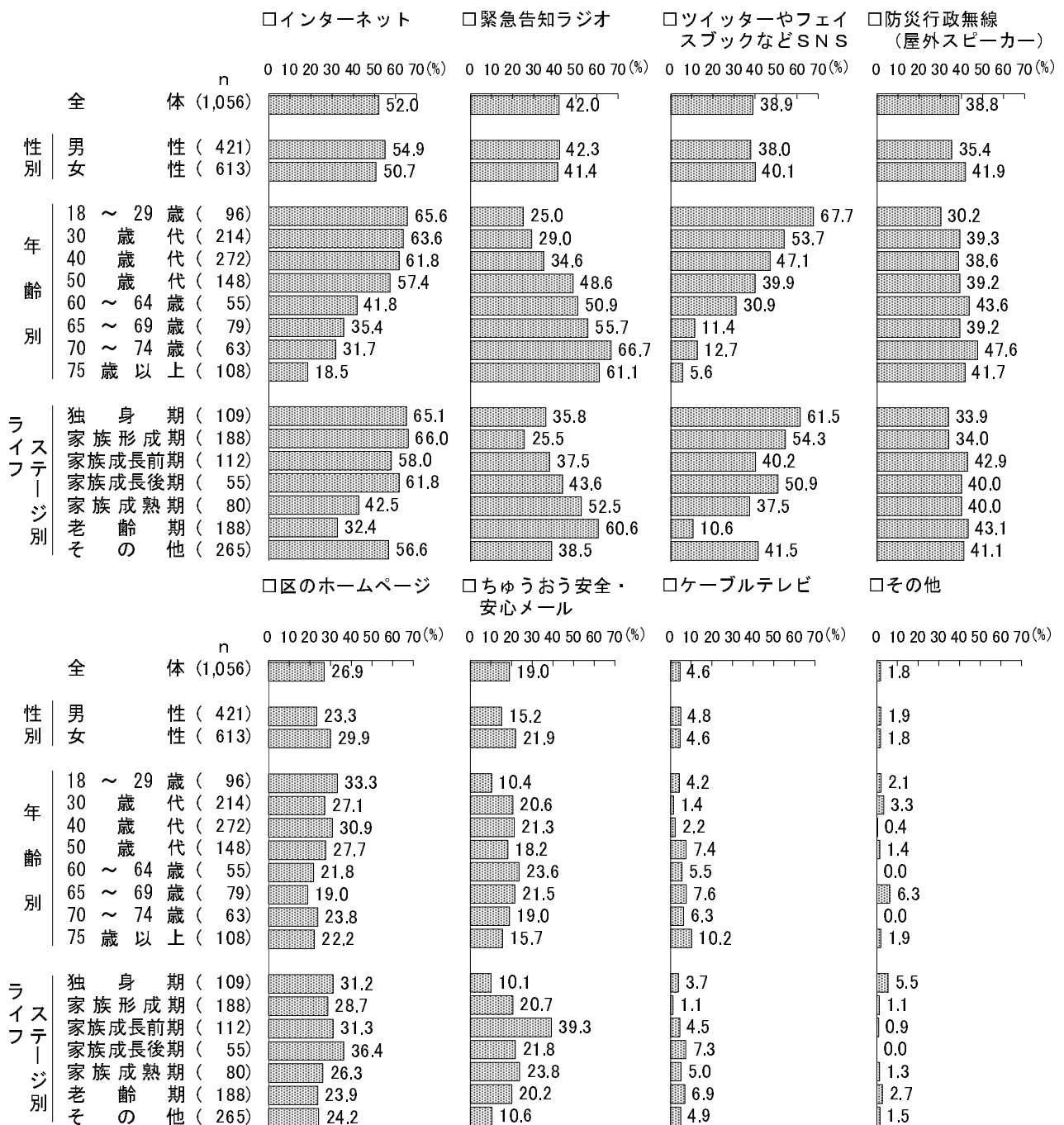
調査年	n	(%)								
		インターネット	緊急告知ラジオ	ツイッターやフェイスブックなどSNS	防災行政無線(屋外スピーカー)	区のホームページ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
平成29年	1,056	52.0	42.0	38.9	38.8	26.9	19.0	4.6	1.8	3.0
平成28年	1,036	52.7	40.2	38.3	40.6	27.5	18.5	6.9	2.4	2.2
平成27年	1,027	50.1	42.7	31.6	39.6	28.6	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	45.6	30.5	40.7	25.4	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	47.3	29.5	47.3	26.7	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	48.8	27.6	44.5	22.1	15.0	7.2	3.0	3.9

性別でみると、女性の方が男性よりも「ちゅうおう安全・安心メール」で6.7ポイント、「区のホームページ」で6.6ポイント、「防災行政無線（屋外スピーカー）」で6.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「インターネット」は男性の方が女性よりも4.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「緊急告知ラジオ」はおおむね高い年代ほど割合が高くなっている。一方、「インターネット」と「ツイッターやフェイスブックなどSNS」はともにおおむね低い年代ほど割合が高くなっている。

ライフステージ別でみると、「緊急告知ラジオ」は高齢期で約6割と高くなっている。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は独身期で6割を超えて高くなっている。「ちゅうおう安全・安心メール」は家族成長前期で約4割と高くなっている。（図表2-7-3）

図表2-7-3 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—性別・年齢別・ライフステージ別



【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。がん検診は含みません。

(1) 加入している健康保険

◇「健康保険組合」が4割を超える

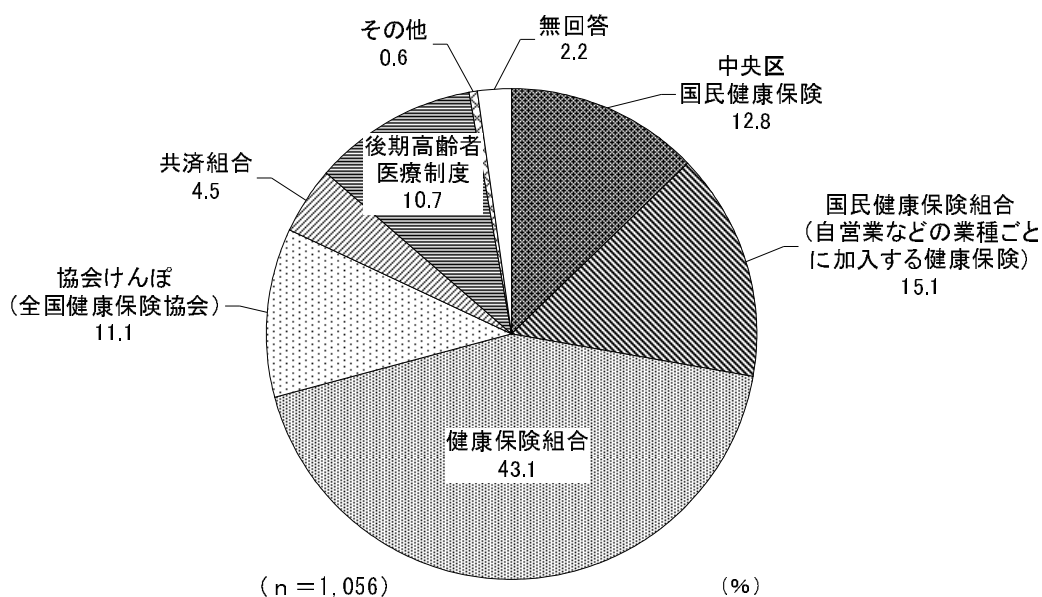
問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

n = 1,056

1	中央区国民健康保険	12.8%
2	国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）	15.1
3	健康保険組合	43.1
4	協会けんぽ（全国健康保険協会）	11.1
5	共済組合	4.5
6	後期高齢者医療制度	10.7
7	その他	0.6
	(無回答)	2.2

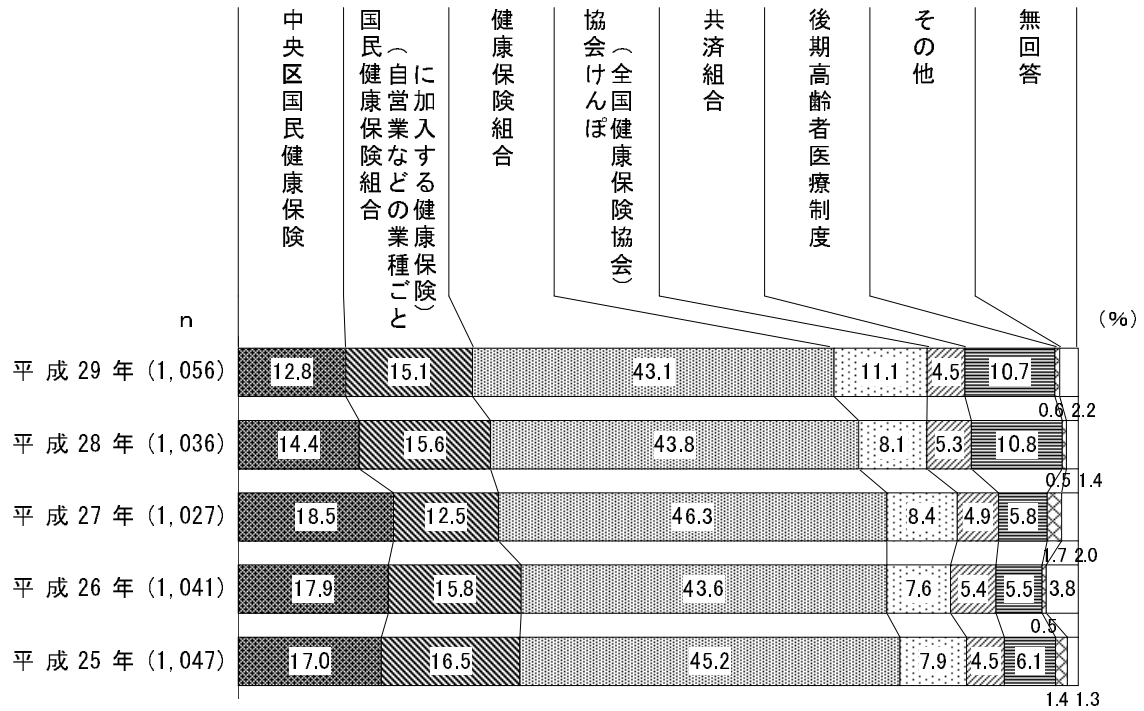
加入している健康保険は、「健康保険組合」（43.1%）が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）」（15.1%）、「中央区国民健康保険」（12.8%）、「協会けんぽ（全国健康保険協会）」（11.1%）、「後期高齢者医療制度」（10.7%）などとなっている。（図表3-1-1）

図表3-1-1 加入している健康保険



過去の調査結果と比較すると、「協会けんぽ（全国健康保険協会）」は昨年より3.0ポイント増加している。（図表3-1-2）

図表3-1-2 加入している健康保険一過年度比較



(※注) 平成28年以降の調査では、回答者の年齢を聞く質問で「75歳以上」と答えた方については、この質問で「その他」と回答した方を除いて、記入のいかんを問わず「後期高齢者医療制度」に振り替えて集計している。平成27年以前の調査では、回答者の年齢を聞く質問で「70～74歳」と「75歳以上」を区別せず、「70歳以上」の選択肢で質問していたため、前述のような処理は行っていない。

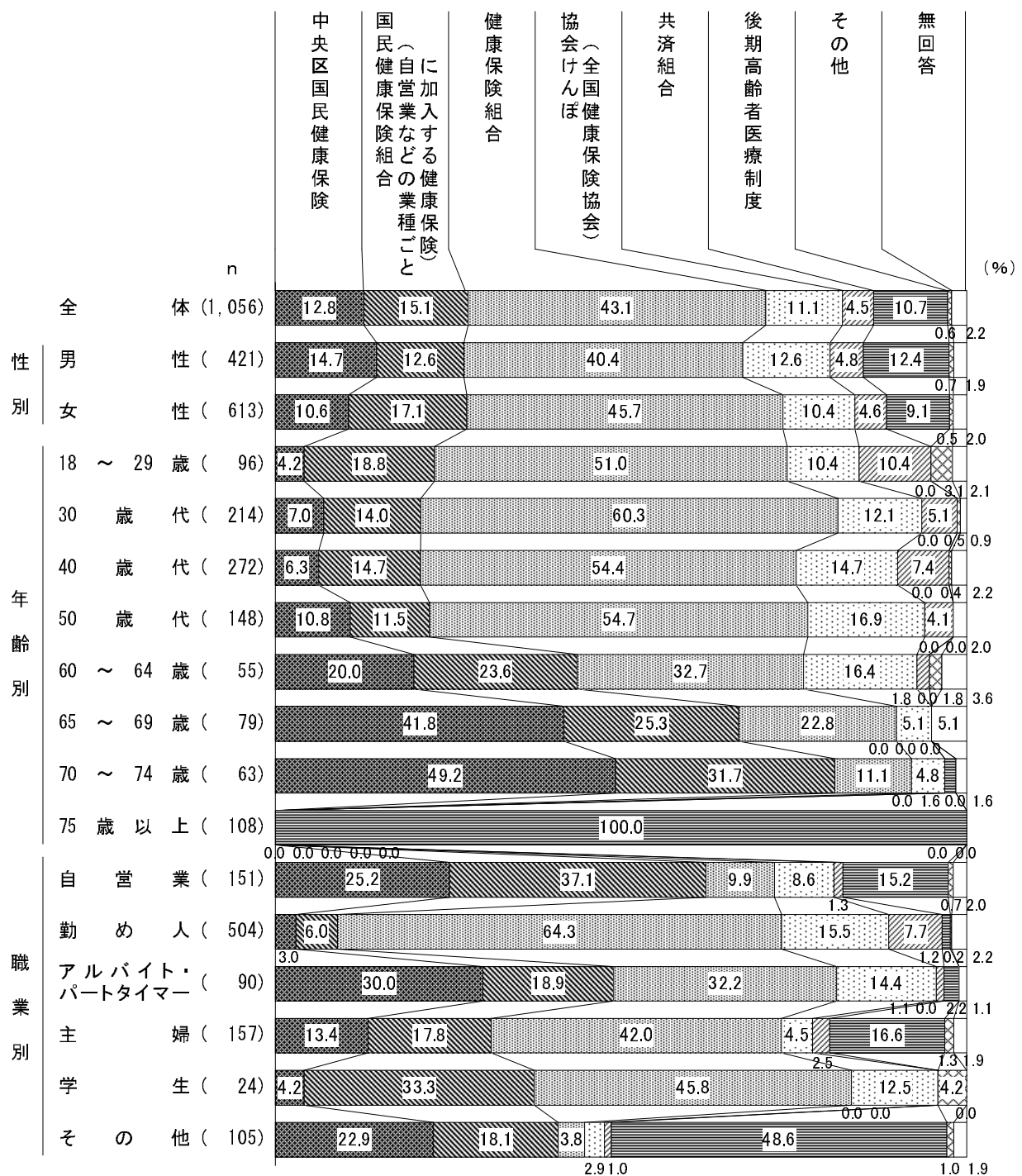
性別でみると、女性の方が男性よりも「健康保険組合」で5.3ポイント、「国民健康保険組合」で4.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「中央区国民健康保険」は男性の方が女性よりも4.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「健康保険組合」は30歳代で6割と高くなっている。「中央区国民健康保険」は70～74歳で約5割、65～69歳で4割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「健康保険組合」は勤め人で6割台半ばと高くなっている。「国民健康保険組合」は自営業で4割近くと高くなっている。「中央区国民健康保険」はアルバイト・パートタイマーで3割と高くなっている。「後期高齢者医療制度」はその他で5割近くと高くなっている。

(図表3-1-3)

図表3-1-3 加入している健康保険—性別・年齢別・職業別



(2) 健康診査の受診状況

◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が4割を超える

問11 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）

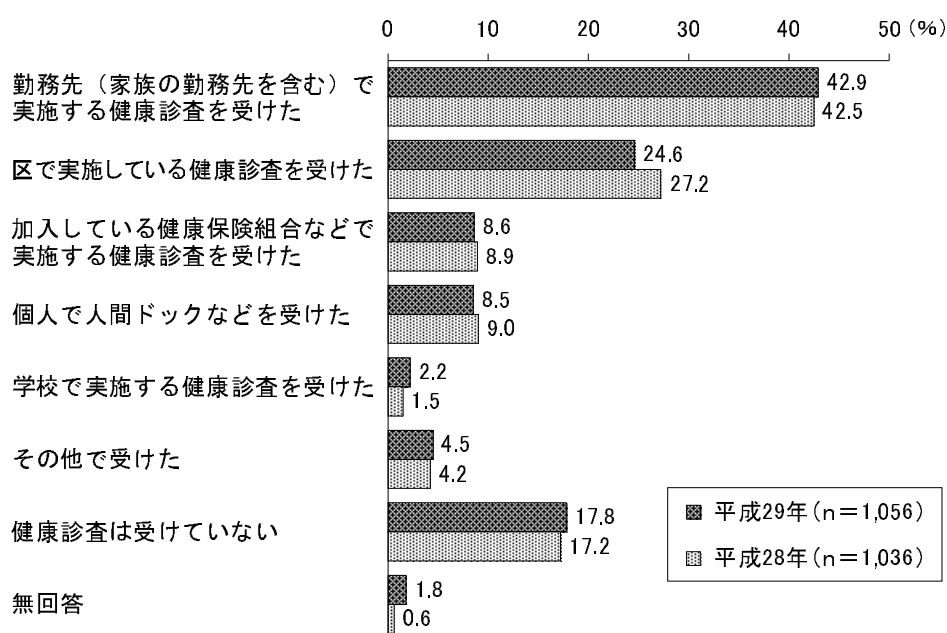
n = 1,056

1	区で実施している健康診査を受けた	24.6%
2	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	42.9
3	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	8.6
4	個人で人間ドックなどを受けた	8.5
5	学校で実施する健康診査を受けた	2.2
6	その他で受けた	4.5
7	健康診査は受けていない	17.8
	（無回答）	1.8

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（42.9%）が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（24.6%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（8.6%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（8.5%）などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」（17.8%）は2割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区で実施している健康診査を受けた」は2.6ポイント減少している。（図表3-2-1）

図表3-2-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位2項目となっている。（図表3-2-2）

図表3-2-2 健康診査の受診状況一過年度比較

調 査 年	n	(%)							
		勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
平成29年	1,056	42.9	24.6	8.6	8.5	2.2	4.5	17.8	1.8
平成28年	1,036	42.5	27.2	8.9	9.0	1.5	4.2	17.2	0.6
平成27年	1,027	40.9	27.3	8.8	7.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	6.8	8.1	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	8.9	9.6	1.0	4.0	19.0	1.9

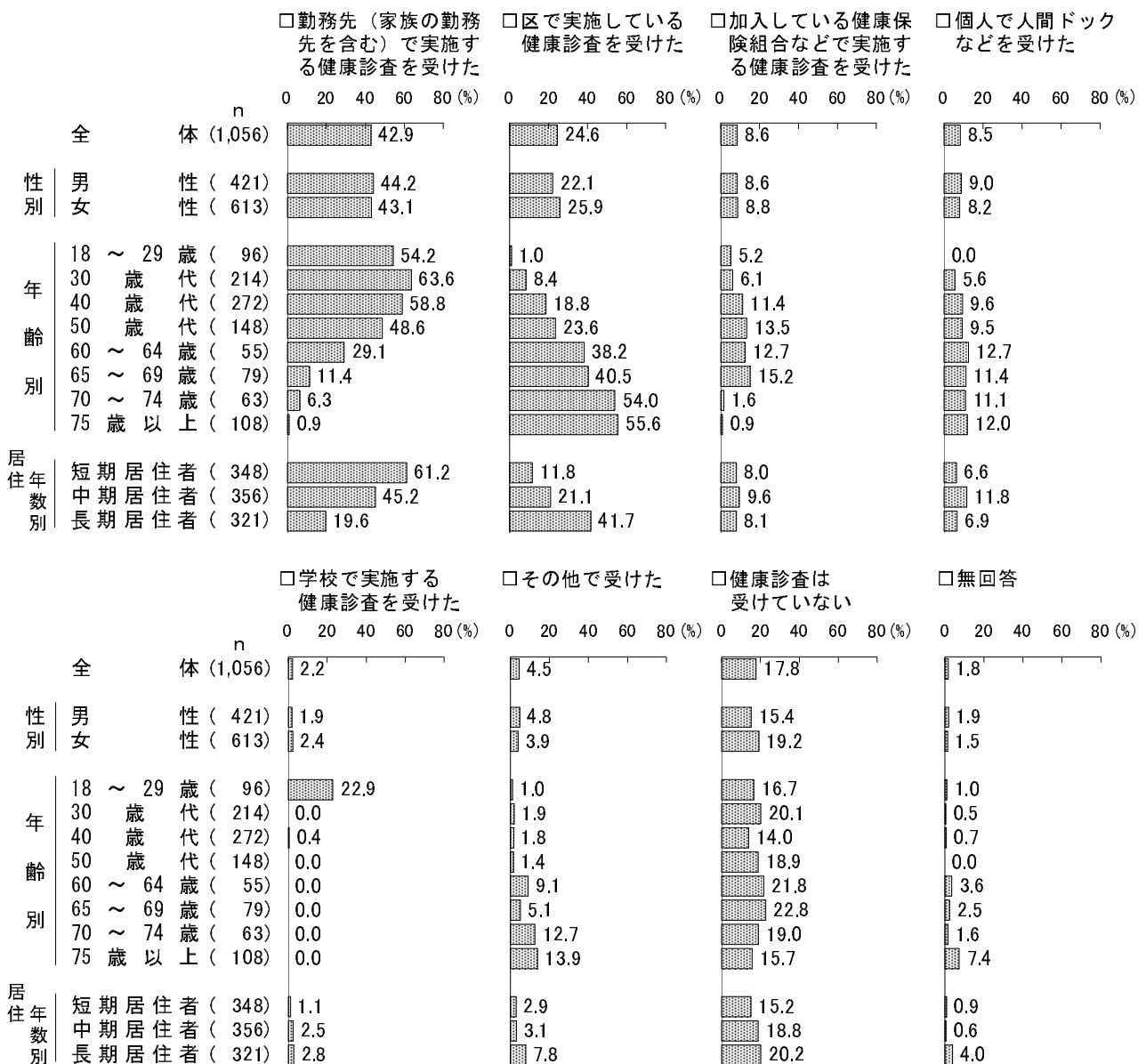
* 「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は、平成25年は「加入している健康保険で実施する健康診査を受けた」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「区で実施している健康診査を受けた」と「健康診査は受けていない」でそれぞれ3.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代で6割を超えて高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は高い年代ほど割合が高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で6割を超えて高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で4割を超えて高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 健康診査の受診状況－性別・年齢別・居住年数別



(3) 健康診査を受けなかった理由

◇「時間がない」が2割台半ば

(問11で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

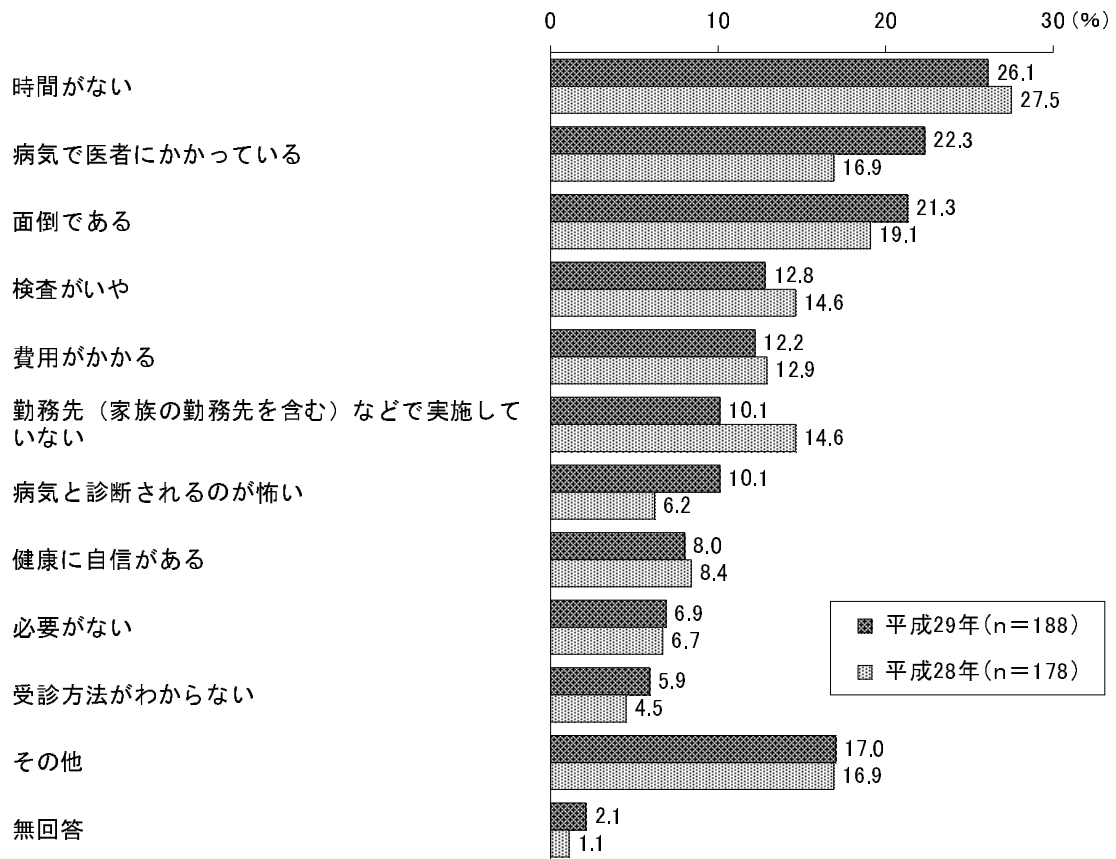
n = 188

1 勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	10.1%
2 受診方法がわからない	5.9
3 必要がない	6.9
4 時間がない	26.1
5 面倒である	21.3
6 健康に自信がある	8.0
7 病気で医者にかかっている	22.3
8 検査がいや	12.8
9 病気と診断されるのが怖い	10.1
10 費用がかかる	12.2
11 その他	17.0
(無回答)	2.1

問11で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「時間がない」(26.1%)が2割台半ばで最も高くなっている。次いで、「病気で医者にかかっている」(22.3%)、「面倒である」(21.3%)、「検査がいや」(12.8%)、「費用がかかる」(12.2%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「病気で医者にかかっている」は5.4ポイント、「病気と診断されるのが怖い」は3.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」は4.5ポイント減少している。（図表3-3-1）

図表3-3-1 健康診査を受けなかった理由（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「時間がない」が第1位となっている傾向に変化はみられない。（図表3-3-2）

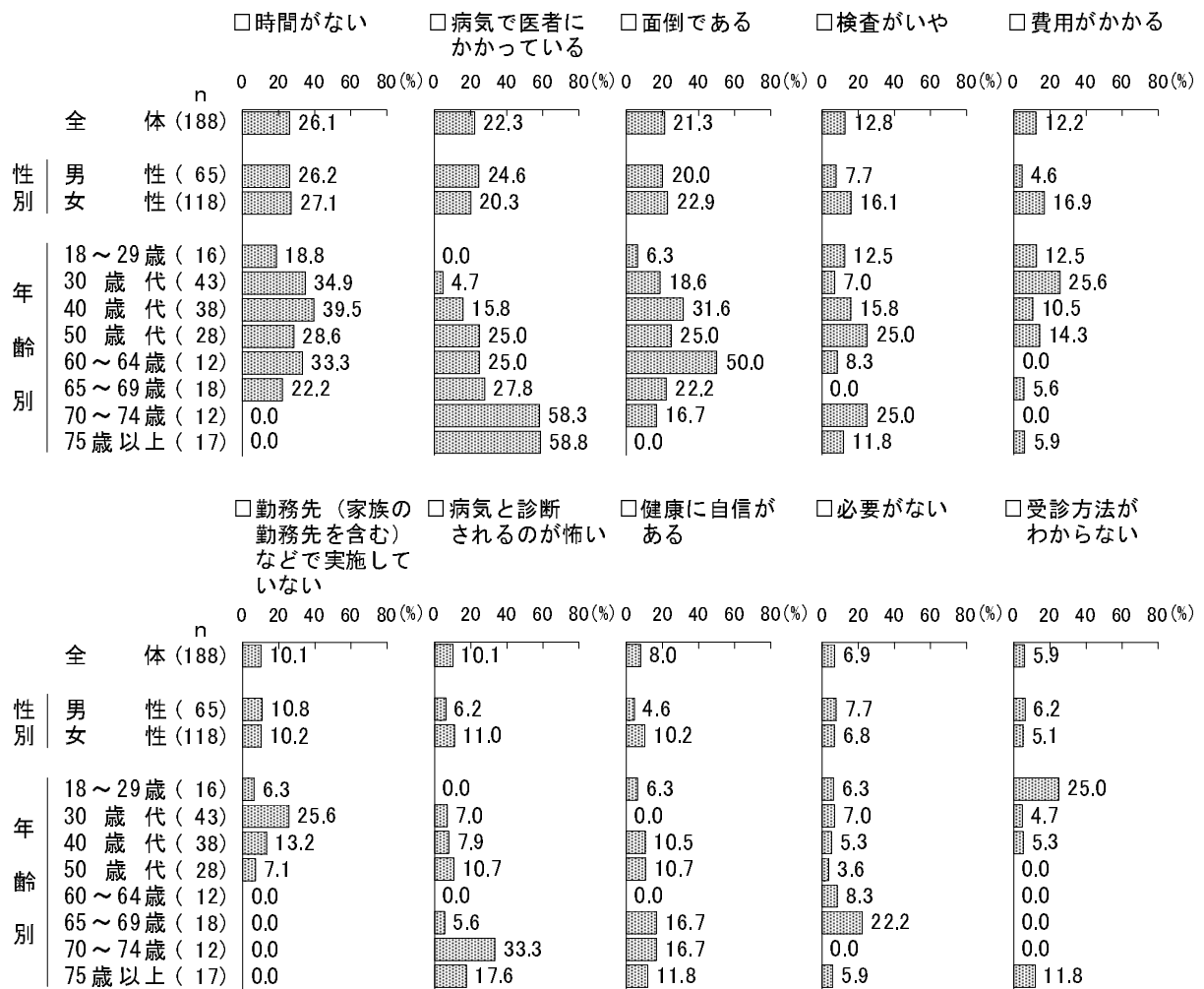
図表3-3-2 健康診査を受けなかった理由—過年度比較

調査年	n	時間がない	病気で医者にかかっている	面倒である	検査がいや	費用がかかる	勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない	病気と診断されるのが怖い	健康に自信がある	必要がない	受診方法がわからない	その他	無回答
平成29年	188	26.1	22.3	21.3	12.8	12.2	10.1	10.1	8.0	6.9	5.9	17.0	2.1
平成28年	178	27.5	16.9	19.1	14.6	12.9	14.6	6.2	8.4	6.7	4.5	16.9	1.1
平成27年	192	32.3	15.6	23.4	14.1	14.6	9.9	9.9	9.4	7.3	6.3	12.0	3.1
平成26年	220	29.1	18.2	14.5	12.3	14.1	15.0	6.8	4.1	5.9	6.4	18.2	0.0
平成25年	199	34.7	16.6	17.1	7.5	9.5	12.6	6.0	7.0	7.5	6.5	19.1	0.5

性別でみると、女性の方が男性よりも「費用がかかる」で12.3ポイント、「検査がいや」で8.4ポイント、「健康に自信がある」で5.6ポイント、「病気と診断されるのが怖い」で4.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「病気で医者にかかっている」は男性の方が女性よりも4.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「病気で医者にかかっている」は70～74歳と75歳以上でともに6割近くと高くなっている。「面倒である」は60～64歳で5割と高くなっている。(図表3-3-3)

図表3-3-3 健康診査を受けなかった理由—性別・年齢別



【4 高齢者施策】

(1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が3割台半ば

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

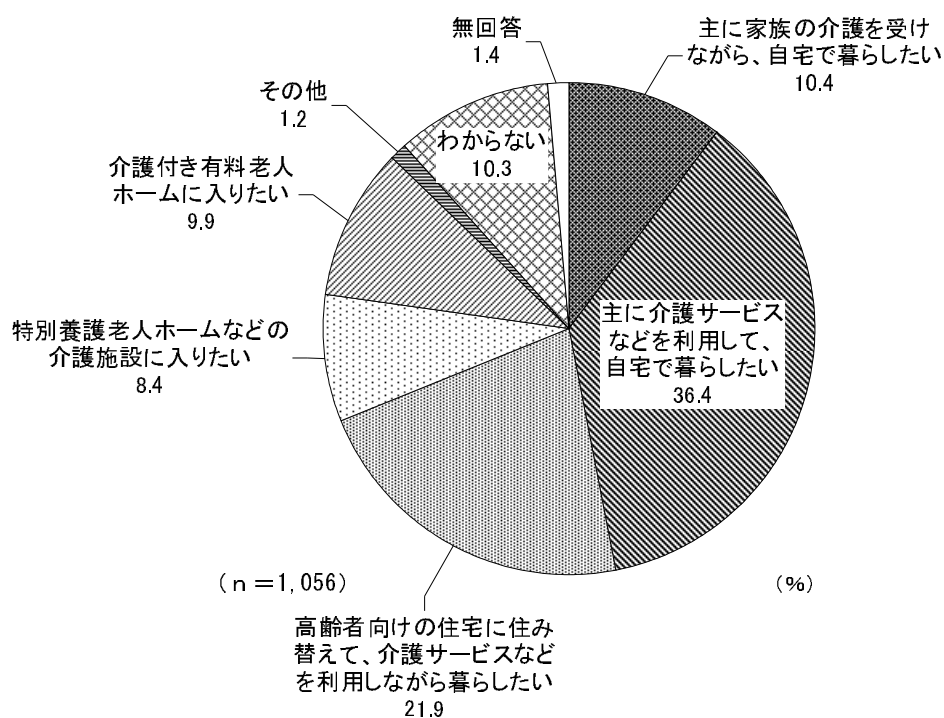
(もっとも近い考え1つに○)

n = 1,056

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	10.4%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	36.4
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	21.9
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	8.4
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	9.9
6	その他	1.2
7	わからない	10.3
	(無回答)	1.4

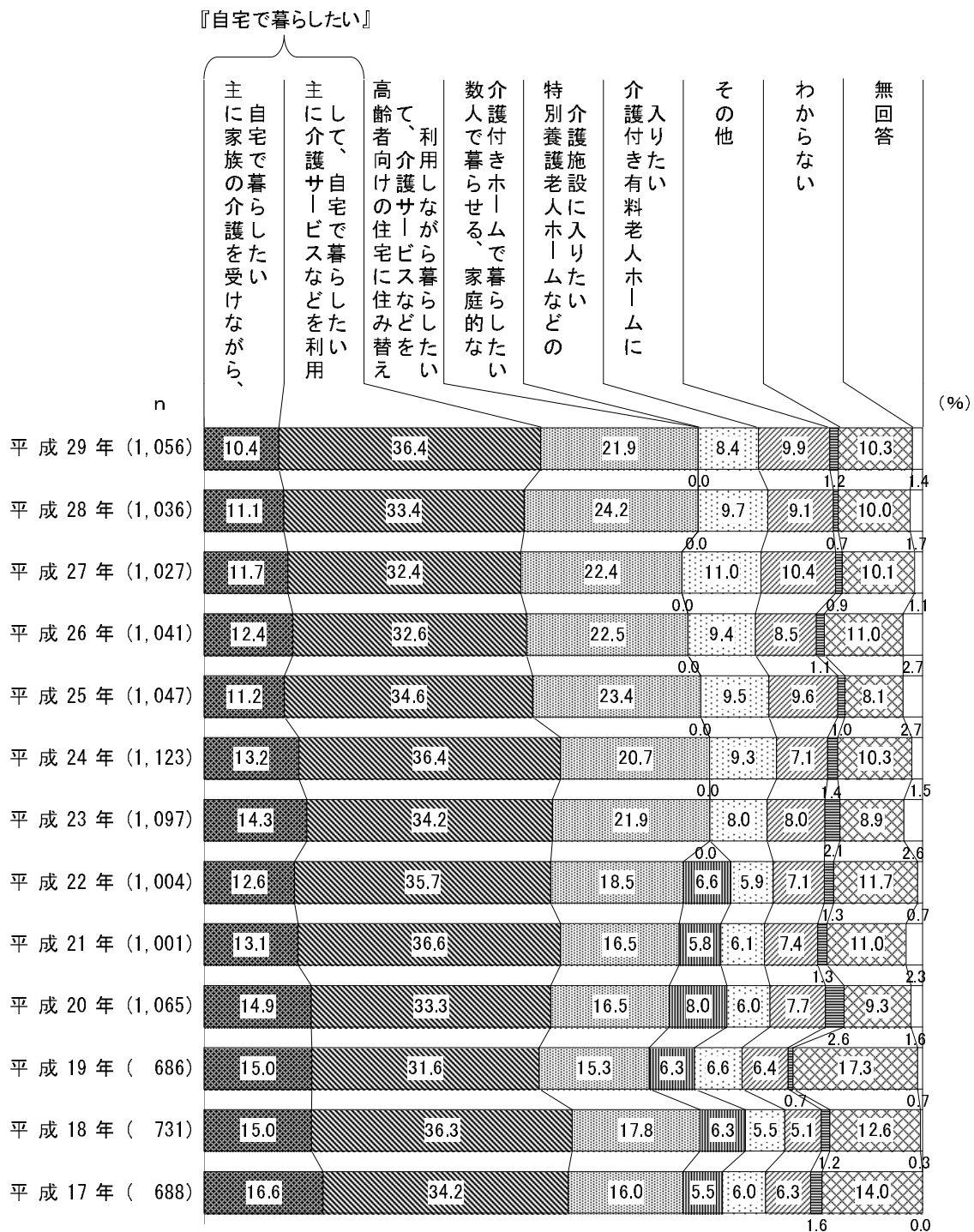
要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(36.4%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(21.9%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(10.4%)などとなっている。(図表4-1-1)

図表4-1-1 要介護時における暮らし方



過去の調査結果と比較すると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は昨年より3.0ポイント増加している。一方、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は昨年より2.3ポイント減少している。また、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は平成17年以降で最も低い割合となっている。(図表4-1-2)

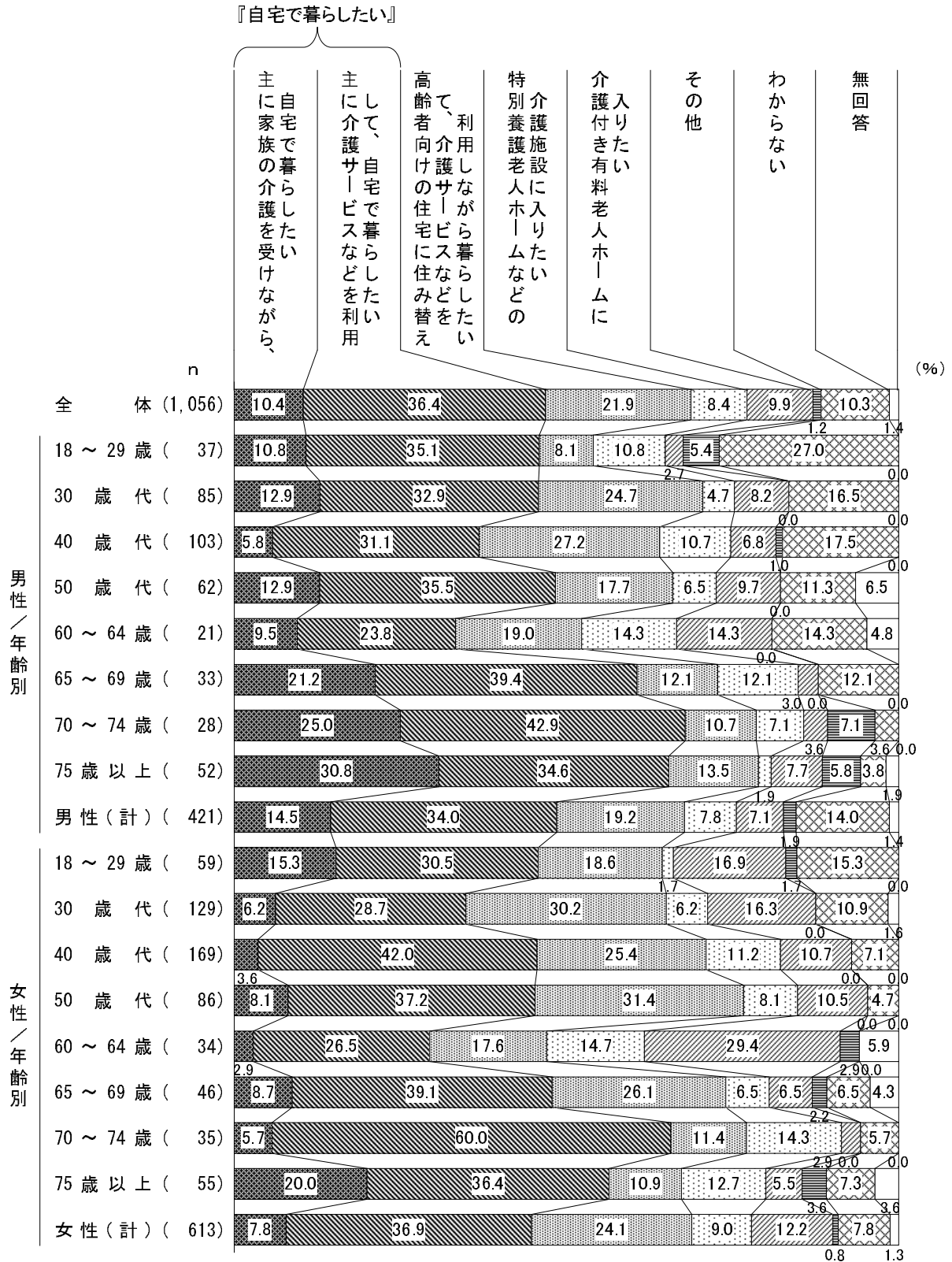
図表4-1-2 要介護時における暮らし方一過年度比較



* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」の選択肢は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

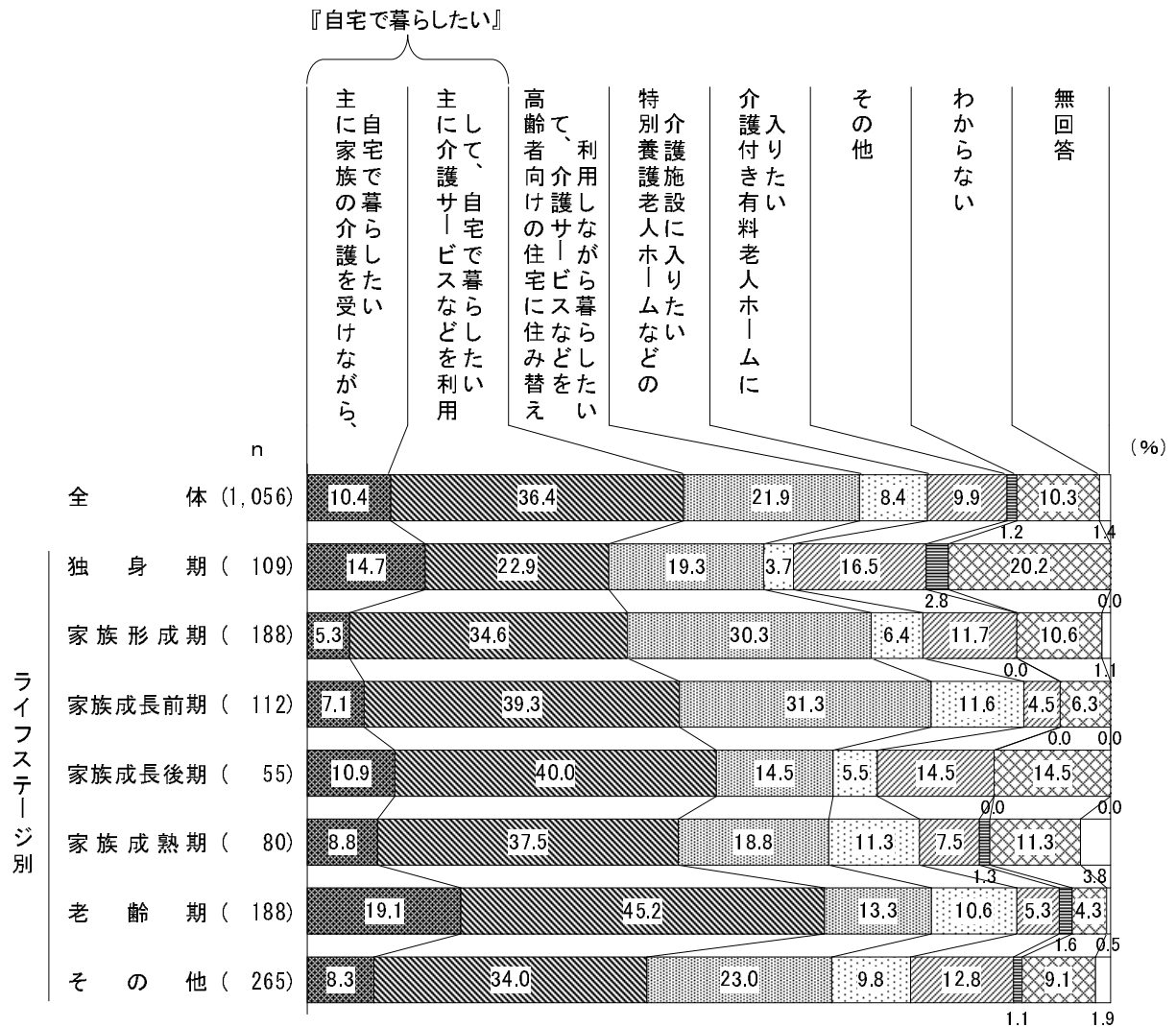
性／年齢別でみると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は女性の70～74歳で6割と高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の50歳代で3割を超えて高くなっている。「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は男性の75歳以上で約3割と高くなっている。「介護付き有料老人ホームに入りたい」は女性の60～64歳で約3割と高くなっている。(図表4-1-3)

図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別で見ると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は高齢期で4割台半ばと高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は家族成長前期で3割を超えて高くなっている。「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は高齢期で約2割と高くなっている。(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方—ライフステージ別



(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が5割台半ば

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

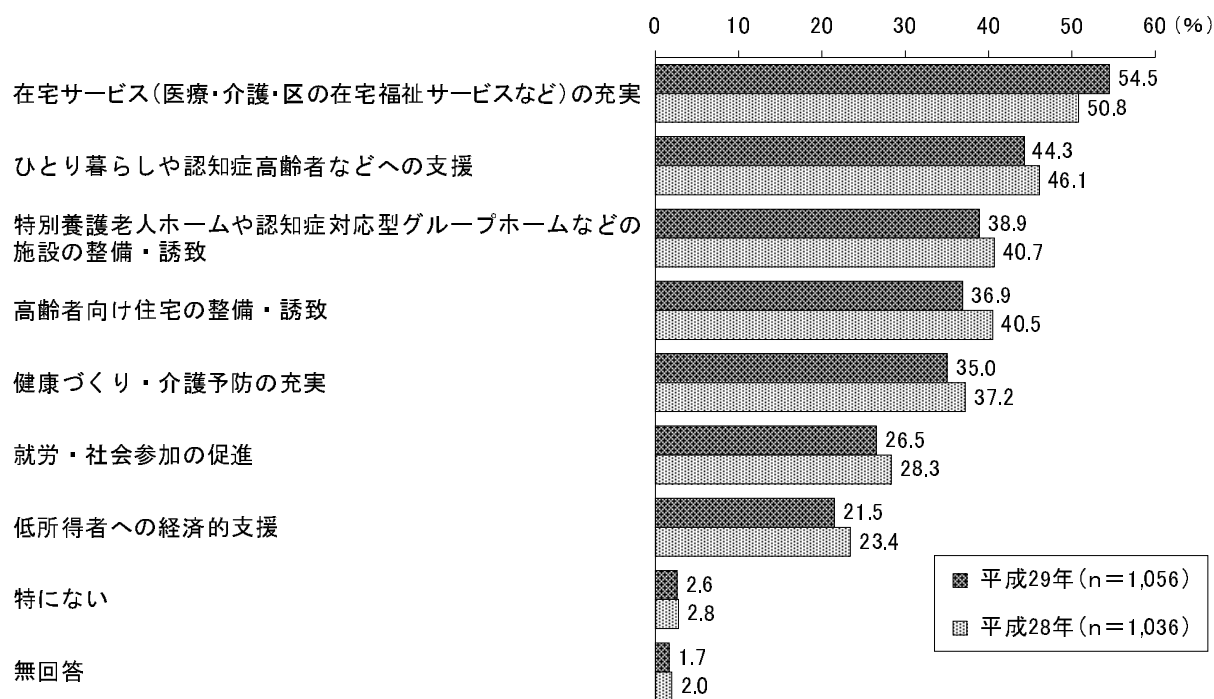
n = 1,056

1	健康づくり・介護予防の充実	35.0%
2	就労・社会参加の促進	26.5
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	54.5
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	38.9
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	36.9
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	44.3
7	低所得者への経済的支援	21.5
8	特にない	2.6
	（無回答）	1.7

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（54.5%）が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（44.3%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（38.9%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（36.9%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は3.7ポイント増加している。一方、「高齢者向け住宅の整備・誘致」は3.6ポイント減少している。（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」が引き続き上位2項目となっている。

(図表4-2-2)

図表4-2-2 区に望む高齢者保健福祉サービス一過年度比較

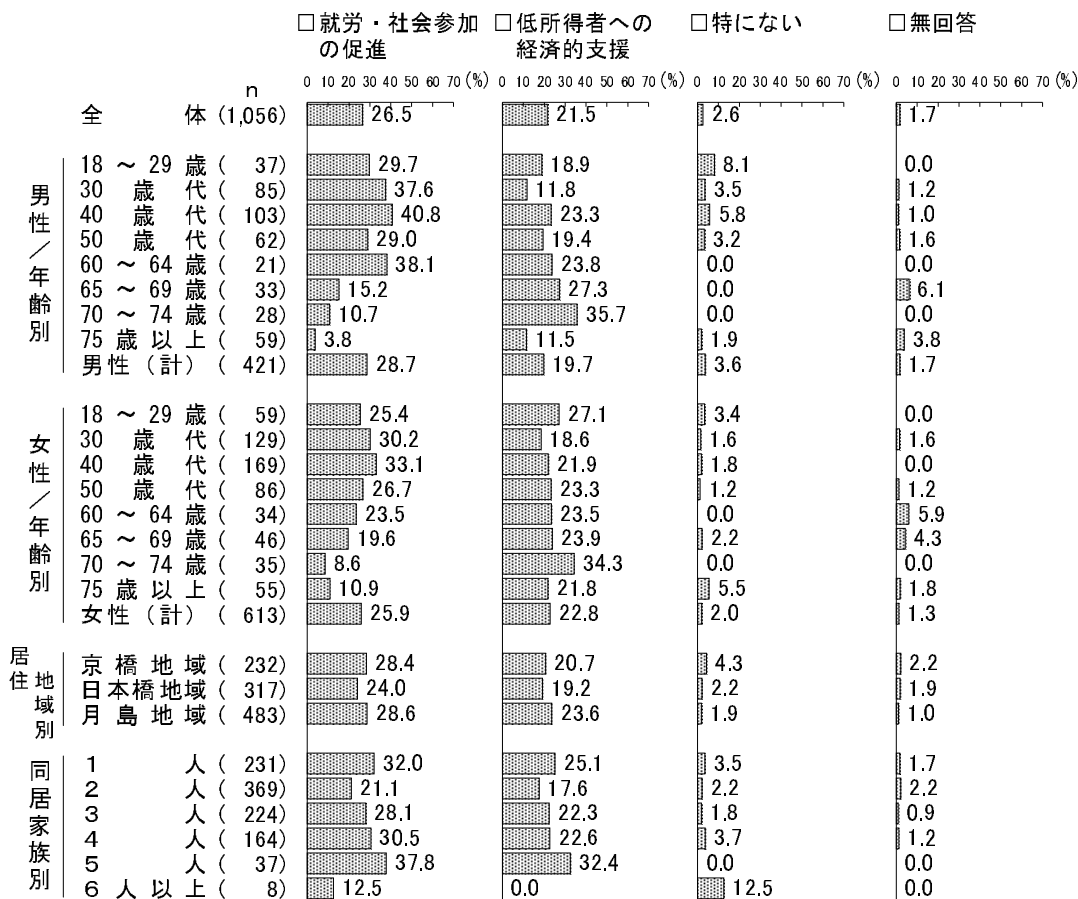
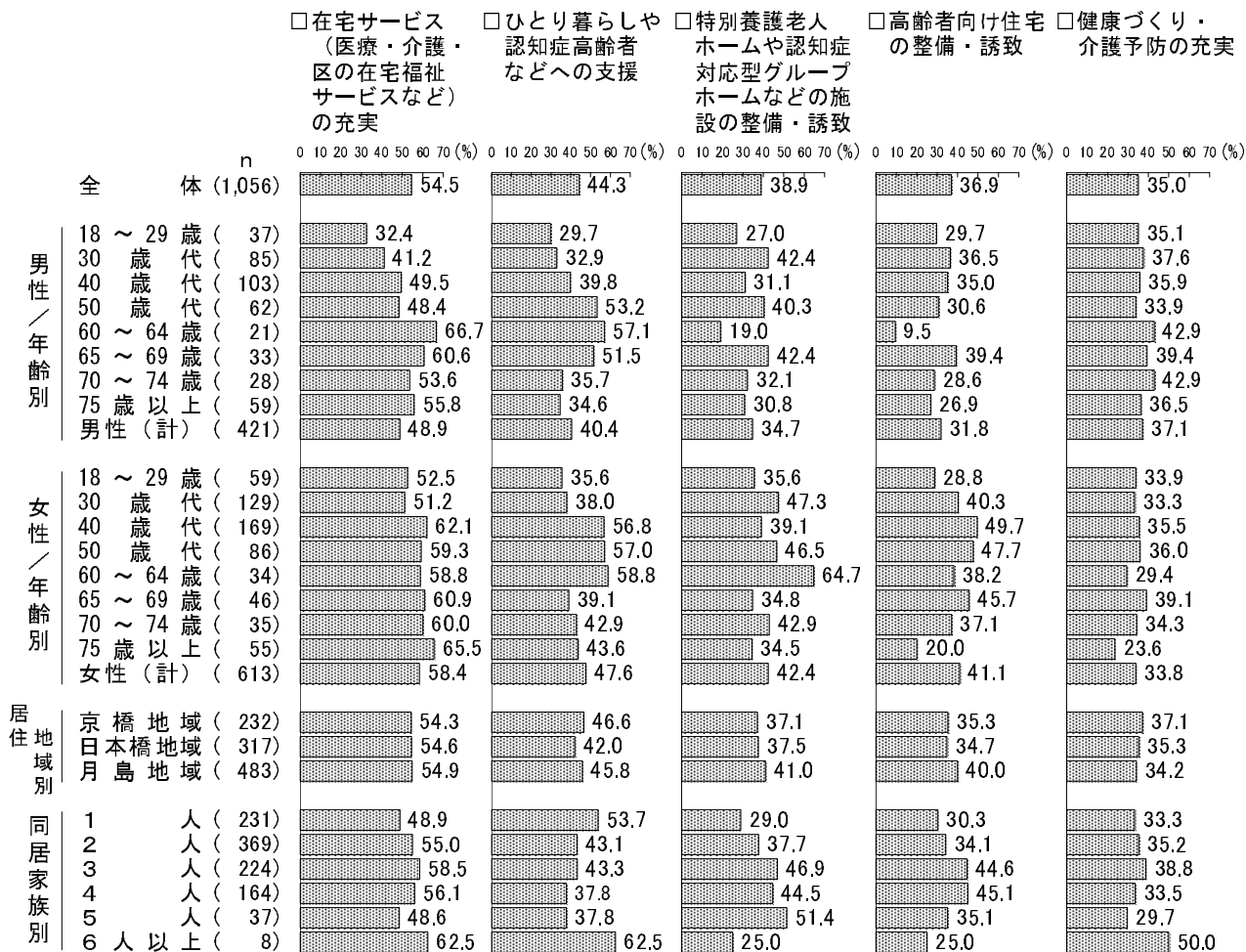
調査年	n	(%)								
		在宅サービス（医療・介護・区の充実）	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	高齢者向け住宅の整備・誘致	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
平成29年	1,056	54.5	44.3	38.9	36.9	35.0	26.5	21.5	2.6	1.7
平成28年	1,036	50.8	46.1	40.7	40.5	37.2	28.3	23.4	2.8	2.0
平成27年	1,027	48.7	45.8	37.8	38.5	37.9	28.1	21.9	3.5	1.4
平成26年	1,041	54.9	47.0	39.9	39.1	34.7	28.1	24.7	2.2	3.1

性／年齢別で見ると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は男性の60～64歳で7割近くと高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は男性の60～64歳と女性の40歳代、50歳代、60～64歳でいずれも6割近くと高くなっている。「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」は女性の60～64歳で6割台半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

同居家族別で見ると、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は同居家族1人で5割を超えて高くなっている。「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」は同居家族5人で5割を超えて高くなっている。(図表4-2-3)

図表4-2-3 区に望む高齢者保健福祉サービス－性／年齢別・居住地域別・同居家族別



(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問13-1 問13で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、291人から延べ331件の回答が寄せられた。問13の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■健康づくり・介護予防の充実（32件）

- ・ 高齢者が自立し、健康を維持できる活動を増やしてほしい。
- ・ 共同浴場をもっと増やしてほしい。
- ・ 介護を受けなくてもよい身体づくりのために、「中高年のためのストレッチ体操」のような催しを定期的を開催していただければ、ぜひ参加したいと思います。

■就労・社会参加の促進（48件）

- ・ 町会や地域のイベントなどで、高齢者と若い世代とが関わりあうものがあるといい。近所づきあいに力を入れた催しがあるとうれしい。メールなどでのお知らせがあるとありがたい。
- ・ 高齢者が自立し、健康を維持できる活動を増やしてほしい。
- ・ 中央区のお年寄り元気だと思いが、自営業以外の方は働き口を見つけにくいと思うので、区に取り組んでほしい。お年寄りを雇用できる企業を誘致してほしい。

■在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実（37件）

- ・ 在宅介護が継続できるよう訪問サービスを充実してほしい。
- ・ 訪問介護サービス以外に低価格で頼める「便利屋さん」のような支援。

■特別養護老人ホームなどの施設の整備・誘致（46件）

- ・ 施設入所まで時間がかかりすぎだと思います。少し早めに対応できるようにしてほしい。

■高齢者向け住宅の整備・誘致（27件）

- ・ サービス付き高齢者向け住宅が十分にあるといいと思います。個別のマンションではなく、食事や風呂は共同の棟のような集合住宅に興味を持っています。
- ・ 高額でも設備や医療制度の整った高齢者向け住宅を増やしてほしい。

■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（31件）

- ・ひとり暮らしの老人を見守る体制の整備。身寄りのない高齢者の終末期の世話や看取りの体制をつくり、死亡後何日も経ってから発見されることのないようにできたら安心です。
- ・なかなか人に言えなくて困っている人の手助けに力を注いでほしい。認知症などがかかえている人の話し相手になるなど。

■低所得者への経済的支援（26件）

- ・病院に行くのに交通費がかかりますので、タクシー券がほしいです。雨風の強い日には特にそう感じます。

■その他（84件）

- ・介護に従事する人の所得改善、労働環境の改善・見直し。
- ・歩行を助けるロボットなどロボットを利用した高齢者支援の先進的な区となってほしい。
- ・介護をする家族をサポートするサービス。
- ・どのような区のサービスがあるか、もっとわかりやすく周知してほしい。
- ・入院や入居のために必要な保証人が確保できない高齢者のための支援。

【5 子育て支援】

(1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が3割を超える

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 1,056

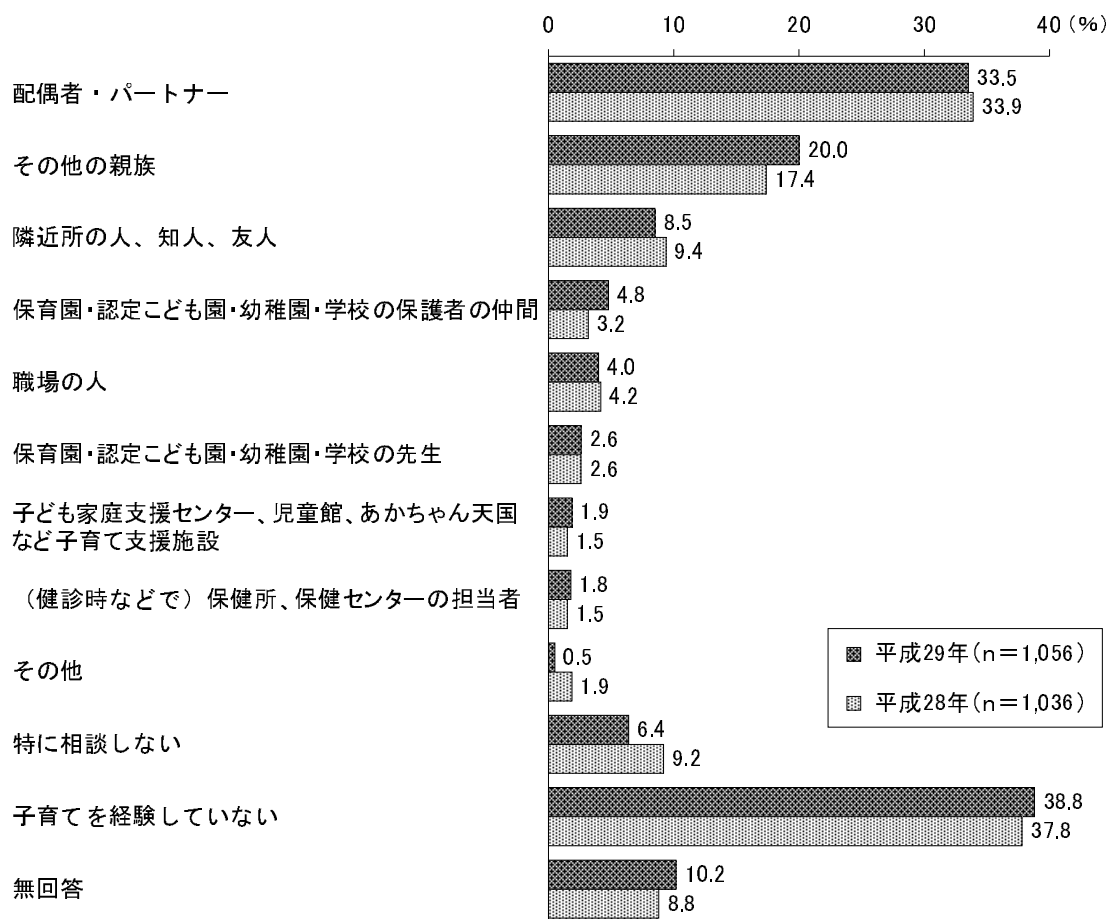
1	配偶者・パートナー	33.5%
2	その他の親族	20.0
3	職場の人	4.0
4	隣近所の人、知人、友人	8.5
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	4.8
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	2.6
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	1.9
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	1.8
9	その他	0.5
10	特に相談しない	6.4
11	子育てを経験していない (無回答)	38.8 10.2

(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(33.5%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(20.0%)、「隣近所の人、知人、友人」(8.5%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(4.8%)、「職場の人」(4.0%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「その他の親族」は2.6ポイント増加している。一方、「特に相談しない」は2.8ポイント減少している。(図表5-1-1)

図表5-1-1 子育てに関する悩みの相談（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」、「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。

(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談一過年度比較

(%)

調査年	n	配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	保護者の仲間 保育園・認定こども園・幼稚園・学校の	職場の人	先生 保育園・認定こども園・幼稚園・学校の	あかちゃん天国など子育て支援施設 子ども家庭支援センター、児童館、	(健診などで) 保健所 保健センター	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答	区役所など行政機関
平成29年	1,056	33.5	20.0	8.5	4.8	4.0	2.6	1.9	1.8	0.5	6.4	38.8	10.2	※
平成28年	1,036	33.9	17.4	9.4	3.2	4.2	2.6	1.5	1.5	1.9	9.2	37.8	8.8	※
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	5.7	4.4	4.2	1.9	2.7	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	4.9	2.2	3.6	1.2	2.2	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	4.6	2.7	3.2	2.5	2.1	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	5.1	2.2	2.4	1.5	1.3	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	5.7	3.0	2.6	0.9	1.5	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	4.9	3.1	3.1	1.2	1.8	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	3.8	2.5	3.0	※	2.5	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	4.2	1.3	2.9	※	2.7	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	8.0	2.2	5.0	※	※	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

* 太枠内が今回の調査の選択肢

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

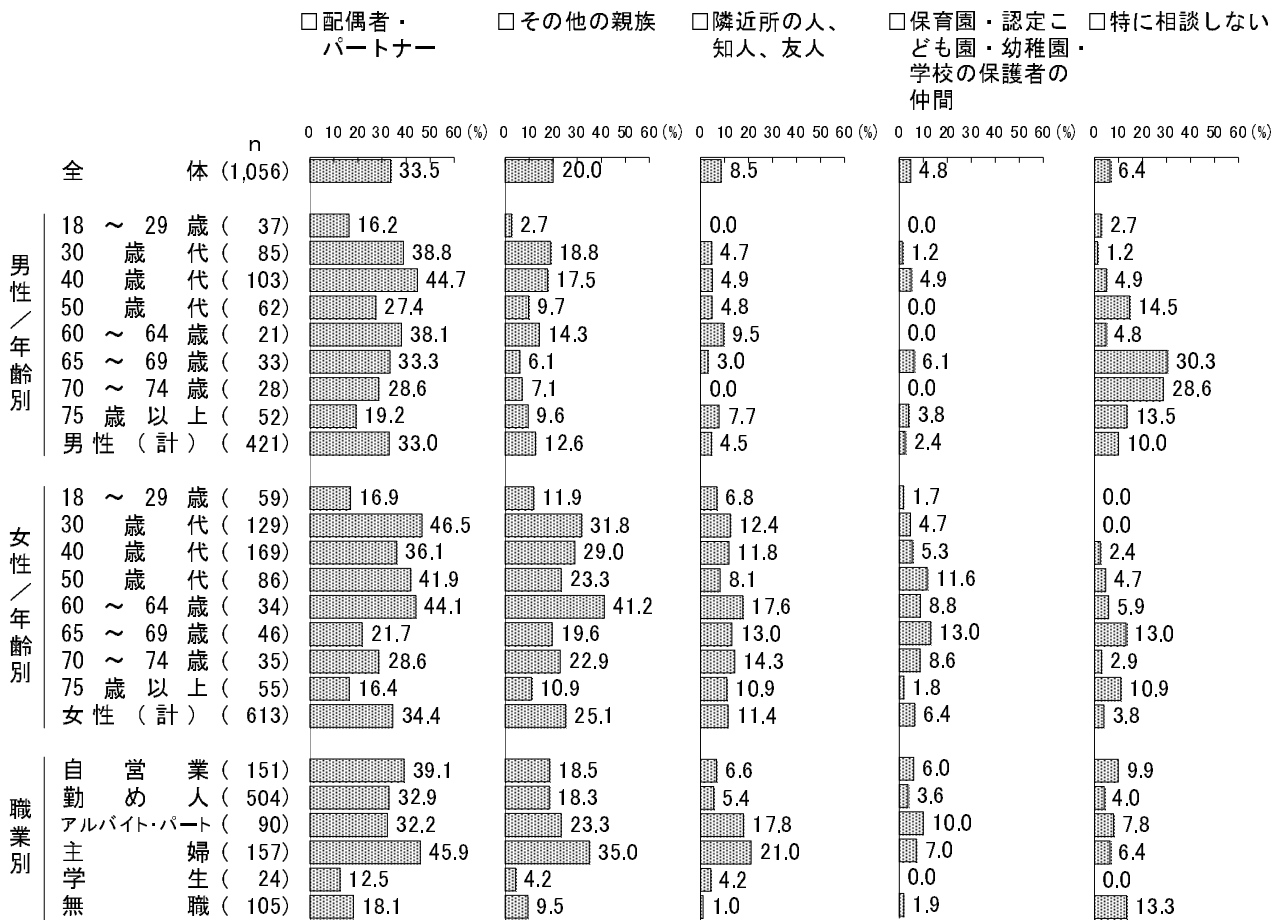
* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。

* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別で見ると、「配偶者・パートナー」は女性の30歳代で5割近く、男性の40歳代と女性の60～64歳でともに4割台半ばと高くなっている。「その他の親族」は女性の60～64歳で4割を超えて高くなっている。「特に相談しない」は男性の65～69歳で3割と高くなっている。

職業別で見ると、「配偶者・パートナー」は主婦で4割台半ばと高くなっている。「その他の親族」は主婦で3割台半ばと高くなっている。(図表5-1-3)

図表5-1-3 子育てに関する悩みの相談—性／年齢別・職業別(上位4項目+「特に相談しない」)



(2) 重要と考える子育て支援策

◇「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が4割を超える

問15 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。

(○は2つまで)

n = 1,056

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	42.6%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	36.4
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	3.5
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	10.4
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	12.6
6	情報の提供や相談サービス	2.7
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	11.5
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	1.1
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	16.6
10	児童虐待防止対策	6.8
11	経済的な支援	8.3
12	特にない	4.1
	(無回答)	16.1

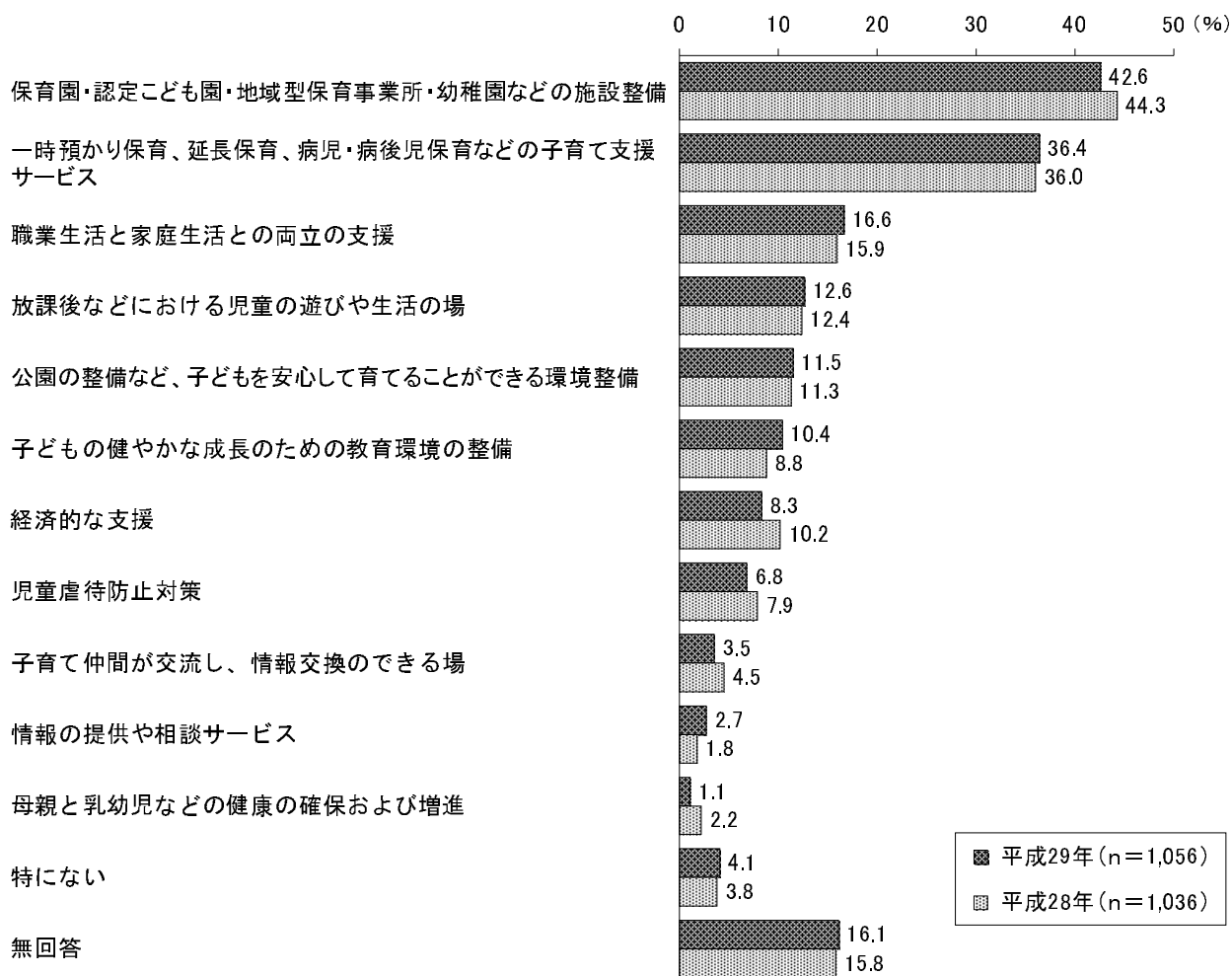
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

重要と考える子育て支援策は、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(42.6%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(36.4%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(16.6%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(12.6%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(11.5%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表5-2-1)

図表5-2-1 重要と考える子育て支援策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」、「職業生活と家庭生活との両立の支援」が引き続き上位3項目となっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 重要と考える子育て支援策一過年度比較

調査年	n	(%)													
		保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	職業生活と家庭生活との両立の支援	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	公園の整備など、子どもを安心して育てる環境整備	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	経済的な支援	児童虐待防止対策	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特になし	無回答	その他
平成29年	1,056	42.6	36.4	16.6	12.6	11.5	10.4	8.3	6.8	3.5	2.7	1.1	4.1	16.1	※
平成28年	1,036	44.3	36.0	15.9	12.4	11.3	8.8	10.2	7.9	4.5	1.8	2.2	3.8	15.8	※
平成27年	1,027	41.1	38.9	19.7	※	17.7	14.3	10.4	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	40.6	42.5	14.4	※	12.3	11.9	8.0	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	46.2	43.7	12.4	※	12.4	10.7	9.0	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	53.7	※	28.6	※	15.3	17.2	15.9	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	52.4	※	30.5	※	14.7	19.7	15.5	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	59.4	※	31.9	※	15.7	19.9	15.4	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	42.9	※	30.0	※	13.2	15.4	26.1	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	39.6	※	31.4	※	18.6	20.2	22.3	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	34.1	※	30.3	※	20.6	20.6	24.6	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

* 太枠内が今回の調査の選択肢

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

* 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成23年から平成26年までは「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。

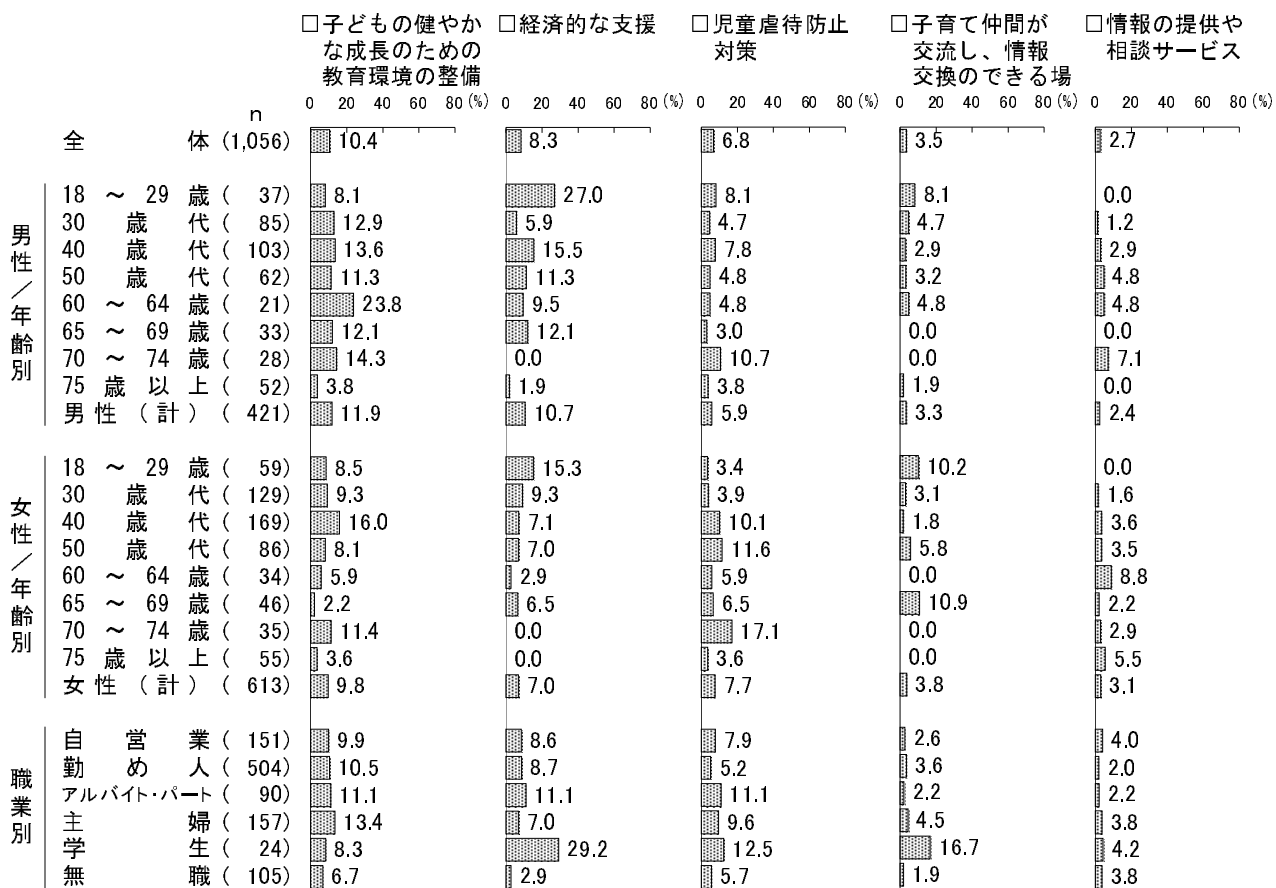
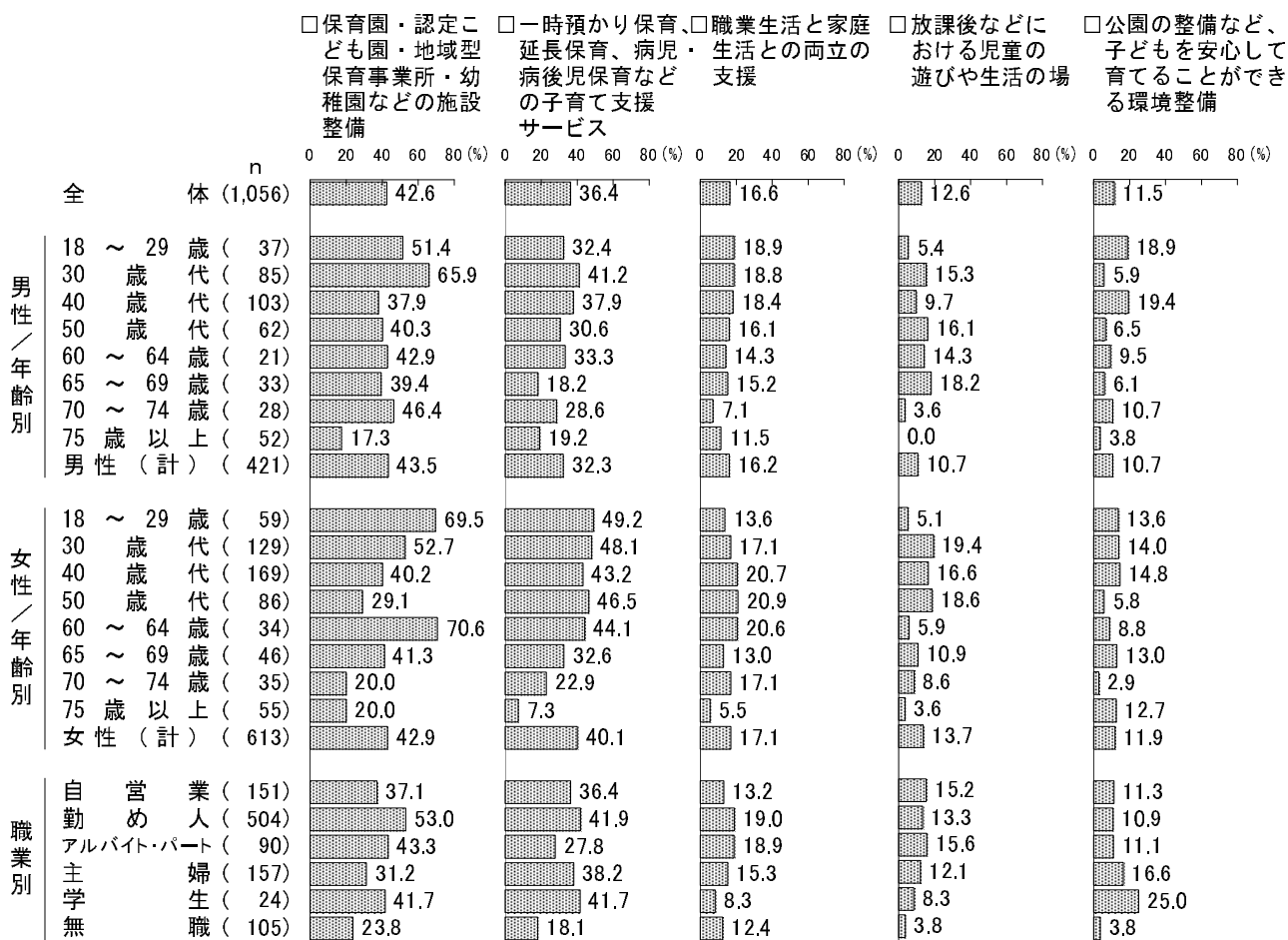
* 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」の選択肢は、平成27年以前は「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」としていた。

* 「職業生活と家庭生活との両立の支援」の選択肢は、平成27年以前は「職業生活と家庭生活との両立の推進」としていた。

性/年齢別でみると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は女性の18～29歳と60～64歳とともに7割前後と高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は女性の18～29歳で約5割と高くなっている。

職業別でみると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は勤め人で5割を超えて高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は勤め人と学生とともに4割を超えて高くなっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 重要と考える子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割を超える

問15 また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

n = 1,056

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	28.5%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	33.3
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	12.5
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	19.2
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	27.7
6	情報の提供や相談サービス	12.5
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	24.6
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	11.5
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	25.8
10	児童虐待防止対策	16.0
11	経済的な支援	17.1
12	特にない	3.4
	(無回答)	25.9

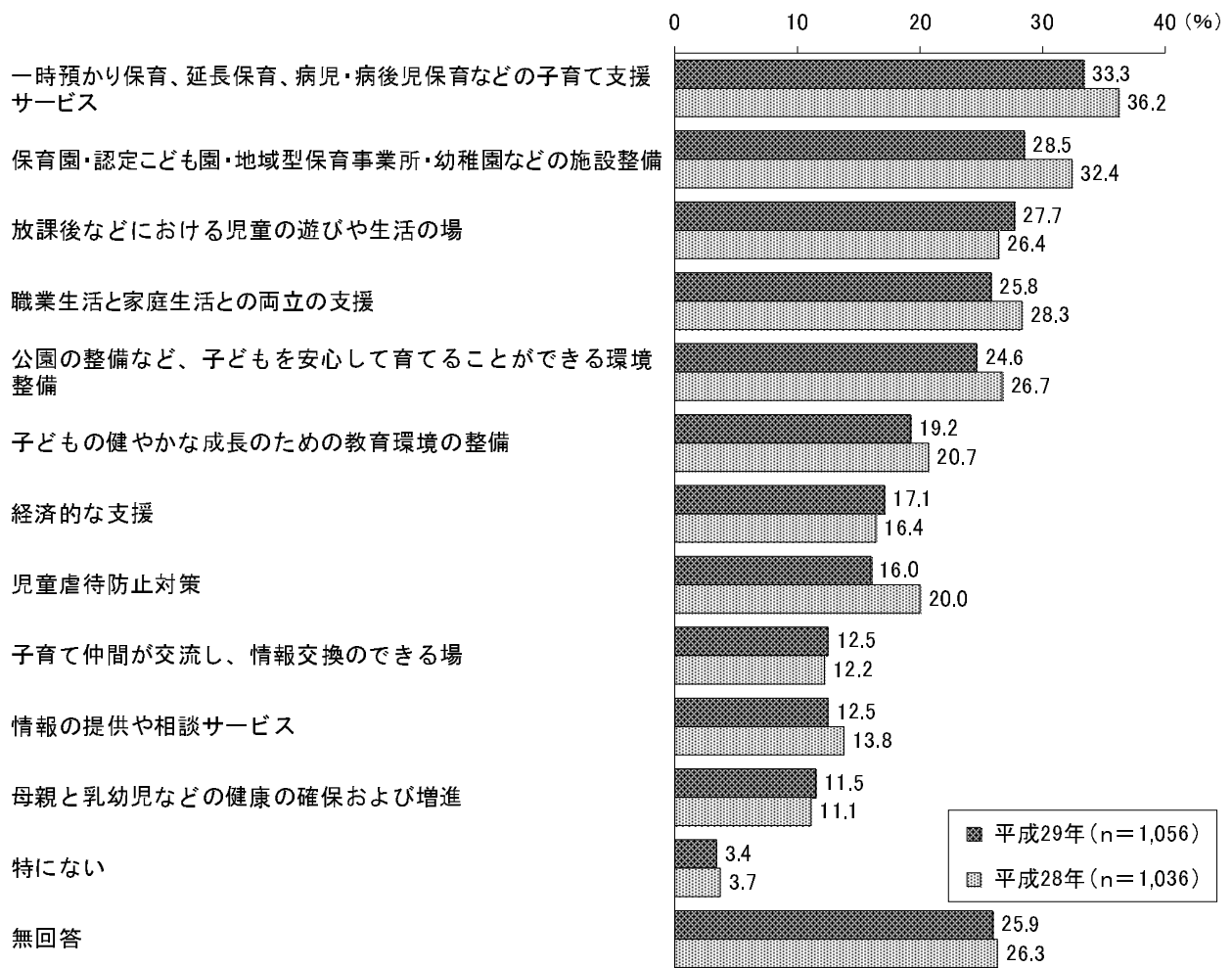
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

さらに充実を図る必要がある子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(33.3%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(28.5%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(27.7%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(25.8%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(24.6%)などとなっている。(図表5-3-1)

昨年の調査結果と比較すると、「児童虐待防止対策」は4.0ポイント、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は3.9ポイント、それぞれ減少している。

(図表5-3-1)

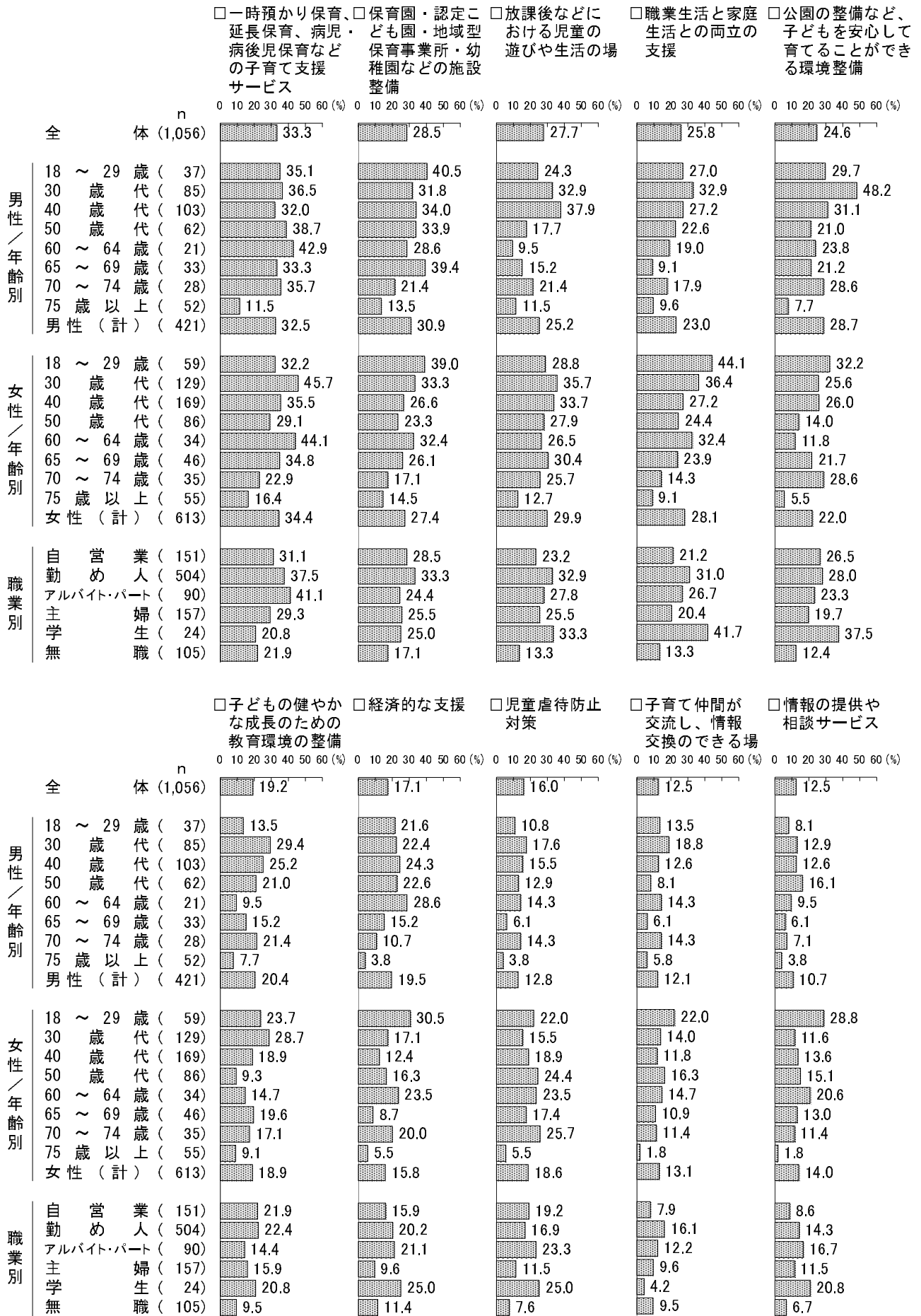
図表5-3-1 さらに充実を図る必要がある子育て支援策（複数回答）



性／年齢別で見ると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は女性の30歳代と60～64歳でともに4割台半ばと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は男女ともに18～29歳と男性の65～69歳でいずれも約4割と高くなっている。「職業生活と家庭生活との両立の支援」は女性の18～29歳で4割台半ばと高くなっている。「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は男性の30歳代で5割近くと高くなっている。

職業別で見ると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」はアルバイト・パートタイマーで4割を超えて高くなっている。(図表5-3-2)

図表5-3-2 さらに充実を図る必要がある子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問15-1 あなたが問15で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、288人から延べ348件の回答が寄せられた。問15の重要と考える子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備 (91件)

- ・ 認可の保育園を増やし、働く人の給与を上げること。働く人のやる気や保育の質が上がると思います。良い人材が増え、利用者の安心や満足にもつながります。

■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス (41件)

- ・ 日曜日に働いたり、長時間働いているなど就労状況に応じた保育園、学童保育の対応。また一番機能していないのは病児保育です。現実的に預けるのはかなりハードルが高いです。遠方の親、仕事を持つ親に頼らざるを得ない状況です。
- ・ 給食サービスや延長時間など、どの保育園も同じ対応で延長保育をできるようにしてほしい。
- ・ きらら日本橋は一時保育の定員が5名で常に予約がいっぱいです。一時保育の施設を増やしてほしい。また、もう少し広くしてほしい。

■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場 (7件)

- ・ 以前住んでいた港区では、図書館でのイベントや、夏休みの合宿などたくさん参加しました。中央区ももっと増やしてほしい。

■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備 (11件)

- ・ トイレなどの小学校、幼稚園の老朽化している設備の見直し。また、子どもが活動するスペースを確保してほしい。
- ・ 区立小・中学校での教育の充実。私立に劣らない教育。

■放課後などにおける児童の遊びや生活の場 (33件)

- ・ 学校の長期休みのとき、プレディは朝8時30分からですが、8時には開けてほしい。とても困ります。
- ・ プレディでの教育の充実。少くないお金を払って民間学童を利用しているが、これがプレディでまかなえると、区の大きな魅力になります。

■情報の提供や相談サービス（17件）

- ・ 気軽に母親が相談できる場や施設を増やしたり、児童館・保健所などで「ママとベビーがたのしくあそべる教室」などの回数を増やし、遊び方、子どもの世話や食事の仕方などを知らせていき、母親が自信をもって子どもと楽しく過ごせるようにできたらよいと思う。

■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（29件）

- ・ ボールなどを使って自由に思い切りスポーツができる広場が少なすぎる。整備された公園ばかりでは、のびのびと身体を使った遊びができない。
- ・ 芝生のある公園が増えるとよい。アスレチックのような遊具がもう少しあるとよい。

■母親と乳幼児などの健康の確保および増進（9件）

- ・ 安価で利用できる産後ケアセンターを造ってほしい。
- ・ 不妊治療が不安なく受けられる支援をさらに充実させてほしい。所得制限をもう少し緩くしてほしい。

■職業生活と家庭生活との両立の支援（16件）

- ・ 子どもがほしいが、保育所に入れるか心配で、将来住む場所を含めたライフプランが立てられません。充実している区に住みたい。
- ・ 勤務先の近くに預かり保育を設置することや、小学校入学前の子どもがいる人は短時間勤務を推奨していくよう取り組んでほしい。

■児童虐待防止対策（14件）

- ・ 児童虐待の疑いがある場合には、一步踏み込んだ援助を期待します。

■経済的な支援（27件）

- ・ ひとり親で子育てをしている方に手厚い支援をする。
- ・ 義務教育期間に支払う必要がある費用を少なく、あるいは無料にできるようにしてほしい。

■その他（53件）

- ・ 発達支援センター、送迎付民間放課後クラブ、成人後の支援などの情報が少なく、他の地域と比べて全般的に発達障害やケア児に関する支援が遅れているように感じます。
- ・ ファミリーサポートセンターの認知、利用が促進されるといいと思う。子どもがいない区民でも協力できるのか、教育、研修などは整っているかなど知りたいことはたくさんあります。

【6 男女共同参画社会】

(※) 男女共同参画社会 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会のことです。

(1) 男女の地位の平等感

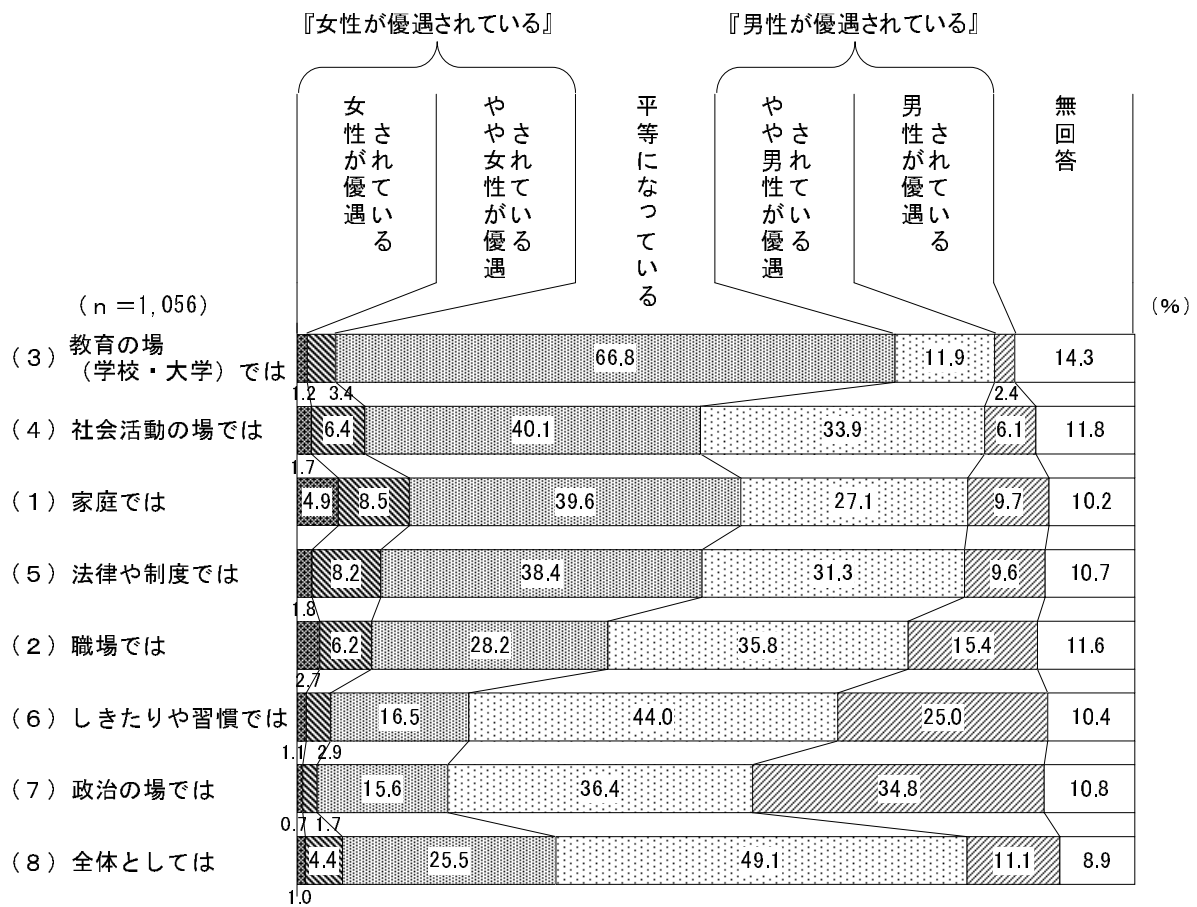
◇「平等になっている」と感じるのは、“教育の場（学校・大学）では”で7割近く
 「男性が優遇されている」、「やや男性が優遇されている」と感じるのは、“政治の場では”で7割を超える

問16 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。		(○はそれぞれ1つずつ)					(%)
n = 1, 056		1 女性が優遇 されている	2 やや女性が 優遇されている	3 平等に なっている	4 やや男性が 優遇されている	5 男性が優遇 されている	無回答
(1) 家庭では		4.9	8.5	39.6	27.1	9.7	10.2
(2) 職場では		2.7	6.2	28.2	35.8	15.4	11.6
(3) 教育の場（学校・大学）では		1.2	3.4	66.8	11.9	2.4	14.3
(4) 社会活動の場では		1.7	6.4	40.1	33.9	6.1	11.8
(5) 法律や制度では		1.8	8.2	38.4	31.3	9.6	10.7
(6) しきたりや習慣では		1.1	2.9	16.5	44.0	25.0	10.4
(7) 政治の場では		0.7	1.7	15.6	36.4	34.8	10.8
(8) 全体としては		1.0	4.4	25.5	49.1	11.1	8.9

男女の地位の平等感について、「平等になっている」と感じるのは、“教育の場（学校・大学）では”（66.8%）で7割近くと最も高く、次いで“社会活動の場では”（40.1%）と“家庭では”（39.6%）でともに4割となっている。

「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（71.2%）で7割を超えて最も高く、次いで“しきたりや習慣では”（69.0%）で約7割となっている。（図表6-1-1）

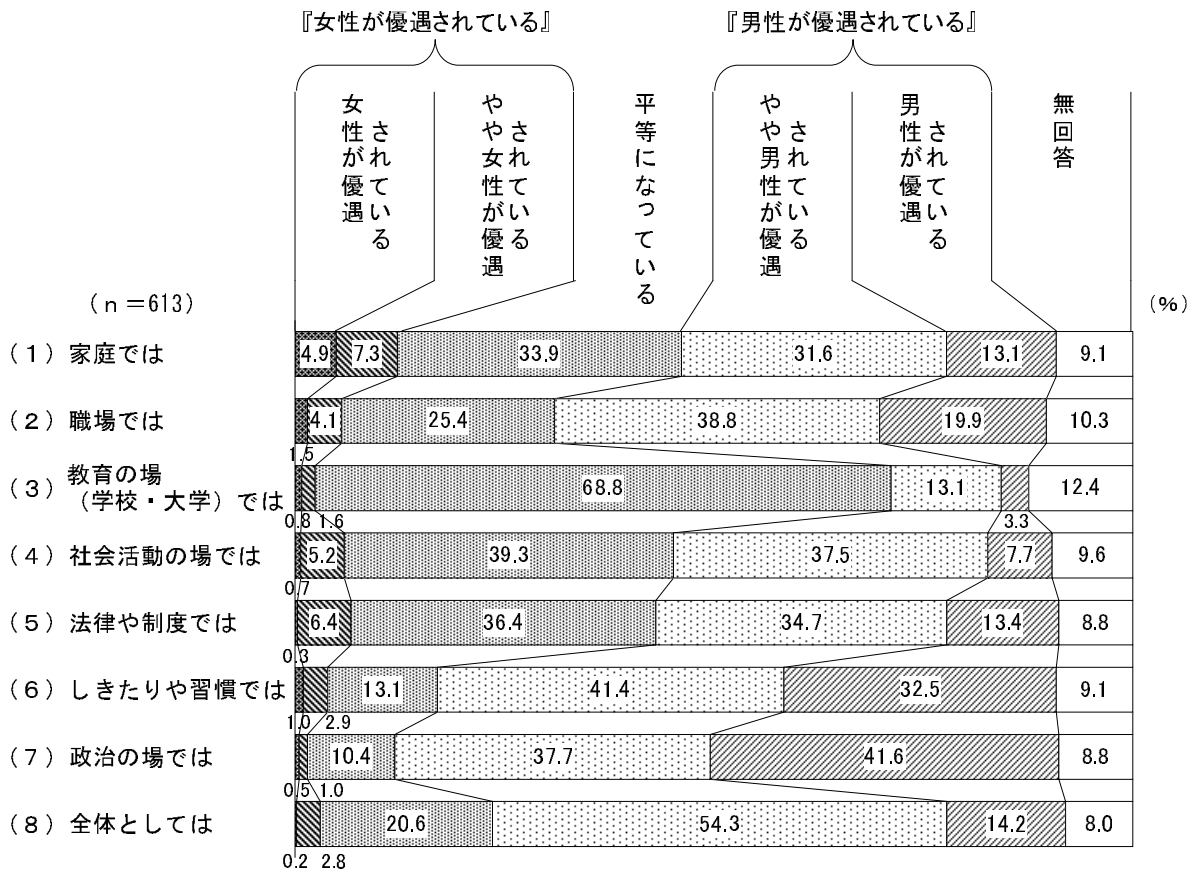
図表6-1-1 男女の地位の平等感



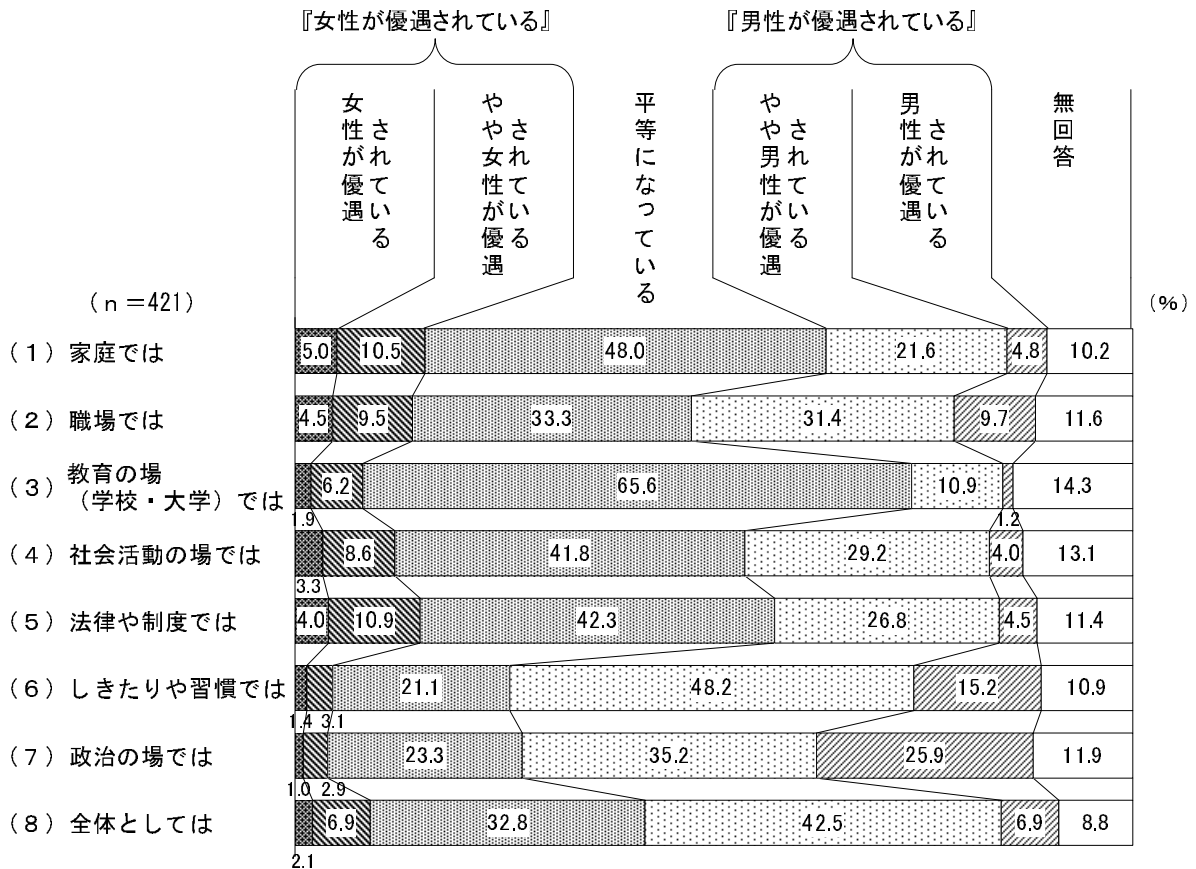
性別で見ると、「平等になっている」と感じる割合は、“家庭では”で男性の方が女性よりも14.1ポイント高く、次いで“政治の場では”で男性の方が女性よりも12.9ポイント高くなっている。一方、『男性が優遇されている』と感じる割合はすべての項目で女性の方が男性よりも高くなっており、“家庭では”で18.3ポイント、“政治の場では”で18.2ポイント、“職場では”で17.6ポイント、“法律や制度では”で16.8ポイント、それぞれ高くなっている。

また、“全体としては”では、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも19.1ポイント高くなっている。（図表6-1-2、図表6-1-3）

図表6-1-2 男女の地位の平等感—女性



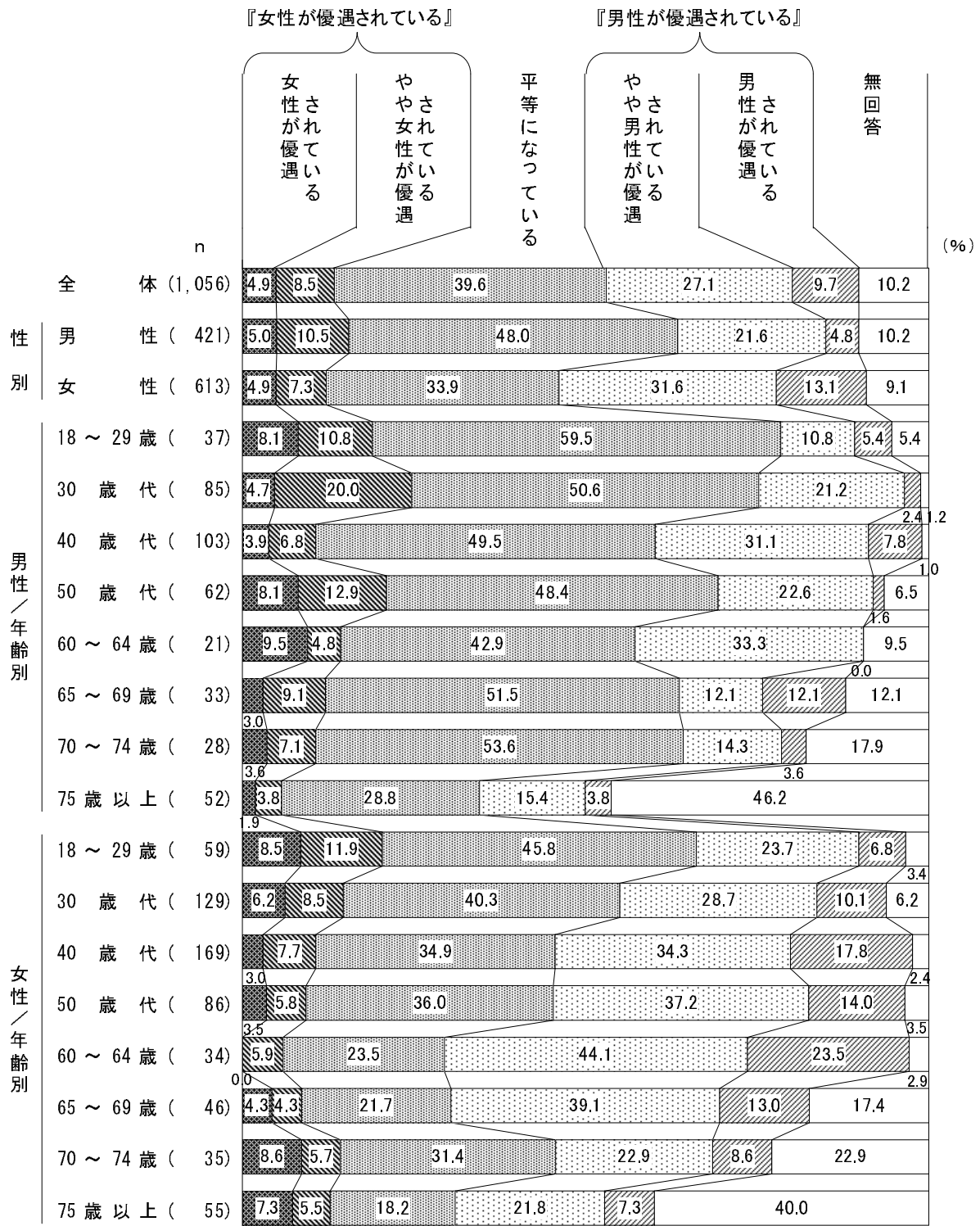
図表6-1-3 男女の地位の平等感—男性



“家庭では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも18.3ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも14.1ポイント高くなっている。

“家庭では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で7割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で6割と高くなっている。(図表6-1-4)

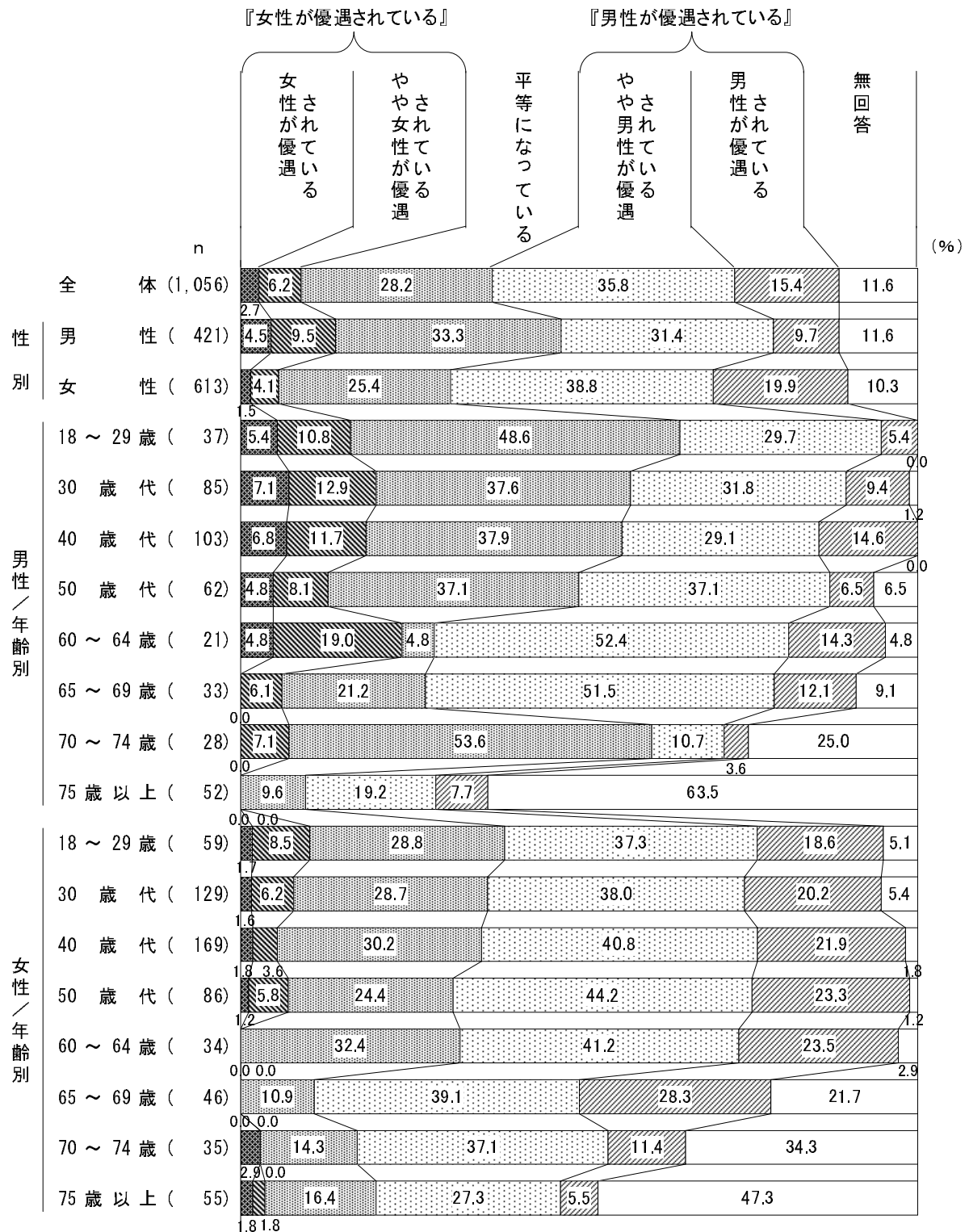
図表6-1-4 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(1) 家庭では」



“職場では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも17.6ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも7.9ポイント高くなっている。

“職場では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は男性の60～64歳と女性の50歳代、65～69歳でいずれも7割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の70～74歳で5割を超えて高くなっている。(図表6-1-5)

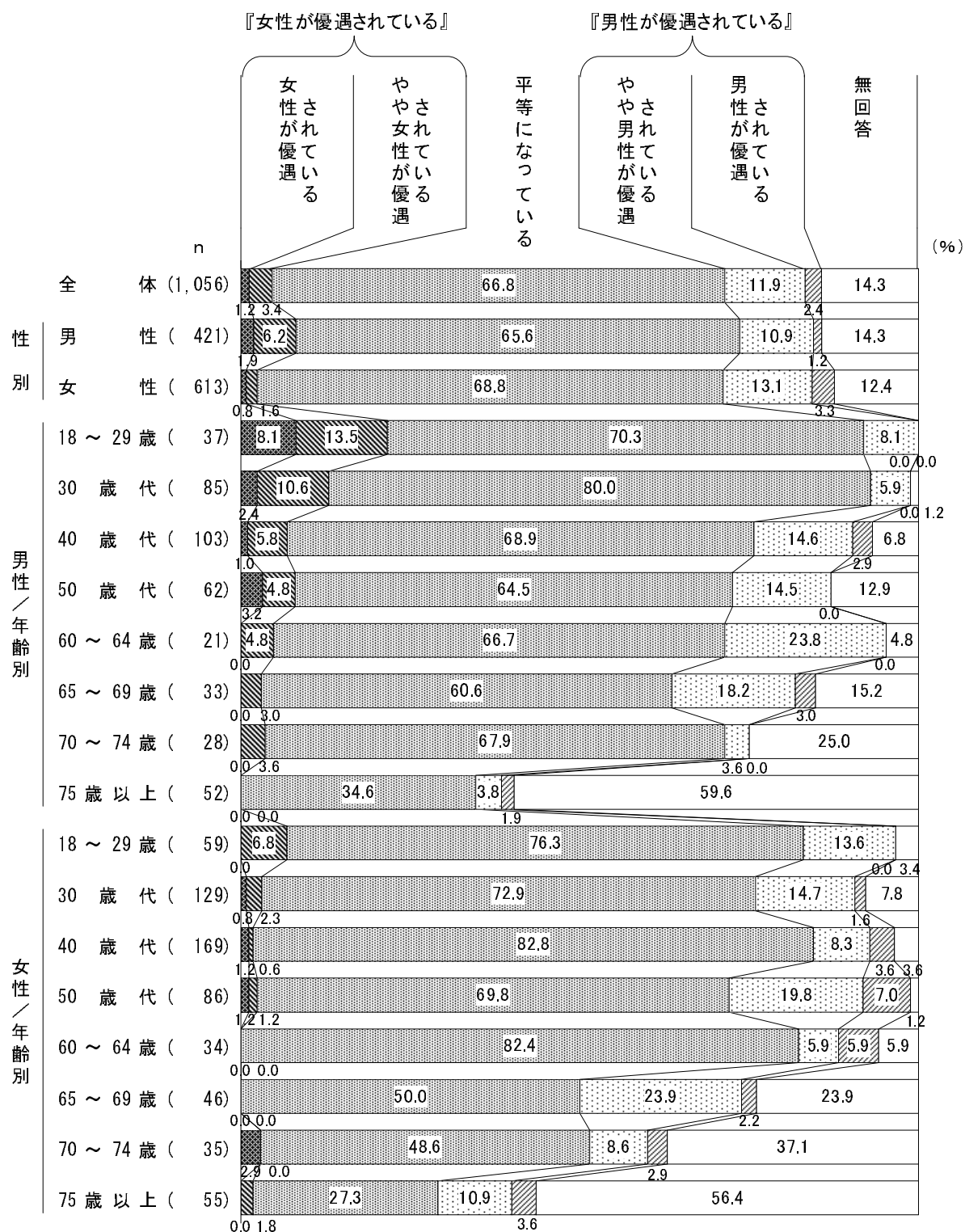
図表6-1-5 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(2) 職場では」



“教育の場（学校・大学）では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも4.3ポイント高くなっている。一方、『女性が優遇されている』と感じる割合は男性の方が女性よりも5.7ポイント高くなっている。

“教育の場（学校・大学）では”について性／年齢別でみると、「平等になっている」と感じる割合は女性の40歳代と60～64歳でともに8割を超えて高くなっている。『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で3割近くと高くなっている。（図表6－1－6）

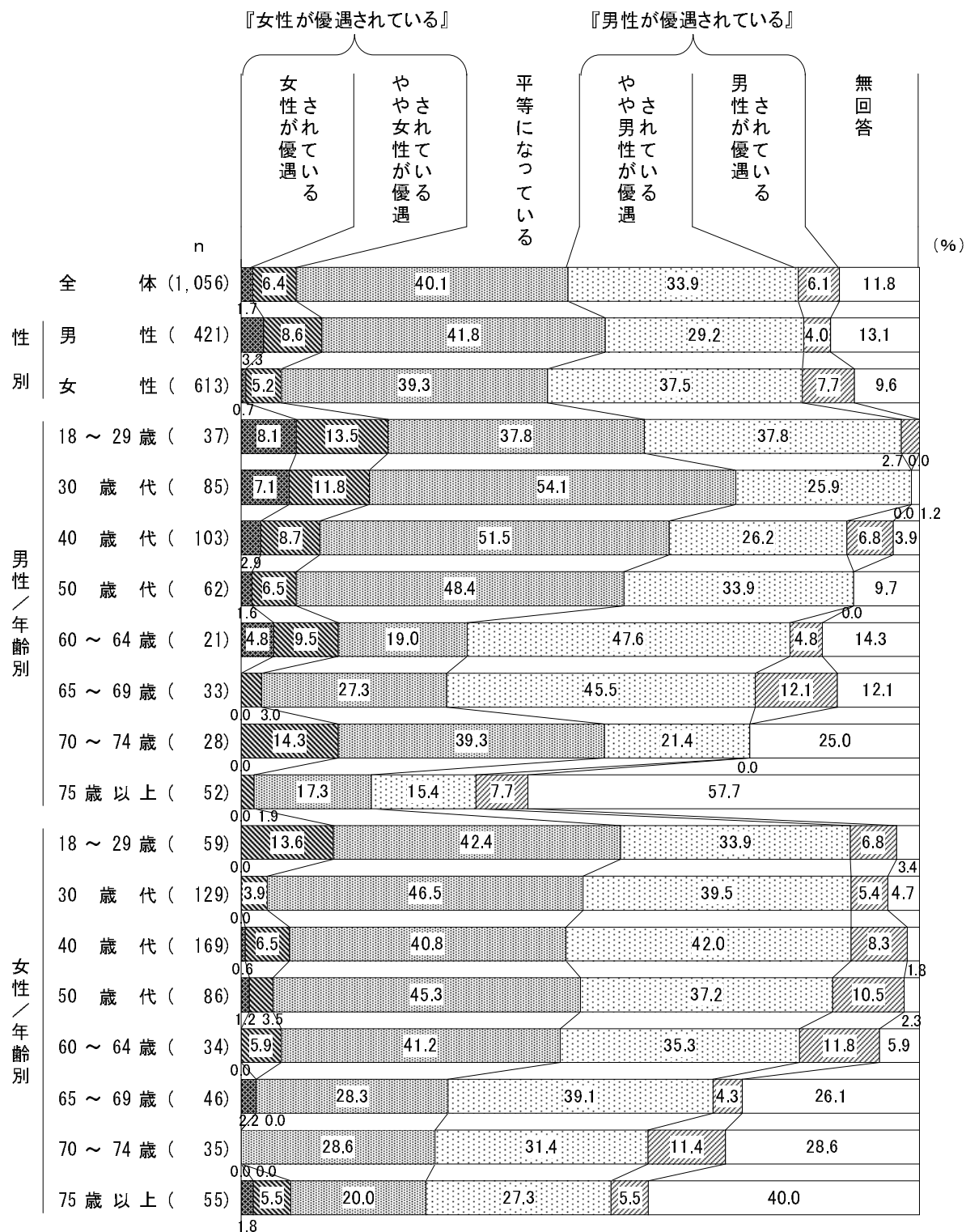
図表6－1－6 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「(3) 教育の場（学校・大学）では」



“社会活動の場では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも12.0ポイント高くなっている。一方、『女性が優遇されている』と感じる割合は男性の方が女性よりも6.0ポイント高くなっている。

“社会活動の場では”について性／年齢別でみると、「平等になっている」と感じる割合は男性の30歳代で5割台半ばと高くなっている。『男性が優遇されている』と感じる割合は男性の65～69歳で6割近くと高くなっている。(図表6-1-7)

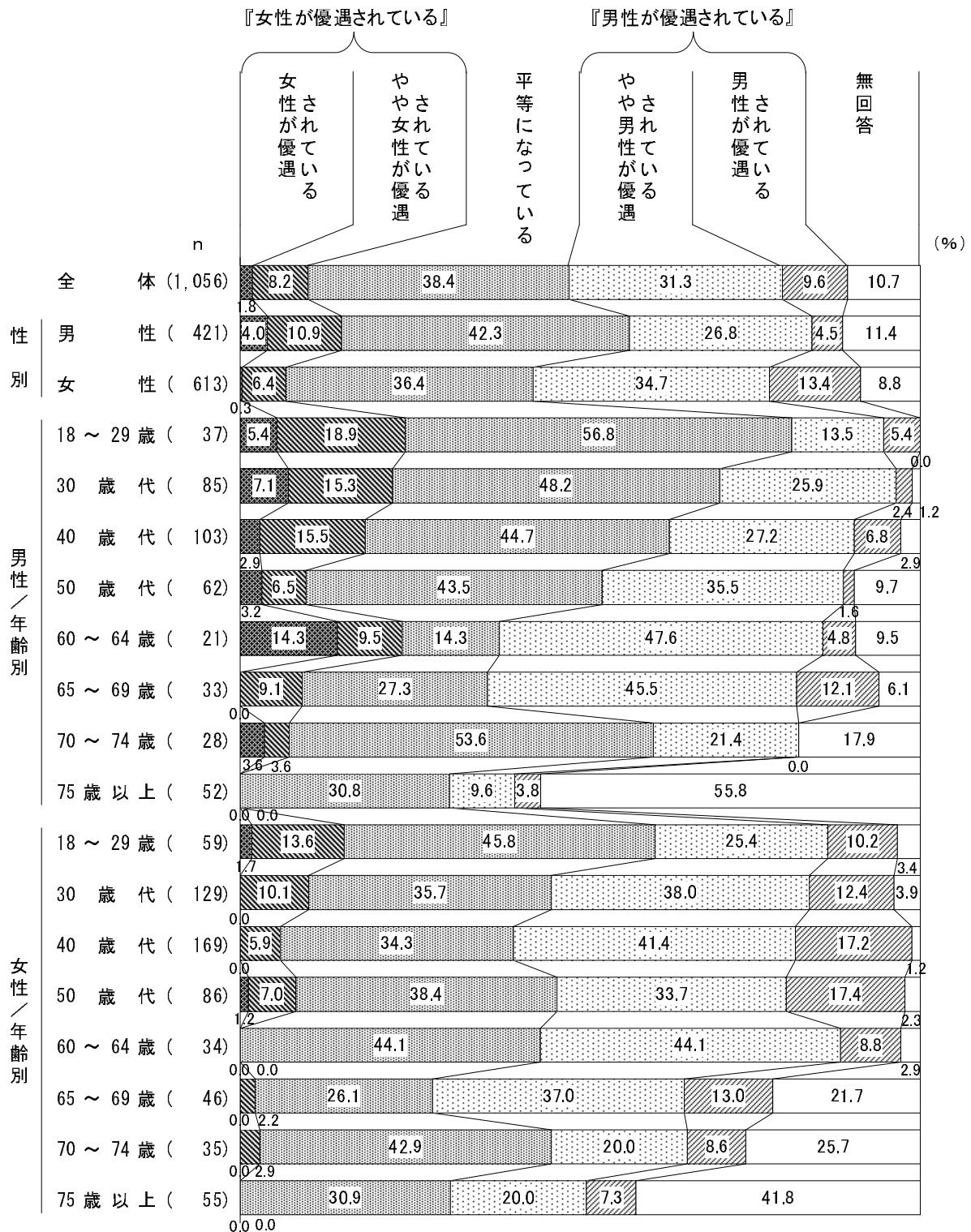
図表6-1-7 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(4) 社会活動の場では」



“法律や制度では”について性別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも16.8ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも5.9ポイント高くなっている。

“法律や制度では”について性／年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は男性の65～69歳と女性の40歳代でともに6割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で6割近くと高くなっている。(図表6-1-8)

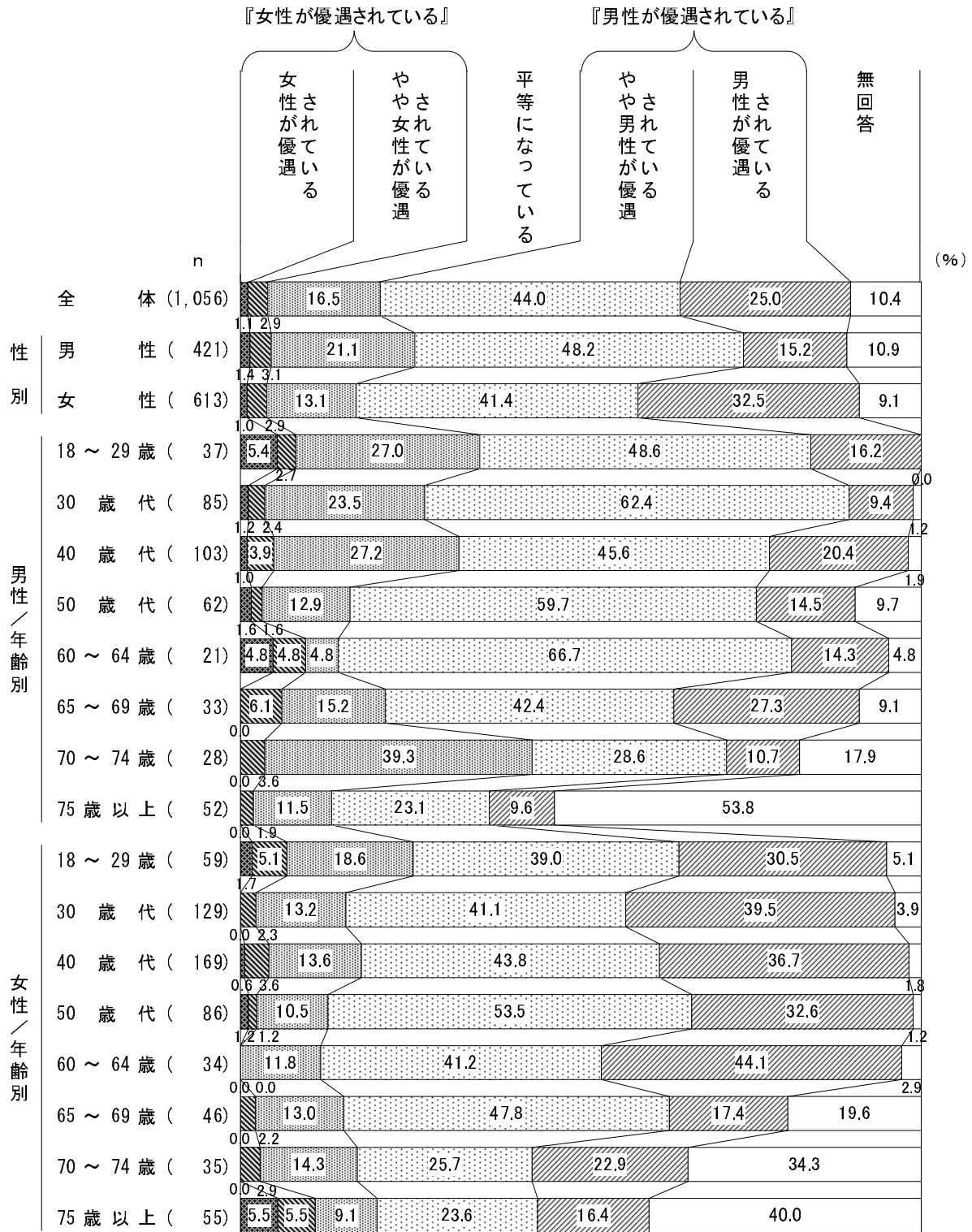
図表6-1-8 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(5) 法律や制度では」



“しきたりや習慣では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも10.5ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも8.0ポイント高くなっている。

“しきたりや習慣では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代と60～64歳でともに8割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の70～74歳で約4割と高くなっている。(図表6-1-9)

図表6-1-9 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(6) しきたりや習慣では」

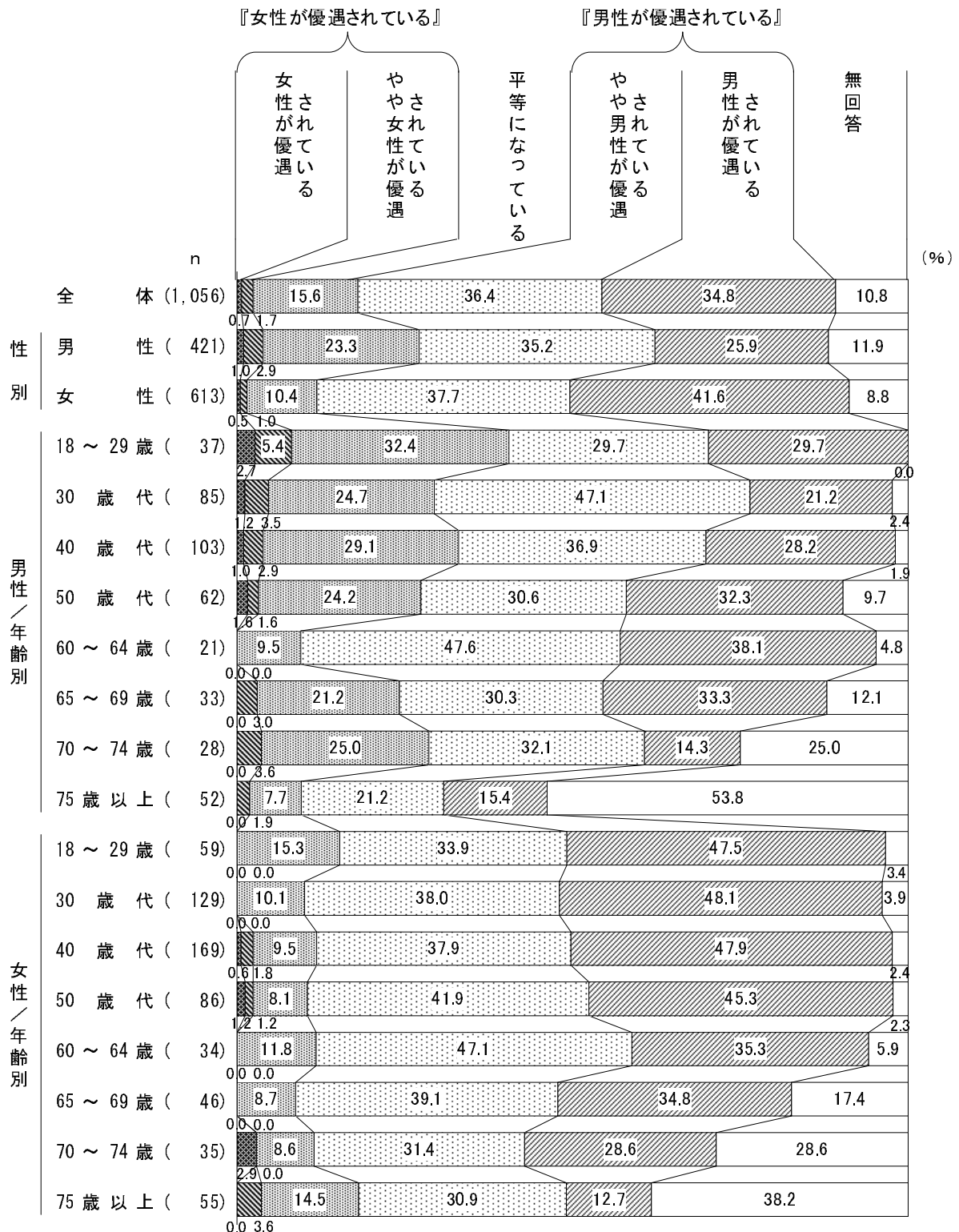


“政治の場では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも18.2ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも12.9ポイント高くなっている。

“政治の場では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で9割近く、男性の60～64歳と女性の30歳代、40歳代でいずれも8割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で3割を超えて高くなっている。

(図表6-1-10)

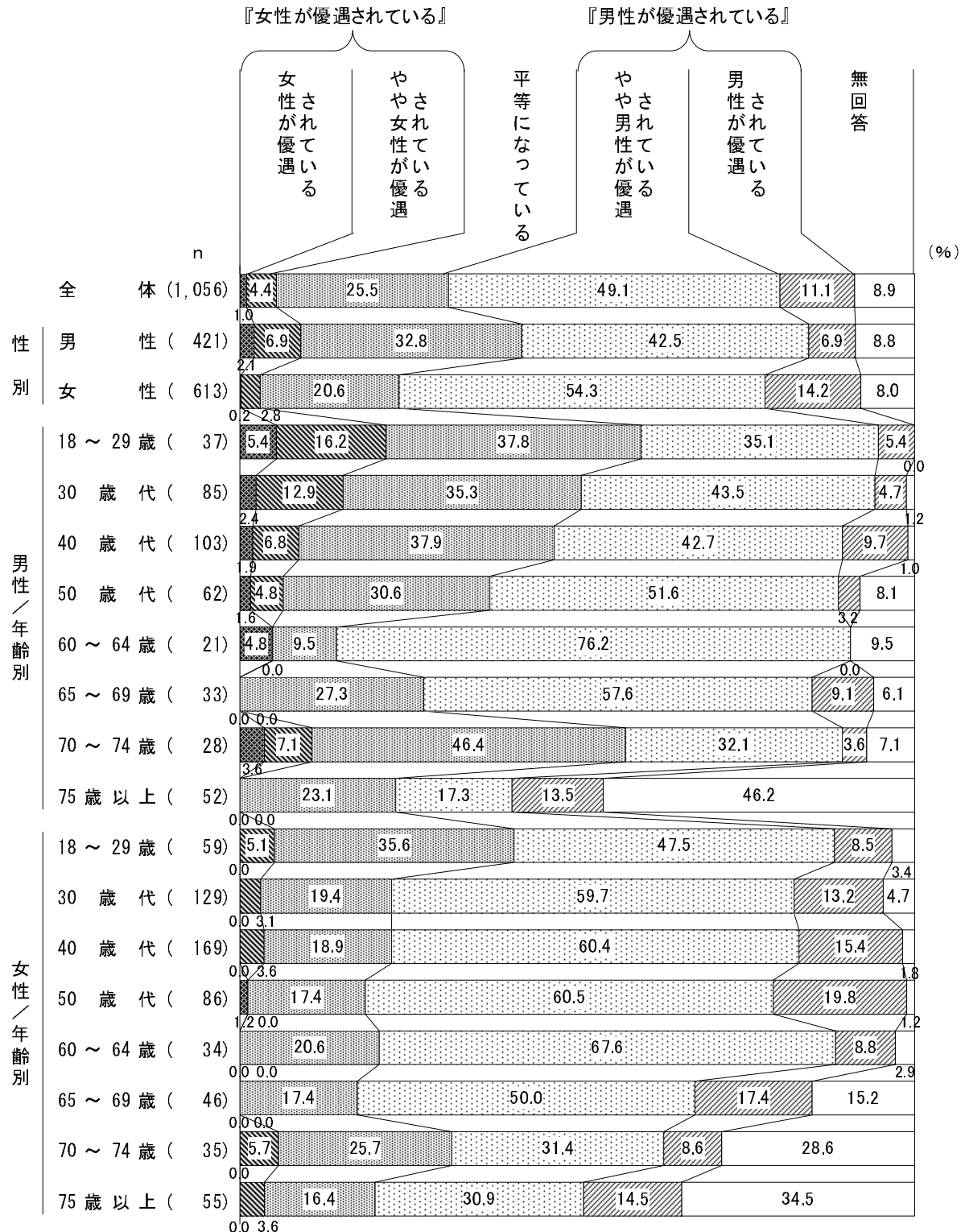
図表6-1-10 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(7) 政治の場では」



“全体としては”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも19.1ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも12.2ポイント高くなっている。

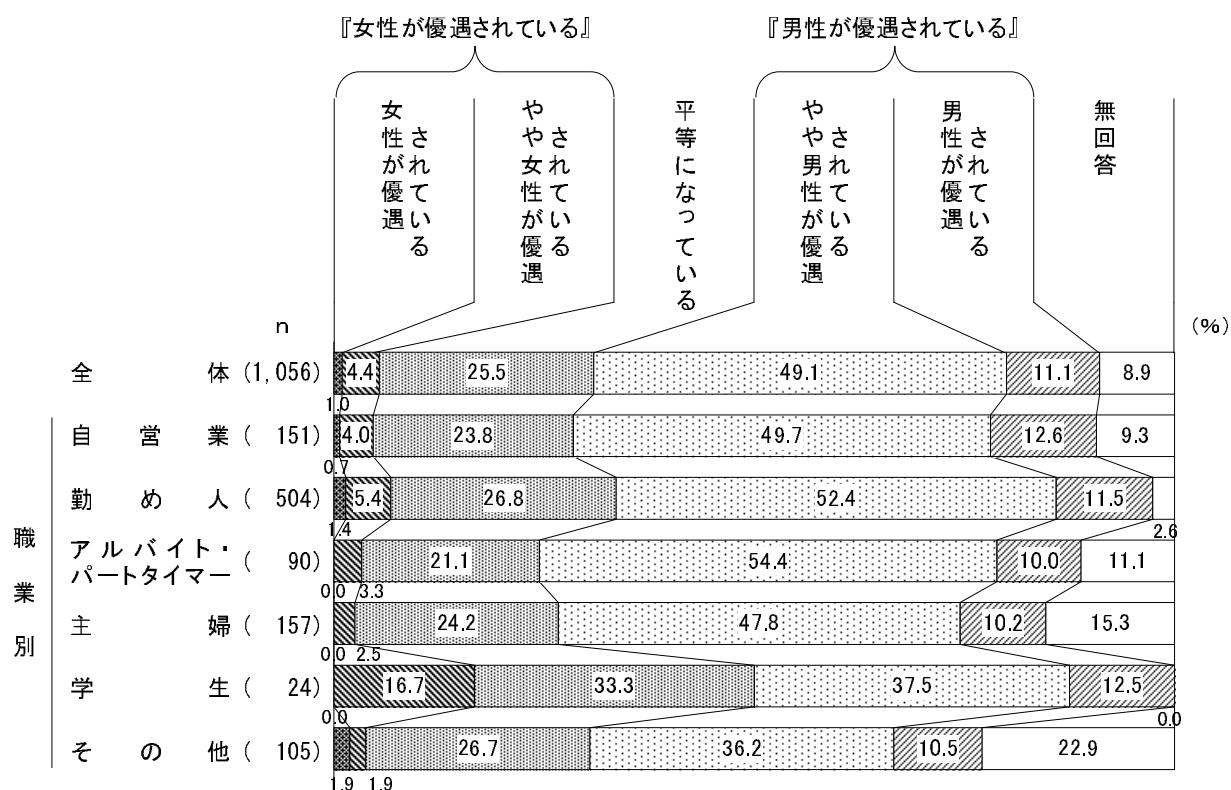
“全体としては”について性/年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で8割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の70～74歳で4割台半ばと高くなっている。(図表6-1-11)

図表6-1-11 男女の地位の平等感—性別・性/年齢別「(8) 全体としては」



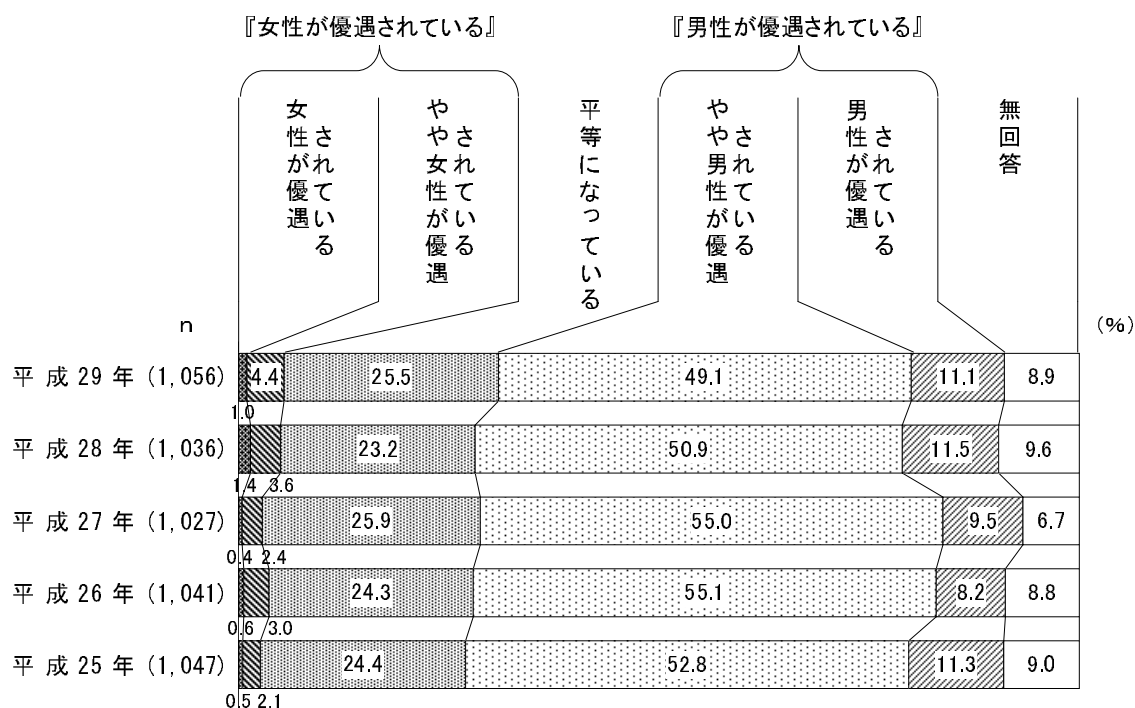
“全体としては”について職業別でみると、「平等になっている」と感じる割合は学生で3割を超えて高くなっている。(図表6-1-12)

図表6-1-12 男女の地位の平等感—職業別「(8) 全体としては」



“全体としては”について過去の調査と比較すると、「平等になっている」と感じる割合は昨年より2.3ポイント増加している。一方、『男性が優遇されている』と感じる割合は昨年より2.2ポイント減少している。(図表6-1-13)

図表6-1-13 男女の地位の平等感—過年度比較「(8) 全体としては」



(2) ワーク・ライフ・バランスについての考え方

◇「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」が5割を超える

問17 あなた自身の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、望ましいと思うものはどれですか。（○は1つ）

(※) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

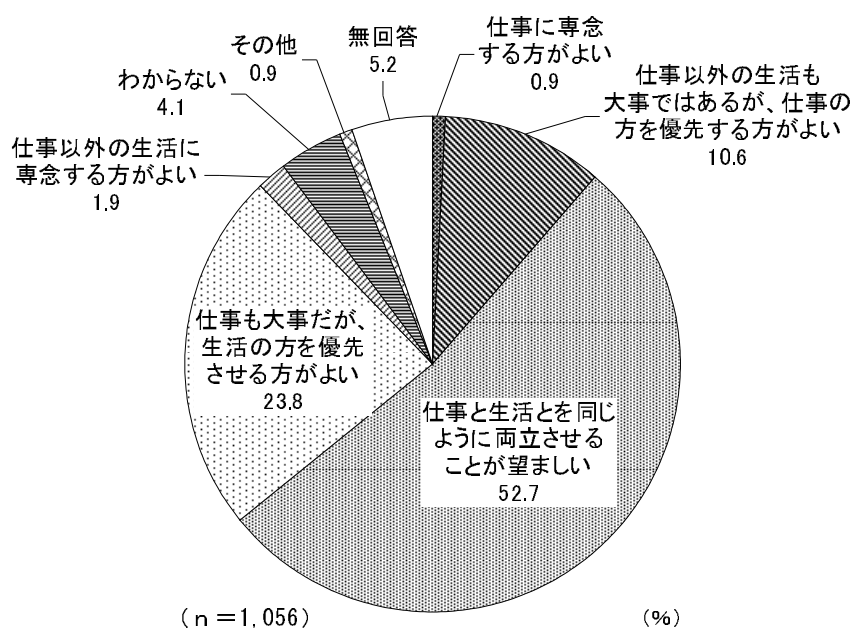
仕事と仕事以外の生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

n = 1,056

1	仕事に専念する方がよい	0.9%
2	仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい	10.6
3	仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい	52.7
4	仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい	23.8
5	仕事以外の生活に専念する方がよい	1.9
6	わからない	4.1
7	その他	0.9
	(無回答)	5.2

ワーク・ライフ・バランスについての考え方は、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」(52.7%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」(23.8%)、「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」(10.6%)などとなっている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 ワーク・ライフ・バランスについての考え方



過去の調査と比較すると、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は昨年より3.3ポイント増加している。(図表6-2-2)

図表6-2-2 ワーク・ライフ・バランスについての考え方ー過年度比較

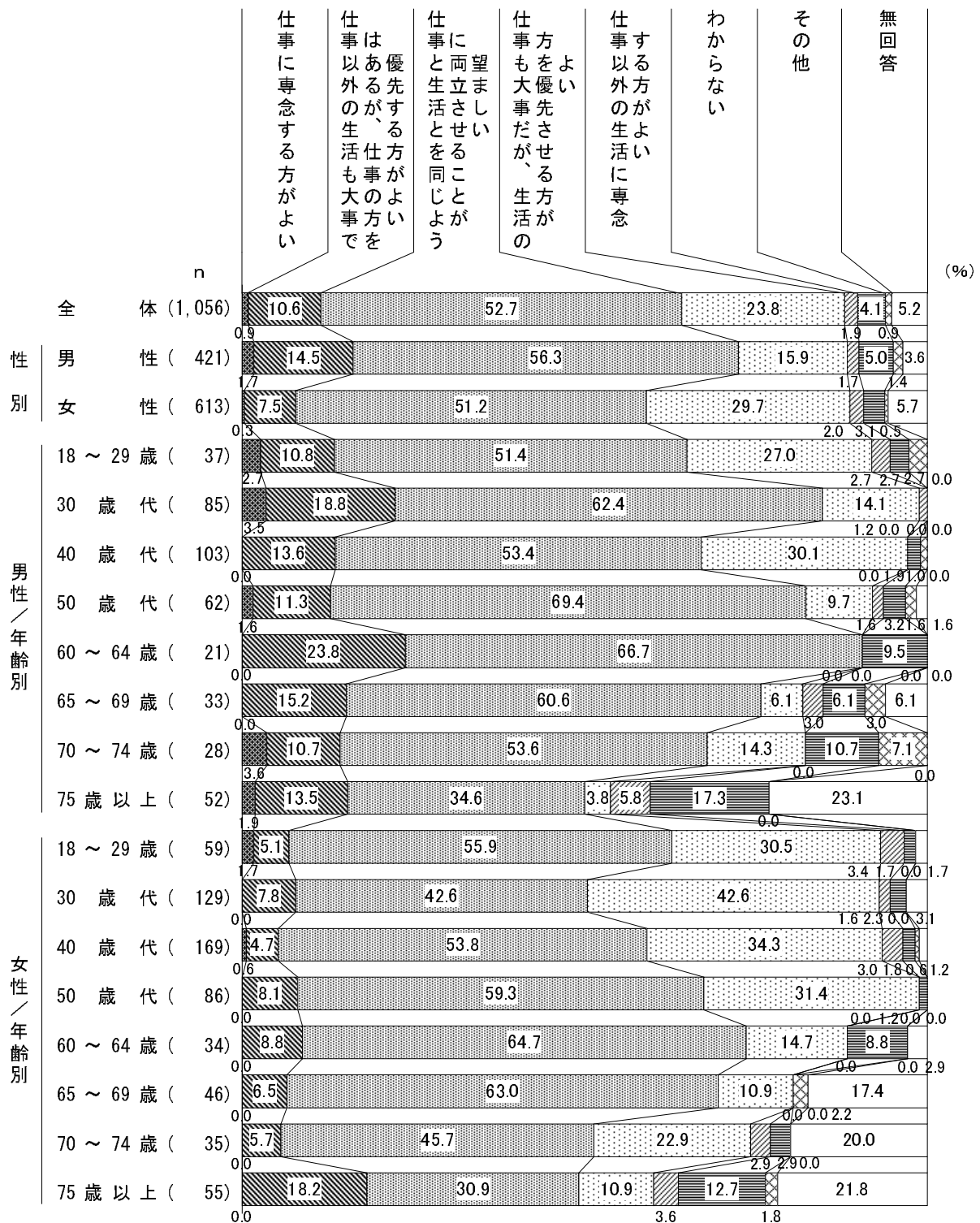
(%)

調査年	n	仕事に専念する方がよい	仕事は優先する方がよい （仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい）	仕事と生活を両立させることがよい	仕事も優先させる方がよい （仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい）	仕事以外の生活に専念する方がよい	わからない	その他	無回答
平成29年	1,056	0.9	10.6	52.7	23.8	1.9	4.1	0.9	5.2
平成28年	1,036	1.7	12.3	53.3	20.5	1.7	4.0	1.9	4.6
平成27年	1,027	1.2	12.6	54.3	19.3	1.8	4.2	3.0	3.7
平成26年	1,041	1.8	12.1	52.4	21.4	1.8	4.9	1.7	3.7
平成25年	1,047	2.0	14.6	51.8	19.6	1.2	5.0	1.0	4.9

性別でみると、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は女性の方が男性よりも13.8ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」で7.0ポイント、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」で5.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」は男性の50歳代で約7割と高くなっている。「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は女性の30歳代で4割を超えて高くなっている。「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」は男性の60～64歳で2割を超えて高くなっている。(図表6-2-3)

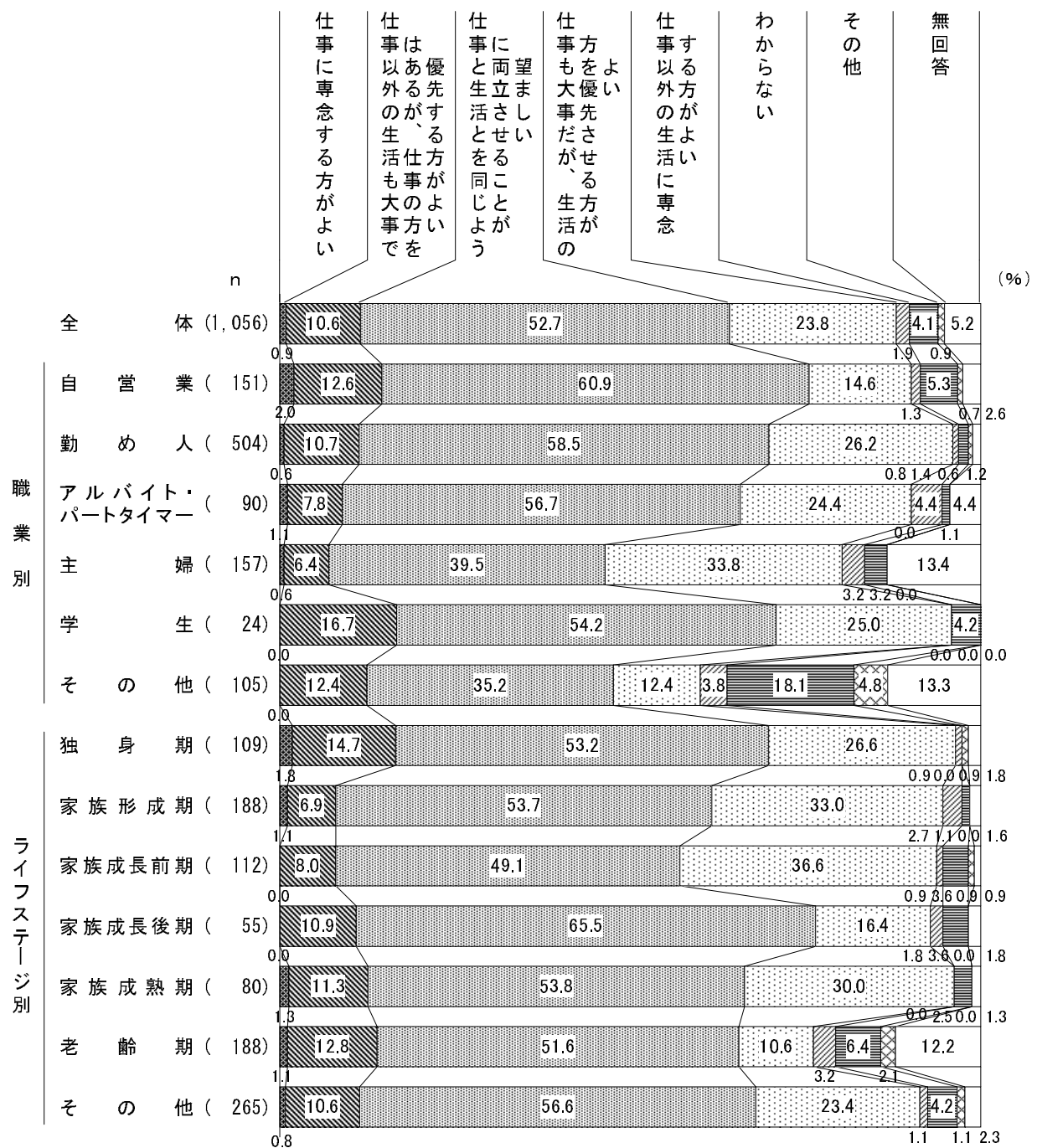
図表6-2-3 ワーク・ライフ・バランスについての考え方-性別・性／年齢別



職業別でみると、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」は自営業で約6割と高くなっている。「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は主婦で3割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」は家族成長後期で6割台半ばと高くなっている。「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は家族成長前期で4割近くと高くなっている。(図表6-2-4)

図表6-2-4 ワーク・ライフ・バランスについての考え方—職業別・ライフステージ別



(3) 望ましい位置づけに対しての現在の状況

◇「どちらかといえば、仕事の方を優先している」が3割

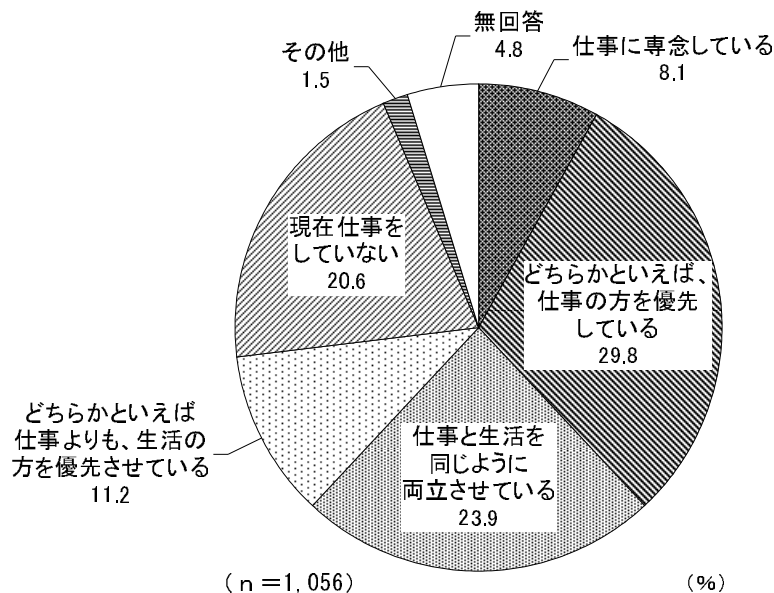
問18 問17の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。
(○は1つ)

n = 1,056

1	仕事に専念している	8.1%
2	どちらかといえば、仕事の方を優先している	29.8
3	仕事と生活を同じように両立させている	23.9
4	どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている	11.2
5	現在仕事をしていない	20.6
6	その他	1.5
	(無回答)	4.8

望ましい位置づけに対しての現在の状況は、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」(29.8%)が3割で最も高くなっている。次いで、「仕事と生活を同じように両立させている」(23.9%)、「現在仕事をしていない」(20.6%)、「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」(11.2%)、「仕事に専念している」(8.1%)などとなっている。(図表6-3-1)

図表6-3-1 望ましい位置づけに対しての現在の状況



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図表6-3-2)

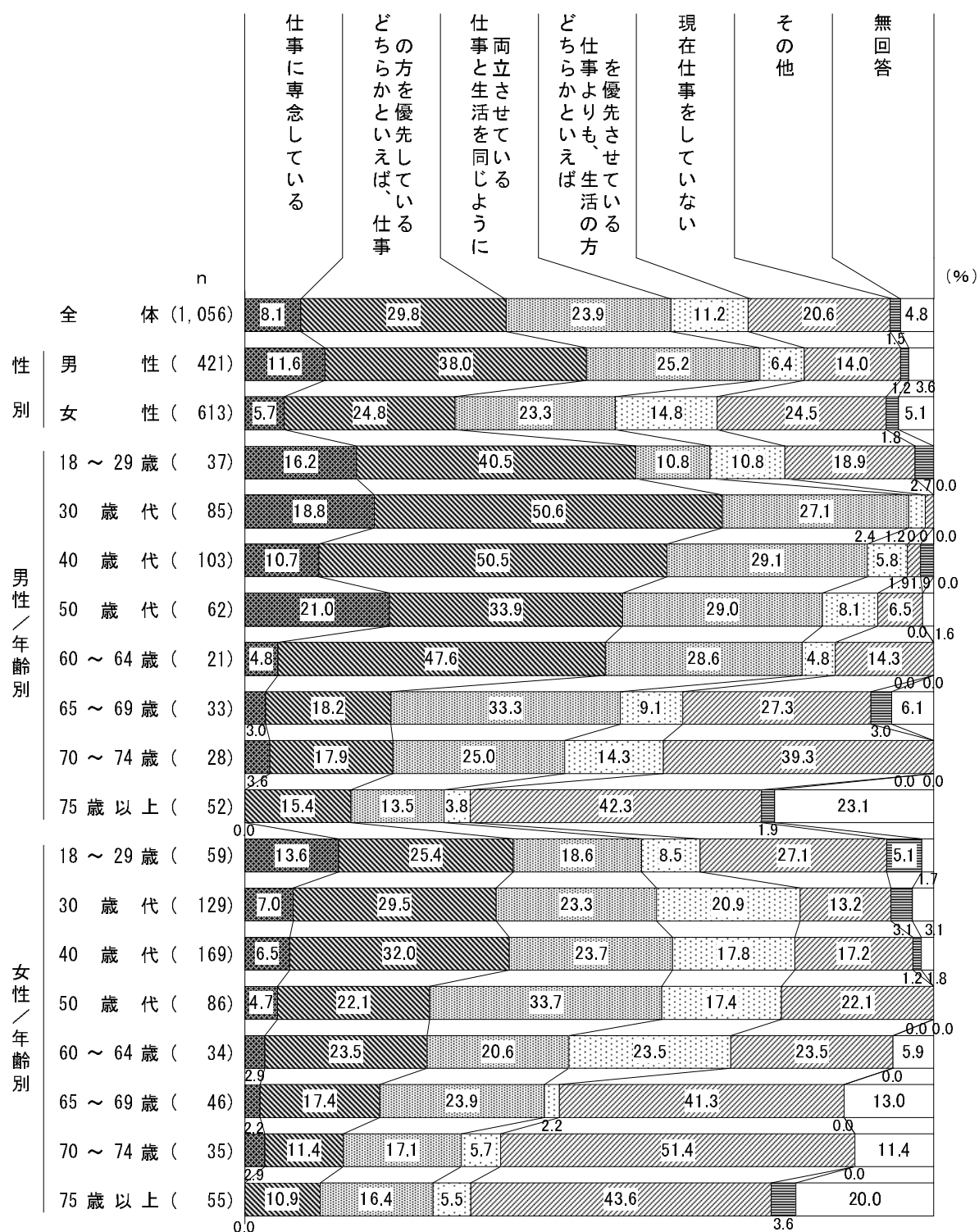
図表6-3-2 望ましい位置づけに対しての現在の状況—過年度比較

調査年	n	(%)						
		仕事に専念している	ど ち ら か と い え ば、 仕 事 の 方 を 優 先 し て い る	仕 事 と 生 活 を 同 じ よ う に 両 立 さ せ て い る	ど ち ら か と い え ば、 仕 事 よ り も、 生 活 の 方 を 優 先 さ せ て い る	現在仕事をしていない	その他	無回答
平成29年	1,056	8.1	29.8	23.9	11.2	20.6	1.5	4.8
平成28年	1,036	10.2	28.8	23.7	12.4	19.6	1.0	4.3
平成27年	1,027	9.7	30.1	20.6	12.8	21.0	2.2	3.5
平成26年	1,041	7.5	31.6	20.2	12.2	24.1	0.5	3.9
平成25年	1,047	9.1	31.6	20.2	11.3	21.0	1.6	5.2

性別でみると、男性の方が女性よりも「どちらかといえば、仕事の方を優先している」で13.2ポイント、「仕事に専念している」で5.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「現在仕事をしていない」で10.5ポイント、「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」で8.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は男性の30歳代と40歳代でともに約5割と高くなっている。「仕事と生活を同じように両立させている」は男性の65～69歳と女性の50歳代でともに3割を超えて高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」は女性の60～64歳で2割を超えて高くなっている。(図表6-3-3)

図表6-3-3 望ましい位置づけに対しての現在の状況－性別・性／年齢別

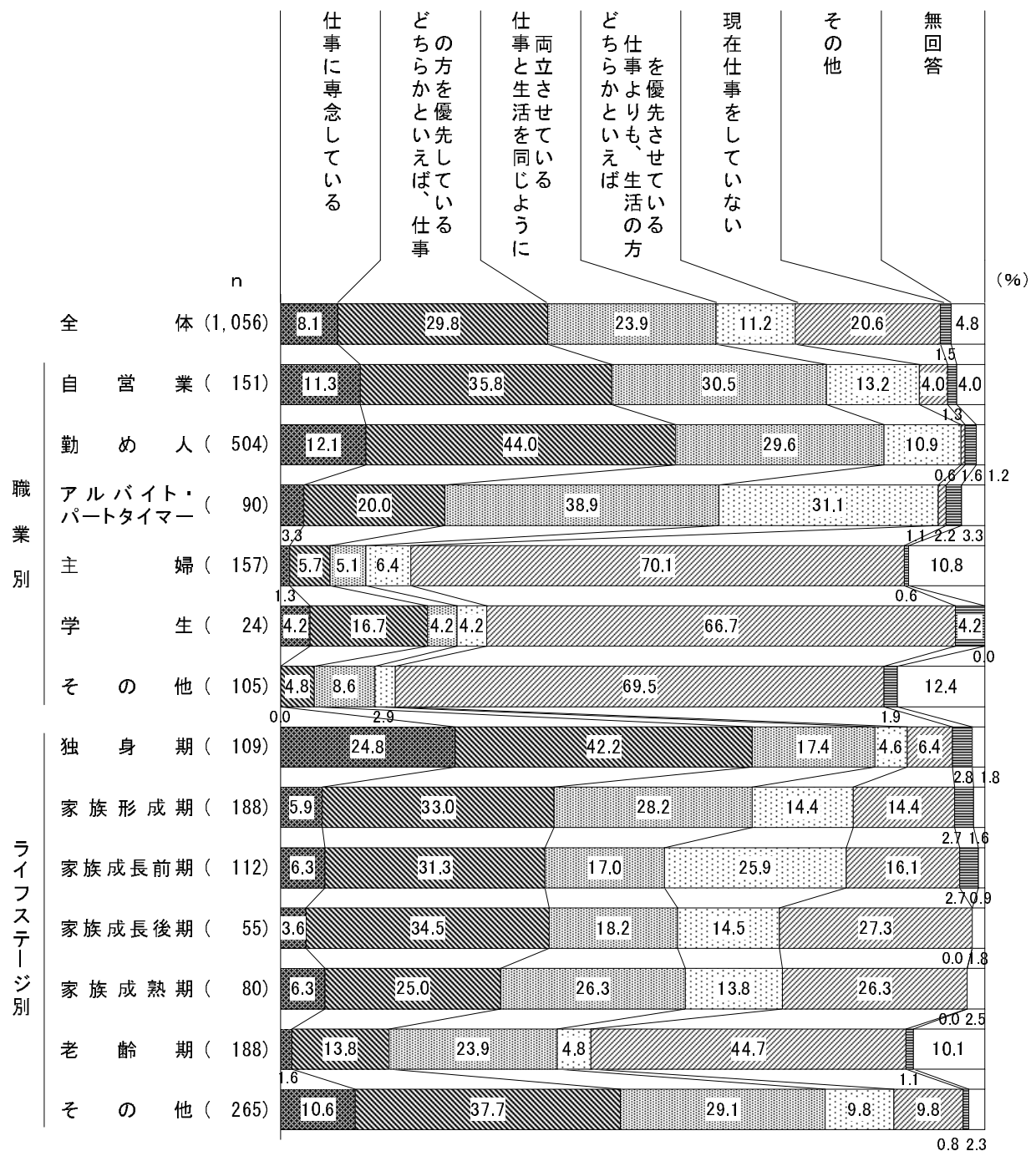


職業別でみると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は勤め人で4割台半ばと高くなっている。「仕事と生活を同じように両立させている」はアルバイト・パートタイマーで4割近くと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」はアルバイト・パートタイマーで3割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事に専念している」は独身期で2割台半ばと高くなっている。「仕事と生活を同じように両立させている」は家族形成期で3割近くと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」は家族成長前期で2割台半ばと高くなっている。

(図表6-3-4)

図表6-3-4 望ましい位置づけに対しての現在の状況—職業別・ライフステージ別



(4) 女性センター「ブーケ21」の認知度

◇『知っている』は4割を超える

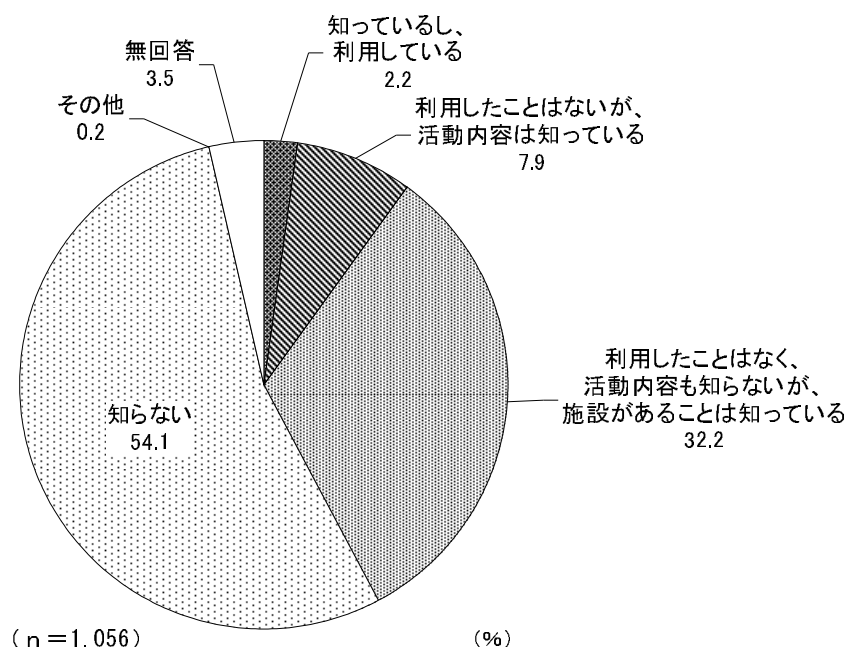
問19 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。(○は1つ)

n = 1,056

1	知っているし、利用している	2.2%
2	利用したことはないが、活動内容は知っている	7.9
3	利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている	32.2
4	知らない	54.1
5	その他 (無回答)	0.2 3.5

女性センター「ブーケ21」の認知度は、「利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている」(32.2%)が3割を超え、これに「利用したことはないが、活動内容は知っている」(7.9%)と「知っているし、利用している」(2.2%)を合わせた『知っている』(42.3%)は4割を超えている。一方、「知らない」(54.1%)は5割台半ばとなっている。(図表6-4-1)

図表6-4-1 女性センター「ブーケ21」の認知度



過去の調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。(図表6-4-2)

図表6-4-2 女性センター「ブーケ21」の認知度一過年度比較

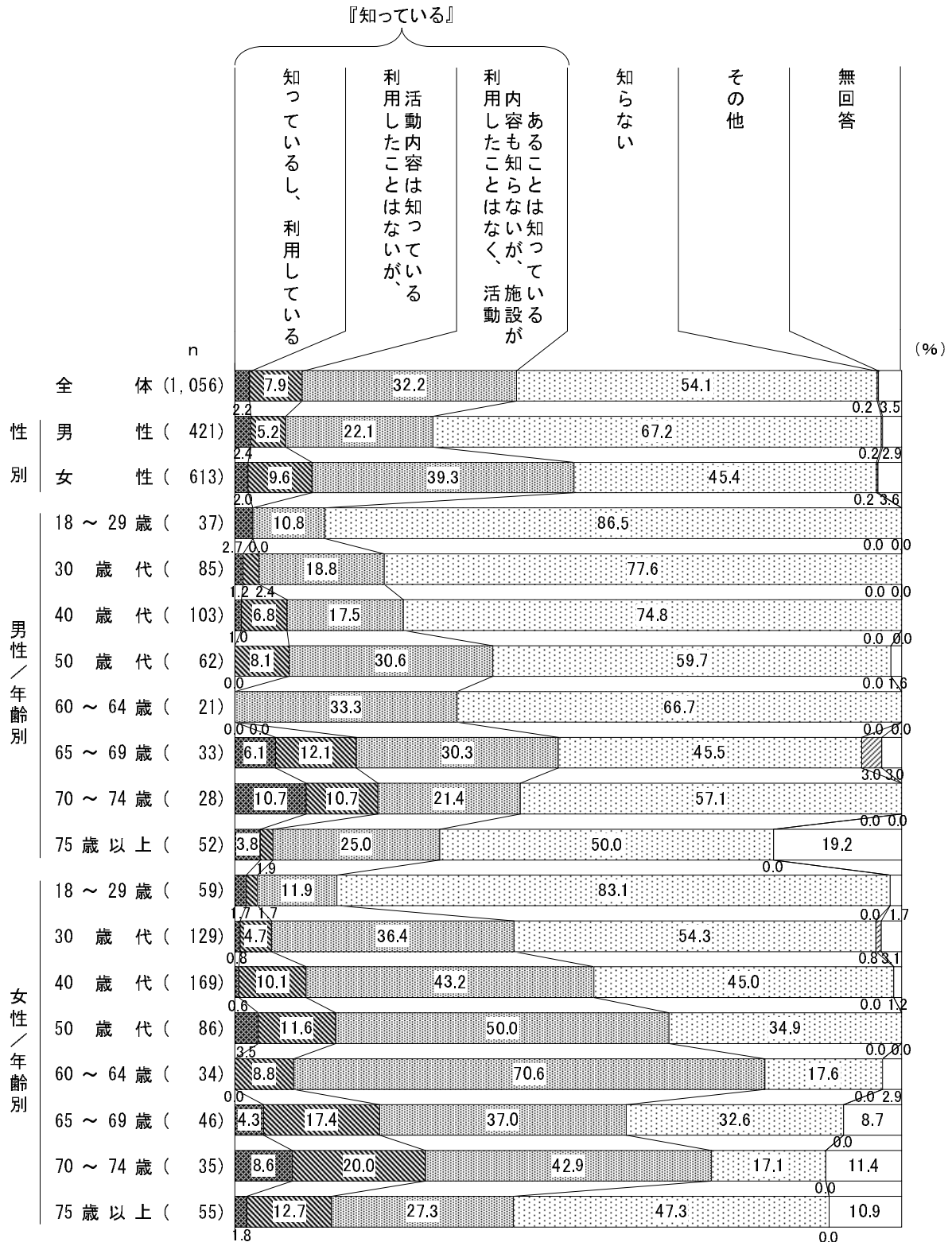
(%)

調査年	n	知っているし、利用している	活動内容は知っているが、利用したことはない	内容も知らないが、施設が利用できる	知らない	その他	無回答
平成29年	1,056	2.2	7.9	32.2	54.1	0.2	3.5
平成28年	1,036	3.3	7.7	30.9	55.1	0.3	2.7
平成27年	1,027	3.2	9.5	29.7	54.1	0.5	2.9
平成26年	1,041	4.1	8.2	28.5	55.0	0.5	3.7
平成25年	1,047	2.9	9.4	29.7	52.7	1.0	4.4

性別で見ると、「知らない」は男性の方が女性よりも21.8ポイント高くなっている。一方、「利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている」は女性の方が男性よりも17.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『知っている』は女性の60～64歳で約8割、女性の70～74歳で7割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は男性の18～29歳で9割近く、女性の18～29歳で8割を超えて高くなっている。(図表6-4-3)

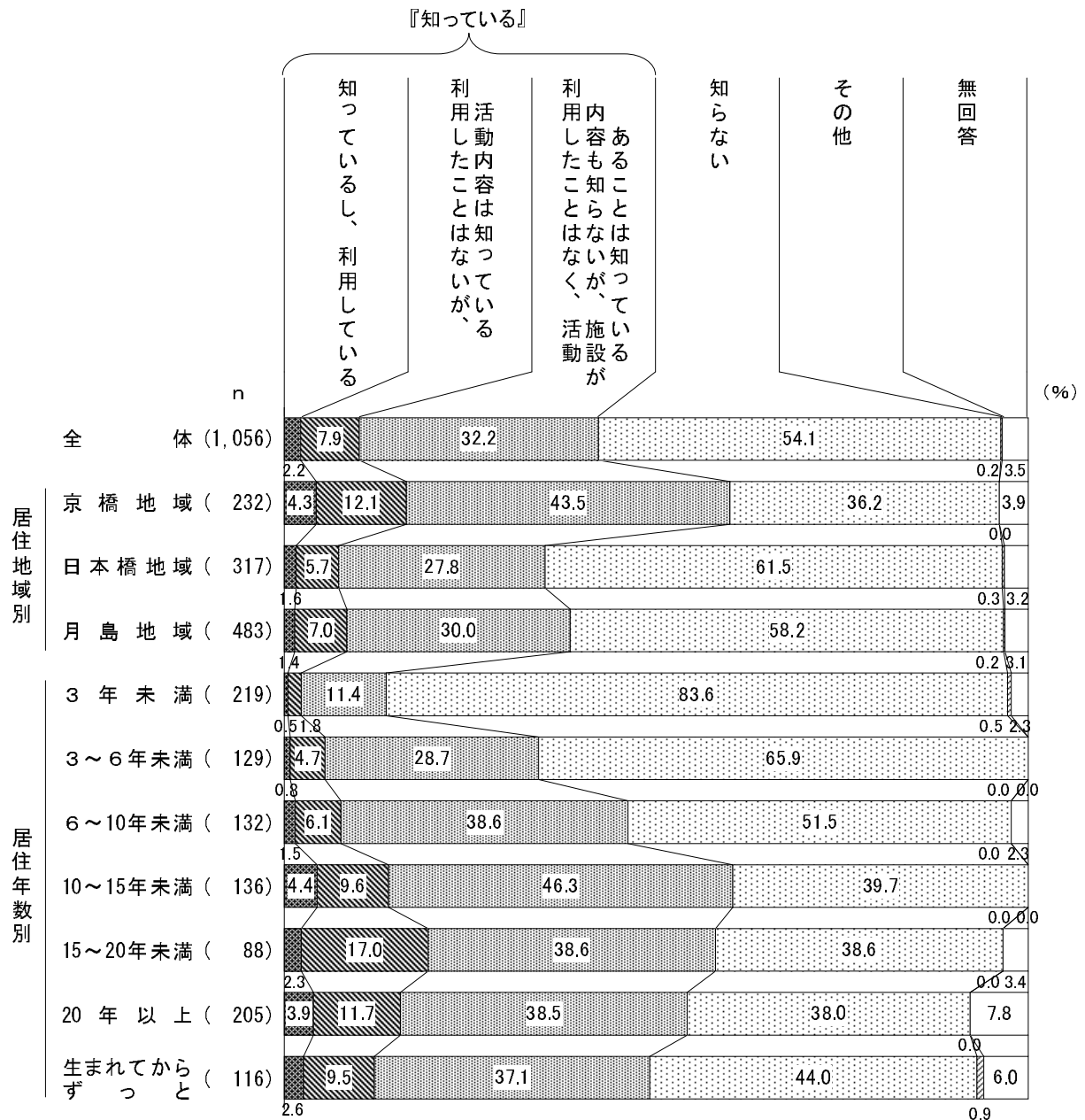
図表6-4-3 女性センター「ブーケ21」の認知度—性別・性／年齢別



居住地域別でみると、『知っている』は京橋地域で6割と高くなっている。一方、「知らない」は日本橋地域で6割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、『知っている』は居住年数10～15年未満の人で6割と高くなっている。一方、「知らない」は居住年数3年未満の人で8割を超えて高くなっている。(図表6-4-4)

図表6-4-4 女性センター「ブーケ21」の認知度—居住地域別・居住年数別



【7 防犯対策】

(1) 不安を感じる犯罪

◇「空き巣」が2割を超える

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

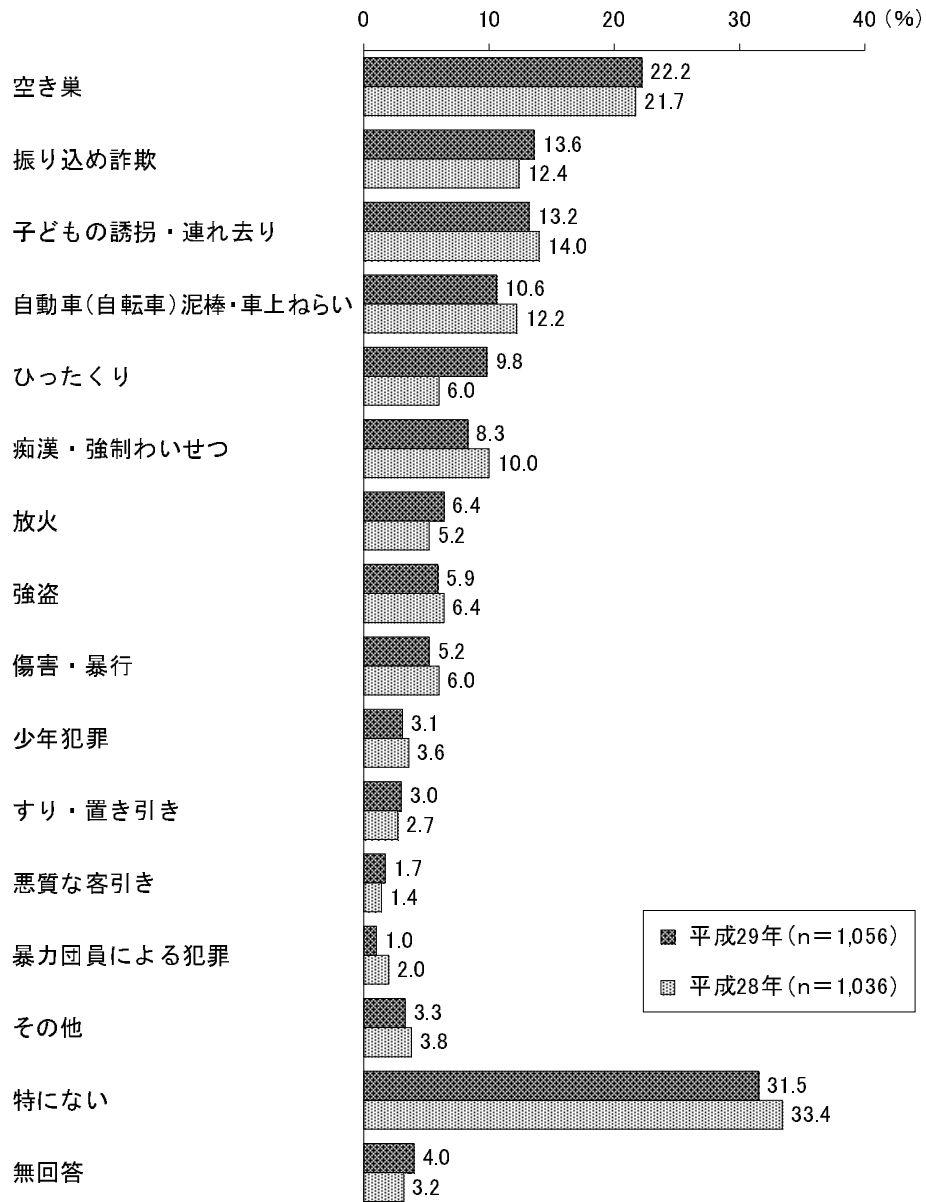
n = 1,056

1	ひったくり	9.8%	9	痴漢・強制わいせつ	8.3
2	空き巣	22.2	10	少年犯罪	3.1
3	強盗	5.9	11	子どもの誘拐・連れ去り	13.2
4	すり・置き引き	3.0	12	暴力団員による犯罪	1.0
5	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	10.6	13	悪質な客引き	1.7
6	振り込め詐欺	13.6	14	その他	3.3
7	傷害・暴行	5.2	15	特にない	31.5
8	放火	6.4		(無回答)	4.0

不安を感じる犯罪は、「空き巣」(22.2%)が2割を超えて最も高くなっている。次いで、「振り込め詐欺」(13.6%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(13.2%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(10.6%)、「ひったくり」(9.8%)などとなっている。一方、「特にない」(31.5%)は3割を超えている。

昨年との調査結果と比較すると、「ひったくり」は3.8ポイント増加している。(図表7-1-1)

図表7-1-1 不安に感じる犯罪(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「空き巣」が引き続き最も高い割合となっている。(図表 7-1-2)

図表 7-1-2 不安に感じる犯罪一過年度比較

(%)

調査年	n	空き巣	振り込め詐欺	子どもの誘拐・連れ去り	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	ひったくり	痴漢・強制わいせつ	放火	強盗	傷害・暴行	少年犯罪	すり・置き引き	悪質な客引き	暴力団員による犯罪	その他	特にない	無回答
平成29年	1,056	22.2	13.6	13.2	10.6	9.8	8.3	6.4	5.9	5.2	3.1	3.0	1.7	1.0	3.3	31.5	4.0
平成28年	1,036	21.7	12.4	14.0	12.2	6.0	10.0	5.2	6.4	6.0	3.6	2.7	1.4	2.0	3.8	33.4	3.2
平成27年	1,027	26.4	15.1	14.1	10.8	7.7	7.4	8.7	6.5	6.5	7.6	3.8	0.8	1.7	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	40.1	21.4	16.9	17.5	16.0	11.8	13.8	11.9	11.1	8.8	8.4	※	3.9	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	37.8	21.5	11.4	22.1	22.6	11.4	16.4	12.0	11.9	7.6	8.2	※	4.7	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	41.7	13.1	11.9	21.1	21.5	10.5	17.8	16.9	16.8	10.2	7.5	※	8.2	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	43.6	14.2	12.8	23.2	23.4	9.9	15.6	15.4	11.9	7.8	7.5	※	5.7	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	41.8	17.1	13.9	20.9	20.3	10.3	16.7	12.8	12.2	11.3	6.5	※	7.0	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	44.8	12.2	14.2	21.1	27.7	10.2	21.9	17.7	9.7	9.5	6.3	※	4.8	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	42.6	18.0	16.9	13.9	19.8	18.6	18.9	18.1	17.7	15.0	4.5	※	10.4	5.9	※	7.6
平成19年	686	43.7	18.4	16.5	16.0	20.6	15.9	22.6	20.6	14.0	16.3	5.0	※	8.7	1.9	※	5.4

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

* 平成26年以前は、3つまで回答可能としていた。

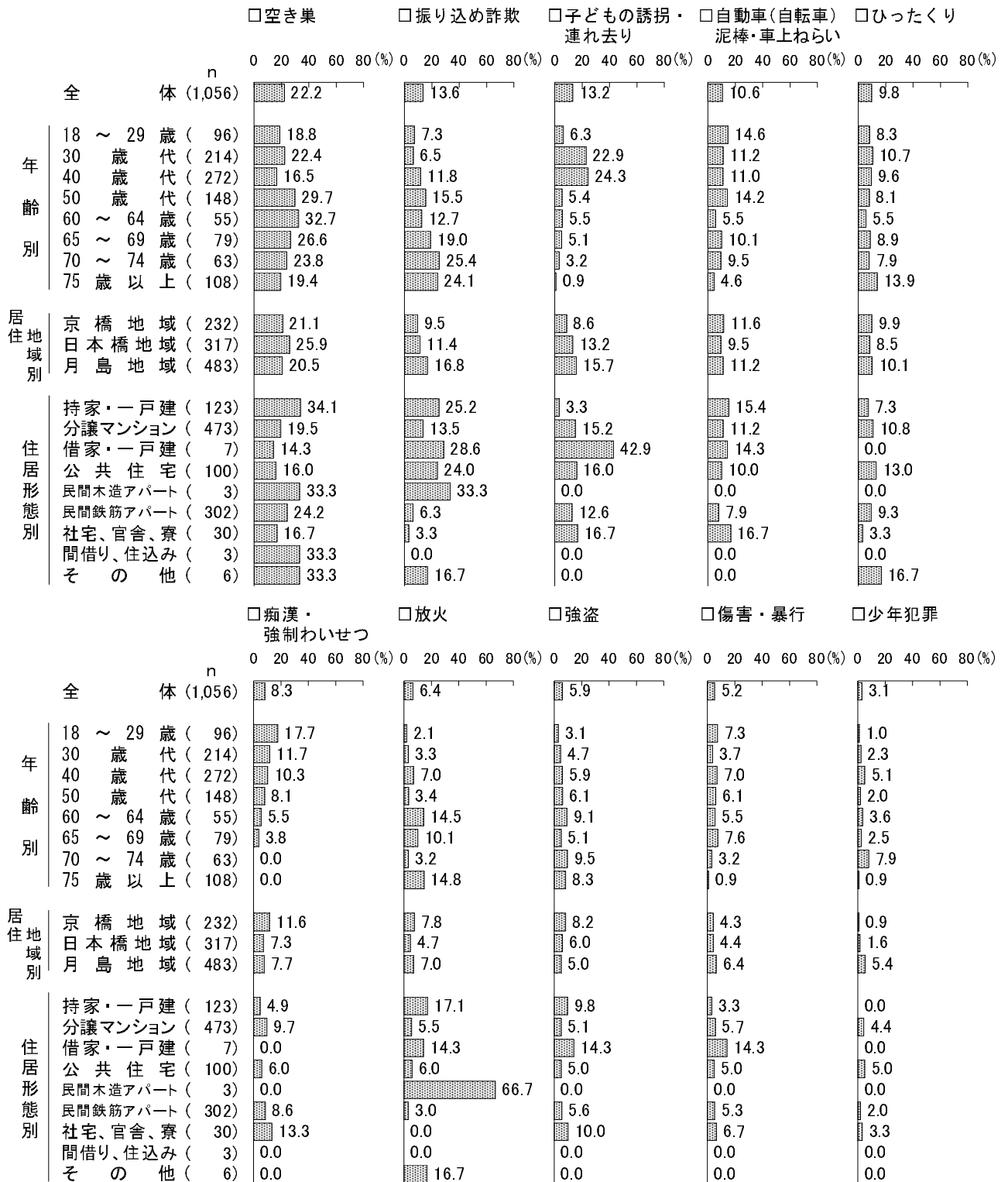
年齢別で見ると、「空き巣」は60～64歳で3割を超えて高くなっている。「子どもの誘拐・連れ去り」は40歳代で2割台半ば、30歳代で2割を超えて高くなっている。「振り込め詐欺」は70～74歳と75歳以上でともに2割台半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、「空き巣」は日本橋地域で2割台半ばと高くなっている。「振り込め詐欺」は月島地域で2割近くと高くなっている。

住居形態別で見ると、「空き巣」は持家・一戸建てで3割台半ばと高くなっている。

(図表 7-1-3)

図表 7-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



(2) 防犯のために行っていること

◇「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」が2割を超える

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。

(○はいくつでも)

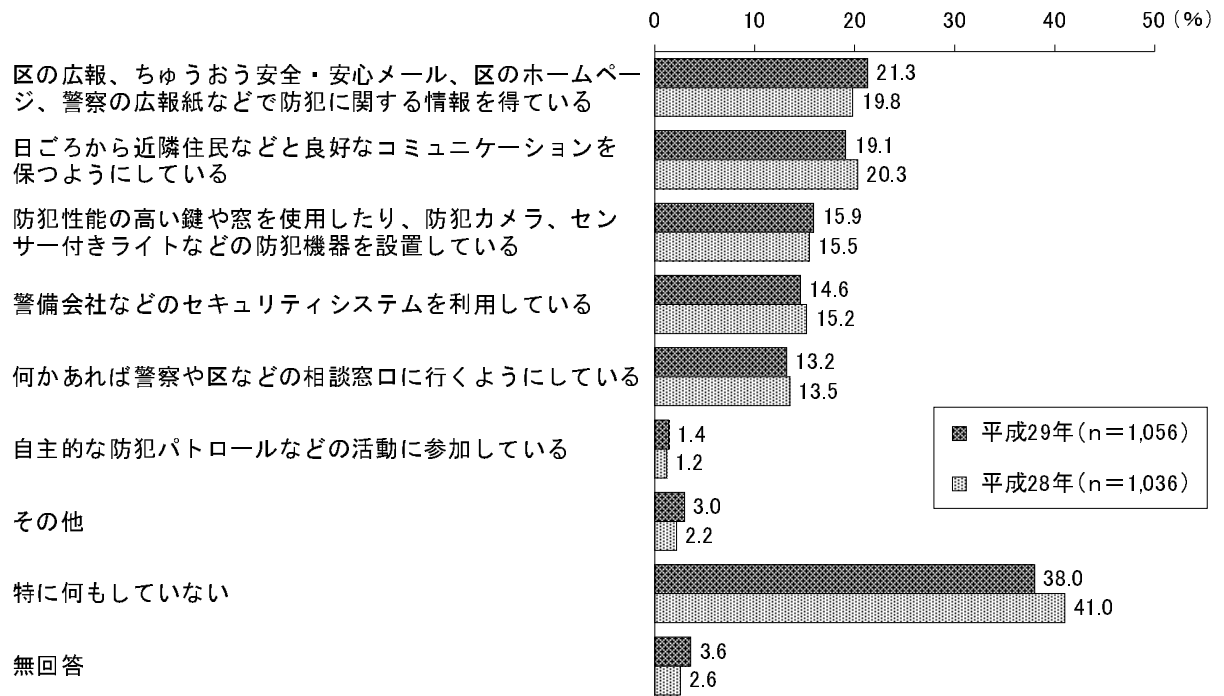
n = 1,056

1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	1.4%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	21.3
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	13.2
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	19.1
5	防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	15.9
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	14.6
7	その他	3.0
8	特に何もしていない (無回答)	38.0 3.6

防犯のために行っていることは、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(21.3%)が2割を超えて最も高くなっている。次いで、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(19.1%)、「防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」(15.9%)、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(14.6%)、「何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている」(13.2%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(38.0%)は4割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特に何もしていない」(38.0%)は3.0ポイント減少している。
 (図表7-2-1)

図表7-2-1 防犯のために行っていること(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」と「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は、平成22年以降引き続き上位2項目となっている。(図表7-2-2)

図表7-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

(%)

調査年	n	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	防犯使用の性能の高い鍵や窓を	警備システムなどのセキュリティ	何か相談窓口に行くと	自主活動に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
平成29年	1,056	21.3	19.1	15.9	14.6	13.2	1.4	3.0	38.0	3.6
平成28年	1,036	19.8	20.3	15.5	15.2	13.5	1.2	2.2	41.0	2.6
平成27年	1,027	20.0	20.1	14.1	14.2	13.0	1.6	3.0	41.6	1.9
平成26年	1,041	17.5	19.5	14.9	13.6	14.4	1.2	3.7	41.6	3.2
平成25年	1,047	18.4	22.3	16.1	11.9	15.2	2.1	3.9	36.8	4.7
平成24年	1,123	19.6	20.1	15.2	12.0	16.3	1.6	2.8	40.5	2.4
平成23年	1,097	17.7	22.0	14.8	11.9	15.3	1.8	3.2	39.7	3.4
平成22年	1,004	20.3	27.5	19.2	14.0	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1
平成21年	1,001	13.7	26.8	19.4	15.4	16.2	2.6	3.5	35.2	2.2
平成20年	1,065	12.7	29.8	19.7	14.1	17.2	3.4	3.3	36.2	2.3
平成19年	686	9.0	27.7	19.2	10.5	13.0	2.9	2.5	41.5	2.0

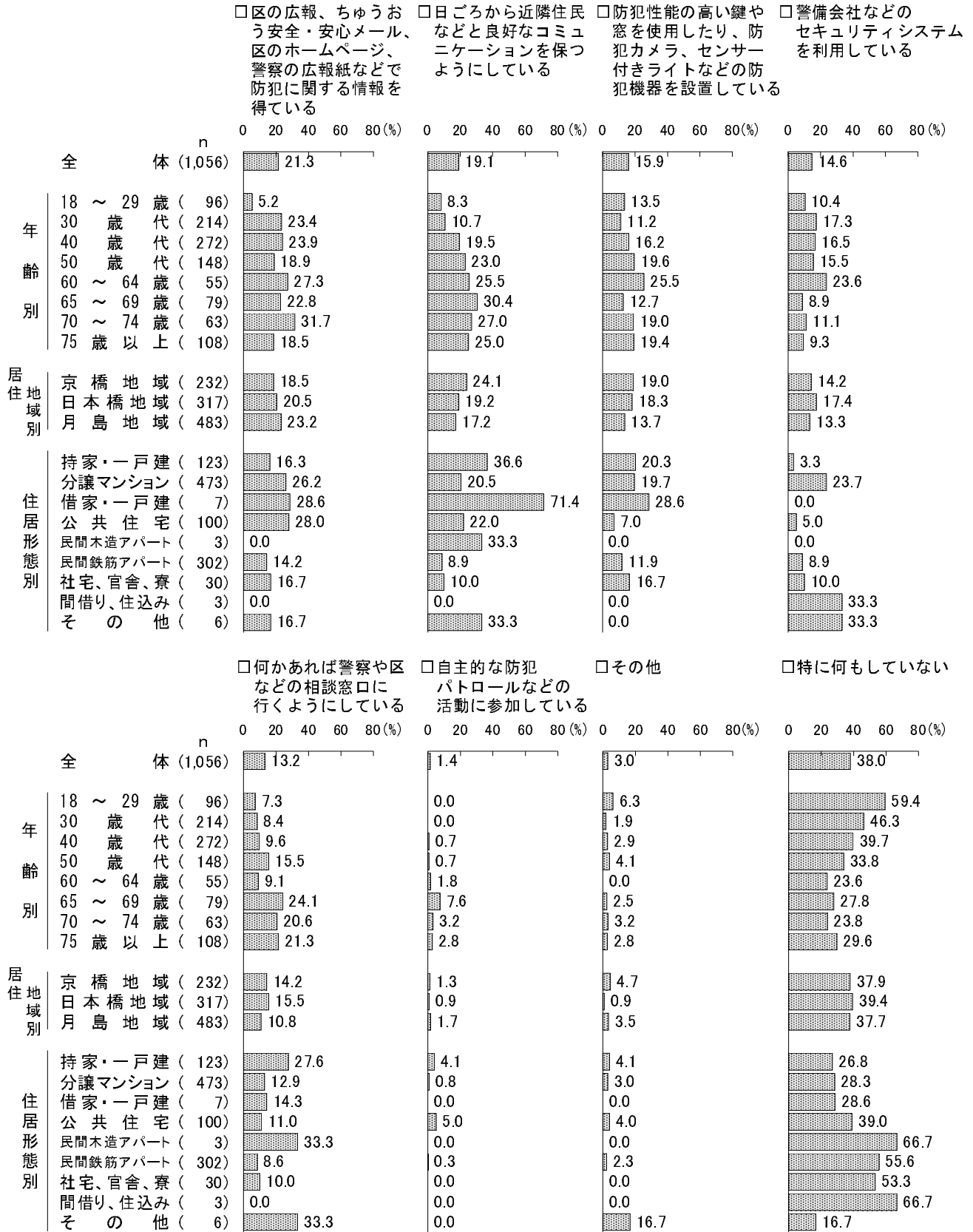
* 「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

年齢別でみると、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」は70～74歳で3割を超えて高くなっている。「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は65～69歳で3割と高くなっている。「特に何もしていない」は18～29歳で約6割と高くなっている。

居住地域別でみると、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は京橋地域で2割台半ばと高くなっている。

住居形態別でみると、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は持家・一戸建てで4割近くと高くなっている。「特に何もしていない」は民間鉄筋アパートで5割台半ばと高くなっている。(図表7-2-3)

図表7-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



(3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が5割近く

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

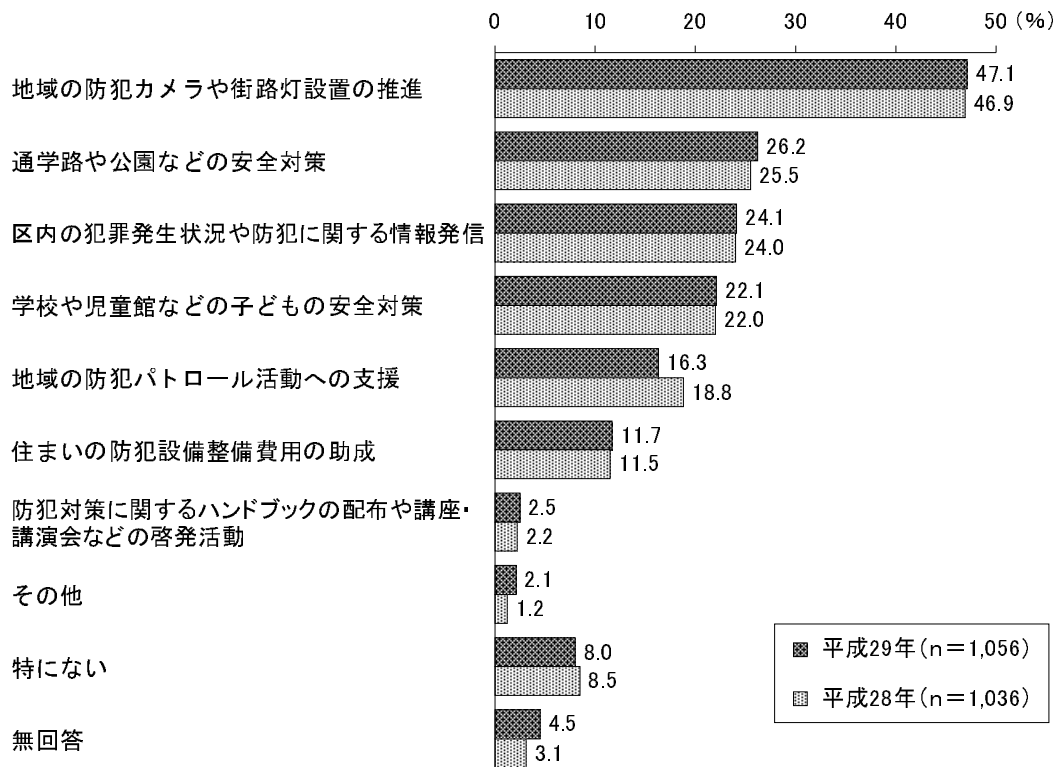
n = 1,056

1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	24.1%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	11.7
3	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	47.1
4	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	2.5
5	学校や児童館などの子どもの安全対策	22.1
6	通学路や公園などの安全対策	26.2
7	地域の防犯パトロール活動への支援	16.3
8	その他	2.1
9	特にない	8.0
	(無回答)	4.5

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(47.1%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(26.2%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(24.1%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(22.1%)、「地域の防犯パトロール活動への支援」(16.3%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「地域の防犯パトロール活動への支援」は2.5ポイント減少している。(図表7-3-1)

図表7-3-1 区に特に力を入れてほしい施策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は平成27年以降最も高い割合となっている。また、「通学路や公園などの安全対策」は平成26年以前は最も高い割合となっており、平成27年以降は2番目に高い割合となっている。(図表7-3-2)

図表 7-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一過年度比較

(%)

調査年	n	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	通学路や公園などの安全対策	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	学校や児童館などの子どもの安全対策	地域の防犯パトロール活動への支援	住まいの防犯設備整備費用の助成	防犯配布活動に関する講座・講演会などの啓発活動	その他	特になし	無回答
平成29年	1,056	47.1	26.2	24.1	22.1	16.3	11.7	2.5	2.1	8.0	4.5
平成28年	1,036	46.9	25.5	24.0	22.0	18.8	11.5	2.2	1.2	8.5	3.1
平成27年	1,027	50.6	30.1	21.3	23.5	22.1	12.8	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	35.8	14.6	22.9	22.4	21.3	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	34.4	14.9	19.5	21.0	23.3	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	38.1	20.7	24.0	28.9	11.0	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	38.6	15.6	24.2	30.8	12.4	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	42.4	14.9	29.3	31.1	10.8	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	39.3	14.5	23.6	28.6	11.4	5.0	7.1	※	9.0

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

* 「地域の防犯パトロール活動への支援」の選択肢は、平成28年では「地域の防犯パトロール活動などへの支援」、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。

* 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。

* 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

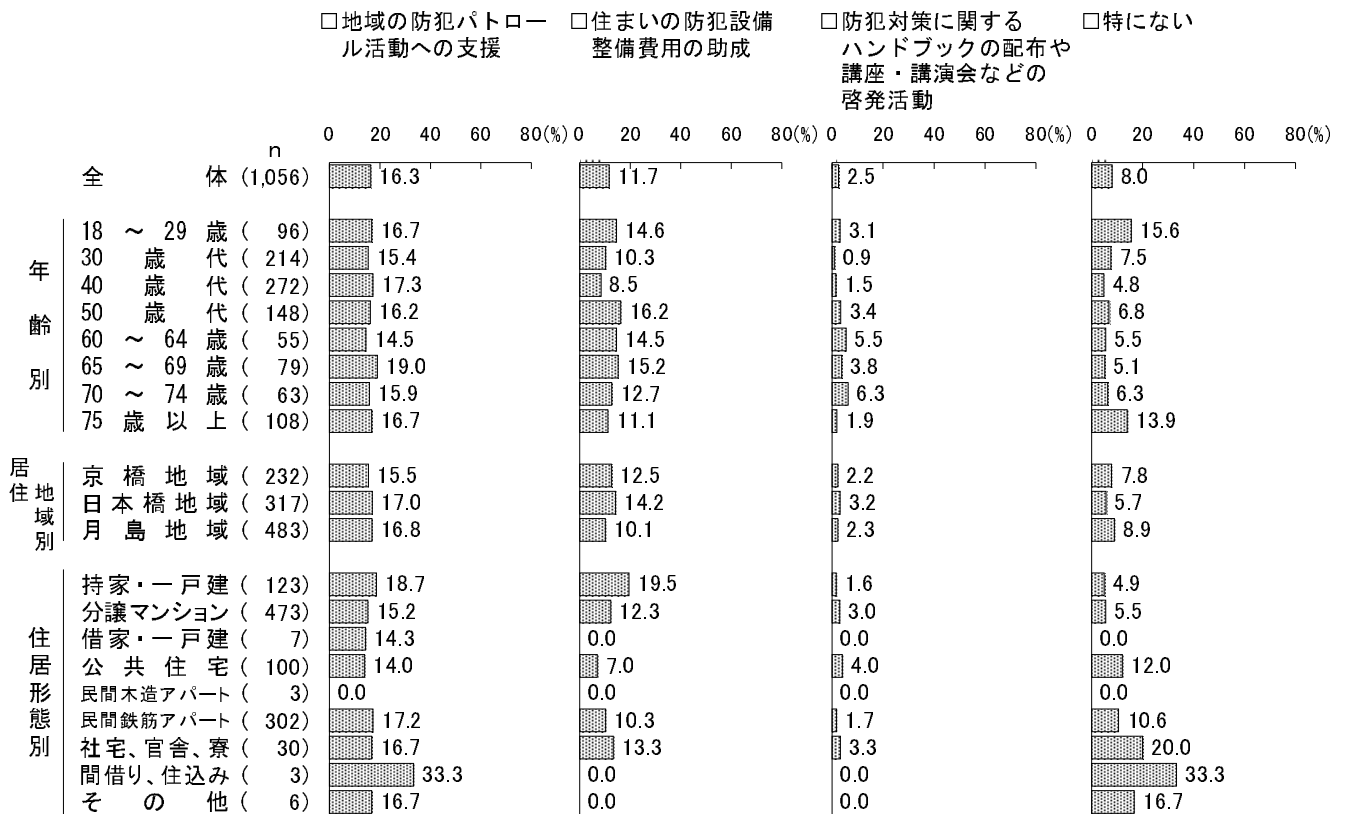
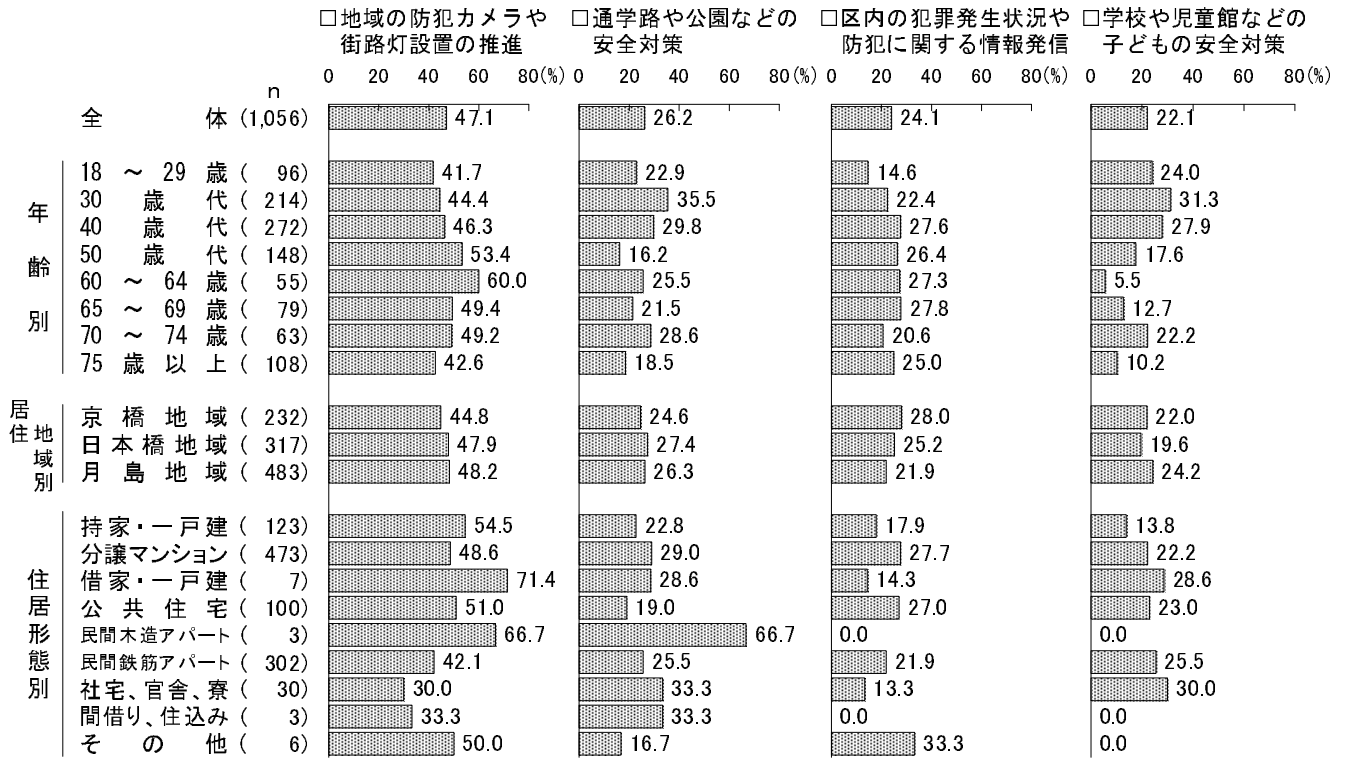
* 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・後援会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

年齢別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は60～64歳で6割と高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は30歳代で3割台半ばと高くなっている。「学校や児童館などの子どもの安全対策」は30歳代で3割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は京橋地域で3割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は持家・一戸建てで5割台半ばと高くなっている。(図表 7-3-3)

図表 7-3-3 区に特に力を入れてほしい施策一年齢別・居住地域別・住居形態別



【8 スポーツ】

(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩」が6割近く

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)
(※) 運動の量や時間の条件はありません。

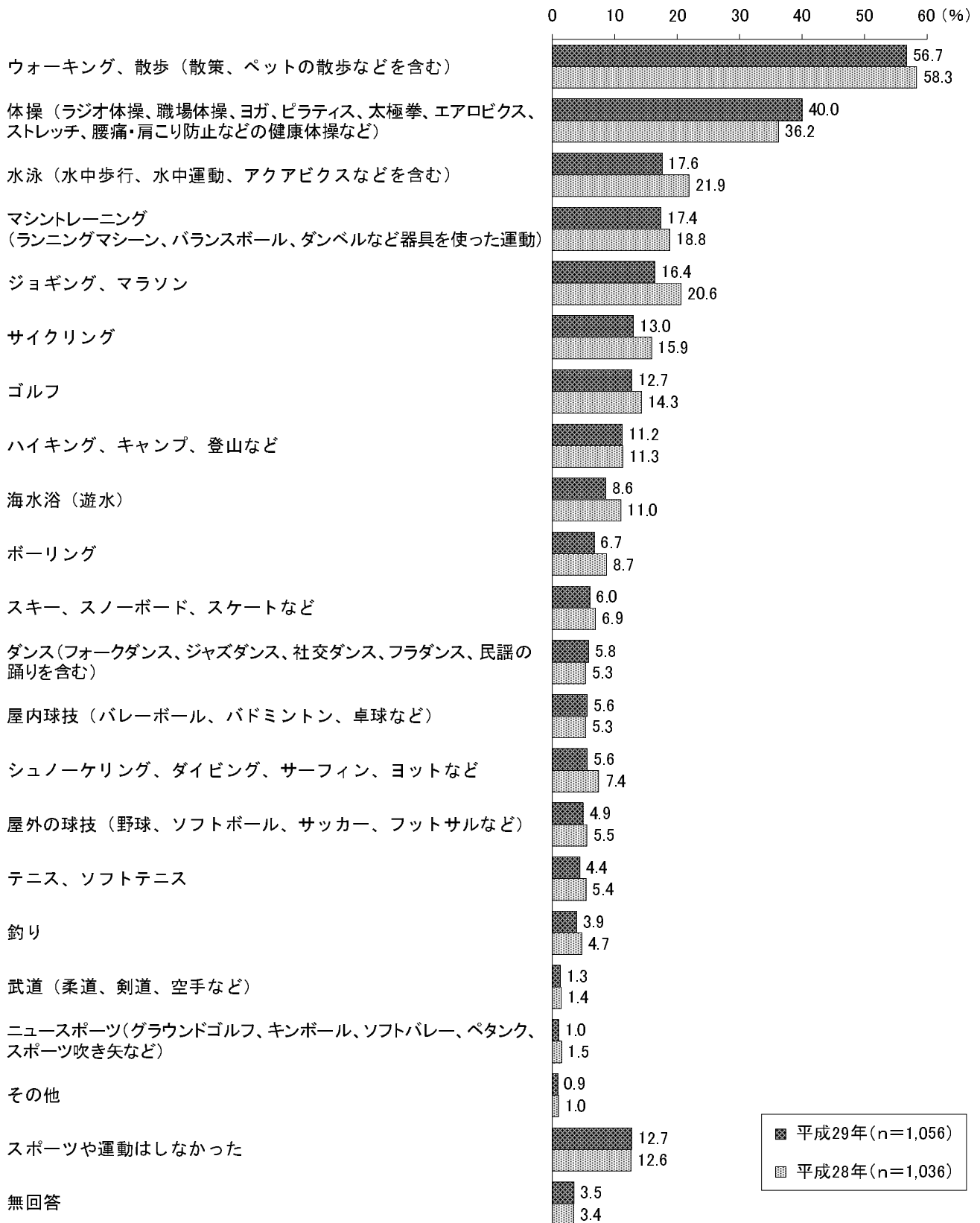
n = 1,056

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	17.6%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	40.0
3	ジョギング、マラソン	16.4
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	56.7
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	17.4
6	武道（柔道、剣道、空手など）	1.3
7	テニス、ソフトテニス	4.4
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	5.6
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	4.9
10	ゴルフ	12.7
11	ハイキング、キャンプ、登山など	11.2
12	スキー、スノーボード、スケートなど	6.0
13	海水浴（遊水）	8.6
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	5.6
15	釣り	3.9
16	ボーリング	6.7
17	サイクリング	13.0
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など）	1.0
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	5.8
20	その他	0.9
21	スポーツや運動はしなかった (無回答)	12.7 3.5

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」(56.7%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」(40.0%)、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」(17.6%)、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」(17.4%)、「ジョギング、マラソン」(16.4%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」は3.8ポイント増加している。一方、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」は4.3ポイント、「ジョギング、マラソン」は4.2ポイント、それぞれ減少している。（図表8-1-1）

図表8-1-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩」と「体操」が引き続き上位2項目となっている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類一過年度比較

(%)

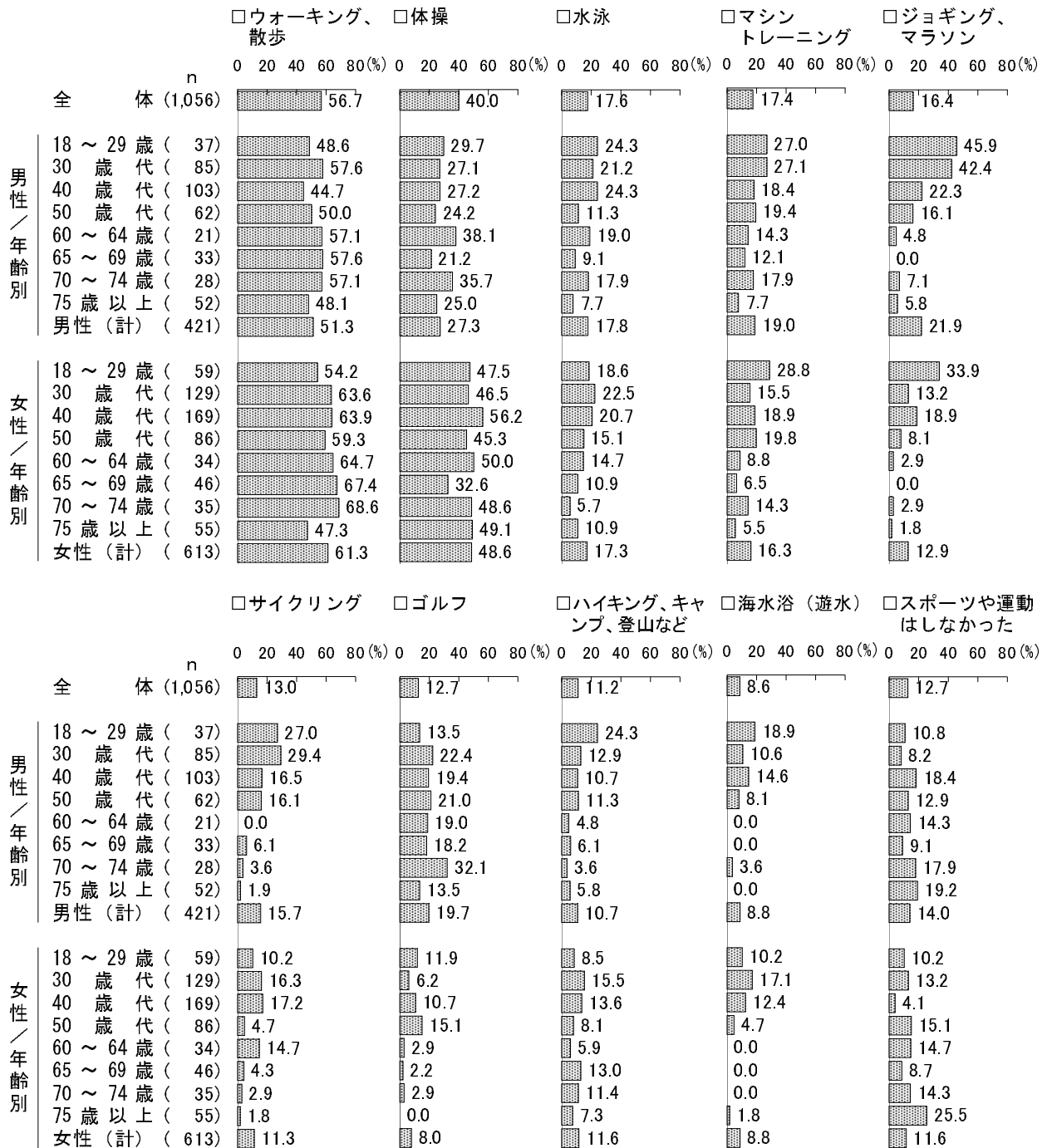
調査年	n	ウォーキング、散歩	体操	水泳	マシントレーニング	ジョギング、マラソン	サイクリング	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	海水浴(遊水)	ボーリング	スキー、スノーボード、スケートなど	ダンス	屋内球技	シノーケリング、ダイビング、サーフィ	屋外の球技	テニス、ソフトテニス	釣り	武道(柔道、剣道、空手など)	ニュースポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
平成29年	1,056	56.7	40.0	17.6	17.4	16.4	13.0	12.7	11.2	8.6	6.7	6.0	5.8	5.6	5.6	4.9	4.4	3.9	1.3	1.0	0.9	12.7	3.5
平成28年	1,036	58.3	36.2	21.9	18.8	20.6	15.9	14.3	11.3	11.0	8.7	6.9	5.3	5.3	7.4	5.5	5.4	4.7	1.4	1.5	1.0	12.6	3.4
平成27年	1,027	50.2	30.0	16.9	14.0	16.8	10.2	15.1	8.3	6.2	4.6	7.4	3.3	3.3	5.1	3.9	3.8	3.1	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	21.3	15.0	17.2	14.6	13.9	11.6	8.5	7.3	7.4	5.0	5.2	3.7	5.2	4.2	4.9	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	20.9	14.3	15.6	12.3	13.0	9.6	7.6	7.1	5.9	5.3	4.8	4.9	5.2	5.3	4.2	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	20.1	9.8	17.7	※	13.2	11.2	※	※	※	※	5.3	※	4.0	4.1	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

性／年齢別でみると、「ウォーキング、散歩」は女性の65～69歳と70～74歳でともに7割近くと高くなっている。「体操」は女性の40歳代で5割台半ばと高くなっている。「ジョギング、マラソン」は男性の18～29歳で4割台半ばと高くなっている。「ゴルフ」は男性の70～74歳で3割を超えて高くなっている。「スポーツや運動はしなかった」は女性の75歳以上で2割台半ばと高くなっている。

(図表 8-1-3)

図表 8-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類
一性／年齢別（上位9項目＋「スポーツや運動はしなかった」）

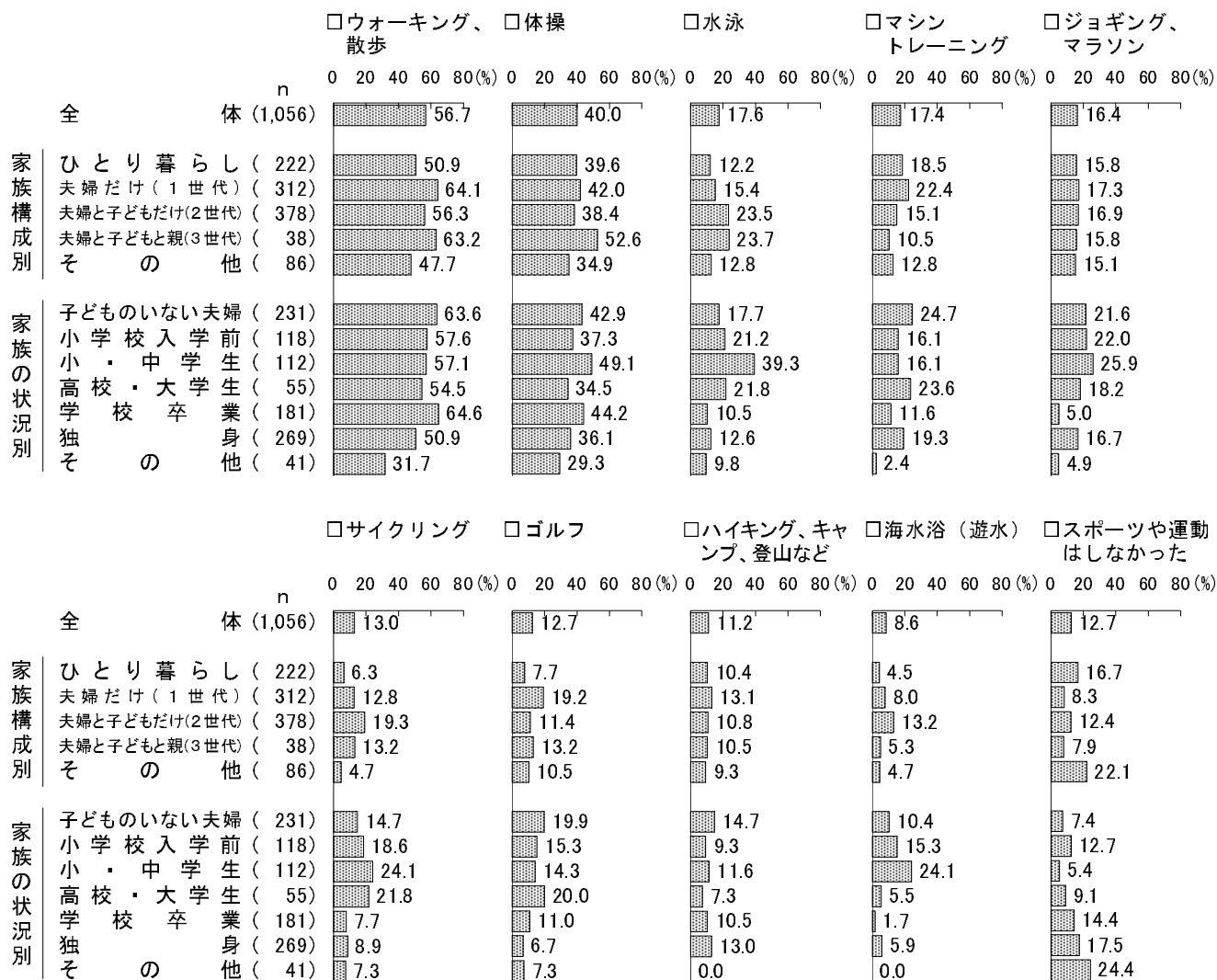


家族構成別でみると、「体操」は夫婦と子どもと親（3世代）で5割を超えて高くなっている。

家族の状況別でみると、「ウォーキング、散歩」が一番上の子どもが学校卒業の家族で6割台半ばと高くなっている。「水泳」が一番上の子どもが小・中学生の家族で約4割と高くなっている。

(図表8-1-4)

図表8-1-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類
—家族構成別・家族の状況別（上位9項目＋「スポーツや運動はしなかった」）



(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が3割台半ば

(問23で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

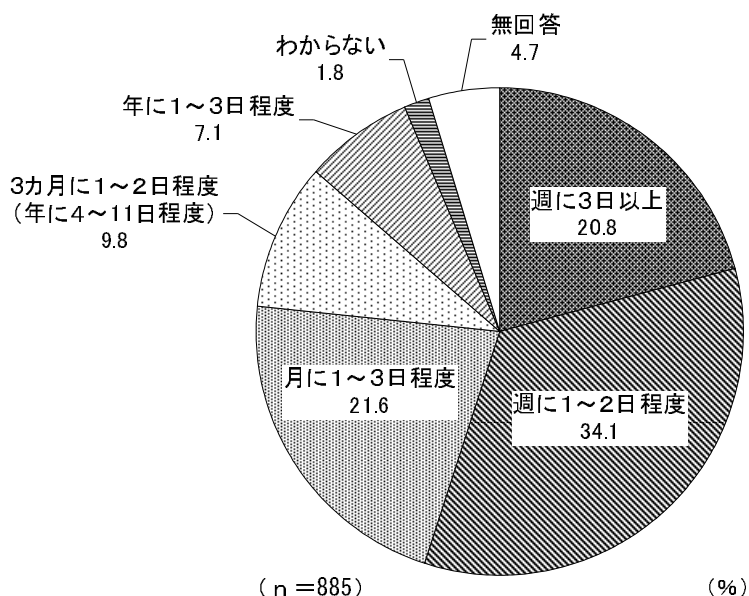
問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 885

1	週に3日以上	20.8%
2	週に1～2日程度	34.1
3	月に1～3日程度	21.6
4	3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)	9.8
5	年に1～3日程度	7.1
6	わからない	1.8
	(無回答)	4.7

問23で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(34.1%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「月に1～3日程度」(21.6%)、「週に3日以上」(20.8%)、「3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)」(9.8%) などとなっている。(図表8-2-1)

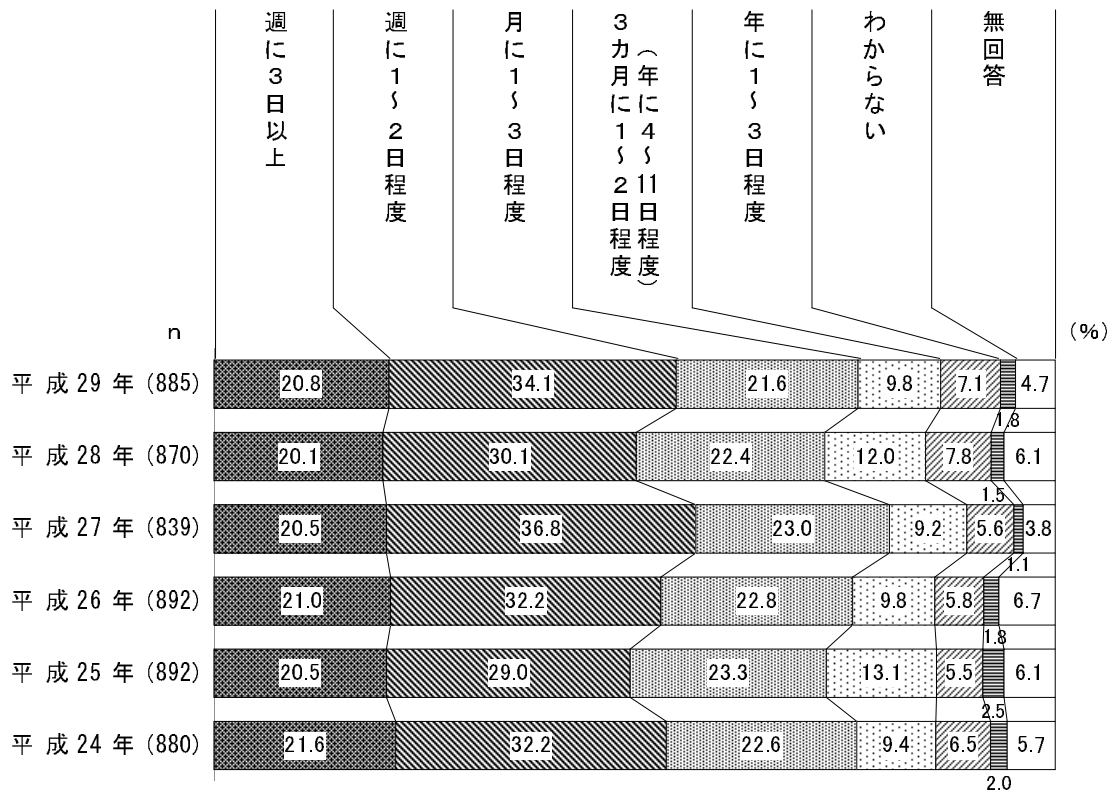
図表8-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



過去の調査結果と比較すると、「週に1～2日程度」は昨年より4.0ポイント増加している。

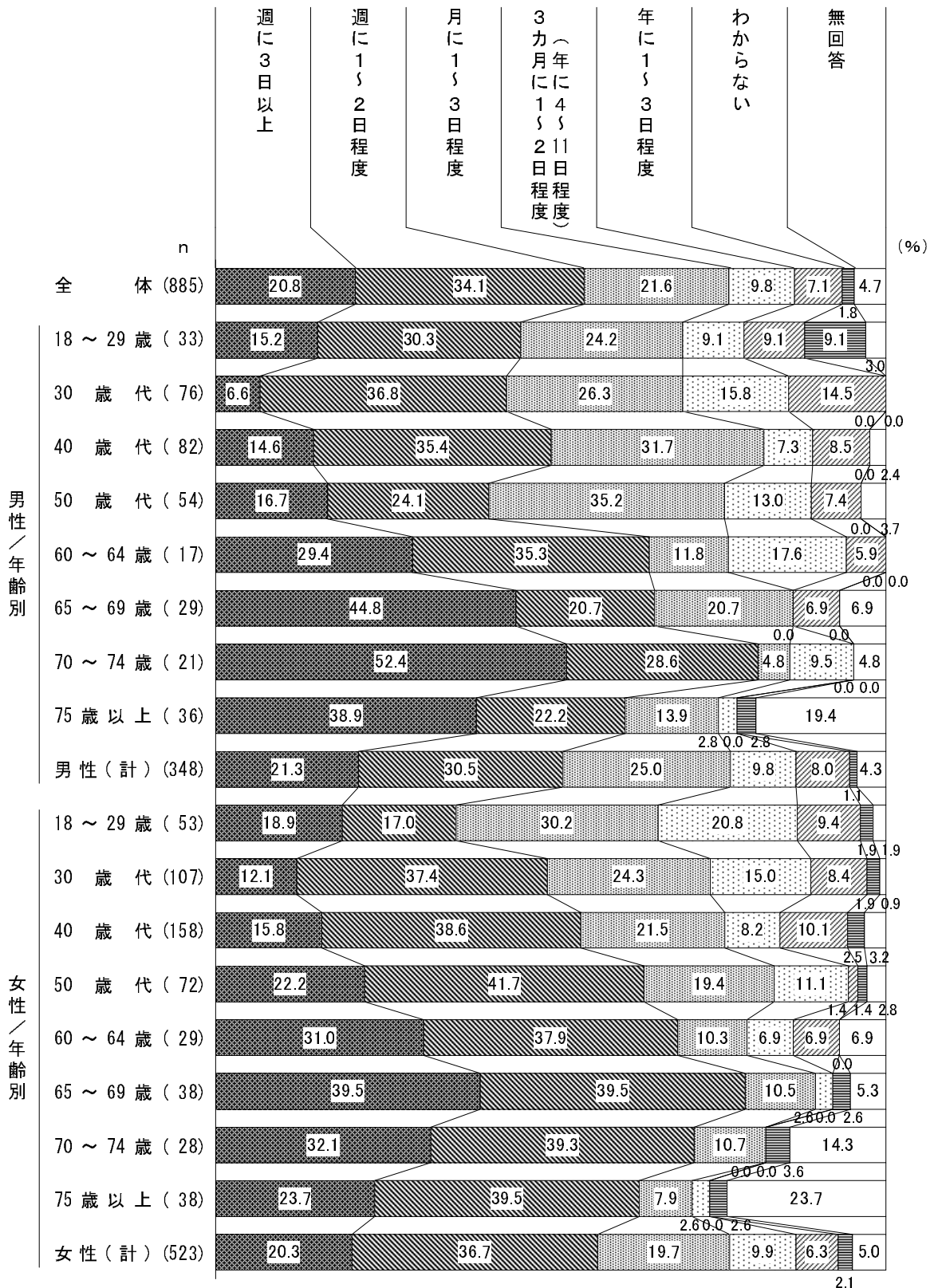
(図表8-2-2)

図表8-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度一過年度比較



性／年齢別でみると、「週に3日以上」は男性の70～74歳で5割を超え、男性の65～69歳で4割台半ばと高くなっている。「週に1～2日程度」は女性の50歳代で4割を超えて高くなっている。「月に1～3日程度」は男性の50歳代で3割台半ばと高くなっている。「3カ月に1～2日程度（年に4～11日程度）」は女性の18～29歳で約2割となっている。（図表8-2-3）

図表8-2-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度—性／年齢別

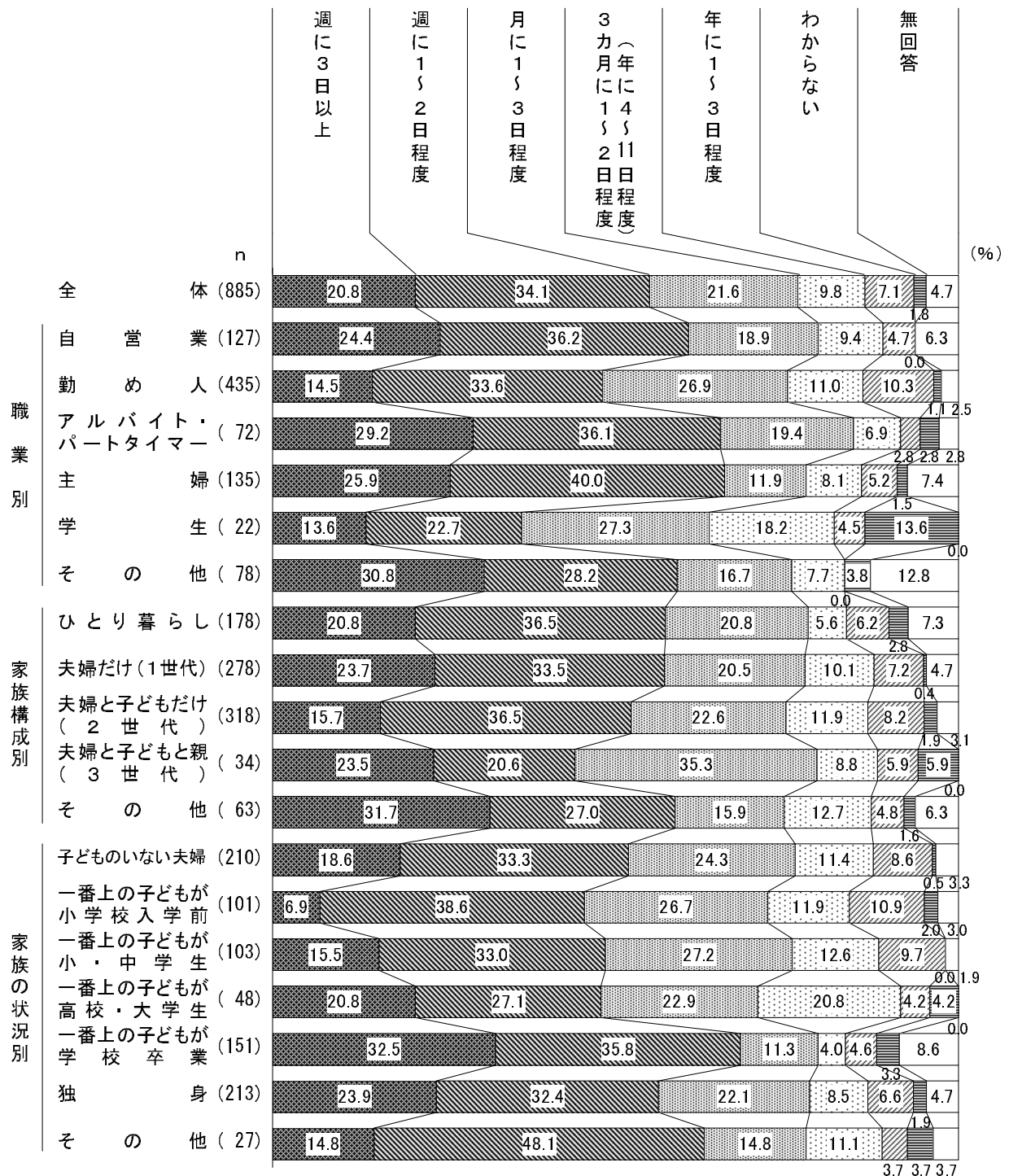


職業別でみると、「週に3日以上」はアルバイト・パートタイマーとその他でともに約3割と高くなっている。「週に1～2日程度」は主婦で4割と高くなっている。

家族構成別でみると、「週に1～2日程度」はひとり暮らしと夫婦と子どもだけ（2世代）でともに4割近くと高くなっている。

家族の状況別でみると、「週に3日以上」が一番上の子どもが学校卒業の家族で3割を超えて高くなっている。「週に1～2日程度」が一番上の子どもが小学校入学前の家族で4割近くと高くなっている。（図表8-2-4）

図表8-2-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－職業別・家族構成別・家族の状況別



(3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと

◇「スポーツ施設の増設・充実」が4割を超える

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は3つまで)

n = 1,056

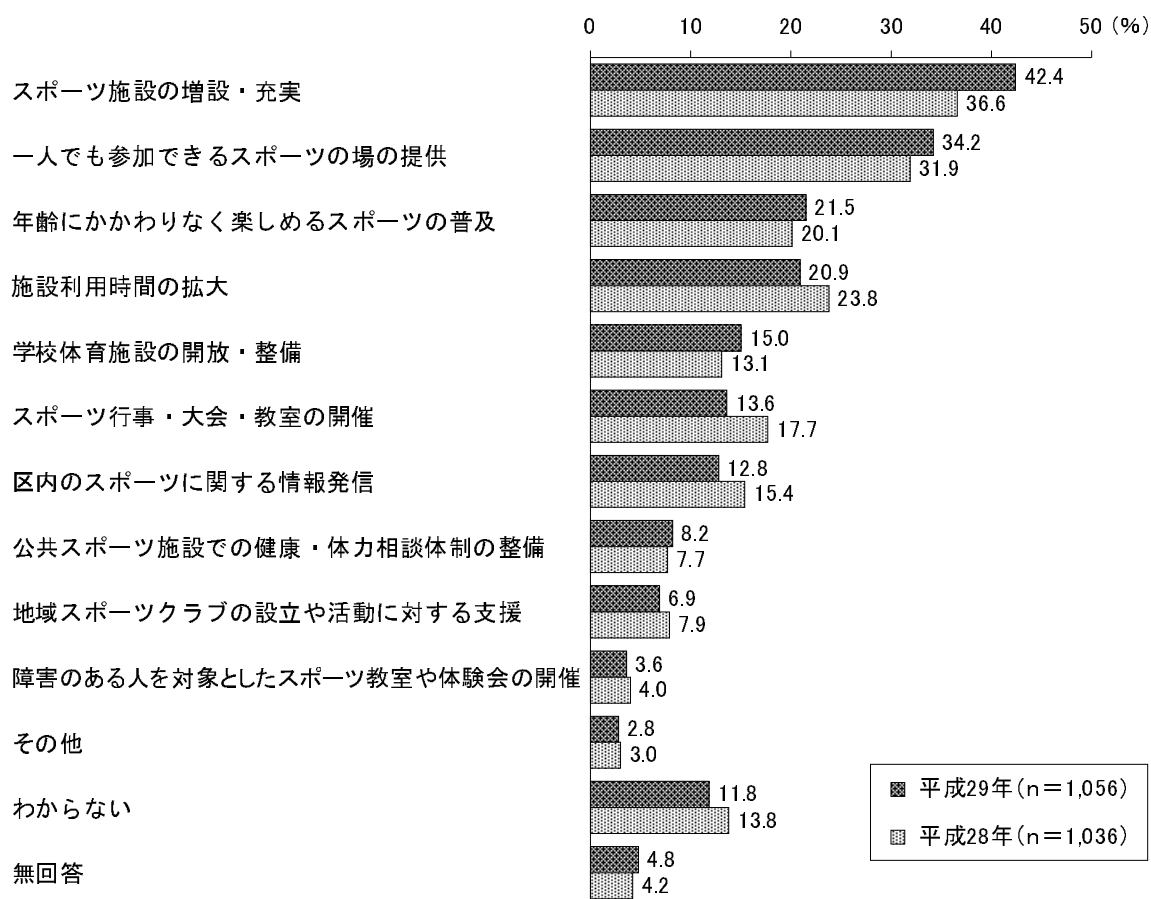
1	スポーツ施設の増設・充実	42.4%
2	学校体育施設の開放・整備	15.0
3	施設利用時間の拡大	20.9
4	スポーツ行事・大会・教室の開催	13.6
5	障害のある人を対象としたスポーツ教室や体験会の開催	3.6
6	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	6.9
7	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	21.5
8	一人でも参加できるスポーツの場の提供	34.2
9	公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備	8.2
10	区内のスポーツに関する情報発信	12.8
11	その他	2.8
12	わからない	11.8
	(無回答)	4.8

(※) 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことは、「スポーツ施設の増設・充実」(42.4%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」(34.2%)、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」(21.5%)、「施設利用時間の拡大」(20.9%)、「学校体育施設の開放・整備」(15.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「スポーツ施設の増設・充実」は5.8ポイント増加している。一方、「スポーツ行事・大会・教室の開催」は4.1ポイント減少している。(図表8-3-1)

図表 8-3-1 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「スポーツ施設の増設・充実」、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」、「施設利用時間の拡大」が引き続き上位4項目となっている。（図表 8-3-2）

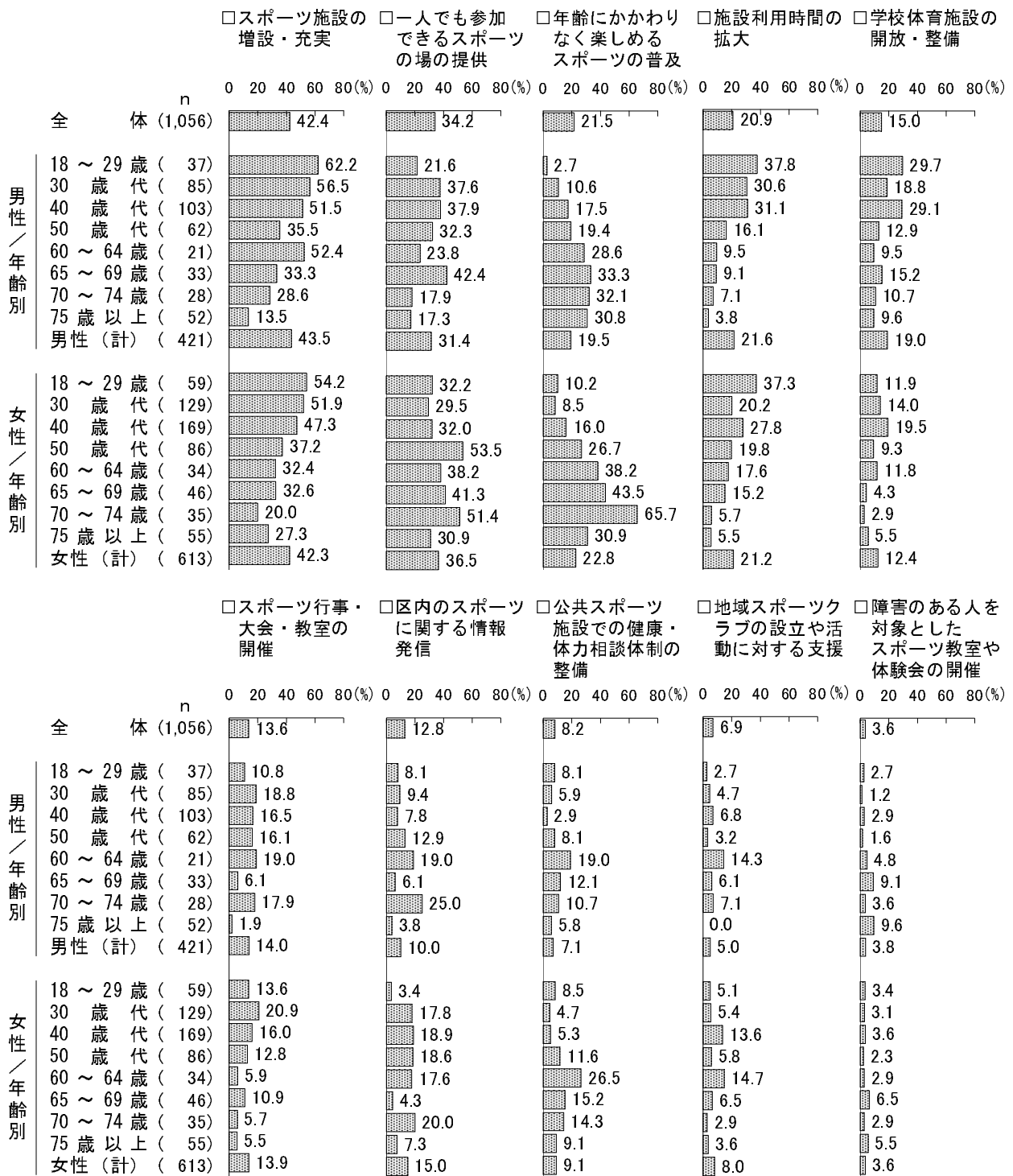
図表 8-3-2 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと一過年度比較

調査年	n	スポーツ施設の増設・充実	一人でも参加できるスポーツの場の提供	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	施設利用時間の拡大	学校体育施設の開放・整備	スポーツ行事・大会・教室の開催	区内のスポーツに関する情報発信	公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	障害のある人を対象とした体験会の開催	その他	わからない	無回答
平成29年	1,056	42.4	34.2	21.5	20.9	15.0	13.6	12.8	8.2	6.9	3.6	2.8	11.8	4.8
平成28年	1,036	36.6	31.9	20.1	23.8	13.1	17.7	15.4	7.7	7.9	4.0	3.0	13.8	4.2
平成27年	1,027	44.4	31.5	21.1	23.1	14.2	12.4	13.7	8.7	7.6	2.1	3.9	11.6	4.5
平成26年	1,041	43.1	32.6	22.4	24.0	13.7	13.9	11.5	8.6	8.3	2.3	4.6	11.0	3.9
平成25年	1,047	44.8	31.6	22.5	26.1	14.6	12.3	11.3	8.4	9.6	2.1	3.2	10.3	5.3
平成24年	1,123	44.3	30.9	20.7	20.7	12.4	11.4	11.2	9.8	※	※	3.3	11.4	5.3

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

性／年齢別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」は男性の18～29歳で6割を超えて高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」は女性の50歳代と70～74歳でともに5割を超えて高くなっている。「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」は女性の70～74歳で6割台半ばと高くなっている。「施設利用時間の拡大」は男女ともに18～29歳で4割近くと高くなっている。「施設利用時間の拡大」は男女ともに18～29歳で4割近くと高くなっている。(図表8-3-3)

図表8-3-3 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと一性／年齢別（上位10項目）

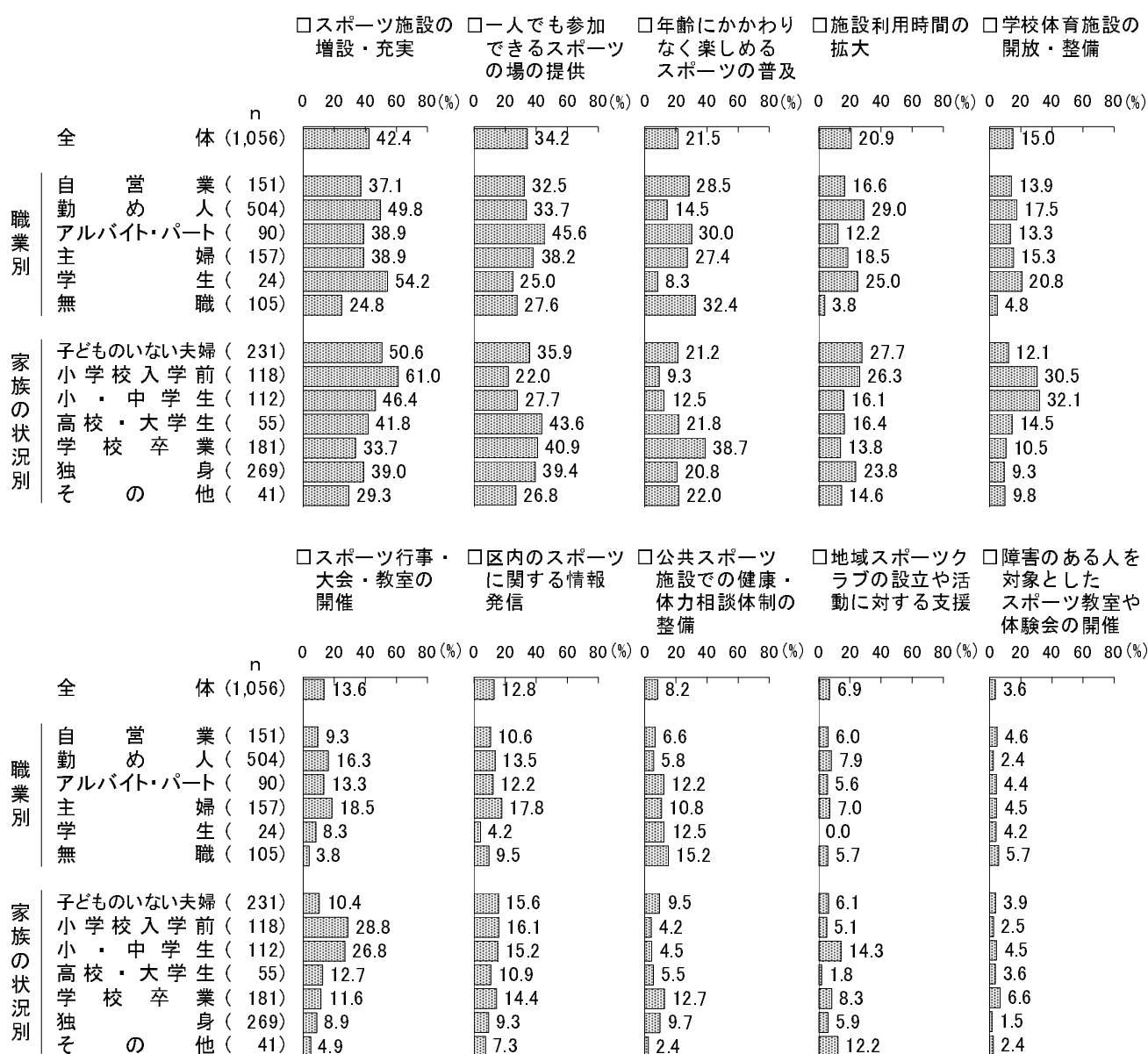


職業別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」は学生で5割台半ばと高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」はアルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。「施設利用時間の拡大」は勤め人で約3割と高くなっている。

家族の状況別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」が一番上の子どもが小学校入学前の家族で6割を超えて高くなっている。「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」が一番上の子どもが学校卒業の家族で4割近くと高くなっている。「スポーツ行事・大会・教室の開催」が一番上の子どもが小学校入学前の家族と小・中学生の家族でともに3割近くと高くなっている。

(図表 8-3-4)

図表 8-3-4 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことー職業別・家族の状況別 (上位10項目)



【9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会】

(1) 大会への思い

◇『大会への期待』が6割台半ば

問25 東京2020大会が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。

(○は1つ)

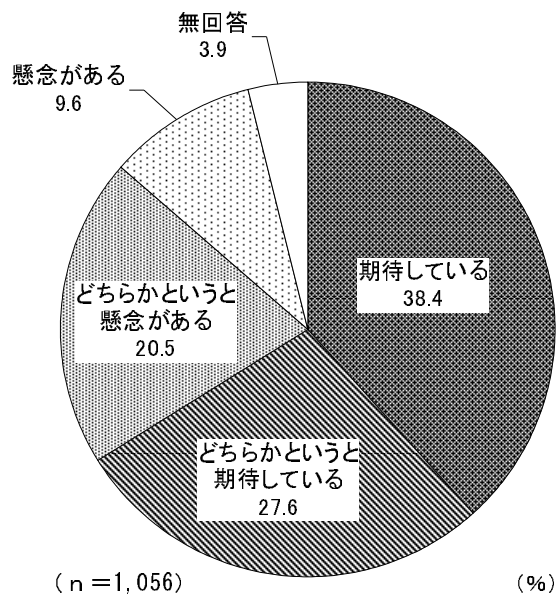
n = 1,056

1	期待している	38.4%	3	どちらかというと懸念がある	20.5
2	どちらかというと期待している	27.6	4	懸念がある	9.6
				(無回答)	3.9

大会への期待度は、「期待している」(38.4%)が最も高くなっており、「どちらかというと期待している」(27.6%)と合わせた『大会への期待』(66.0%)が6割台半ばとなっている。

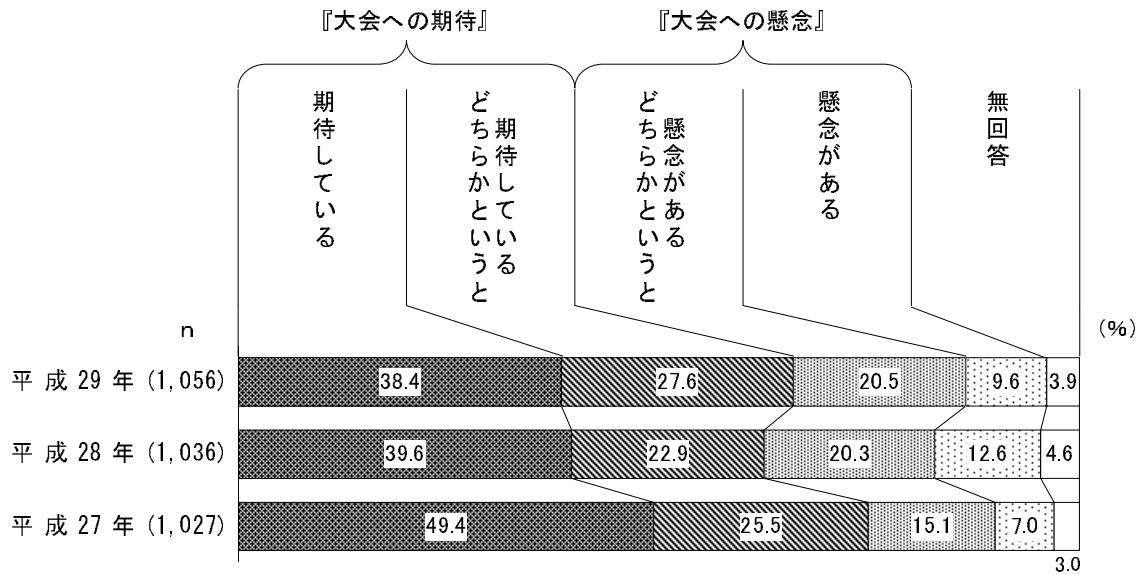
一方、「どちらかというと懸念がある」(20.5%)と「懸念がある」(9.6%)を合わせた『大会への懸念』(30.1%)は3割となっている。(図表9-1-1)

図表9-1-1 大会への思い



過去の調査結果と比較すると、『大会への期待』は昨年より3.5ポイント増加している。一方、『大会への懸念』は昨年より2.8ポイント減少している。(図表9-1-2)

図表9-1-2 大会への思い—過年度比較

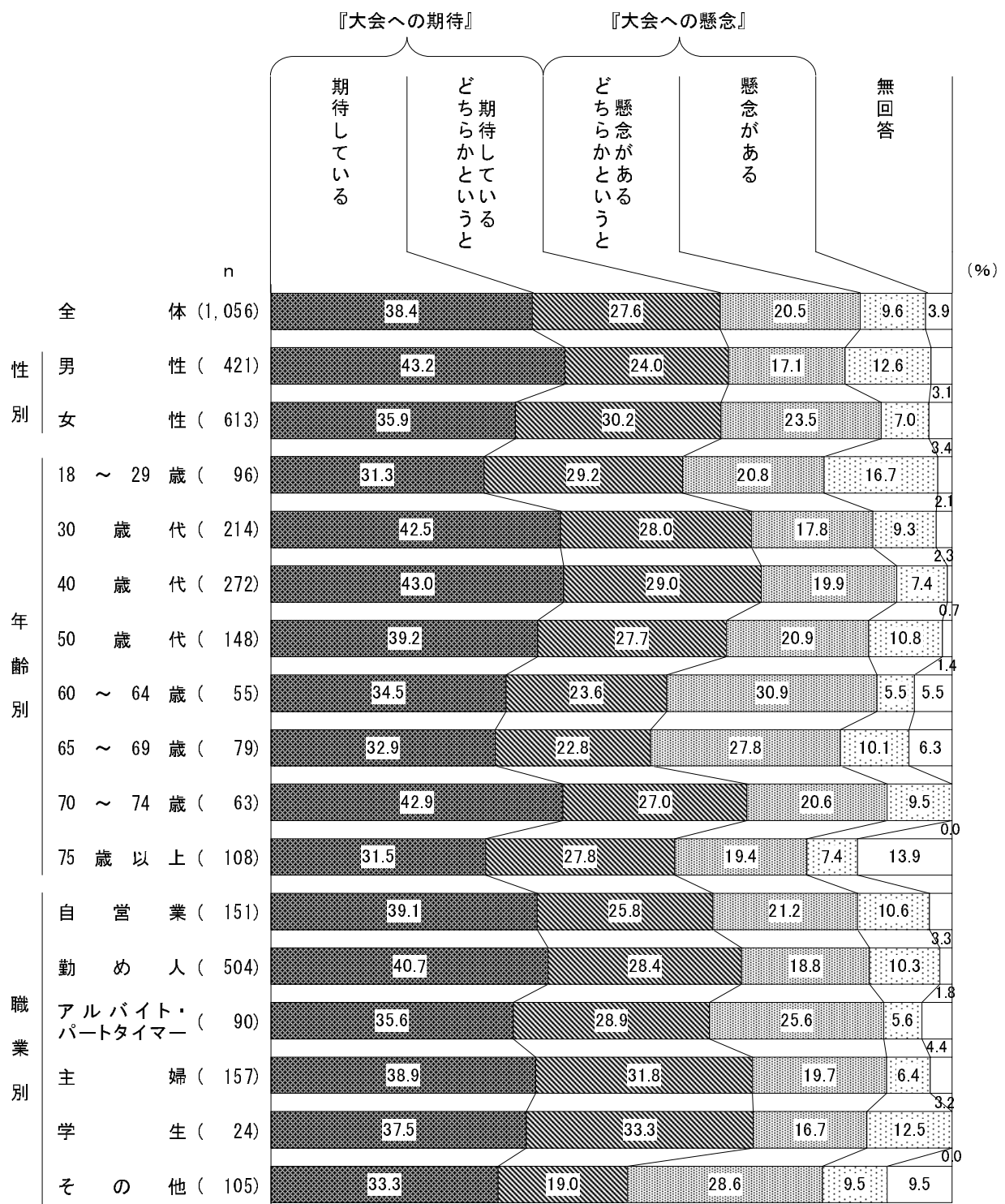


性別でみると、「期待している」は男性の方が女性よりも7.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『大会への期待』は40歳代で7割を超えて高くなっている。一方、『大会への懸念』は18～29歳と65～69歳でともに4割近くと高くなっている。

職業別でみると、『大会への期待』は勤め人と主婦、学生でいずれも約7割と高くなっている。一方、『大会への懸念』はその他で4割近くと高くなっている。(図表9-1-3)

図表9-1-3 大会への思い—性別・年齢別・職業別



(2) 大会の開催に伴い期待していること

◇「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）」が3割を超える

問26 東京2020大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。(〇は3つまで)

n = 1,056

1	スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など）	17.8%
2	健康づくりの推進	9.2
3	外国人との交流機会の増加	21.3
4	学校における国際教育等の推進	14.5
5	障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進	17.9
6	ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化	15.3
7	地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上	19.1
8	五輪関連投資や消費増などによる経済活性化	26.6
9	防犯・防災対策の強化	26.5
10	幹線道路や公共交通の整備促進(道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など)	31.0
11	外国人が円滑に移動できる多言語対応の取り組み	9.6
12	環境にやさしいまちづくりの推進（コミュニティサイクルの導入など）	17.4
13	その他	2.7
	(無回答)	7.4

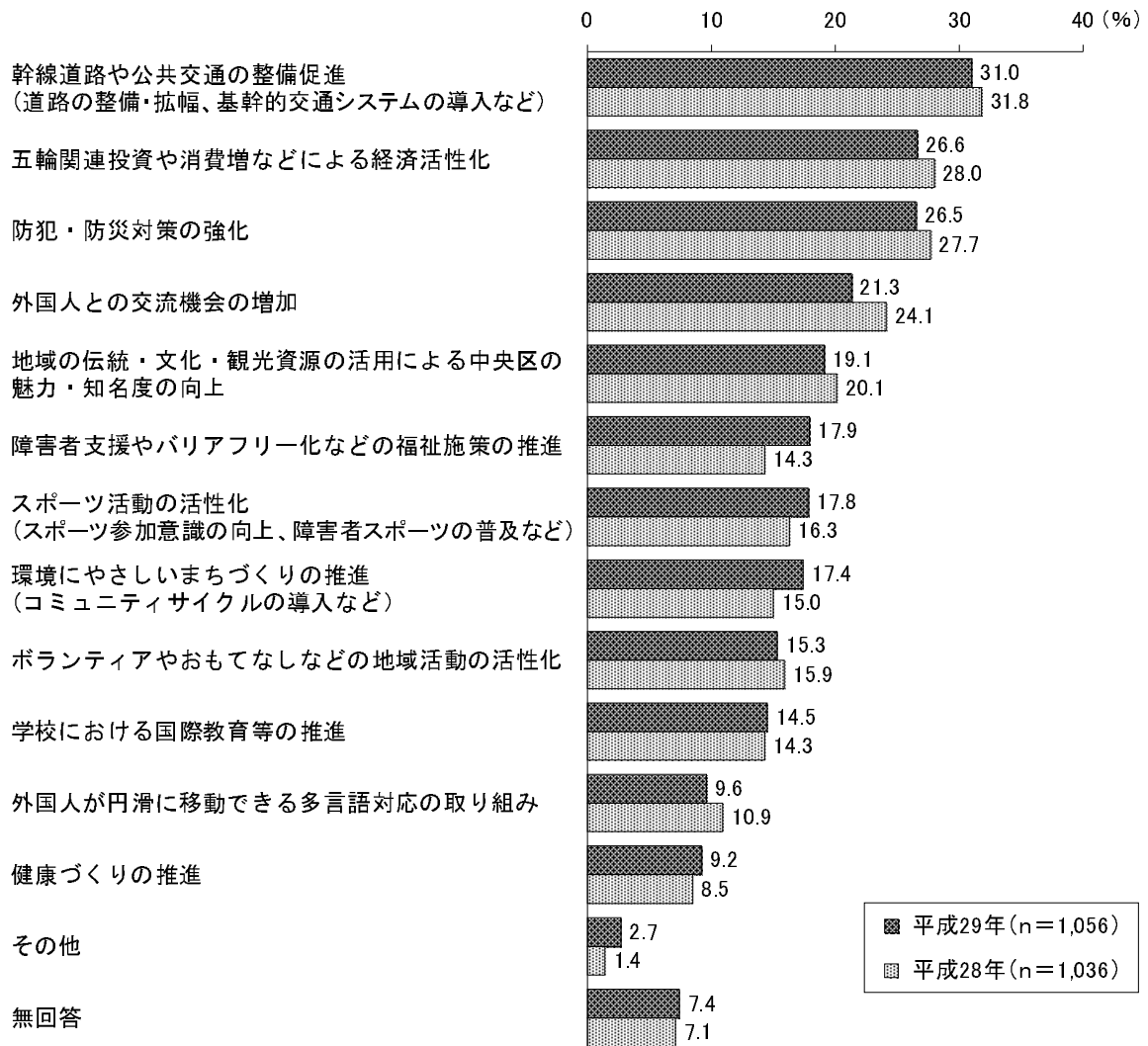
(※) コミュニティサイクル 貸出・返却のための拠点（サイクルポート）を複数設置し、どのサイクルポートでも自転車を借りられ、返却できるネットワーク型のレンタサイクルです。

大会の開催に伴い期待していることは、「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）」(31.0%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「五輪関連投資や消費増などによる経済活性化」(26.6%)、「防犯・防災対策の強化」(26.5%)、「外国人との交流機会の増加」(21.3%)、「地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上」(19.1%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進」は3.6ポイント増加している。一方、「外国人との交流機会の増加」は2.8ポイント減少している。

(図表 9-2-1)

図表 9-2-1 大会の開催に伴い期待していること（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）」、「五輪関連投資や消費増などによる経済活性化」、「防犯・防災対策の強化」、「外国人との交流機会の増加」が引き続き上位4項目となっている。（図表9-2-2）

図表9-2-2 大会の開催に伴い期待していること一過年度比較

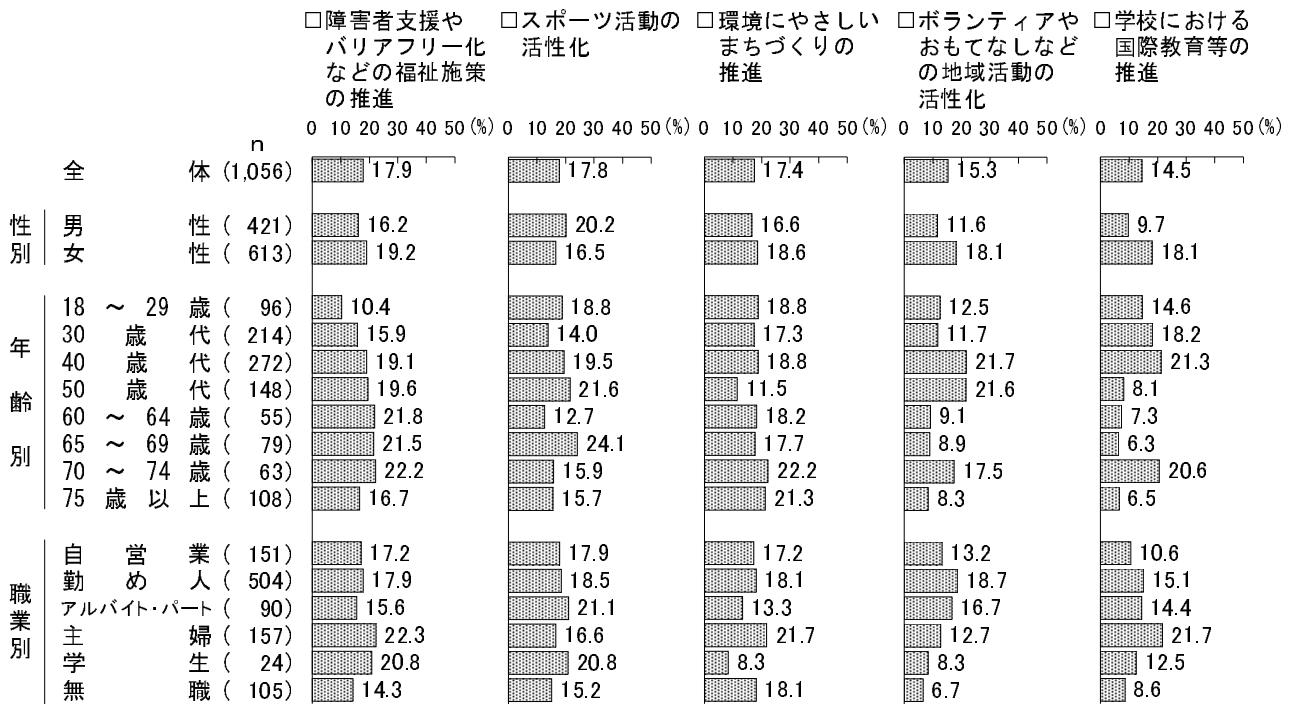
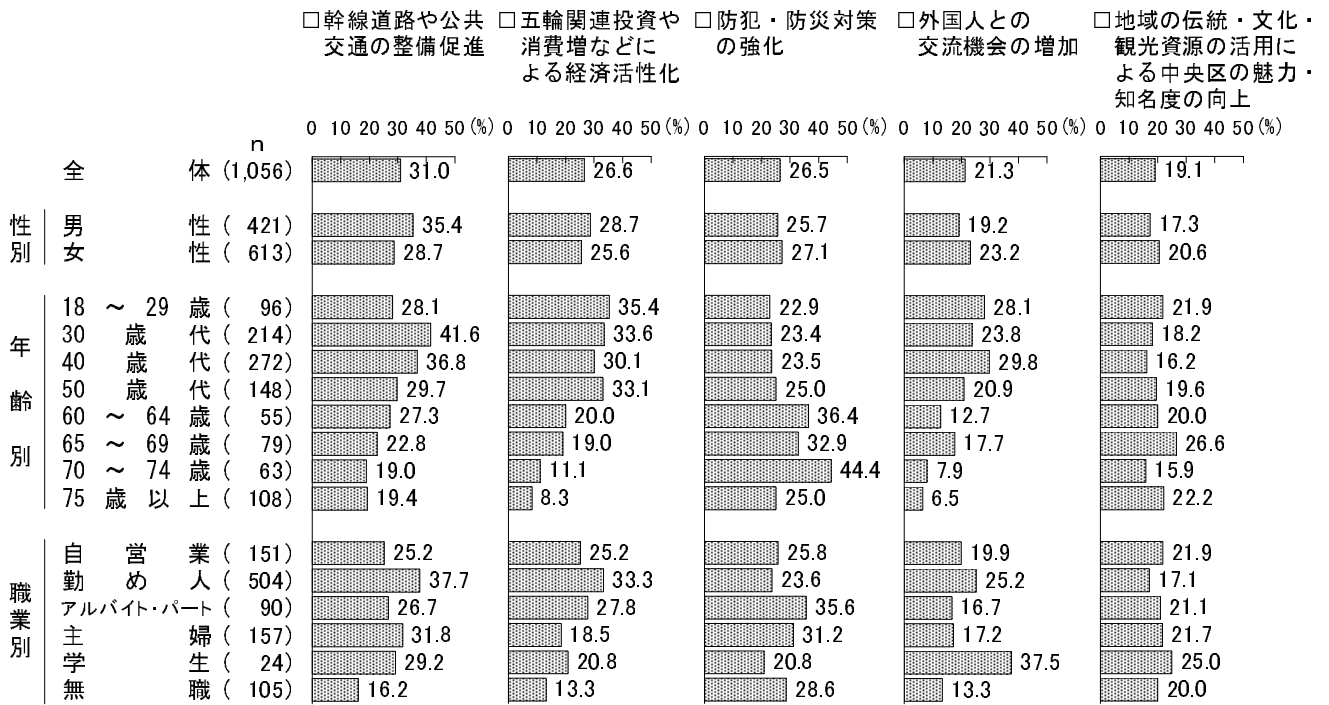
調査年	n	(%)													
		幹線・拡幅、基幹的交通システムの整備促進（道路の整備）	五輪関連投資や消費増などによる経済活性化	防犯・防災対策の強化	外国人との交流機会の増加	中央区の魅力・知名度の向上 地域の伝統・文化・観光資源の活用による	障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進	スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など）	環境にやさしいまちづくりの推進	ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化	学校における国際教育等の推進	外国人が円滑に移動できる多言語対応の取り組み	健康づくりの推進	その他	無回答
平成29年	1,056	31.0	26.6	26.5	21.3	19.1	17.9	17.8	17.4	15.3	14.5	9.6	9.2	2.7	7.4
平成28年	1,036	31.8	28.0	27.7	24.1	20.1	14.3	16.3	15.0	15.9	14.3	10.9	8.5	1.4	7.1
平成27年	1,027	33.1	30.7	25.7	26.7	21.8	14.6	18.3	17.1	14.7	18.1	8.9	10.3	2.5	5.3

性別でみると、「幹線道路や公共交通の整備促進」は男性の方が女性よりも6.7ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「学校における国際教育等の推進」で8.4ポイント、「ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化」で6.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「幹線道路や公共交通の整備促進」は30歳代で4割を超えて高くなっている。「五輪関連投資や消費増などによる経済活性化」は18～29歳で3割台半ばと高くなっている。「防犯・防災対策の強化」は70～74歳で4割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「幹線道路や公共交通の整備促進」は勤め人で4割近くと高くなっている。「外国人との交流機会の増加」は学生で4割近くと高くなっている。（図表9-2-3）

図表9-2-3 大会の開催に伴い期待していることー性別・年齢別・職業別（上位10項目）



(3) 大会の開催に伴い懸念していること

◇「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」が7割を超える

問27 東京2020大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。(〇は3つまで)

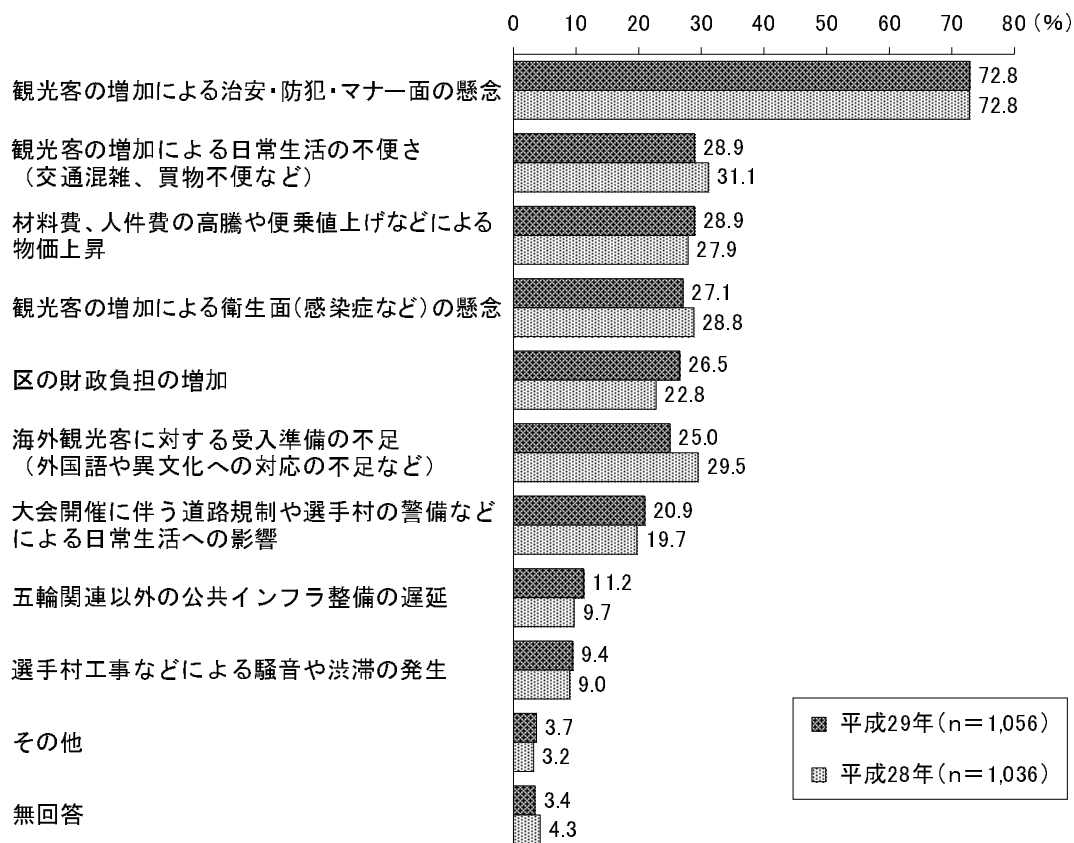
n = 1,056

1	海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など）	25.0%
2	観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）	28.9
3	観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念	72.8
4	観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念	27.1
5	大会開催に伴う道路規制や選手村の警備などによる日常生活への影響	20.9
6	選手村工事などによる騒音や渋滞の発生	9.4
7	五輪関連以外の公共インフラ整備の遅延	11.2
8	材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇	28.9
9	区の財政負担の増加	26.5
10	その他	3.7
	（無回答）	3.4

大会の開催に伴い懸念していることは、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」(72.8%) が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)」(28.9%)、「材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇」(28.9%)、「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」(27.1%)、「区の財政負担の増加」(26.5%) などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区の財政負担の増加」は3.7ポイント増加している。一方、「海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など）」は4.5ポイント減少している。（図表9-3-1）

図表9-3-1 大会の開催に伴い懸念していること（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」が第1位となっている傾向に変化はみられない。

(図表9-3-2)

図表9-3-2 大会の開催に伴い懸念していること一過年度比較

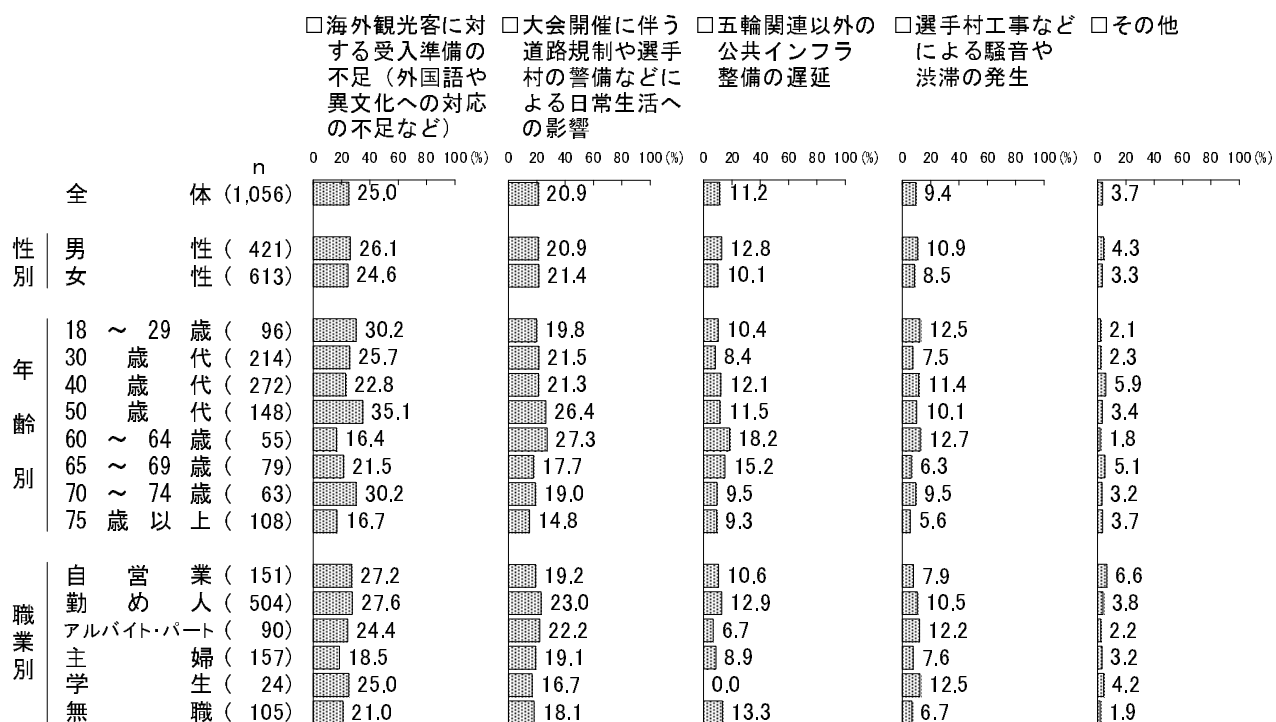
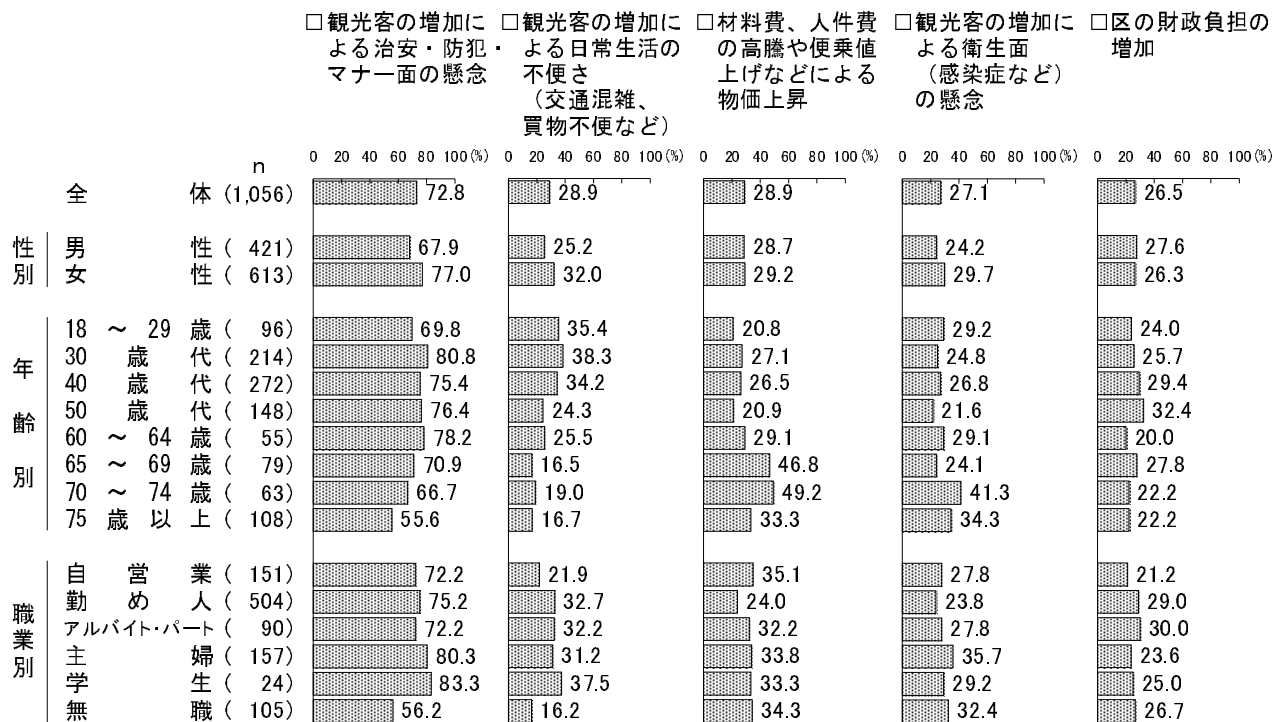
調査年	n	(%)										
		観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念	観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)	材料値上げなどによる物価上昇	観光客の増加による衛生面(感染症など)	区の財政負担の増加	海外観光客に対する受入準備への対応不足(外国語や異文化への対応不足など)	大会開催に伴う生活への影響(警備などによる規制や選	五輪関連の遅延以外の公共インフラ	選手村工事などによる騒音や	その他	無回答
平成29年	1,056	72.8	28.9	28.9	27.1	26.5	25.0	20.9	11.2	9.4	3.7	3.4
平成28年	1,036	72.8	31.1	27.9	28.8	22.8	29.5	19.7	9.7	9.0	3.2	4.3
平成27年	1,027	68.5	31.0	32.2	29.8	22.2	24.3	19.9	10.1	11.0	4.3	4.1

性別で見ると、女性の方が男性よりも「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」で9.1ポイント、「観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)」で6.8ポイント、「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」で5.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、「観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)」は30歳代で4割近くと高くなっている。「材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇」は70～74歳で約5割と高くなっている。「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」は70～74歳で4割を超えて高くなっている。

職業別で見ると、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」は学生で8割を超えて高くなっている。(図表9-3-3)

図表 9-3-3 大会の開催に伴い懸念していることー性別・年齢別・職業別



【10 環境問題】

(1) 環境問題への関心

◇『関心がある』が9割近く

問28 近年、平均気温の上昇や局地的な大雨など、地球規模での環境問題が深刻化しています。あなたは環境問題に関心がありますか。(○は1つ)

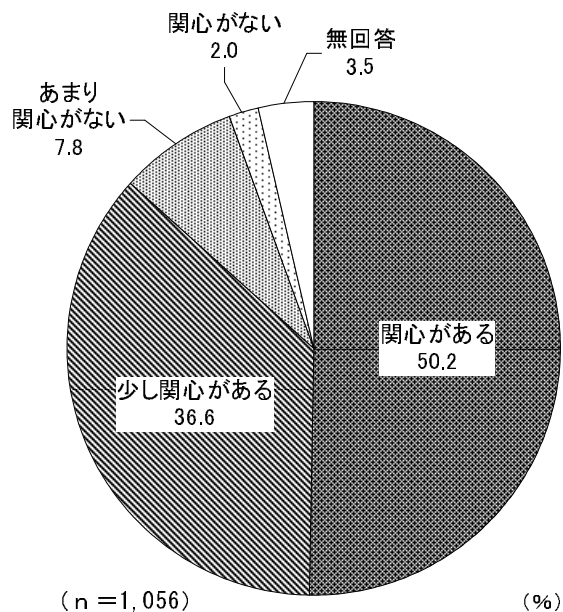
n = 1,056

1 関心がある	50.2%	3 あまり関心がない	7.8
2 少し関心がある	36.6	4 関心がない	2.0
		(無回答)	3.5

環境問題への関心は、「関心がある」(50.2%)が最も高くなっており、「少し関心がある」(36.6%)と合わせた『関心がある』(86.8%)が9割近くとなっている。

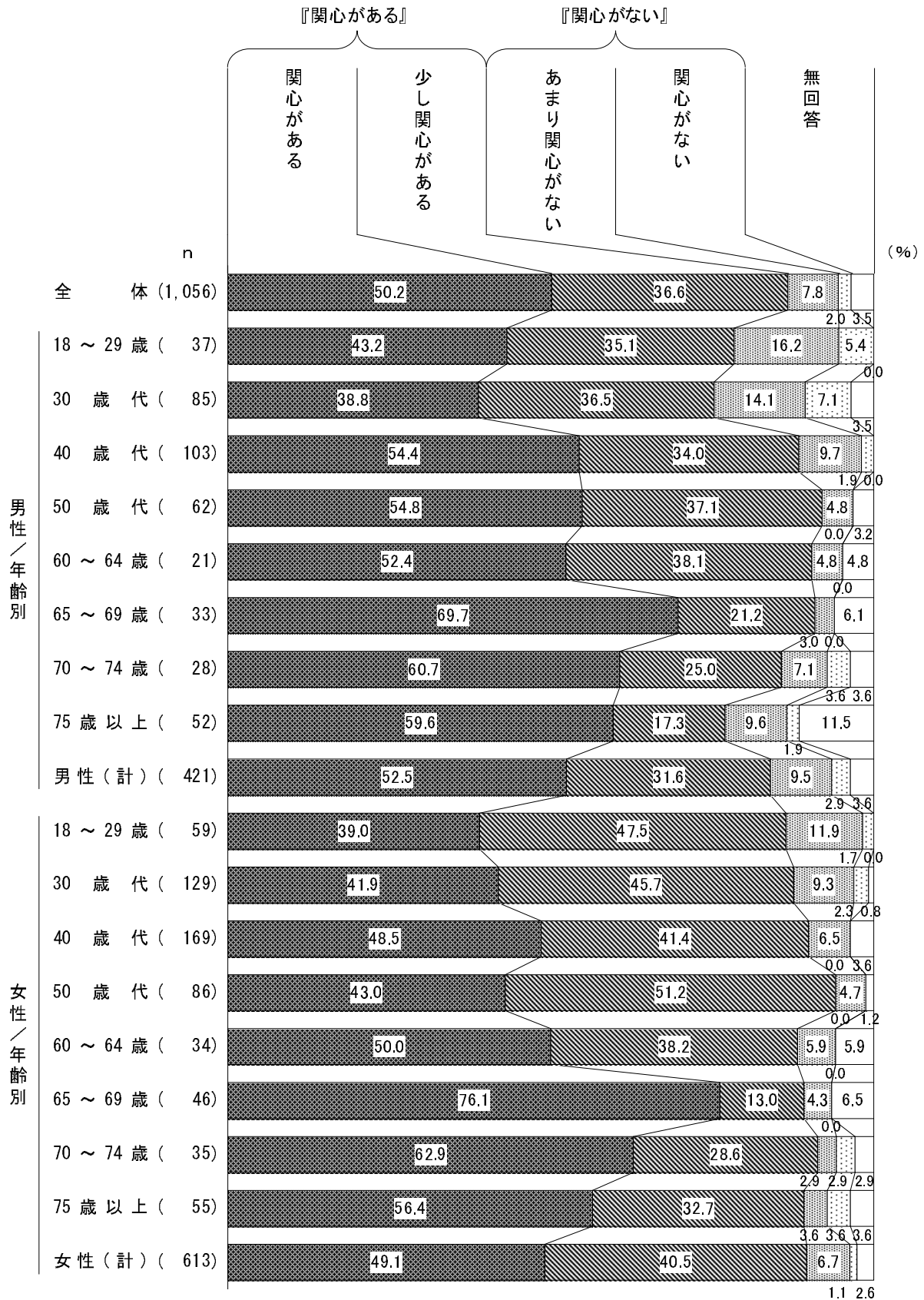
一方、「あまり関心がない」(7.8%)と「関心がない」(2.0%)を合わせた『関心がない』(9.8%)は1割となっている。(図表10-1-1)

図表10-1-1 環境問題への関心



性／年齢別でみると、「関心がある」は女性の65～69歳で7割台半ば、男性の65～69歳で7割と高くなっている。一方、『関心がない』は男性の18～29歳と30歳代でともに2割を超えて高くなっている。(図表10-1-2)

図表10-1-2 環境問題への関心—性／年齢別



(2) 地域での環境活動への参加意向

◇「興味や関心があるので、機会があれば、参加してみたい」が4割近く

問29 あなたは、地域での環境活動に参加したいと思いますか。(〇は1つ)

※ 地域での環境活動の例

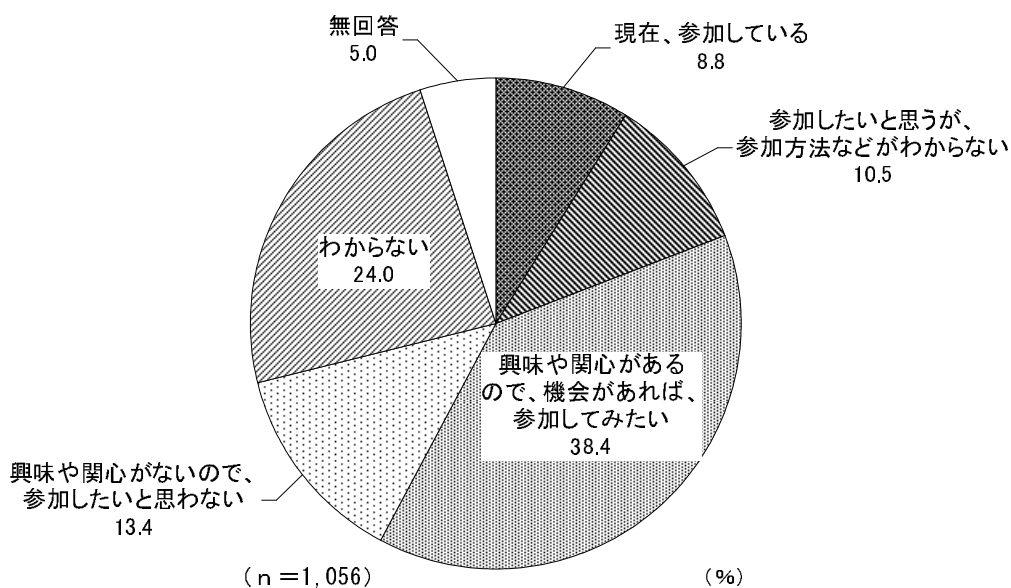
- ・ 美化活動…自宅や事業所周辺での一斉清掃などの活動
- ・ リサイクル活動…町会、自治会単位での資源回収などの活動
- ・ 緑化活動…公園や歩道の花壇管理などの活動

n = 1,056

1 現在、参加している	8.8%
2 参加したいと思うが、参加方法などがわからない	10.5
3 興味や関心があるので、機会があれば、参加してみたい	38.4
4 興味や関心がないので、参加したいと思わない	13.4
5 わからない (無回答)	24.0 5.0

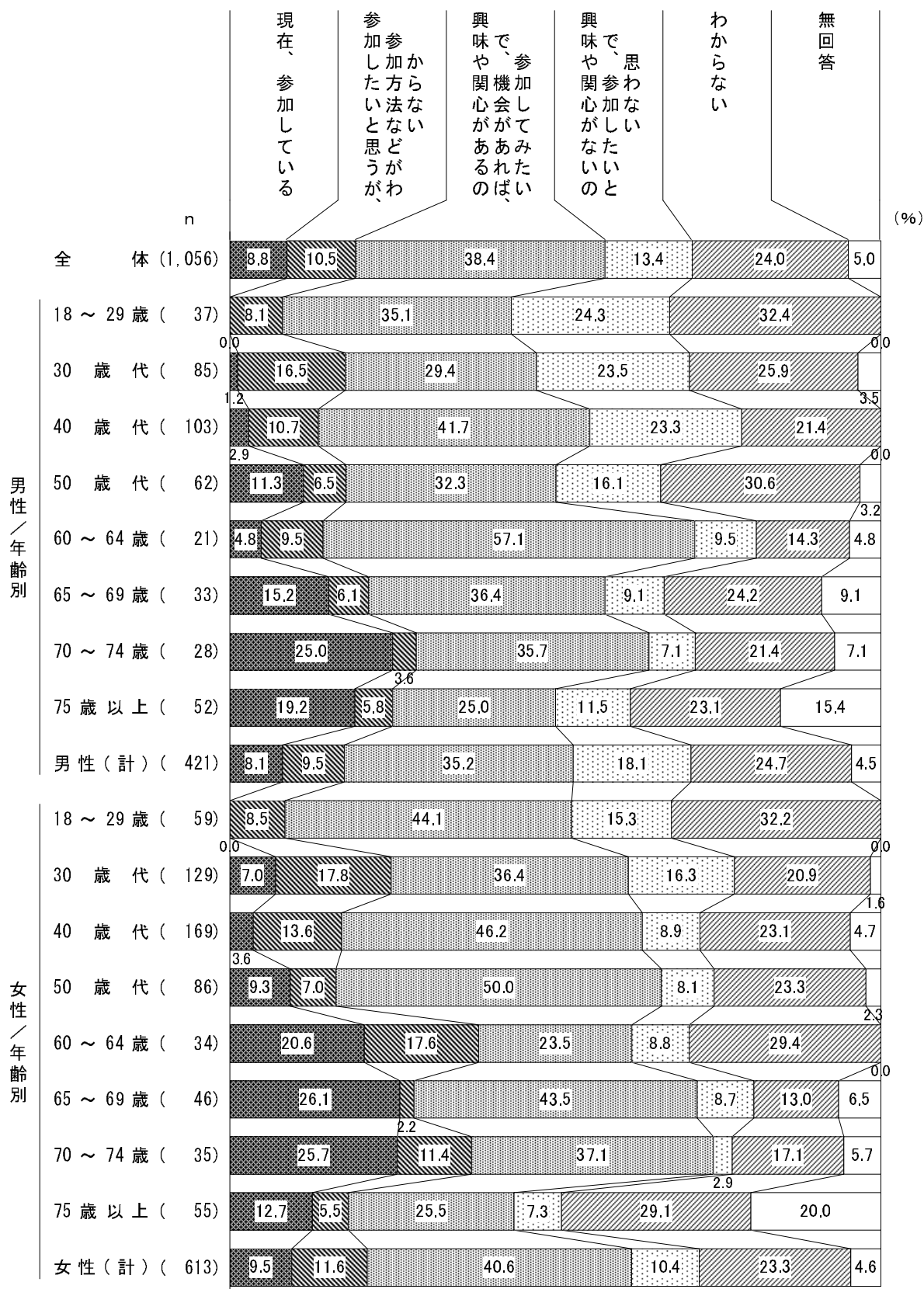
地域での環境活動への参加意向は、「興味や関心があるので、機会があれば、参加してみたい」(38.4%)が4割近くで最も高くなっている。「現在、参加している」(8.8%)は1割近くとなっており、「参加したいと思うが、参加方法などがわからない」(10.5%)は約1割、「興味や関心がないので、参加したいと思わない」(13.4%)は1割を超えている。(図表10-2-1)

図表10-2-1 地域での環境活動への参加意向



性／年齢別でみると、「現在、参加している」は男女ともに70～74歳と女性の65～69歳でいずれも2割台半ばと高くなっている。「興味や関心があるので、機会があれば、参加してみたい」は男性の60～64歳で6割近く、女性の50歳代で5割と高くなっている。(図表10-2-2)

図表10-2-2 地域での環境活動への参加意向－性／年齢別



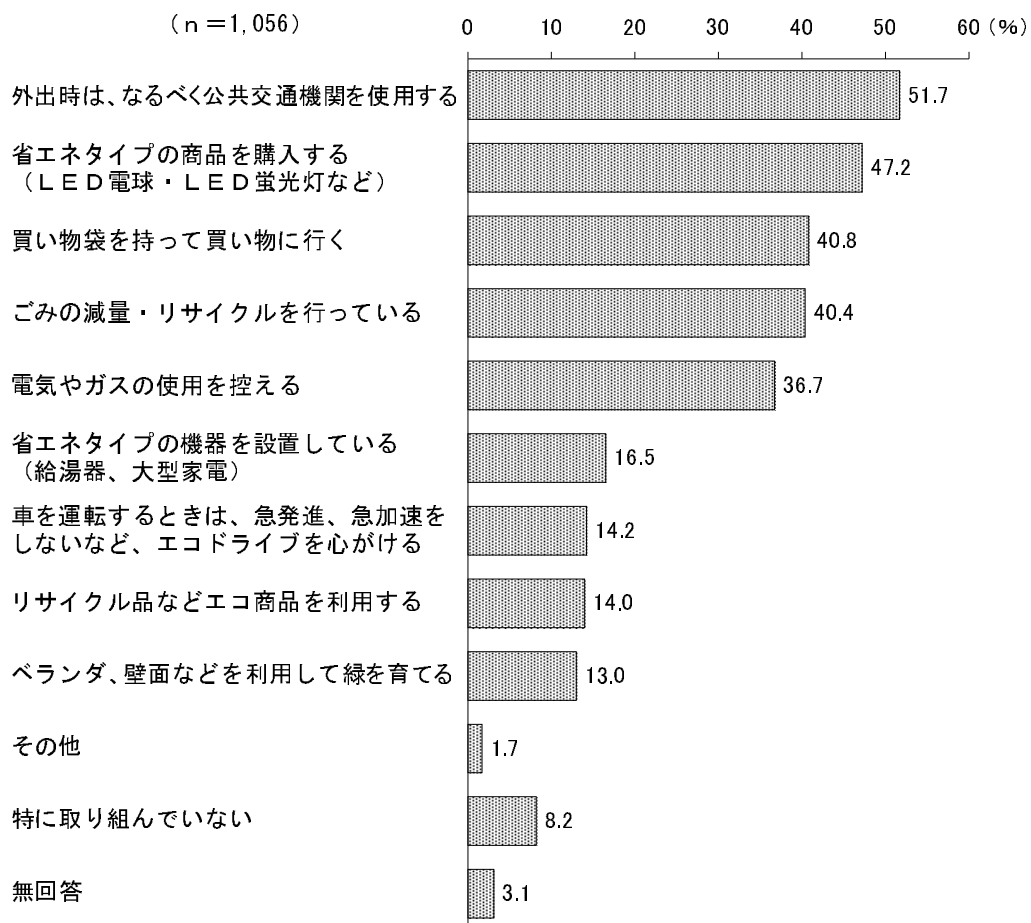
(3) 日常生活での取り組み

◇「外出時は、なるべく公共交通機関を使用する」が5割を超える

問30 あなたは、環境を守るために、日常生活のなかでどんな取り組みをしていますか。	
(〇はいくつでも)	
n = 1,056	
1 電気やガスの使用を控える	36.7%
2 省エネタイプの商品を購入する (LED電球・LED蛍光灯など)	47.2
3 ごみの減量・リサイクルを行っている	40.4
4 リサイクル品などエコ商品を利用する	14.0
5 買い物袋を持って買い物に行く	40.8
6 ベランダ、壁面などを利用して緑を育てる	13.0
7 外出時は、なるべく公共交通機関を使用する	51.7
8 省エネタイプの機器を設置している (給湯器、大型家電)	16.5
9 車を運転するときは、急発進、急加速をしないなど、エコドライブを心がける	14.2
10 その他	1.7
11 特に取り組んでいない (無回答)	8.2 3.1

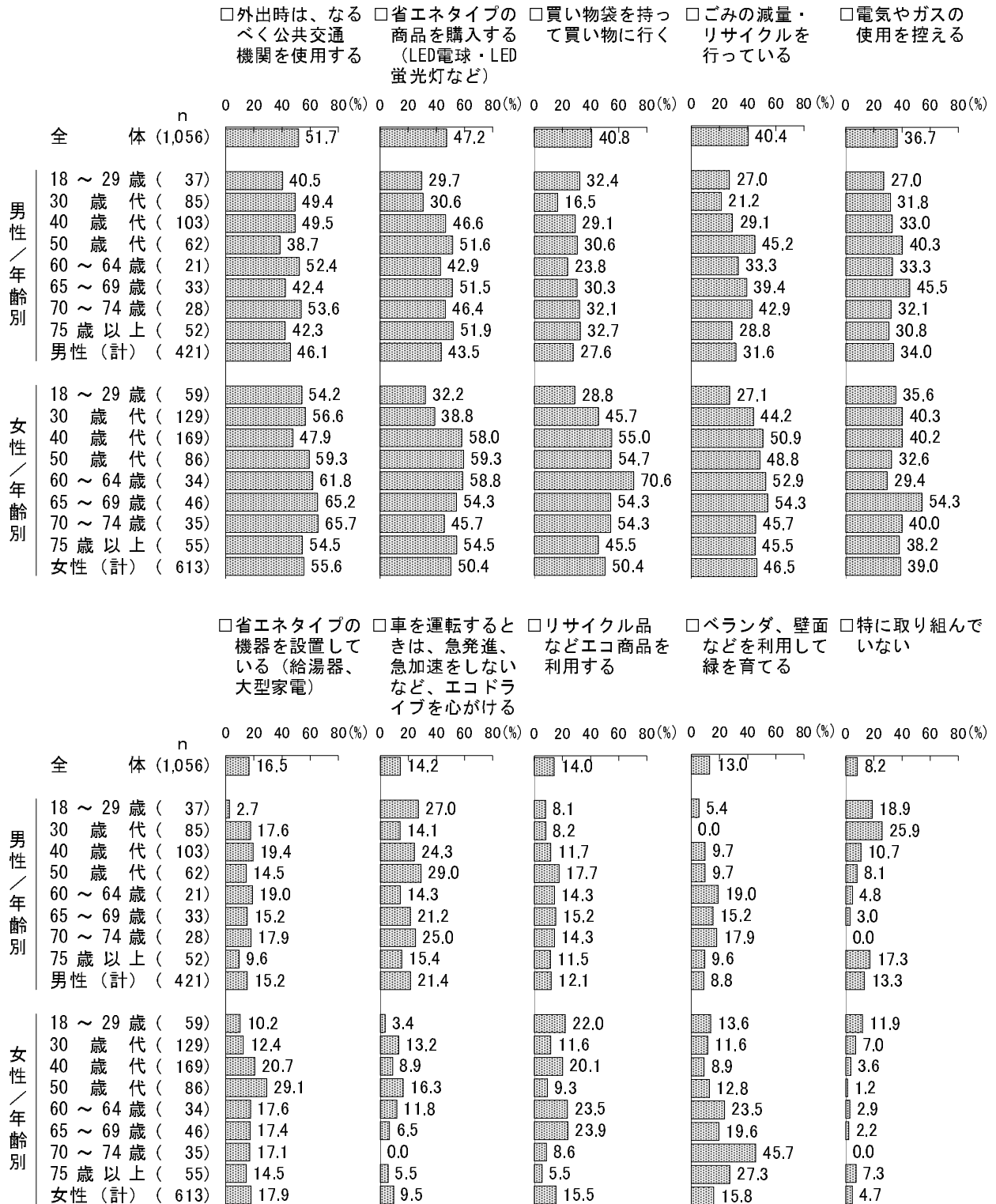
日常生活での取り組みは、「外出時は、なるべく公共交通機関を使用する」(51.7%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「省エネタイプの商品を購入する(LED電球・LED蛍光灯など)」(47.2%)、「買い物袋を持って買い物に行く」(40.8%)、「ごみの減量・リサイクルを行っている」(40.4%)、「電気やガスの使用を控える」(36.7%)などとなっている。(図表10-3-1)

図表10-3-1 日常生活での取り組み（複数回答）



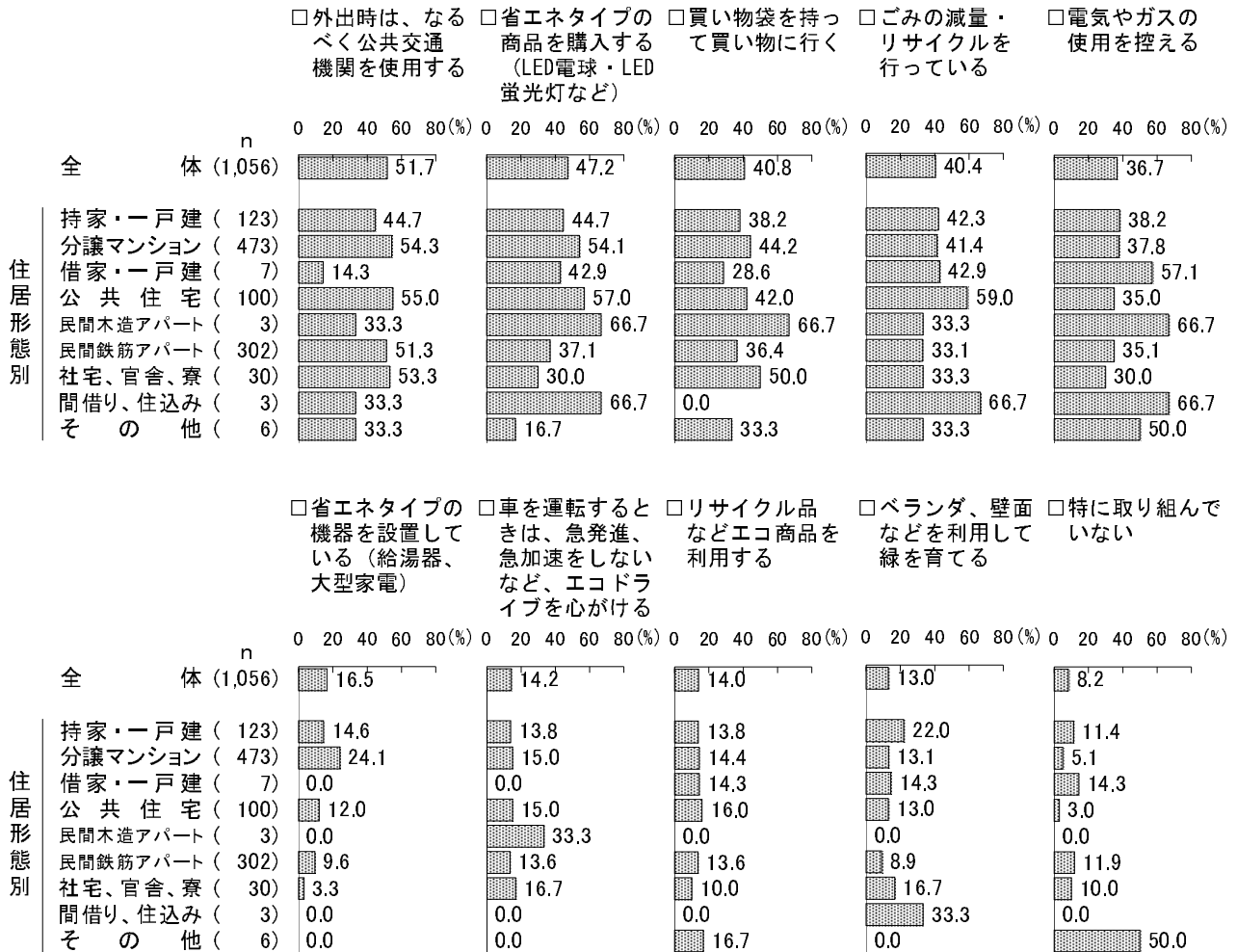
性／年齢別でみると、「外出時は、なるべく公共交通機関を使用する」は女性の65～69歳と70～74歳でともに6割台半ばと高くなっている。「買い物袋を持って買い物に行く」は女性の60～64歳で約7割と高くなっている。「電気やガスの使用を控える」は女性の65～69歳で5割台半ばと高くなっている。(図表10-3-2)

図表10-3-2 日常生活での取り組み—性／年齢別（上位10項目）



住居形態別でみると、「省エネタイプの商品を購入する（LED電球・LED蛍光灯など）」は公共住宅で6割近くと高くなっている。「ごみの減量・リサイクルを行っている」は公共住宅で約6割と高くなっている。（図表10-3-3）

図表10-3-3 日常生活での取り組み—住居形態別（上位10項目）



(4) 区が実施している地球温暖化対策で重要な取り組み

◇「路面温度の上昇を抑制する道路の整備」が4割を超える

問31 あなたは、区が実施している地球温暖化対策で何が重要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

n = 1,056

1	エコアクトなど、家庭や職場で省エネルギー(節電など)に取り組むための仕組み	25.7%
2	太陽光発電や省エネルギー機器の導入に対する助成制度	21.4
3	中央区の森など、二酸化炭素を吸収する森林を保全する活動への支援	36.6
4	建物や敷地の緑化に対する助成制度	25.0
5	幼稚園、小学校での環境学習	25.2
6	太陽光などの再生可能エネルギーの活用	33.1
7	区内の緑地や公園、水辺の整備	40.1
8	エコまつりや環境情報誌、ホームページによる普及啓発	6.1
9	ごみの減量・リサイクルの推進	39.9
10	環境情報センターを活用した普及啓発(講座、イベントなどの開催)	2.2
11	まちかどクリーンデー、緑のアダプト制度など、環境保全活動への支援	8.6
12	路面温度の上昇を抑制する道路の整備	43.3
13	緑のカーテン(植物で窓などに作る自然のカーテン)の普及促進	24.1
14	その他	1.9
15	特にない	5.6
	(無回答)	5.1

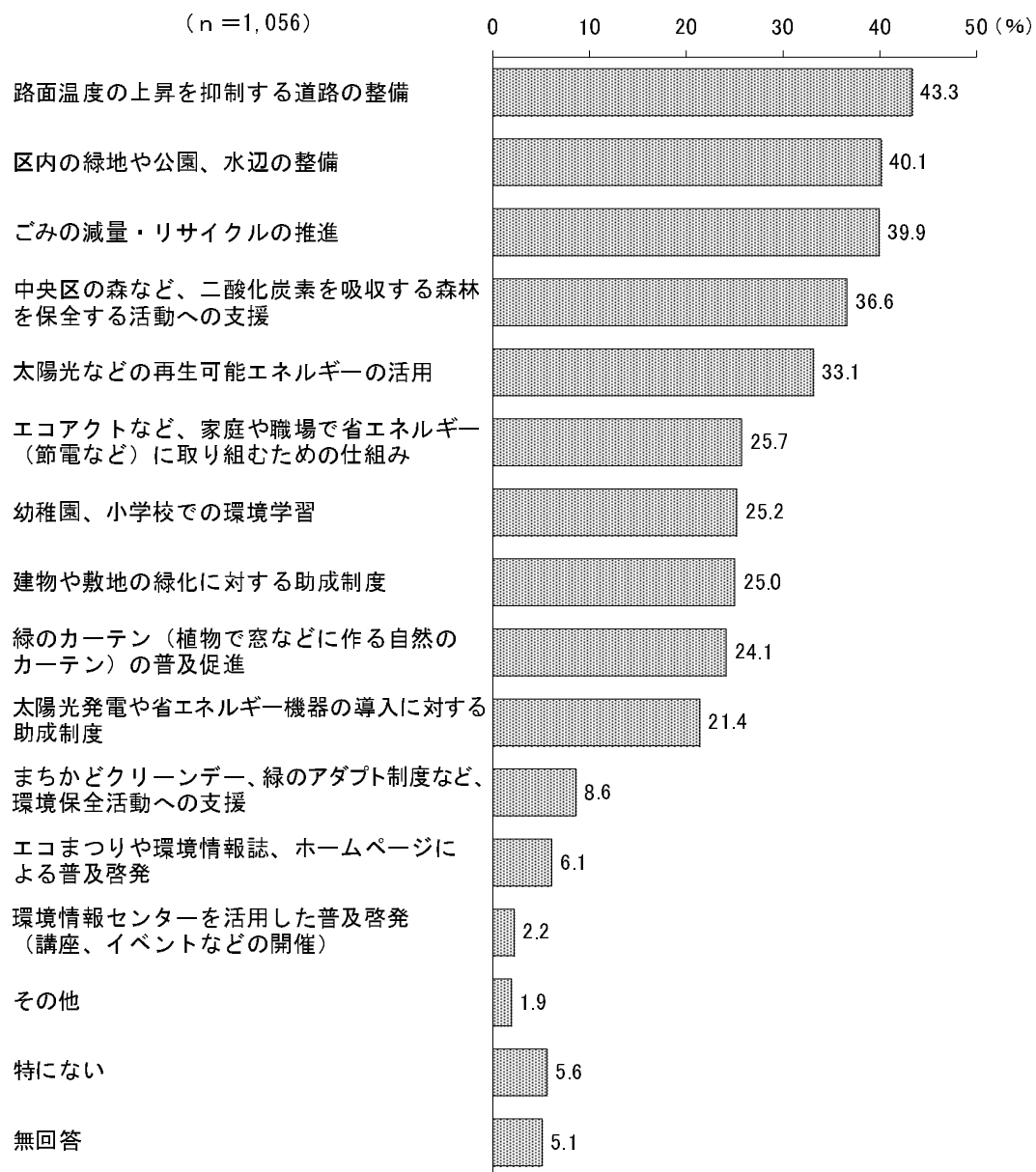
※ エコアクト 二酸化炭素の排出量を減らしていく仕組み

※ まちかどクリーンデー 毎月10日を中心に自宅や事業所周辺で行う一斉清掃

※ 緑のアダプト制度 地域や事業所の人たちが公園や道路の清掃・美化活動を行い、管理する制度

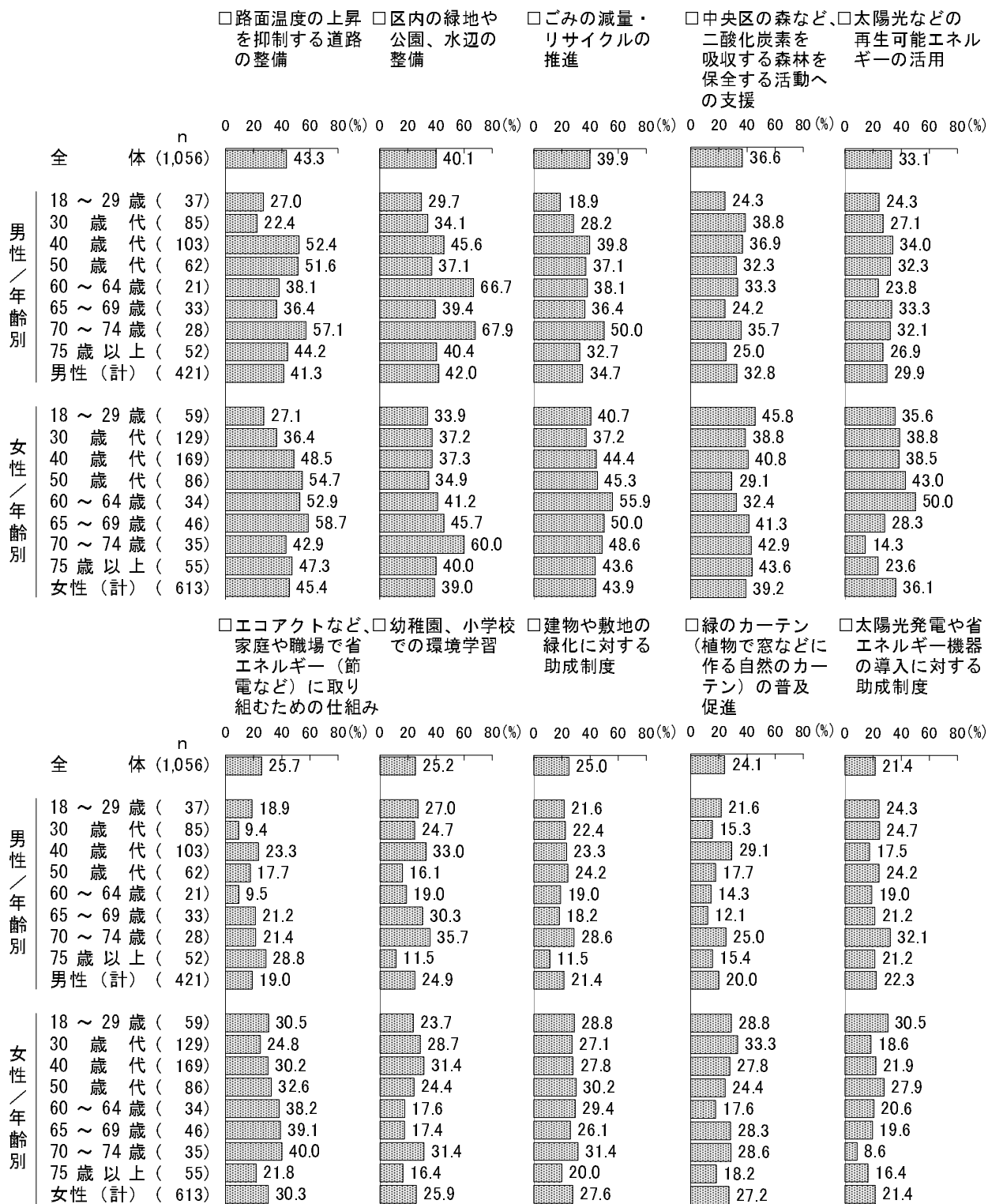
区が実施している地球温暖化対策で重要な取り組みは、「路面温度の上昇を抑制する道路の整備」(43.3%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「区内の緑地や公園、水辺の整備」(40.1%)、「ごみの減量・リサイクルの推進」(39.9%)、「中央区の森など、二酸化炭素を吸収する森林を保全する活動への支援」(36.6%)、「太陽光などの再生可能エネルギーの活用」(33.1%)などとなっている。(図表10-4-1)

図表10-4-1 区が実施している地球温暖化対策で重要な取り組み（複数回答）



性／年齢別でみると、「路面温度の上昇を抑制する道路の整備」は男性の70～74歳と女性の65～69歳でともに6割近くと高くなっている。「区内の緑地や公園、水辺の整備」は男性の60～64歳と70～74歳でともに7割近くと高くなっている。「ごみの減量・リサイクルの推進」は女性の60～64歳で5割台半ばと高くなっている。「太陽光などの再生可能エネルギーの活用」は女性の60～64歳で5割と高くなっている。(図表10-4-2)

図表10-4-2 区が実施している地球温暖化対策で重要な取り組み—性／年齢別（上位10項目）



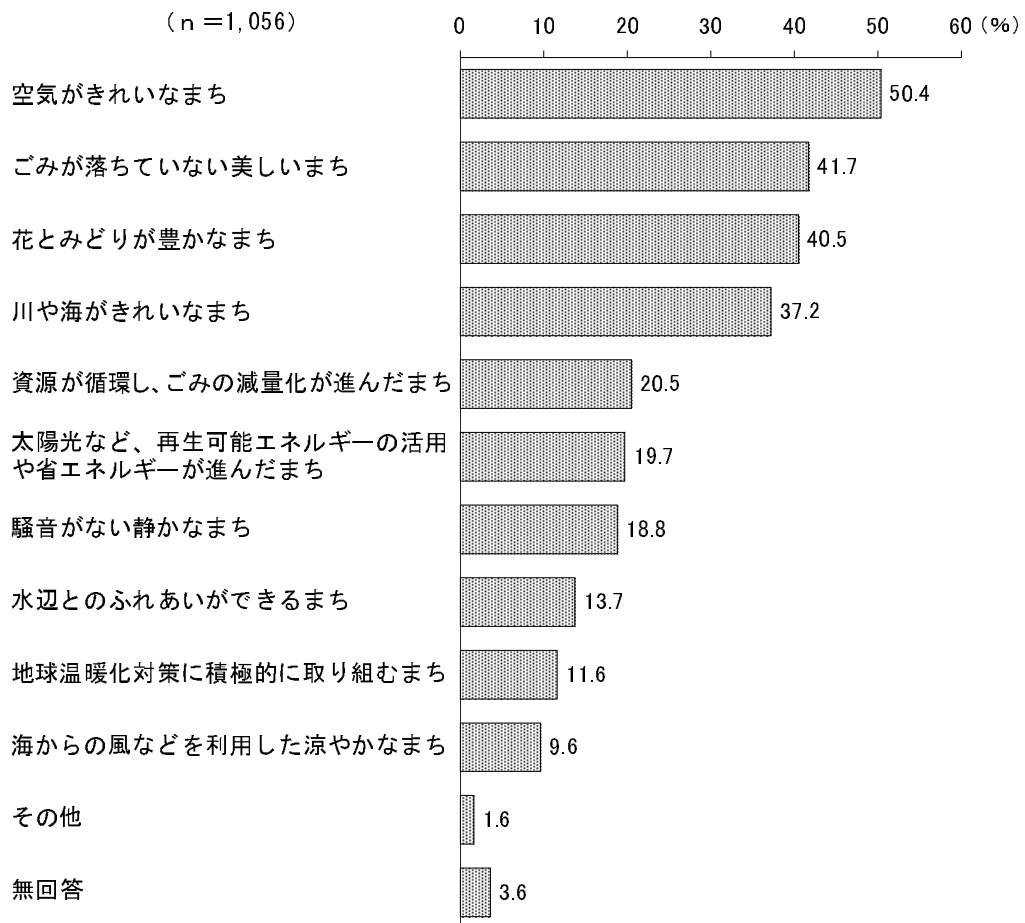
(5) 環境に優れたまちのイメージ

◇「空気がきれいなまち」が5割

問32 あなたが理想とする環境に優れたまちのイメージに近いものはどれですか。		(○は3つまで)
n = 1,056		
1	川や海がきれいなまち	37.2%
2	空気がきれいなまち	50.4
3	騒音がない静かなまち	18.8
4	花とみどりが豊かなまち	40.5
5	水辺とのふれあいができるまち	13.7
6	ごみが落ちていない美しいまち	41.7
7	資源が循環し、ごみの減量化が進んだまち	20.5
8	地球温暖化対策に積極的に取り組むまち	11.6
9	太陽光など、再生可能エネルギーの活用や省エネルギーが進んだまち	19.7
10	海からの風などを利用した涼やかなまち	9.6
11	その他	1.6
	(無回答)	3.6

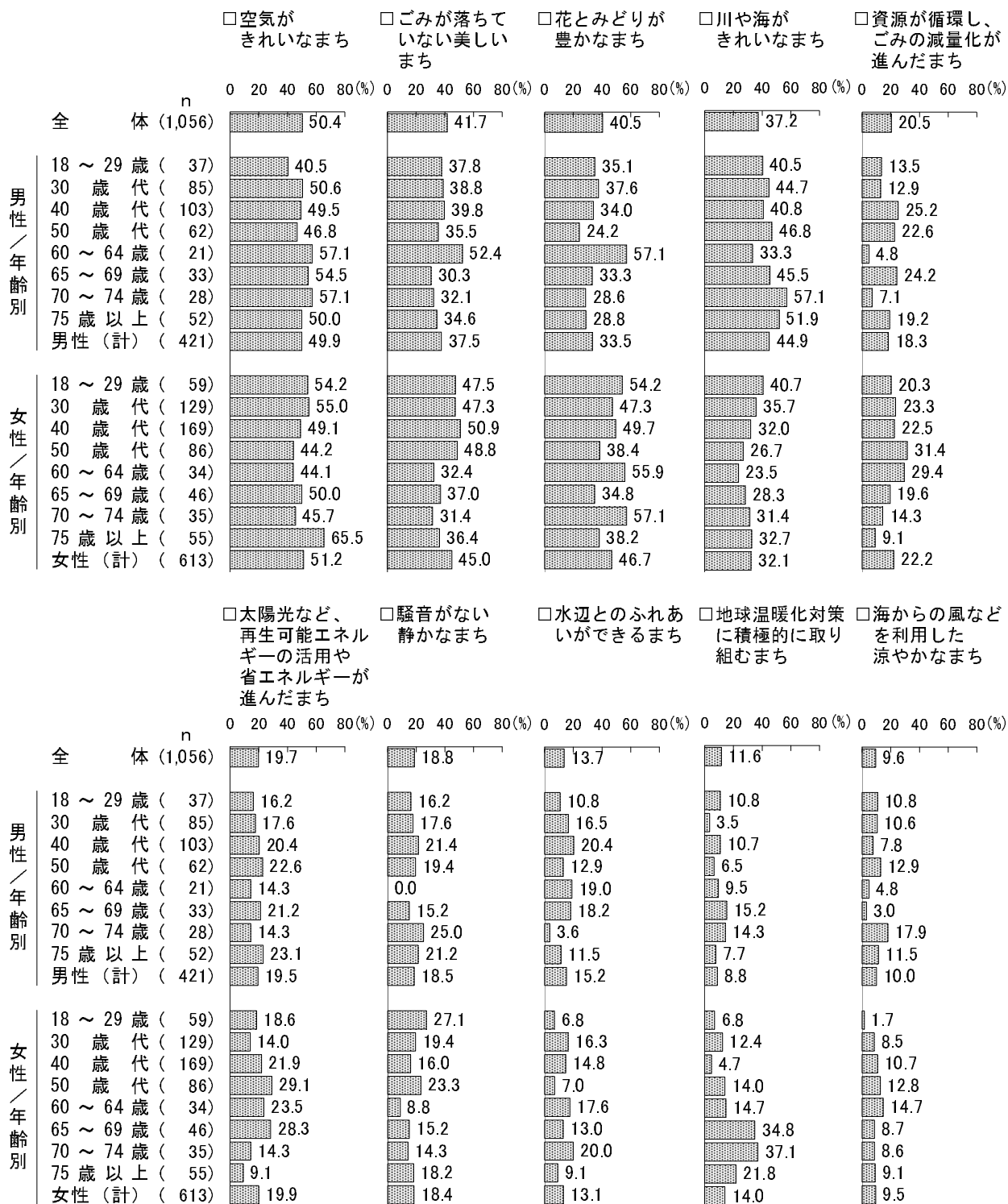
環境に優れたまちのイメージは、「空気がきれいなまち」(50.4%)が5割で最も高くなっている。次いで、「ごみが落ちていない美しいまち」(41.7%)、「花とみどりが豊かなまち」(40.5%)、「川や海がきれいなまち」(37.2%)、「資源が循環し、ごみの減量化が進んだまち」(20.5%)などとなっている。(図表10-5-1)

図表10-5-1 環境に優れたまちのイメージ（複数回答）



性／年齢別で見ると、「空気がきれいなまち」は女性の75歳以上で6割台半ばと高くなっている。「ごみが落ちていない美しいまち」は男性の60～64歳で5割を超えて高くなっている。「花とみどりが豊かなまち」は男性の60～64歳と女性の70～74歳とともに6割近くと高くなっている。「川や海がきれいなまち」は男性の70～74歳で6割近くと高くなっている。(図表10-5-2)

図表10-5-2 環境に優れたまちのイメージ性／年齢別（上位10項目）



【11 築地魚河岸】

※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロである54の事業者が厳選した高品質の水産物や青果物を販売しています。

(1) 「築地魚河岸」への来場経験

◇『来場経験あり』が3割を超える

問33 平成28年11月にプレオープンした「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

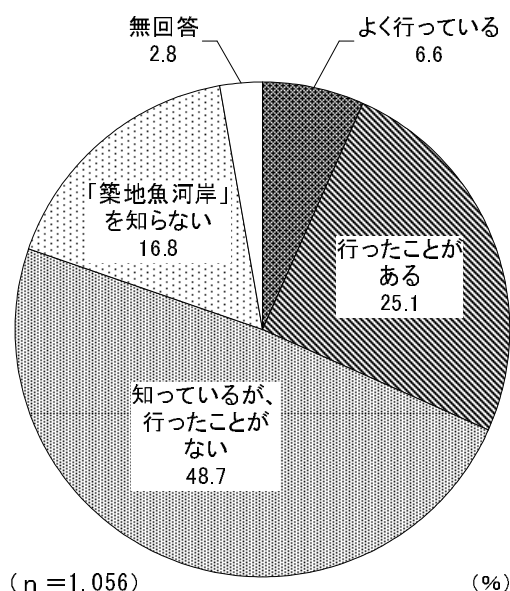
n = 1,056

1	よく行っている	6.6%	3	知っているが、行ったことがない	48.7
2	行ったことがある	25.1	4	「築地魚河岸」を知らない	16.8
				(無回答)	2.8

「築地魚河岸」への来場経験は、「よく行っている」(6.6%)と「行ったことがある」(25.1%)を合わせた『来場経験あり』(31.7%)が3割を超えている。

一方、「知っているが、行ったことがない」(48.7%)は5割近くで、「『築地魚河岸』を知らない」(16.8%)は2割近くとなっている。(図表11-1-1)

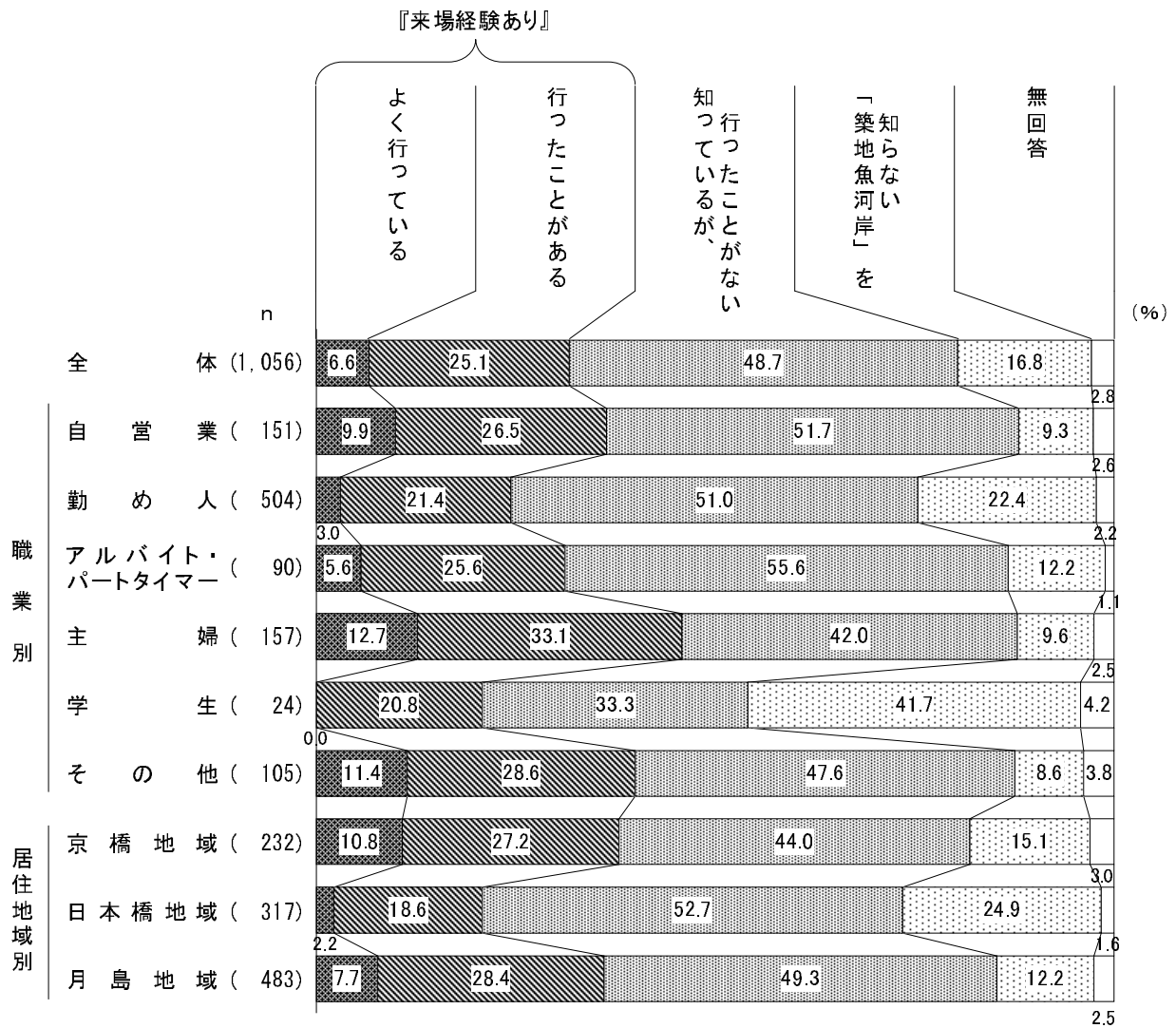
図表11-1-1 「築地魚河岸」への来場経験



職業別でみると、『来場経験あり』は主婦で4割台半ばと高くなっている。『「築地魚河岸」を知らない』は学生で4割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、『来場経験あり』は京橋地域で4割近く、月島地域で3割台半ばと高くなっている。(図表11-1-2)

図表11-1-2 「築地魚河岸」への来場経験—職業別・居住地域別



(2) 「築地魚河岸」にあれば利用したいサービス

◇「日曜朝市の開催」が4割

問34 あなたが「築地魚河岸」にあれば利用しようと思うサービスは何ですか。

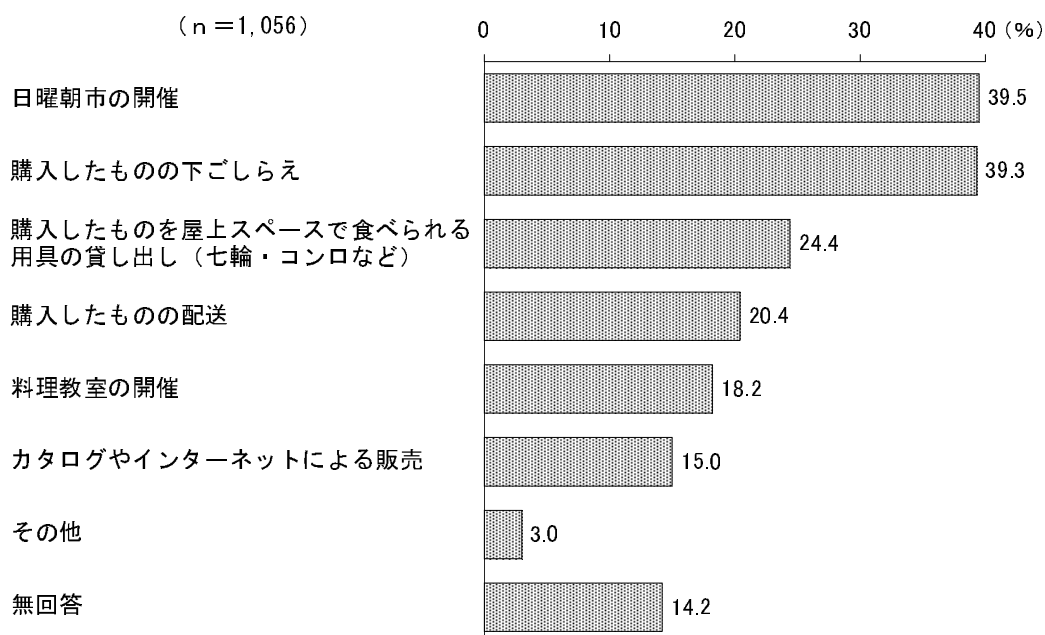
(○はいくつでも)

n = 1,056

1	購入したものの配送	20.4%
2	購入したものの下ごしらえ	39.3
3	購入したものを屋上スペースで食べられる用具の貸し出し（七輪・コンロなど）	24.4
4	料理教室の開催	18.2
5	日曜朝市の開催	39.5
6	カタログやインターネットによる販売	15.0
7	その他	3.0
	(無回答)	14.2

「築地魚河岸」にあれば利用したいサービスは、「日曜朝市の開催」(39.5%)が4割で最も高くなっている。次いで、「購入したものの下ごしらえ」(39.3%)、「購入したものを屋上スペースで食べられる用具の貸し出し（七輪・コンロなど）」(24.4%)、「購入したものの配送」(20.4%)、「料理教室の開催」(18.2%)などとなっている。(図表11-2-1)

図表11-2-1 「築地魚河岸」にあれば利用したいサービス（複数回答）



【12 施策の要望・評価】

(1) 区の施策の満足度と重要度

◇満足度が高いのは「公園・緑地・水辺の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

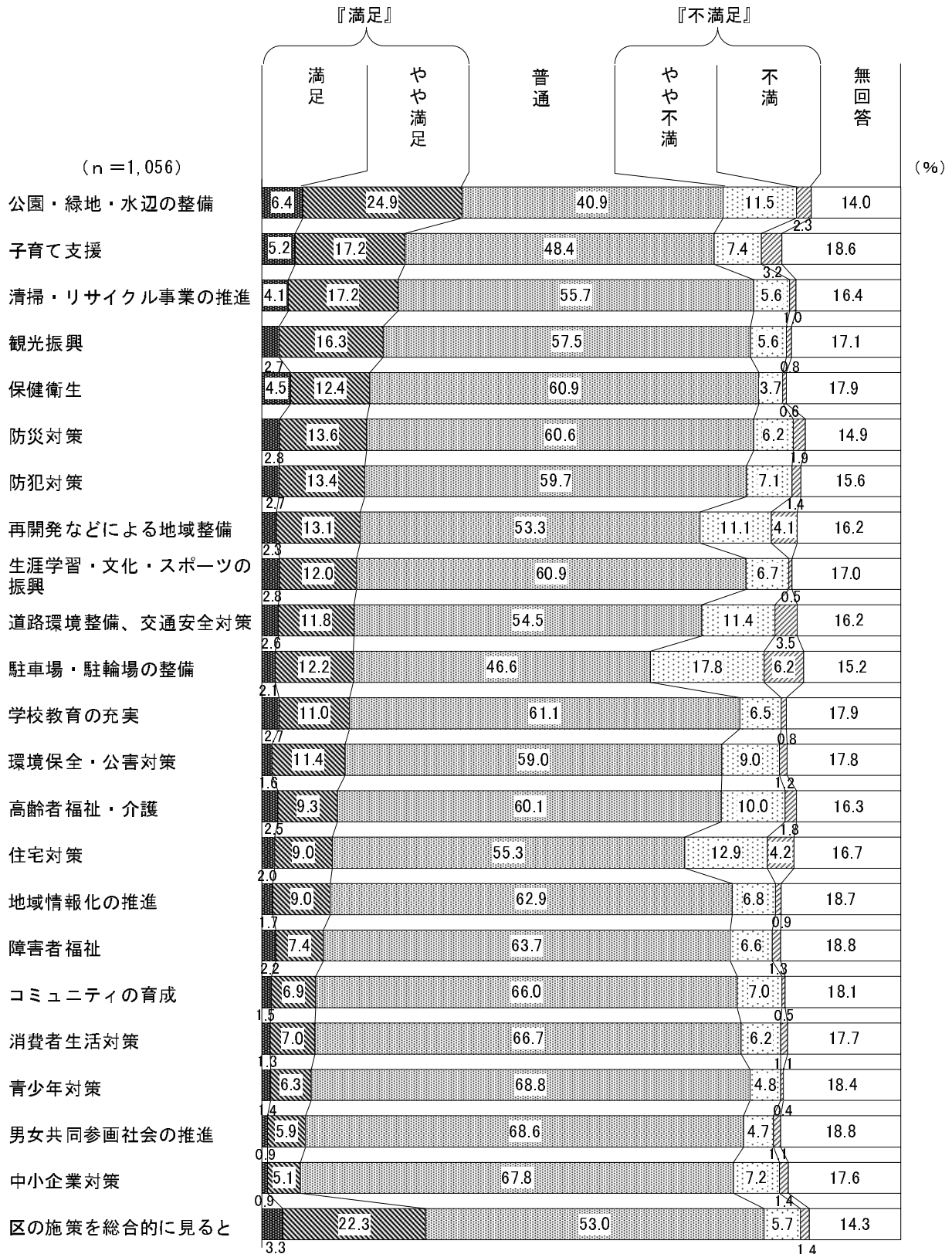
◇重要度が高いのは「子育て支援」、低いのは「男女共同参画社会の推進」と「中小企業対策」

問35 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	満足度					重要度					(%)
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	無回答	1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通	無回答	
n = 1,056											
(1) 子育て支援	5.2	17.2	48.4	7.4	3.2	18.6	48.7	15.1	10.1	26.1	
(2) 障害者福祉	2.2	7.4	63.7	6.6	1.3	18.8	33.0	23.9	17.3	25.8	
(3) 高齢者福祉・介護	2.5	9.3	60.1	10.0	1.8	16.3	44.1	19.6	11.8	24.4	
(4) 保健衛生	4.5	12.4	60.9	3.7	0.6	17.9	25.9	29.5	19.3	25.3	
(5) 男女共同参画社会の推進	0.9	5.9	68.6	4.7	1.1	18.8	8.4	28.9	36.0	26.7	
(6) 住宅対策	2.0	9.0	55.3	12.9	4.2	16.7	19.2	31.7	24.0	25.1	
(7) 公園・緑地・水辺の整備	6.4	24.9	40.9	11.5	2.3	14.0	23.7	33.5	18.8	24.1	
(8) 消費者生活対策	1.3	7.0	66.7	6.2	1.1	17.7	13.6	29.7	30.4	26.2	
(9) 環境保全・公害対策	1.6	11.4	59.0	9.0	1.2	17.8	24.4	31.1	19.1	25.4	
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	4.1	17.2	55.7	5.6	1.0	16.4	18.4	33.3	23.0	25.3	
(11) 駐車場・駐輪場の整備	2.1	12.2	46.6	17.8	6.2	15.2	14.1	31.3	29.6	24.9	
(12) 道路環境整備、交通安全対策	2.6	11.8	54.5	11.4	3.5	16.2	21.6	30.0	23.1	25.3	
(13) 防災対策	2.8	13.6	60.6	6.2	1.9	14.9	39.4	21.2	15.2	24.2	
(14) 防犯対策	2.7	13.4	59.7	7.1	1.4	15.6	37.1	22.6	15.7	24.5	
(15) 再開発などによる地域整備	2.3	13.1	53.3	11.1	4.1	16.2	14.6	30.2	29.7	25.5	
(16) 中小企業対策	0.9	5.1	67.8	7.2	1.4	17.6	11.9	26.2	36.0	25.9	
(17) 学校教育の充実	2.7	11.0	61.1	6.5	0.8	17.9	27.5	24.3	22.2	26.0	
(18) 青少年対策	1.4	6.3	68.8	4.8	0.4	18.4	18.1	27.3	28.2	26.4	
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	2.8	12.0	60.9	6.7	0.5	17.0	11.6	28.6	34.6	25.3	
(20) コミュニティの育成	1.5	6.9	66.0	7.0	0.5	18.1	9.8	29.7	34.4	26.1	
(21) 観光振興	2.7	16.3	57.5	5.6	0.8	17.1	13.4	27.7	33.4	25.6	
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1.7	9.0	62.9	6.8	0.9	18.7	9.9	32.1	30.4	27.6	
(23) 区の施策を総合的に見ると	3.3	22.3	53.0	5.7	1.4	14.3					

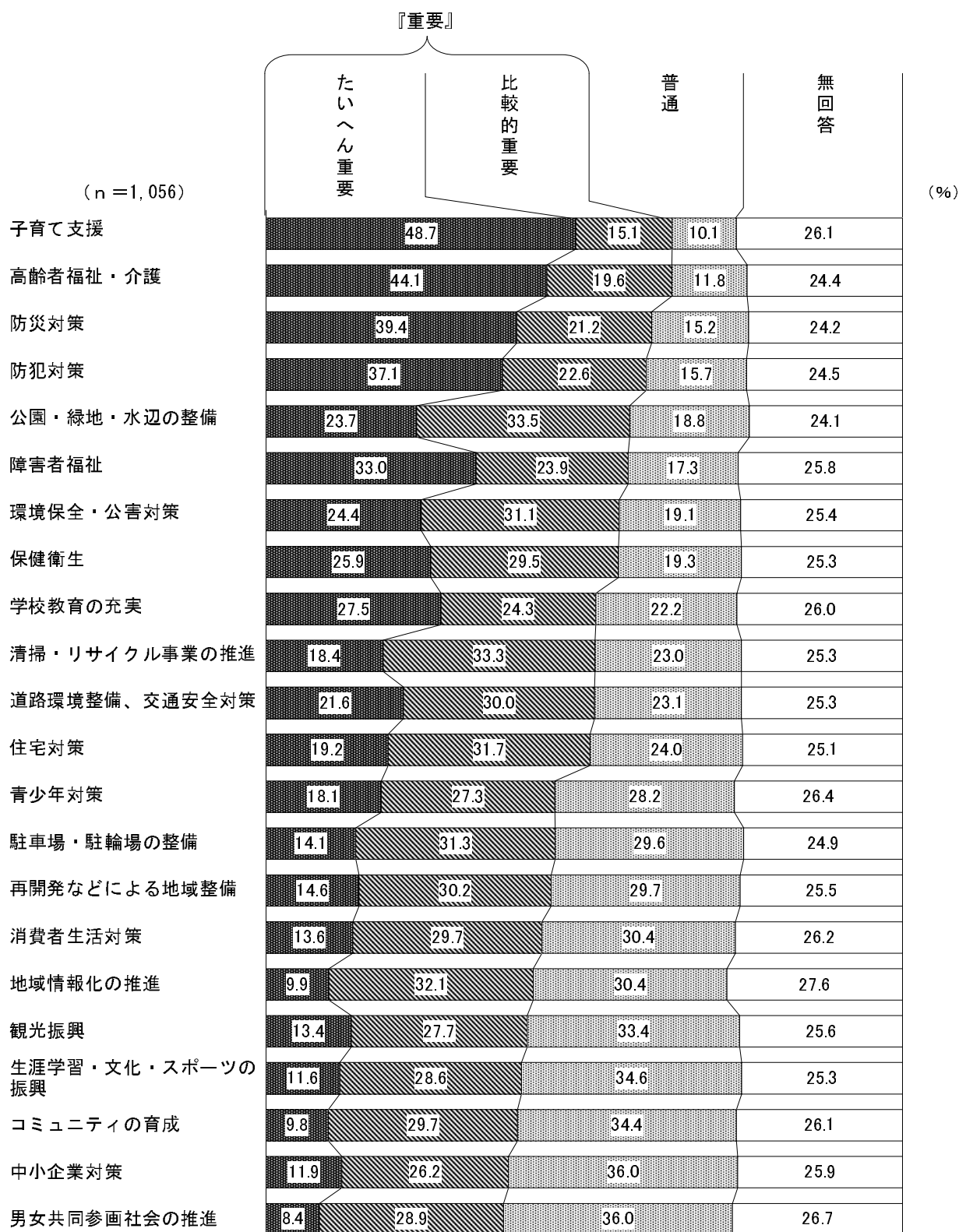
次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「公園・緑地・水辺の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(31.3%)が3割を超えて最も高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満足』(24.0%)が2割台半ばと最も高くなっている。(図表12-1-1)

図表12-1-1 区の施策の満足度



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「子育て支援」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』(63.8%)が6割を超えて最も高くなっている。一方、「男女共同参画社会の推進」と「中小企業対策」は、ともに「普通」(36.0%)が3割台半ばで高くなっている。(図表12-1-2)

図表12-1-2 区の施策の重要度



■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不満足』	
①公園・緑地・水辺の整備	(31.3%)	①駐車場・駐輪場の整備	(24.0%)
②子育て支援	(22.4%)	②住宅対策	(17.1%)
③清掃・リサイクル事業の推進	(21.3%)	③再開発などによる地域整備	(15.2%)
④観光振興	(19.0%)	④道路環境整備、交通安全対策	(14.9%)
⑤保健衛生	(16.9%)	⑤公園・緑地・水辺の整備	(13.8%)

■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①子育て支援	(63.8%)	①男女共同参画社会の推進	(37.3%)
②高齢者福祉・介護	(63.7%)	②中小企業対策	(38.1%)
③防災対策	(60.6%)	③コミュニティの育成	(39.5%)
④防犯対策	(59.7%)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(40.2%)
⑤公園・緑地・水辺の整備	(57.2%)	⑤観光振興	(41.1%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

$$\text{重要度評価点} = (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、+10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

【満足度】

上 位		下 位	
①公園・緑地・水辺の整備	(1.27)	①駐車場・駐輪場の整備	(-0.81)
②清掃・リサイクル事業の推進	(1.06)	②住宅対策	(-0.49)
③保健衛生	(1.01)	③中小企業対策	(-0.20)
④観光振興	(0.89)	④再開発などによる地域整備	(-0.10)
⑤子育て支援	(0.85)	⑤道路環境整備、交通安全対策	(-0.08)

【重要度】

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.61)	①男女共同参画社会の推進	(3.12)
②高齢者福祉・介護	(7.14)	②コミュニティの育成	(3.33)
③防災対策	(6.60)	③中小企業対策	(3.38)
④防犯対策	(6.42)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(3.46)
⑤障害者福祉	(6.06)	⑤地域情報化の推進	(3.59)

居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(2.11)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.53)、「子育て支援」(1.36)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.88)、「住宅対策」(-0.67)、「中小企業対策」(-0.52)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「観光振興」(1.24)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.12)、「保健衛生」(1.10)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.85)、「住宅対策」(-0.30)、「中小企業対策」(-0.04)が比較的低くなっている。

月島地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(1.12)、「子育て支援」(0.93)、「保健衛生」(0.89)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.75)、「住宅対策」(-0.54)、「再開発などによる地域整備」(-0.35)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、すべての地域で「子育て支援」、「高齢者福祉・介護」、「防災対策」が上位3項目となっている。(図表12-1-3)

図表12-1-3 区の施策の満足度評価点と重要度評価点—居住地域別

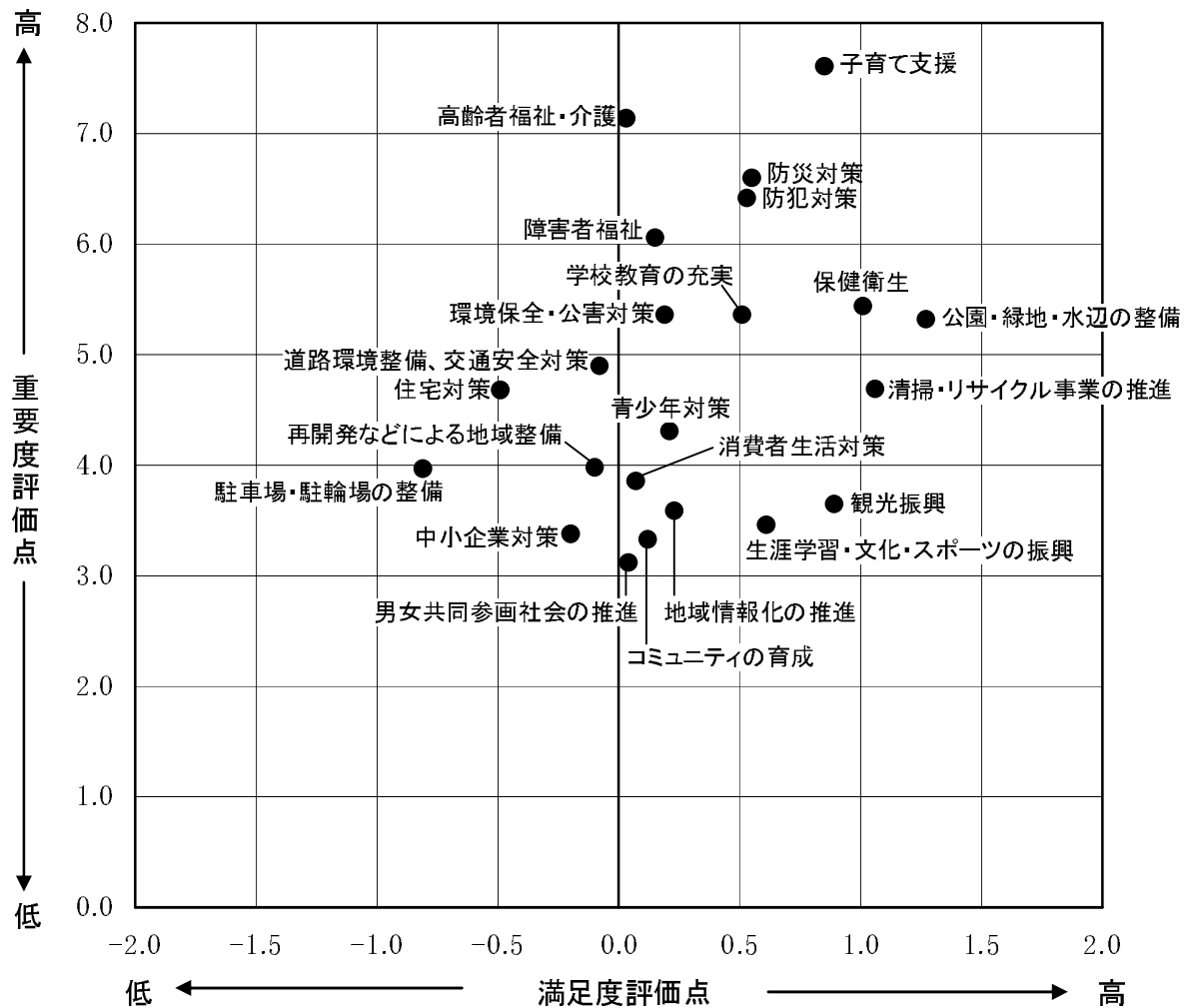
項目	満足度				重要度			
	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域
(1) 子育て支援	0.85	1.36	0.37	0.93	7.61	7.34	7.88	7.56
(2) 障害者福祉	0.15	0.16	0.28	0.06	6.06	5.92	6.03	6.14
(3) 高齢者福祉・介護	0.03	0.28	0.04	-0.08	7.14	7.32	7.11	7.07
(4) 保健衛生	1.01	1.15	1.10	0.89	5.44	5.23	5.61	5.43
(5) 男女共同参画社会の推進	0.04	0.21	0.06	-0.06	3.12	3.20	2.97	3.18
(6) 住宅対策	-0.49	-0.67	-0.30	-0.54	4.68	4.53	4.49	4.88
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1.27	2.11	0.92	1.12	5.32	5.03	5.22	5.53
(8) 消費者生活対策	0.07	0.21	0.15	-0.04	3.86	3.68	3.91	3.91
(9) 環境保全・公害対策	0.19	0.41	0.22	0.06	5.36	5.43	5.20	5.42
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1.06	1.53	1.12	0.79	4.69	5.03	4.45	4.69
(11) 駐車場・駐輪場の整備	-0.81	-0.88	-0.85	-0.75	3.97	3.95	3.84	4.06
(12) 道路環境整備、交通安全対策	-0.08	0.00	0.05	-0.19	4.90	4.86	4.73	5.03
(13) 防災対策	0.55	0.57	0.87	0.32	6.60	7.07	6.53	6.43
(14) 防犯対策	0.53	0.50	0.88	0.32	6.42	6.63	6.49	6.27
(15) 再開発などによる地域整備	-0.10	-0.10	0.29	-0.35	3.98	3.87	3.46	4.39
(16) 中小企業対策	-0.20	-0.52	-0.04	-0.15	3.38	3.93	3.45	3.07
(17) 学校教育の充実	0.51	0.65	0.68	0.33	5.36	5.14	5.55	5.33
(18) 青少年対策	0.21	0.29	0.18	0.20	4.31	3.81	4.52	4.41
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.61	0.63	0.78	0.48	3.46	3.71	3.25	3.49
(20) コミュニティの育成	0.12	0.10	0.18	0.09	3.33	3.68	3.11	3.32
(21) 観光振興	0.89	1.21	1.24	0.49	3.65	3.78	3.66	3.58
(22) 地域情報化の推進	0.23	0.26	0.22	0.21	3.59	3.80	3.53	3.52

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図表12-1-4)

図表12-1-4 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



(2) 区の施策への要望

◇「高齢者福祉・介護」と「子育て支援」がともに3割台半ば

問36 問35の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1~22までの番号)

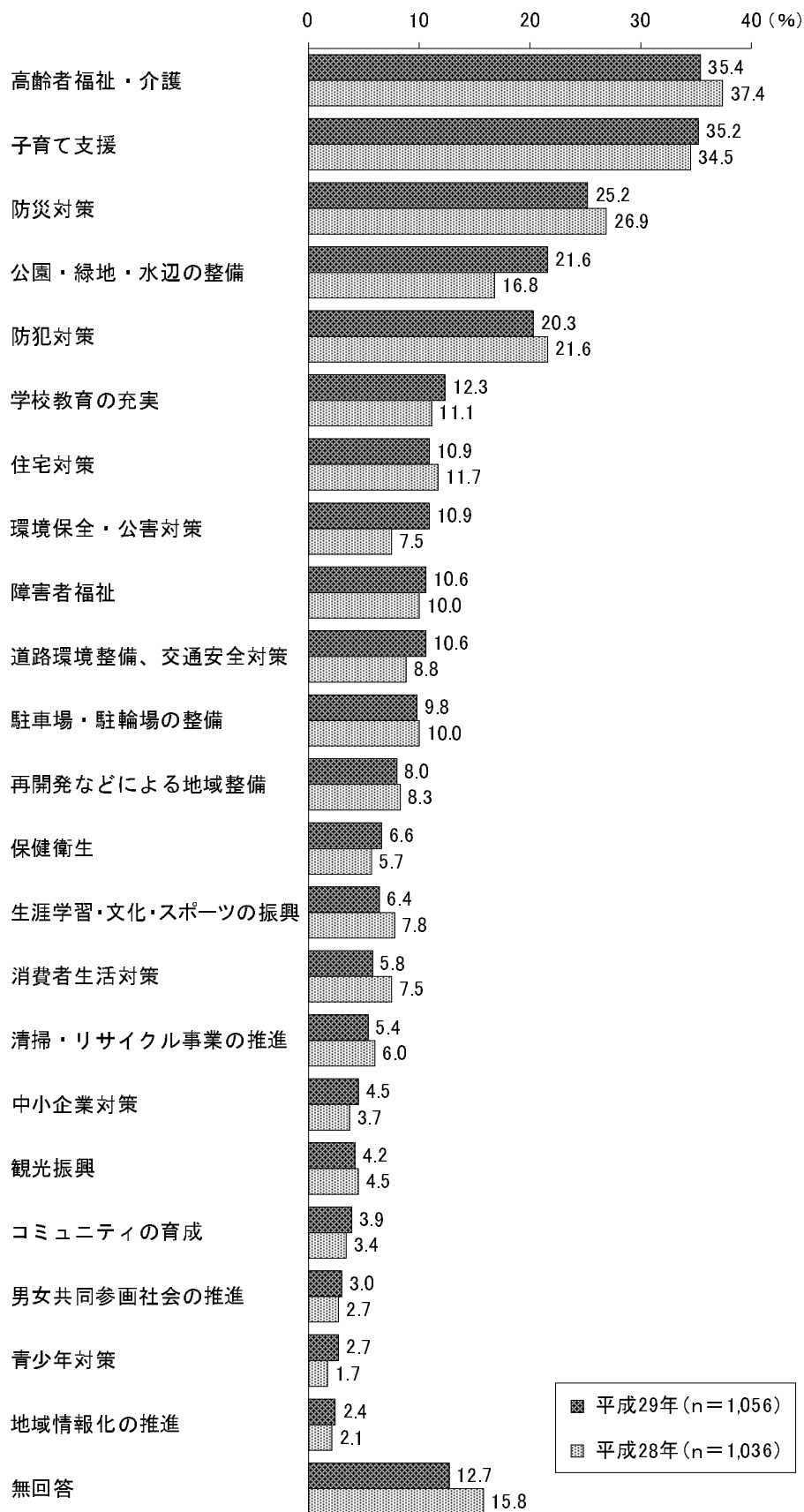
n = 1, 056	(%)			
	第1位	第2位	第3位	全体
(1) 子育て支援	23.0	7.0	5.2	35.2
(2) 障害者福祉	2.6	4.7	3.3	10.6
(3) 高齢者福祉・介護	18.2	11.0	6.3	35.4
(4) 保健衛生	1.9	2.7	2.1	6.6
(5) 男女共同参画社会の推進	0.6	1.0	1.4	3.0
(6) 住宅対策	3.2	4.3	3.4	10.9
(7) 公園・緑地・水辺の整備	5.2	7.7	8.7	21.6
(8) 消費者生活対策	1.0	1.9	2.8	5.8
(9) 環境保全・公害対策	2.8	4.2	3.9	10.9
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	0.6	2.0	2.8	5.4
(11) 駐車場・駐輪場の整備	2.5	4.0	3.3	9.8
(12) 道路環境整備、交通安全対策	2.3	4.3	4.1	10.6
(13) 防災対策	8.1	9.9	7.1	25.2
(14) 防犯対策	5.0	6.8	8.4	20.3
(15) 再開発などによる地域整備	2.5	2.5	3.1	8.0
(16) 中小企業対策	0.9	1.2	2.3	4.5
(17) 学校教育の充実	3.8	4.8	3.7	12.3
(18) 青少年対策	0.1	0.9	1.7	2.7
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1.3	1.8	3.3	6.4
(20) コミュニティの育成	1.2	0.9	1.7	3.9
(21) 観光振興	0.2	1.3	2.7	4.2
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス 情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	0.3	0.9	1.2	2.4
(無回答)	12.7	14.2	17.4	12.7

* 全体の無回答の割合は、第1位の割合とした。

区の施策への要望としては、「高齢者福祉・介護」(35.4%)と「子育て支援」(35.2%)がともに3割台半ばで高くなっている。次いで、「防災対策」(25.2%)、「公園・緑地・水辺の整備」(21.6%)、「防犯対策」(20.3%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「公園・緑地・水辺の整備」は4.8ポイント、「環境保全・公害対策」は3.4ポイント、それぞれ増加している。(図表12-2-1)

図表12-2-1 区の施策への要望（複数回答）



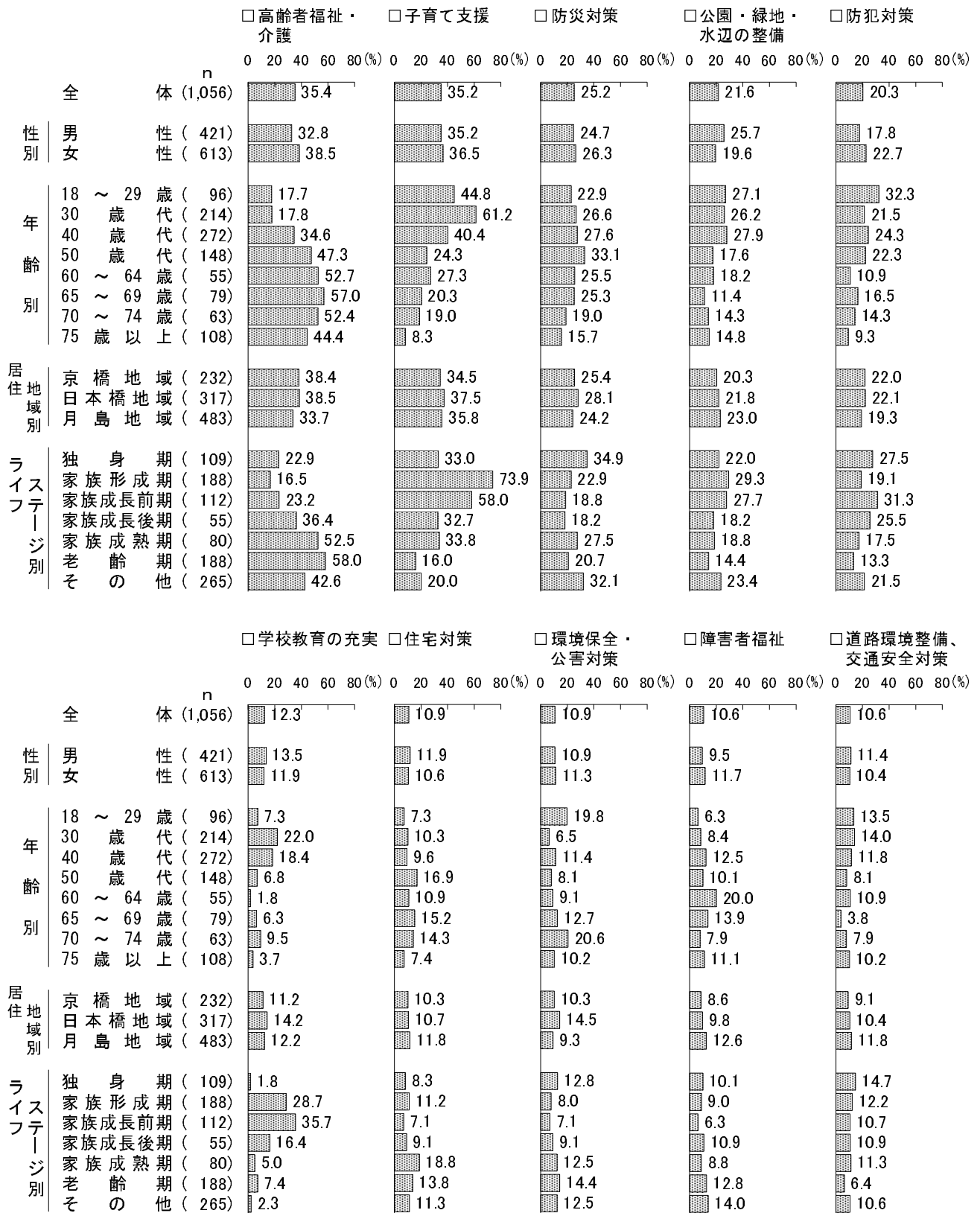
性別でみると、女性の方が男性よりも「高齢者福祉・介護」で5.7ポイント、「防犯対策」で4.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「公園・緑地・水辺の整備」は男性の方が女性よりも6.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「高齢者福祉・介護」は65～69歳で6割近くと高くなっている。「子育て支援」は30歳代で6割を超えて高くなっている。「防災対策」は50歳代で3割を超えて高くなっている。「防犯対策」は18～29歳で3割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

ライフステージ別でみると、「高齢者福祉・介護」は高齢期で6割近くと高くなっている。「子育て支援」は家族形成期で7割を超え、家族成長前期で6割近くと高くなっている。「防災対策」は独身期で3割台半ばと高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期で3割台半ばと高くなっている。(図表12-2-2)

図表12-2-2 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位10項目）



上位5項目にあげられた施策を性別でみると、「子育て支援」は男性で1位となっており、「高齢者福祉・介護」は女性で1位となっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は40歳代以下の年代で1位となっており、「高齢者福祉・介護」は50歳代以上の年代で1位となっている。

居住地域別でみると、「高齢者福祉・介護」は京橋地域と日本橋地域で1位となっており、「子育て支援」は月島地域で1位となっている。

ライフステージ別でみると、「防災対策」は独身期で1位となっている。「子育て支援」は家族形成期と家族成長前期で1位となっている。「高齢者福祉・介護」は家族成長後期、家族成熟期、老齢期、その他で1位となっている。(図表12-2-3)

図表12-2-3 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別(上位5項目)
(%)

属性		順位	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体			1,056	高齢者福祉・介護 35.4	子育て支援 35.2	防災対策 25.2	公園・緑地・水辺の整備 21.6	防犯対策 20.3
性 別	男 性		421	子育て支援 35.2	高齢者福祉・介護 32.8	公園・緑地・水辺の整備 25.7	防災対策 24.7	防犯対策 17.8
	女 性		613	高齢者福祉・介護 38.5	子育て支援 36.5	防災対策 26.3	防犯対策 22.7	公園・緑地・水辺の整備 19.6
年 齢 別	18～29歳		96	子育て支援 44.8	防犯対策 32.3	公園・緑地・水辺の整備 27.1	防災対策 22.9	環境保全・公害対策 19.8
	30歳代		214	子育て支援 61.2	防災対策 26.6	公園・緑地・水辺の整備 26.2	学校教育の充実 22.0	防犯対策 21.5
	40歳代		272	子育て支援 40.4	高齢者福祉・介護 34.6	公園・緑地・水辺の整備 27.9	防災対策 27.6	防犯対策 24.3
	50歳代		148	高齢者福祉・介護 47.3	防災対策 33.1	子育て支援 24.3	防犯対策 22.3	公園・緑地・水辺の整備 17.6
	60～64歳		55	高齢者福祉・介護 52.7	子育て支援 27.3	防災対策 25.5	障害者福祉 20.0	公園・緑地・水辺の整備 18.2
	65～69歳		79	高齢者福祉・介護 57.0	防災対策 25.3	子育て支援 20.3	防犯対策 16.5	住宅対策 15.2
	70～74歳		63	高齢者福祉・介護 52.4	環境保全・公害対策 20.6	子育て支援/防災対策 19.0		住宅対策/公園・緑地・水辺の整備/防犯対策 14.3
	75歳以上		108	高齢者福祉・介護 44.4	防災対策 15.7	公園・緑地・水辺の整備 14.8	障害者福祉 11.1	環境保全・公害対策/道路環境整備、交通安全対策 10.2
居 住 地 域 別	京橋地域		232	高齢者福祉・介護 38.4	子育て支援 34.5	防災対策 25.4	防犯対策 22.0	公園・緑地・水辺の整備 20.3
	日本橋地域		317	高齢者福祉・介護 38.5	子育て支援 37.5	防災対策 28.1	防犯対策 22.1	公園・緑地・水辺の整備 21.8
	月島地域		483	子育て支援 35.8	高齢者福祉・介護 33.7	防災対策 24.2	公園・緑地・水辺の整備 23.0	防犯対策 19.3
ラ イ フ ス テ ー ジ 別	独 身 期		109	防災対策 34.9	子育て支援 33.0	防犯対策 27.5	高齢者福祉・介護 22.9	公園・緑地・水辺の整備 22.0
	家 族 形 成 期		188	子育て支援 73.9	公園・緑地・水辺の整備 29.3	学校教育の充実 28.7	防災対策 22.9	防犯対策 19.1
	家 族 成 長 前 期		112	子育て支援 58.0	学校教育の充実 35.7	防犯対策 31.3	公園・緑地・水辺の整備 27.7	高齢者福祉・介護 23.2
	家 族 成 長 後 期		55	高齢者福祉・介護 36.4	子育て支援 32.7	防犯対策 25.5	公園・緑地・水辺の整備/防災対策 18.2	
	家 族 成 熟 期		80	高齢者福祉・介護 52.5	子育て支援 33.8	防災対策 27.5	住宅対策/公園・緑地・水辺の整備 18.8	
	老 齢 期		188	高齢者福祉・介護 58.0	防災対策 20.7	子育て支援 16.0	公園・緑地・水辺の整備/ 環境保全・公害対策 14.4	
	そ の 他		265	高齢者福祉・介護 42.6	防災対策 32.1	公園・緑地・水辺の整備 23.4	防犯対策 21.5	子育て支援 20.0

V 結果の数表

V 結果の数表

1 定住性

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	3 年 未 満	3 ～ 6 年 未 満	6 ～ 10 年 未 満	10 ～ 15 年 未 満	15 ～ 20 年 未 満	20 年 以 上	生 ま れ て か ら ず つ と	無 回 答	短 期 居 住 者	中 期 居 住 者	長 期 居 住 者
1,056	219	129	132	136	88	205	116	31	348	356	321
100.0	20.7	12.2	12.5	12.9	8.3	19.4	11.0	2.9	33.0	33.7	30.4

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(〇は1つ)

全 体	非 常 に 感 じ る	少 し は 感 じ る	あ ま り 感 じ な い	感 じ な い	わ か ら な い	無 回 答
1,056	396	477	76	24	53	30
100.0	37.5	45.2	7.2	2.3	5.0	2.8

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(〇は1つ)

全 体	住 み 続 け た い	で き れ ば 住 み 続 け た い	で き れ ば 転 出 し た い	転 出 し た い	わ か ら な い	無 回 答
1,056	567	342	19	5	94	29
100.0	53.7	32.4	1.8	0.5	8.9	2.7

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

全 体	食 料 の 備 蓄 (1人1日3食分)	飲 料 水 の 備 蓄 (1人1日3ℓ分)	簡 易 ト イ レ の 備 蓄	家 具 類 の 転 倒 防 止	消 火 器 ・ 救 急 セ ツ ト な ど	バ ー ル や ハ ン マ ー な ど の 救 助 用 工 具 の 備 え	貴 重 品 を 持 ち 出 す 準 備	風 呂 な ど へ の 水 の た め 置	救 命 加 助 の 講 習 会 へ の 参 加	町 会 ・ 自 治 会 な ど の 地 域 の 防 災 訓 練 へ の 参 加	避 難 方 法 、 避 難 場 所 の 確 認	家 庭 で の 連 絡 方 法 な ど の 話 し 合 い	建 物 の 補 強	そ の 他	特 に な い	無 回 答
1,056	612	700	409	379	504	132	223	217	115	163	340	326	50	13	126	29
100.0	58.0	66.3	38.7	35.9	47.7	12.5	21.1	20.5	10.9	15.4	32.2	30.9	4.7	1.2	11.9	2.7

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。
(〇はいくつでも)

上段：件数
下段：%

全体	水・食料	トイレ	プライバシー	家族・友人・知人などの安否	災害状況・対策などの情報	医療・医薬品	高齢者介護や乳幼児保育	スペースの確保	暑さ寒さ対策	ペットの世話	その他	特にない	わからない	無回答
1,056 100.0	670 63.4	787 74.5	447 42.3	614 58.1	370 35.0	417 39.5	213 20.2	382 36.2	490 46.4	127 12.0	55 5.2	12 1.1	5 0.5	30 2.8

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

全体	負傷者の応急手当	倒壊家屋などからの救出・救助	初期の消火活動	避難所での被災者の世話	救援物資の仕分けなどの防	外国語通訳・手話・建物の危険判定など専門的技術を活用した活動	インターネットによる情報収集や伝達	その他の支援活動	協力できそうもない	わからない	無回答
1,056 100.0	233 22.1	232 22.0	306 29.0	445 42.1	605 57.3	126 11.9	249 23.6	26 2.5	85 8.0	103 9.8	20 1.9

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

全体	区のホームページ	ちゅうおう安全・安心メール	インターネット	ツイッターやフェイスブックなどSNS	防災行政無線(屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	ケーブルテレビ	その他	無回答
1,056 100.0	284 26.9	201 19.0	549 52.0	411 38.9	410 38.8	444 42.0	49 4.6	19 1.8	32 3.0

3 健康診査

問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(〇は1つ)

全体	中央区国民健康保険	国民健康保険組合(自営業者などに入する健康保険種ごとに加入)	健康保険組合	協会けんぽ(全国健康保険協会)	共済組合	後期高齢者医療制度	その他	無回答
1,056 100.0	135 12.8	159 15.1	455 43.1	117 11.1	48 4.5	113 10.7	6 0.6	23 2.2

問11 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）

上段：件数
下段：%

全 体	区 で 実 施 し て い る 健 康 診 査 を 受 け た	勤 務 先 （ 家 族 の 勤 務 先 を 含 む ） で 実 施 し た	加 入 組 合 な ど に い る 健 康 保 険	個 人 で 受 け た ド ク な ど	学 校 で 実 施 す る 健 康 診 査	そ の 他 で 受 け た	健 康 診 査 は 受 け て い な い	無 回 答
1,056 100.0	260 24.6	453 42.9	91 8.6	90 8.5	23 2.2	47 4.5	188 17.8	19 1.8

（問11で、「健康診査は受けていない」とお答えの方に）

問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。（〇はいくつでも）

全 体	勤 務 先 （ 家 族 の 勤 務 先 を 含 む ） な ど で 実 施 し て い な い	受 診 方 法 が わ か ら な い	必 要 が な い	時 間 が な い	面 倒 で あ る	健 康 に 自 信 が あ る	病 気 で 医 者 に か か っ て	検 査 が い や	病 気 と 診 断 さ れ る の が 怖 い	費 用 が か か る	そ の 他	無 回 答
188 100.0	19 10.1	11 5.9	13 6.9	49 26.1	40 21.3	15 8.0	42 22.3	24 12.8	19 10.1	23 12.2	32 17.0	4 2.1

4 高齢者施策

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。（もっとも近い考え1つに〇）

全 体	主 に 家 族 の 介 護 を 受 け た り 自 宅 で 暮 ら し た り	主 に 利 用 し た い サ ー ビ ス な ど を 利 用 し た い	高 齢 者 に 向 け た 住 宅 サ ー ビ ス な ど を 利 用 し た い	特 別 の 介 護 施 設 に 入 り たい	介 護 に 入 り たい サ ー ビ ス な ど	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
1,056 100.0	110 10.4	384 36.4	231 21.9	89 8.4	105 9.9	13 1.2	109 10.3	15 1.4

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

全 体	健 康 実 づ く り ・ 介 護 予 防 の 充 実	就 労 ・ 社 会 参 加 の 促 進	在 宅 サ ー ビ ス （ 医 療 ・ 介 護 サ ー ビ ス な ど ） の 充 実	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム や 認 知 症 等 の 施 設 の 整 備 ・ 誘 引	高 齢 者 に 向 け た 住 宅 の 整 備 ・ 誘 引	ひ と り 暮 ら し の 支 援 （ 認 知 症 高 齢 者 等 ）	低 所 得 者 へ の 経 済 的 支 援	特 に な い	無 回 答
1,056 100.0	370 35.0	280 26.5	575 54.5	411 38.9	390 36.9	468 44.3	227 21.5	27 2.6	18 1.7

5 子育て支援

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

上段：件数
下段：%

全 体	配偶者・パートナー	その他の親族	職場の人	隣近所の人、知人、友人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	(保健センターの担当者、健診時などで)保健所、	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
1,056	354	211	42	90	51	27	20	19	5	68	410	108
100.0	33.5	20.0	4.0	8.5	4.8	2.6	1.9	1.8	0.5	6.4	38.8	10.2

問15 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(〇は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

重要と考えるもの (〇は2つまで)

全 体	保育園・認定こども園・幼稚園・地域の施設整備	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	子どもの健全な成長のための教育環境の整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	情報の提供や相談サービス	公園の整備など、子どもが安心して育てることができきる環境整備	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	職業生活と家庭生活との両立の支援	児童虐待防止対策	経済的な支援	特にない	無回答
1,056	450	384	37	110	133	29	121	12	175	72	88	43	170
100.0	42.6	36.4	3.5	10.4	12.6	2.7	11.5	1.1	16.6	6.8	8.3	4.1	16.1

さらに充実を図る必要があると考えるもの (〇はいくつでも)

全 体	保育園・認定こども園・幼稚園・地域の施設整備	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	子どもの健全な成長のための教育環境の整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	情報の提供や相談サービス	公園の整備など、子どもが安心して育てることができきる環境整備	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	職業生活と家庭生活との両立の支援	児童虐待防止対策	経済的な支援	特にない	無回答
1,056	301	352	132	203	293	132	260	121	272	169	181	36	273
100.0	28.5	33.3	12.5	19.2	27.7	12.5	24.6	11.5	25.8	16.0	17.1	3.4	25.9

6 男女共同参画社会

問16 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	や やい る 女性 が優 遇さ れて いる	平 等 に な っ て い る	や やい る 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
(1) 家庭では	1,056 100.0	52 4.9	90 8.5	418 39.6	286 27.1	102 9.7	108 10.2
(2) 職場では	1,056 100.0	29 2.7	65 6.2	298 28.2	378 35.8	163 15.4	123 11.6
(3) 教育の場(学校・大学)では	1,056 100.0	13 1.2	36 3.4	705 66.8	126 11.9	25 2.4	151 14.3
(4) 社会活動の場では	1,056 100.0	18 1.7	68 6.4	423 40.1	358 33.9	64 6.1	125 11.8
(5) 法律や制度では	1,056 100.0	19 1.8	87 8.2	405 38.4	331 31.3	101 9.6	113 10.7
(6) しきたりや習慣では	1,056 100.0	12 1.1	31 2.9	174 16.5	465 44.0	264 25.0	110 10.4
(7) 政治の場では	1,056 100.0	7 0.7	18 1.7	165 15.6	384 36.4	368 34.8	114 10.8
(8) 全体としては	1,056 100.0	11 1.0	46 4.4	269 25.5	519 49.1	117 11.1	94 8.9

問17 あなた自身の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について、望ましいと思うものはどれですか。(○は1つ)

全 体	仕 事 に 専 念 す る 方 が よ い	仕 事 は 以 外 の 生 活 も 大 事 で あ る が 、 仕 事 が よ い 方 を 優 先 す る 方 が よ い	仕 事 と 生 活 を 同 じ よ う に 両 立 せ る こ と が 望 ま し い	仕 事 も 大 事 だ が 、 生 活 の よ い 方 を 優 先 さ せ る 方 が よ い	仕 事 以 外 の 生 活 に 専 念 す る 方 が よ い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
1,056 100.0	9 0.9	112 10.6	557 52.7	251 23.8	20 1.9	43 4.1	9 0.9	55 5.2

問18 問17の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。
(○は1つ)

全 体	仕 事 に 専 念 し て い る	ど ち ら か を 優 先 し て い る 事	仕 事 と 生 活 を 同 じ よ う に 両 立 せ て い る	ど ち ら か と い え ば 仕 事 を 優 先 さ せ て い る	現 在 仕 事 を し て い な い	そ の 他	無 回 答
1,056 100.0	86 8.1	315 29.8	252 23.9	118 11.2	218 20.6	16 1.5	51 4.8

問19 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。(〇は1つ)

上段：件数
下段：%

全体	知っているし、利用している	利用しているが、施設があることは知っているが、活動内容は知らない	知らない	その他	無回答
1,056	23	83	340	571	2
100.0	2.2	7.9	32.2	54.1	0.2
					3.5

7 防犯対策

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的な犯罪は何ですか。(〇は2つまで)

全体	ひったくり	空き巣	強盗	すり・置き引き	自動車(自転車)泥棒	振り込め詐欺	傷害・暴行	放火	痴漢・強制わいせつ	少年犯罪	子どもの誘拐・連れ去り	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
1,056	104	234	62	32	112	144	55	68	88	33	139	11	18	35	333	42
100.0	9.8	22.2	5.9	3.0	10.6	13.6	5.2	6.4	8.3	3.1	13.2	1.0	1.7	3.3	31.5	4.0

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(〇はいくつでも)

全体	自主的な防犯参加パトロールなどの活動に参加している	区の広報、メール、警察の広報、ちゅうおうホームページ、区のホームページ、おうち安全・安心	何か窓口にあれば行くようにしている	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようしている	防犯性能の高い鍵や窓を使用している	防犯カメラ、防犯センサー、防犯ライトなどの設置している	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	その他	特に何もしていない	無回答
1,056	15	225	139	202	168	154	32	401	38	
100.0	1.4	21.3	13.2	19.1	15.9	14.6	3.0	38.0	3.6	

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。
(○は2つまで)

上段：件数
下段：%

全 体	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信や防犯の助成	住まいの防犯設備整備費用	地域の防犯カメラや街路灯の設置の推進	防犯対策に関するハンズオン・講演会などの啓発活動	学校や児童館などの子どもへの安全対策	通学路や公園などの安全対策	地域への防犯パトロール活動	その他	特 に な い	無 回 答
1,056 100.0	255 24.1	124 11.7	497 47.1	26 2.5	233 22.1	277 26.2	172 16.3	22 2.1	85 8.0	47 4.5

8 スポーツ

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(○はいくつでも)

全 体	水泳(水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)	体操(ラジオ体操、職場体操、ヨガ、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操)	ジョギング、マラソン	ウォーキングの散歩(含む)	マシントレーニング(ランニング、器具を使った運動)	武道(柔道、剣道、空手など)	テニス、ソフトテニス	屋内球技(バレーボール、バドミントン、卓球など)	屋外の球技(野球、ソフトボールなど)	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど
1,056 100.0	186 17.6	422 40.0	173 16.4	599 56.7	184 17.4	14 1.3	46 4.4	59 5.6	52 4.9	134 12.7	118 11.2	63 6.0
海水浴(遊水)	釣り	ボーリング	サイクリング	ニュートスポーツ(ゴルフ、スキー、ボート、釣り、射撃、ゴルフ、スキー、ボート、釣り、射撃)	ダンス(フラダンス、社交ダンス、ジャズダンス、フォークダンス、ジューズダンス)	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答				
91 8.6	59 5.6	41 3.9	71 6.7	137 13.0	11 1.0	61 5.8	9 0.9	134 12.7	37 3.5			

(問23で、「水泳」から「その他」のいずれかにお答えの方に)

問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

全 体	週に3日以上	週に1〜2日程度	月に1〜3日程度	3カ月に1〜4日程度	年に1〜3日程度	わからない	無回答
885 100.0	184 20.8	302 34.1	191 21.6	87 9.8	63 7.1	16 1.8	42 4.7

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。（〇は3つまで）

上段：件数
下段：%

全体	スポーツ充実施設の増設・	学校整備 体育施設の開放・	施設利用時間の拡大	スポーツ教室の開催・大会・	障害のある人に対する対象と	地域スポーツクラブの	年齢にかかわらずの普及	一人でも参加できるス	公共健康・体力相談体制	区内の情報発信	その他	わからない	無回答
1,056	448	158	221	144	38	73	227	361	87	135	30	125	51
100.0	42.4	15.0	20.9	13.6	3.6	6.9	21.5	34.2	8.2	12.8	2.8	11.8	4.8

9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

問25 東京2020大会が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。（〇は1つ）

全体	期待している	どちらかという期待	どちらかという懸念	懸念がある	無回答
1,056	406	291	217	101	41
100.0	38.4	27.6	20.5	9.6	3.9

問26 東京2020大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。（〇は3つまで）

全体	スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など	健康づくりの推進	外国人との交流機会の増加	学校における国際教育等の推進	障害者の福祉施策の推進	地域の活性化	名度の向上	五輪関連投資や消費増などによる経済活性化	防犯・防災対策の強化	幹線（道路の整備・拡幅、基幹的）	外国人が円滑に移動できる多言語対応の取り組み	環境にやさしいまちづくりの推進（導入など）	その他	無回答
1,056	188	97	225	153	189	162	202	281	280	327	101	184	28	78
100.0	17.8	9.2	21.3	14.5	17.9	15.3	19.1	26.6	26.5	31.0	9.6	17.4	2.7	7.4

問27 東京2020大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。
(○は3つまで)

上段：件数
下段：%

全体	海外観光客への対応不足(外国語や異文化への受入準備)	観光客の増加による交通混雑、買物生活の不便さ(交通混雑、買物生活の不便さ)	観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念	観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念	大会開催に伴う道路規制や選手村の警備などによる日常生活への影響	選手村工事などによる騒音や渋滞の発生	五輪関連以外の公共インフラ整備の遅延	材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇	区の財政負担の増加	その他	無回答
1,056	264	305	769	286	221	99	118	305	280	39	36
100.0	25.0	28.9	72.8	27.1	20.9	9.4	11.2	28.9	26.5	3.7	3.4

10 環境問題

問28 近年、平均気温の上昇や局地的な大雨など、地球規模での環境問題が深刻化しています。あなたは環境問題に関心がありますか。(○は1つ)

全体	関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
1,056	530	386	82	21	37
100.0	50.2	36.6	7.8	2.0	3.5

問29 あなたは、地域での環境活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

全体	現在、参加している	参加したいと思うが、参加方法などがわからない	興味や関心があるが、興味や関心があれば、機会があれば、参加してみたい	興味や関心がないので、参加したいと思わない	わからない	無回答
1,056	93	111	405	141	253	53
100.0	8.8	10.5	38.4	13.4	24.0	5.0

問30 あなたは、環境を守るために、日常生活のなかでどんな取り組みをしていますか。(〇はいくつでも)

上段：件数
下段：%

全 体	電気やガスの使用を控える	省エネタイプ(LED電球・LED蛍光灯など)の商品を購入する	ごみの減量・リサイクルを行っている	リサイクル品などエコ商品を利	買い物袋を持って買い物に行く	ペランダ、壁面などを利用して緑を育てる	外出時は、なるべく公共交通機関を使用する	省エネタイプ(給湯器、大型家電)の機器を設置して	車を運転するときには、急発進、急加速をしないなど、エコドライブを心がける	その他	特に取り組んでいない	無回答
1,056 100.0	388 36.7	498 47.2	427 40.4	148 14.0	431 40.8	137 13.0	546 51.7	174 16.5	150 14.2	18 1.7	87 8.2	33 3.1

問31 あなたは、区が実施している地球温暖化対策で何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全 体	エコ省エネ(省エネLED電球・LED蛍光灯など)の商品を購入する	太陽光発電や省エネLED電球・LED蛍光灯など)の商品を購入する	中央区の森など、二酸化炭素を吸収する森林を保全する活動	建物や敷地の緑化に対する助成制度	幼稚園、小学校での環境学習	太陽光などの再生可能エネルギーの活用	区内の緑地や公園、水辺の整備	エコまつりや環境情報誌、ホームページによる普及啓発	ごみの減量・リサイクルの推進	環境情報センターを活用した普及啓発(講座、イベントなど)	まちかどクリーンデー、緑のアクション	路面温度の上昇を抑制する道路の整備	緑のカーテン(植物で窓などに作る自然のカーテン)の普及	その他
1,056 100.0	271 25.7	226 21.4	386 36.6	264 25.0	266 25.2	350 33.1	423 40.1	64 6.1	421 39.9	23 2.2	91 8.6	457 43.3	255 24.1	20 1.9
特 に な い	無回答													
59 5.6	54 5.1													

問32 あなたが理想とする環境に優れたまちのイメージに近いものはどれですか。(〇は3つまで)

全 体	川や海がきれいなまち	空気がきれいなまち	騒音がない静かなまち	花とみどり豊かなまち	水辺とのふれあいができるまち	ごみが落ちていない美しいまち	資源が循環し、ごみの減量	地球温暖化対策に積極的に取り組むまち	太陽光などの活用や再生可能エネルギー	海からの風などを利用した涼やかなまち	その他	無回答
1,056 100.0	393 37.2	532 50.4	198 18.8	428 40.5	145 13.7	440 41.7	217 20.5	123 11.6	208 19.7	101 9.6	17 1.6	38 3.6

11 築地魚河岸

問33 平成28年11月にプレオープンした「築地魚河岸」に行ったことがありますか。
(○は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	よく 行っ てい る	行 っ た こ と が あ る	知 っ て い る が、 行 っ た こ と が な い	「築 地 魚 河 岸」 を 知 ら ない	無 回 答
1,056 100.0	70 6.6	265 25.1	514 48.7	177 16.8	30 2.8

問34 あなたが「築地魚河岸」にあれば利用しようと思うサービスは何ですか。(○はいくつでも)

全 体	購 入 し た も の の 配 送	購 入 し た も の の 下 ご し ら え	購 入 し た も の を 屋 上 ス ペ ー ス で 食 べ ら れ る 用 具 の 貸 し 出 (七輪・コンロなど)	料 理 教 室 の 開 催	日 曜 朝 市 の 開 催	カ タ ロ グ や イ ン タ ー ネ ッ ト に よ る 販 売	そ の 他	無 回 答
1,056 100.0	215 20.4	415 39.3	258 24.4	192 18.2	417 39.5	158 15.0	32 3.0	150 14.2

12 施策の要望・評価

問35 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。

満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

上段：件数

下段：%

	全 体	満 足	やや 満足	普 通	やや 不満	不 満	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,056 100.0	55 5.2	182 17.2	511 48.4	78 7.4	34 3.2	196 18.6	0.85
(2) 障害者福祉	1,056 100.0	23 2.2	78 7.4	673 63.7	70 6.6	14 1.3	198 18.8	0.15
(3) 高齢者福祉・介護	1,056 100.0	26 2.5	98 9.3	635 60.1	106 10.0	19 1.8	172 16.3	0.03
(4) 保健衛生	1,056 100.0	48 4.5	131 12.4	643 60.9	39 3.7	6 0.6	189 17.9	1.01
(5) 男女共同参画社会の推進	1,056 100.0	9 0.9	62 5.9	724 68.6	50 4.7	12 1.1	199 18.8	0.04
(6) 住宅対策	1,056 100.0	21 2.0	95 9.0	584 55.3	136 12.9	44 4.2	176 16.7	-0.49
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,056 100.0	68 6.4	263 24.9	432 40.9	121 11.5	24 2.3	148 14.0	1.27
(8) 消費者生活対策	1,056 100.0	14 1.3	74 7.0	704 66.7	65 6.2	12 1.1	187 17.7	0.07
(9) 環境保全・公害対策	1,056 100.0	17 1.6	120 11.4	623 59.0	95 9.0	13 1.2	188 17.8	0.19
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,056 100.0	43 4.1	182 17.2	588 55.7	59 5.6	11 1.0	173 16.4	1.06
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,056 100.0	22 2.1	129 12.2	492 46.6	188 17.8	65 6.2	160 15.2	-0.81
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,056 100.0	27 2.6	125 11.8	576 54.5	120 11.4	37 3.5	171 16.2	-0.08
(13) 防災対策	1,056 100.0	30 2.8	144 13.6	640 60.6	65 6.2	20 1.9	157 14.9	0.55
(14) 防犯対策	1,056 100.0	29 2.7	142 13.4	630 59.7	75 7.1	15 1.4	165 15.6	0.53
(15) 再開発などによる地域整備	1,056 100.0	24 2.3	138 13.1	563 53.3	117 11.1	43 4.1	171 16.2	-0.10
(16) 中小企業対策	1,056 100.0	9 0.9	54 5.1	716 67.8	76 7.2	15 1.4	186 17.6	-0.20
(17) 学校教育の充実	1,056 100.0	29 2.7	116 11.0	645 61.1	69 6.5	8 0.8	189 17.9	0.51
(18) 青少年対策	1,056 100.0	15 1.4	66 6.3	726 68.8	51 4.8	4 0.4	194 18.4	0.21
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,056 100.0	30 2.8	127 12.0	643 60.9	71 6.7	5 0.5	180 17.0	0.61
(20) コミュニティの育成	1,056 100.0	16 1.5	73 6.9	697 66.0	74 7.0	5 0.5	191 18.1	0.12
(21) 観光振興	1,056 100.0	29 2.7	172 16.3	607 57.5	59 5.6	8 0.8	181 17.1	0.89
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,056 100.0	18 1.7	95 9.0	664 62.9	72 6.8	10 0.9	197 18.7	0.23
(23) 区の施策を総合的に見ると	1,056 100.0	35 3.3	235 22.3	560 53.0	60 5.7	15 1.4	151 14.3	1.19

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点 = (「満足」の回答者数×10点 + 「やや満足」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点

+ 「やや不満」の回答者数×-5点 + 「不満」の回答者数×-10点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問35 あなたは、区の施策についてどの程度重視していますか。
重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	たい へん 重要	比 較 的 重 要	普 通	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,056 100.0	514 48.7	159 15.1	107 10.1	276 26.1	7.61
(2) 障害者福祉	1,056 100.0	349 33.0	252 23.9	183 17.3	272 25.8	6.06
(3) 高齢者福祉・介護	1,056 100.0	466 44.1	207 19.6	125 11.8	258 24.4	7.14
(4) 保健衛生	1,056 100.0	274 25.9	311 29.5	204 19.3	267 25.3	5.44
(5) 男女共同参画社会の推進	1,056 100.0	89 8.4	305 28.9	380 36.0	282 26.7	3.12
(6) 住宅対策	1,056 100.0	203 19.2	335 31.7	253 24.0	265 25.1	4.68
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,056 100.0	250 23.7	354 33.5	198 18.8	254 24.1	5.32
(8) 消費者生活対策	1,056 100.0	144 13.6	314 29.7	321 30.4	277 26.2	3.86
(9) 環境保全・公害対策	1,056 100.0	258 24.4	328 31.1	202 19.1	268 25.4	5.36
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,056 100.0	194 18.4	352 33.3	243 23.0	267 25.3	4.69
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,056 100.0	149 14.1	331 31.3	313 29.6	263 24.9	3.97
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,056 100.0	228 21.6	317 30.0	244 23.1	267 25.3	4.90
(13) 防災対策	1,056 100.0	416 39.4	224 21.2	160 15.2	256 24.2	6.60
(14) 防犯対策	1,056 100.0	392 37.1	239 22.6	166 15.7	259 24.5	6.42
(15) 再開発などによる地域整備	1,056 100.0	154 14.6	319 30.2	314 29.7	269 25.5	3.98
(16) 中小企業対策	1,056 100.0	126 11.9	277 26.2	380 36.0	273 25.9	3.38
(17) 学校教育の充実	1,056 100.0	290 27.5	257 24.3	234 22.2	275 26.0	5.36
(18) 青少年対策	1,056 100.0	191 18.1	288 27.3	298 28.2	279 26.4	4.31
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,056 100.0	122 11.6	302 28.6	365 34.6	267 25.3	3.46
(20) コミュニティの育成	1,056 100.0	103 9.8	314 29.7	363 34.4	276 26.1	3.33
(21) 観光振興	1,056 100.0	141 13.4	292 27.7	353 33.4	270 25.6	3.65
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,056 100.0	105 9.9	339 32.1	321 30.4	291 27.6	3.59

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点 = (「たいへん重要」の回答者数×10点 + 「比較的重要」の回答者数×5点
+ 「普通」の回答者数×0点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、+10.00点～0点の間に分布し、+10.00点に近くなるほど重要度が高くなる。

問36 問35の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。
1位から3位までを選んで番号を記入してください。

上段：件数
下段：%

	全 体	(1) 子育て支援	(2) 障害者福祉	(3) 高齢者福祉・介護	(4) 保健衛生	(5) 男女共同参画社会の推進	(6) 住宅対策	(7) 公園・緑地・水辺の整備	(8) 消費者生活対策	(9) 環境保全・公害対策	(10) 清掃・リサイクル事業の推進	(11) 駐車場・駐輪場の整備	(12) 道路環境整備、交通安全対策	
第1位～第3位の累計	1,056 100.0	372 35.2	112 10.6	374 35.4	70 6.6	32 3.0	115 10.9	228 21.6	61 5.8	115 10.9	57 5.4	103 9.8	112 10.6	
第1位	1,056 100.0	243 23.0	27 2.6	192 18.2	20 1.9	6 0.6	34 3.2	55 5.2	11 1.0	30 2.8	6 0.6	26 2.5	24 2.3	
第2位	1,056 100.0	74 7.0	50 4.7	116 11.0	28 2.7	11 1.0	45 4.3	81 7.7	20 1.9	44 4.2	21 2.0	42 4.0	45 4.3	
第3位	1,056 100.0	55 5.2	35 3.3	66 6.3	22 2.1	15 1.4	36 3.4	92 8.7	30 2.8	41 3.9	30 2.8	35 3.3	43 4.1	
	(13) 防災対策	(14) 防犯対策	(15) 再開発などによる地域整備	(16) 中小企業対策	(17) 学校教育の充実	(18) 青少年対策	(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	(20) コミュニティの育成	(21) 観光振興	(22) 地域療育・なつとVの整備促進など 情報生区トVの整備促進など 化の学習サワーの整備促進など の推習ーの整備促進など 進（福社・医ま		無回答		
第1位～第3位の累計	266 25.2	214 20.3	85 8.0	47 4.5	130 12.3	29 2.7	68 6.4	41 3.9	44 4.2	25 2.4		134 12.7		
第1位	86 8.1	53 5.0	26 2.5	10 0.9	40 3.8	1 0.1	14 1.3	13 1.2	2 0.2	3 0.3		134 12.7		
第2位	105 9.9	72 6.8	26 2.5	13 1.2	51 4.8	10 0.9	19 1.8	10 0.9	14 1.3	9 0.9		150 14.2		
第3位	75 7.1	89 8.4	33 3.1	24 2.3	39 3.7	18 1.7	35 3.3	18 1.7	28 2.7	13 1.2		184 17.4		

* 第1位～第3位の累計の無回答は第1位の値とした

13 フェイスシート

F 1 性別 (○は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	男 性	女 性	無 回 答
1,056 100.0	421 39.9	613 58.0	22 2.1

F 2 年齢 (○は1つ)

全 体	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 歳 以上	無 回 答
1,056 100.0	96 9.1	214 20.3	272 25.8	148 14.0	55 5.2	79 7.5	63 6.0	108 10.2	21 2.0

性別／年齢

全 体	男 性								女 性							性 別 ま た は 年 齢 無 回 答	
	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 歳 以上	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳		75 歳 以上
1,056 100.0	37 3.5	85 8.0	103 9.8	62 5.9	21 2.0	33 3.1	28 2.7	52 4.9	59 5.6	129 12.2	169 16.0	86 8.1	34 3.2	46 4.4	35 3.3	55 5.2	22 2.1

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

全 体	自 営 業 (家 族 従 業 を 含 む)	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 (主 婦)	無 職 (学 生)	無 職 (そ の 他)	無 回 答
1,056 100.0	151 14.3	504 47.7	90 8.5	157 14.9	24 2.3	105 9.9	25 2.4

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答
1,056 100.0	232 22.0	317 30.0	483 45.7	24 2.3

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	12 人	無 回 答
1,056 100.0	231 21.9	369 34.9	224 21.2	164 15.5	37 3.5	7 0.7	1 0.1	23 2.2

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	持 家		借 家						無 回 答	
	一 戸 建	分 譲 マ ン シ ヨ ン	一 戸 建	公 共 住 宅 (<small>社、都市再生機構(旧公団)公</small> 区立、区営、都営、公)	民 間 木 造 ア パ ー ト	民 間 鉄 筋 ア パ ー ト 、 マ ン シ ヨ ン	社 宅 、 官 舎 、 寮	間 借 り 、 住 込 み		そ の 他
1,056 100.0	123 11.6	473 44.8	7 0.7	100 9.5	3 0.3	302 28.6	30 2.8	3 0.3	6 0.6	9 0.9

(F6で、「分譲マンション」、「公共住宅」、「民間木造アパート」、「民間鉄筋アパート、マンション」、「社宅、官舎、寮」とお答えの方に)

上段：件数
下段：%

F6-1 お住まいの階層

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	10 階 以上	無 回 答	1 ～ 5 階	6 ～ 9 階	10 階 以上
分譲マンション	473 100.0	9 1.9	34 7.2	31 6.6	33 7.0	29 6.1	22 4.7	34 7.2	30 6.3	22 4.7	178 37.6	51 10.8	136 28.8	108 22.8	178 37.6
公共住宅	100 100.0	-	-	6 6.0	1 1.0	6 6.0	2 2.0	5 5.0	3 3.0	3 3.0	39 39.0	35 35.0	13 13.0	13 13.0	39 39.0
民間木造アパート	3 100.0	-	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 100.0	-	-
民間鉄筋アパート、マンション	302 100.0	5 1.7	26 8.6	23 7.6	13 4.3	24 7.9	25 8.3	24 7.9	26 8.6	24 7.9	80 26.5	32 10.6	91 30.1	99 32.8	80 26.5
社宅、官舎、寮	30 100.0	-	-	2 6.7	5 16.7	5 16.7	2 6.7	1 3.3	-	2 6.7	7 23.3	6 20.0	12 40.0	5 16.7	7 23.3

F7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

全 体	ひとり暮らし	夫婦だけ(1世代)	夫婦と子どもだけ(2世代)	夫婦と子どもと親(3世代)	その他	無回答
1,056 100.0	222 21.0	312 29.5	378 35.8	38 3.6	86 8.1	20 1.9

F8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

全 体	子どものいない夫婦	一入 番上 学前 の子 ども が小 学校	一入 番上 学 生 の子 ども が小 ・中	一入 番上 の 大 学 生 の子 ども が高 校・	一入 番上 の 業 者 の子 ども が学 校卒	独 身	そ の 他	無 回 答
1,056 100.0	231 21.9	118 11.2	112 10.6	55 5.2	181 17.1	269 25.5	41 3.9	49 4.6

ライフステージ

全 体	独 身 期	家 族 形 成 期	家 族 成 長 前 期	家 族 成 長 後 期	家 族 成 熟 期	老 齡 期	そ の 他	無 回 答
1,056 100.0	109 10.3	188 17.8	112 10.6	55 5.2	80 7.6	188 17.8	265 25.1	59 5.6

VI 使用した調査票

区政世論調査ご協力のお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第47回区政世論調査」を行うことといたしました。今回の世論調査は、満18歳以上の区民の皆さん2,000人を対象に、防災対策、高齢者施策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政推進の基礎資料とするために実施するものです。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、ご迷惑をおかけすることはありません。

また、今回、あなたにこの調査票をお送りしましたのは、区の住民基本台帳から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。

調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成29年 5月

中央区企画部広報課

☆ご記入にあたってのお願い

- ◇ 調査票には、あて名のご本人がご記入ください。
- ◇ 濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。なお、複数回答もごさいますので、○は（ ）の中に指定した個数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に（ ）の中にご記入ください。
- ◇ 設問によってご回答いただく方が限られる場合がありますので、説明文や矢印に従ってご回答ください。特に説明のない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れて、5月29日(月)までにポストに投函してください。切手は不要です。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



中央区役所 企画部 広報課 広聴係

〒104-8404 中央区築地1-1-1

電話 03-3546-5222 (直通)

第 47 回 区 政 世 論 調 査

1 定住性

問 1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

1 3年未満	4 10～15年未満	6 20年以上
2 3～6年未満	5 15～20年未満	7 生まれてからずっと
3 6～10年未満		

問 2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

1 非常に感じる	3 あまり感じない	5 わからない
2 少しは感じる	4 感じない	

問 3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

1 住み続けたい	3 できれば転出したい	5 わからない
2 できれば住み続けたい	4 転出したい	

2 防災対策

問 4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

1 食料の備蓄 → () 日分 (1人1日3食分)
2 飲料水の備蓄 → () 日分 (1人1日3ℓ分)
3 簡易トイレの備蓄 → () 日分
4 家具類の転倒防止
5 消火器・救急セットなどの備え
6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え
7 貴重品を持ち出す準備
8 風呂などへの水のため置き
9 救命救助の講習会への参加
10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加
11 避難方法、避難場所の確認
12 家庭での連絡方法などの話し合い
13 建物の補強
14 その他 (具体的に)
15 特になし

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。
あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

- 1 たんす、書棚など転倒しないよう固定している
- 2 テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している
- 3 窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている
- 4 食器棚などに止め金具を付けている
- 5 家具の配置を工夫している
- 6 家具類がないため固定する必要がない
- 7 特に何もしていない

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、場所はわからない
- 3 知らない

(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

→ 問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、活動内容はよくわからない
- 3 知らない

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 水・食料 | 8 スペースの確保 |
| 2 トイレ | 9 暑さ寒さ対策 |
| 3 プライバシー | 10 ペットの世話 |
| 4 家族・友人・知人などの安否 | 11 その他 |
| 5 災害状況・対策などの情報 | (具体的に) |
| 6 医療・医薬品 | 12 特にない |
| 7 高齢者介護や乳幼児保育 | 13 わからない |

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(○はいくつでも)

- 1 負傷者の応急手当
- 2 倒壊家屋などからの救出・救助
- 3 初期の消火活動
- 4 避難所での被災者の世話
- 5 救援物資の仕分けなどの防災活動への協力
- 6 外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的技能を活用した活動
- 7 インターネットによる情報収集や伝達
- 8 その他の支援活動(具体的に)
- 9 協力できそうもない
- 10 わからない

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 区のホームページ
- 2 ちゅうおう安全・安心メール
- 3 インターネット
- 4 ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)
- 5 防災行政無線(屋外スピーカー)
- 6 緊急告知ラジオ
- 7 ケーブルテレビ
- 8 その他(具体的に)

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

3 健康診査

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。がん検診は含みません。

問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

- 1 中央区国民健康保険
- 2 国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）
- 3 健康保険組合
- 4 協会けんぽ（全国健康保険協会）
- 5 共済組合
- 6 後期高齢者医療制度
- 7 その他（具体的に)

問11 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。(○はいくつでも)

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問11で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

--> 問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（具体的に)

4 高齢者施策

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい |
| 2 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい |
| 3 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい |
| 4 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい |
| 5 介護付き有料老人ホームに入りたい |
| 6 その他 (具体的に) |
| 7 わからない |

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 健康づくり・介護予防の充実 |
| 2 就労・社会参加の促進 |
| 3 在宅サービス (医療・介護・区の在宅福祉サービスなど) の充実 |
| 4 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致 |
| 5 高齢者向け住宅の整備・誘致 |
| 6 ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援 |
| 7 低所得者への経済的支援 |
| 8 特にない |

問13-1 問13で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

--

5 子育て支援

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

1	配偶者・パートナー
2	その他の親族
3	職場の人
4	隣近所の人、知人、友人
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者
9	その他(具体的に)
10	特に相談しない
11	子育てを経験していない

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問15 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(〇は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	重要と考えるもの (〇は2つまで)	さらに充実を図る必要 があるとするもの (〇はいくつでも)
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問15-1 あなたが問15で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

6 男女共同参画社会

※ 男女共同参画社会 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会のことです。

問16 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 女性が優遇 されている	2 やや女性が優遇 されている	3 平等になっている	4 やや男性が優遇 されている	5 男性が優遇 されている
(記入例) (1) 家庭では	1	2	③	4	5
(1) 家庭では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 教育の場(学校・大学)では	1	2	3	4	5
(4) 社会活動の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度では	1	2	3	4	5
(6) しきたりや習慣では	1	2	3	4	5
(7) 政治の場では	1	2	3	4	5
(8) 全体としては	1	2	3	4	5

問17 あなた自身の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、望ましいと思うものはどれですか。（○は1つ）

※ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事と仕事以外の生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

- 1 仕事に専念する方がよい
- 2 仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい
- 3 仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい
- 4 仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい
- 5 仕事以外の生活に専念する方がよい
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に

)

問18 問17の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。

（○は1つ）

- 1 仕事に専念している
- 2 どちらかといえば、仕事の方を優先している
- 3 仕事と生活を同じように両立させている
- 4 どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている
- 5 現在仕事をしていない
- 6 その他（具体的に

)

問19 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。（○は1つ）

- 1 知っているし、利用している
- 2 利用したことはないが、活動内容は知っている
- 3 利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている
- 4 知らない
- 5 その他（具体的に

)

7 防犯対策

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 ひったくり | 9 痴漢・強制わいせつ |
| 2 空き巣 | 10 少年犯罪 |
| 3 強盗 | 11 子どもの誘拐・連れ去り |
| 4 すり・置き引き | 12 暴力団員による犯罪 |
| 5 自動車(自転車)泥棒・車上ねらい | 13 悪質な客引き |
| 6 振り込め詐欺 | 14 その他
(具体的に) |
| 7 傷害・暴行 | 15 特にない |
| 8 放火 | |

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している |
| 2 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている |
| 3 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている |
| 4 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている |
| 5 防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している |
| 6 警備会社などのセキュリティシステムを利用している |
| 7 その他(具体的に) |
| 8 特に何もしていない |

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信 |
| 2 住まいの防犯設備整備費用の助成 |
| 3 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進 |
| 4 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動 |
| 5 学校や児童館などの子どもの安全対策 |
| 6 通学路や公園などの安全対策 |
| 7 地域の防犯パトロール活動への支援 |
| 8 その他(具体的に) |
| 9 特にない |

8 スポーツ

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(○はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）
- 2 体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）
- 5 マシントレーニング（ランニングマシーン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）
- 6 武道（柔道、剣道、空手など）
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）
- 9 屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴（遊水）
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など）
- 19 ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）
- 20 その他（具体的に)
- 21 スポーツや運動はしなかった

（問23で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に）

→ 問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3カ月に1～2日程度（年に4～11日程度） |
| 2 週に1～2日程度 | 5 年に1～3日程度 |
| 3 月に1～3日程度 | 6 わからない |

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(○は3つまで)

- 1 スポーツ施設の増設・充実
- 2 学校体育施設の開放・整備
- 3 施設利用時間の拡大
- 4 スポーツ行事・大会・教室の開催
- 5 障害のある人を対象としたスポーツ教室や体験会の開催
- 6 地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援
- 7 年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及
- 8 一人でも参加できるスポーツの場の提供
- 9 公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備
- 10 区内のスポーツに関する情報発信
- 11 その他 (具体的に)
- 12 わからない

※ 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

問25 東京2020大会が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。

(○は1つ)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 期待している | 3 どちらかという懸念がある |
| 2 どちらかという期待している | 4 懸念がある |

問26 東京2020大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。(○は3つまで)

- | |
|--|
| 1 スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など） |
| 2 健康づくりの推進 |
| 3 外国人との交流機会の増加 |
| 4 学校における国際教育等の推進 |
| 5 障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進 |
| 6 ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化 |
| 7 地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上 |
| 8 五輪関連投資や消費増などによる経済活性化 |
| 9 防犯・防災対策の強化 |
| 10 幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など） |
| 11 外国人が円滑に移動できる多言語対応の取り組み |
| 12 環境にやさしいまちづくりの推進（コミュニティサイクルの導入など） |
| 13 その他（具体的に |

※ コミュニティサイクル 貸出・返却のための拠点（サイクルポート）を複数設置し、どのサイクルポートでも自転車を借りられ、返却できるネットワーク型のレンタサイクルです。

問27 東京2020大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。(○は3つまで)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など） |
| 2 観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など） |
| 3 観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念 |
| 4 観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念 |
| 5 大会開催に伴う道路規制や選手村の警備などによる日常生活への影響 |
| 6 選手村工事などによる騒音や渋滞の発生 |
| 7 五輪関連以外の公共インフラ整備の遅延 |
| 8 材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇 |
| 9 区の財政負担の増加 |
| 10 その他（具体的に |

10 環境問題

問28 近年、平均気温の上昇や局地的な大雨など、地球規模での環境問題が深刻化しています。
あなたは環境問題に関心がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1 関心がある | 3 あまり関心がない |
| 2 少し関心がある | 4 関心がない |

問29 あなたは、地域での環境活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

※ 地域での環境活動の例

- ・美化活動…自宅や事業所周辺での一斉清掃などの活動
- ・リサイクル活動…町会、自治会単位での資源回収などの活動
- ・緑化活動…公園や歩道の花壇管理などの活動

- | |
|-----------------------------|
| 1 現在、参加している |
| 2 参加したいと思うが、参加方法などがわからない |
| 3 興味や関心があるので、機会があれば、参加してみたい |
| 4 興味や関心がないので、参加したいと思わない |
| 5 わからない |

問30 あなたは、環境を守るために、日常生活のなかでどんな取り組みをしていますか。

(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 電気やガスの使用を控える |
| 2 省エネタイプの商品を購入する (LED電球・LED蛍光灯など) |
| 3 ごみの減量・リサイクルを行っている |
| 4 リサイクル品などエコ商品を利用する |
| 5 買い物袋を持って買い物に行く |
| 6 ベランダ、壁面などを利用して緑を育てる |
| 7 外出時は、なるべく公共交通機関を使用する |
| 8 省エネタイプの機器を設置している (給湯器、大型家電) |
| 9 車を運転するときは、急発進、急加速をしないなど、エコドライブを心がける |
| 10 その他 (具体的に) |
| 11 特に取り組んでいない |

問31 あなたは、区が実施している地球温暖化対策で何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 エコアクトなど、家庭や職場で省エネルギー（節電など）に取り組むための仕組み
- 2 太陽光発電や省エネルギー機器の導入に対する助成制度
- 3 中央区の森など、二酸化炭素を吸収する森林を保全する活動への支援
- 4 建物や敷地の緑化に対する助成制度
- 5 幼稚園、小学校での環境学習
- 6 太陽光などの再生可能エネルギーの活用
- 7 区内の緑地や公園、水辺の整備
- 8 エコまつりや環境情報誌、ホームページによる普及啓発
- 9 ごみの減量・リサイクルの推進
- 10 環境情報センターを活用した普及啓発（講座、イベントなどの開催）
- 11 まちかどクリーンデー、緑のアダプト制度など、環境保全活動への支援
- 12 路面温度の上昇を抑制する道路の整備
- 13 緑のカーテン（植物で窓などに作る自然のカーテン）の普及促進
- 14 その他（具体的に)
- 15 特にない

※ エコアクト 二酸化炭素の排出量を減らしていく仕組み

※ まちかどクリーンデー 毎月10日を中心に自宅や事業所周辺で行う一斉清掃

※ 緑のアダプト制度 地域や事業所の人たちが公園や道路の清掃・美化活動を行い、管理する制度

問32 あなたが理想とする環境に優れたまちのイメージに近いものはどれですか。(〇は3つまで)

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| 1 川や海がきれいなまち | 7 資源が循環し、ごみの減量化が進んだまち |
| 2 空気がきれいなまち | 8 地球温暖化対策に積極的に取り組むまち |
| 3 騒音がない静かなまち | 9 太陽光など、再生可能エネルギーの活用や省エネルギーが進んだまち |
| 4 花とみどりが豊かなまち | 10 海からの風などを利用した涼やかなまち |
| 5 水辺とのふれあいができるまち | 11 その他 |
| 6 ごみが落ちていない美しいまち | (具体的に) |

11 築地魚河岸

※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロである54の事業者が厳選した高品質の水産物や青果物を販売しています。

問33 平成28年11月にプレオープンした「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------|-------------------|
| 1 よく行っている | 3 知っているが、行ったことがない |
| 2 行ったことがある | 4 「築地魚河岸」を知らない |

問34 あなたが「築地魚河岸」にあれば利用しようと思うサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

1 購入したものの配送	4 料理教室の開催
2 購入したものの下ごしらえ	5 日曜朝市の開催
3 購入したものを屋上スペースで食べられる 用具の貸し出し(七輪・コンロなど)	6 カタログやインターネットによる販売
	7 その他 (具体的に)

12 施策の要望・評価

問35 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	満 足 度					重 要 度		
	1 満 足	2 やや 満 足	3 普 通	4 やや 不 満	5 不 満	1 たい へん 重 要	2 比 較 的 重 要	3 普 通
(記入例)(1) 子育て支援	①	2	3	4	5	①	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民 サービス情報のネットワーク化・CATV の整備促進など)	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5			

問36 問35の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

第 1 位	第 2 位	第 3 位

<フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。

これからお聞きすることは、これまでのお答えの内容を統計的に分類するためのものです。ご協力をお願いします。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢 (○は1つ)

1 18～29歳	3 40歳代	5 60～64歳	7 70～74歳
2 30歳代	4 50歳代	6 65～69歳	8 75歳以上

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

1 自営業 (家族従業を含む)	3 アルバイト・パートタイマー	5 無職 (学生)
2 勤め人	4 無職 (主婦)	6 無職 (その他)

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 京橋地域 (八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川)
2 日本橋地域 (本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町)
3 月島地域 (佃、月島、勝どき、豊海町、晴海)

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

1 1人	3 3人	5 5人
2 2人	4 4人	6 6人以上 (人)

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

持家	1	一戸建	
	2	分譲マンション (階)	
借家	3	一戸建	
	4	公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) (階)	
家	5	民間木造アパート (階)	
	6	民間鉄筋アパート、マンション (階)	
	7	社宅、官舎、寮 (階)	
	8	間借り、住込み	
	9	その他 (具体的に)	

F 7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	ひとり暮らし	
2	夫婦だけ (1世代)	
3	夫婦と子どもだけ (2世代)	
4	夫婦と子どもと親 (3世代)	
5	その他 (具体的に)	

F 8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	子どものいない夫婦	
2	一番上の子どもが小学校入学前	
3	一番上の子どもが小・中学生	
4	一番上の子どもが高校・大学生	
5	一番上の子どもが学校卒業	
6	独身	
7	その他 (具体的に)	

※ご協力ありがとうございました。

調査結果は、中央区ホームページで公表いたします。

調査結果の概要版が必要な方は、以下の欄に住所・氏名をご記入ください。

概要版ができ次第、送付いたします。(9月下旬予定)

住 所 中央区 _____

氏 名 _____

第47回 中央区政世論調査 報告書

平成29年9月

刊行物登録番号

29-040

- 発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
電話 03(3546)5222(直通)
- 実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
電話 03(3239)0071(代表)
-